

# 年報の発刊にあたって

平成29年度は、独立行政法人国立文化財機構（平成19年4月発足）が定めた第4期5ヵ年中期計画（2016～2020）の2年目にあたります。今期中期計画において、当研究所の果たすべき社会的使命と役割について「わが国の文化財研究を、基礎的なものから先端的・実践的なものまで、多様な手法により行い、その成果を積極的に公表する。また、文化財担当者の研修、地方公共団体への専門的な助言を行う。さらに、保存科学・修復技術に関するわが国の拠点としての役割を果たす。また、世界の文化財保護に関する国際的な研究交流、保護事業への協力、専門家の養成、情報の収集と活用等を実施し、文化財保護における国際協力の拠点としての役割を果たす」と定めました。

この目標を達成するため、当研究所では平成28年度に研究部門の所掌事項をより明確にして、部門の名称も一部改正しました。すなわち、企画情報部を文化財情報資料部と改め、継続して行っている基礎的研究の推進や文化財情報の収集に加え、それらの発信に関する業務を強化しました。また、保存修復科学センターを保存科学研究センターと改め、文化財の保存修復に関する科学的な調査研究を行うとともに、国立文化財機構における保存修復業務に関する一体的な取り組みを推進することを明確に打ち出しました。このほか、無形文化遺産部では、従来の無形の文化財に加え、地域の生産技術である民俗技術や、文化財の保存に必要な用具や資材確保のための生産技術等についての調査研究も進めているところです。さらに文化遺産国際協力センターでは、アジア諸国を中心に文化財の保護に関わる専門家養成や保存修復技術の移転等各国の要請に基づく研究・研修事業を行うなど文化力による国際貢献に力を注いでいます。ただ、政情不安定な中東地域などの一部では、現地での活動は一時中断せざるを得ない状況ですが、関係機関と協力して当該国の専門家の国

内招致等を行い、情報の共有に努めています。

そして、上記の各研究部門の研究支援業務をより有効かつ多角的に推進するため、研究支援推進部（事務部門）も交えて、全所的な取り組みとして効率的に遂行しています。

主な研究業務は、（1）文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進、（2）最新科学技術の応用等による文化財の保存科学や修復技術に関する調査・研究の推進、（3）文化財保護に関する国際協力の推進です。その目的のために設定した各分野のプロジェクトの概要と進捗状況について本年報で個々に示しました。このうち、特に力を入れているのは、当研究所がこれまで蓄積してきた研究成果についてのデジタルアーカイブ化と内外の文化財関係機関とのネットワークの構築のための情報システム開発です。また、発生から7年を経た東日本大震災で救出した被災文化財の修復についての技術的な指導・助言を引き続き行うとともに、その教訓として痛感した有形・無形の文化遺産の所在地把握も関係機関の協力を得ながら取り組み、予防を含めた災害対策に関する研究も視野に入れた活動も行っています。

今後とも文化財保護に資する基礎的な調査・研究を継続して進め、文化財保護の課題に関する各方面からの多様な要請に対して誠実に応えるべく、全所員一丸となって取り組んでいく決意ですので、関係各位の当研究所への一層のご支援ご協力をお願いする次第です。

2018（平成30）年6月

独立行政法人国立文化財機構  
東京文化財研究所  
所長 亀井伸雄

## 1. 機構 5

1. 組織図	7
2. 組織の概要と職員	8
(1) 研究支援推進部	8
(2) 文化財情報資料部	9
(3) 無形文化遺産部	10
(4) 保存科学研究センター	11
(5) 文化遺産国際協力センター	13

## 2. 年度計画及びプロジェクト報告 15

1. 年度計画(平成29年度)とプロジェクトとの対応	17
2. プロジェクト報告	32
① 有形・無形の文化財に関する調査研究事業	35
② 保存修復に関する調査研究事業	41
③ 国際協力・交流等に関する事業	48
④ 情報収集・成果公開に関する事業	53
⑤ 刊行物に関する事業	64
⑥ 指導助言・研修等に関する事業	68

## 3. 外部資金等による研究活動 75

1. 科学研究費助成事業	77
2. 受託調査研究・外部機関との共同研究及び外部資金による研究	107
3. その他の調査研究	122
4. 刊行物等	123

## 4. 個人の研究業績 125

## 5. 研究交流 153

1. 職員の海外渡航	155
2. 招へい研究員等	161
3. 海外研究者等の来訪	162
4. 主要来訪者、施設見学	163

## 6. 資料 165

1. 主な所蔵資料	167
1. 図書資料	167
2. その他	168
2. 研究所関係資料	169
1. 設立の経緯	169
2. 年代別重要事項	169
3. 歴代所長(昭和5年～平成29年度)	172
4. 名誉研究員	173
5. 平成29年度予算等	174
3. 東京文化財研究所関係事業索引	179





# 1. 機 構

1. 組織図 .....	7
2. 組織の概要と職員 .....	8
(1) 研究支援推進部 .....	8
(2) 文化財情報資料部 .....	9
(3) 無形文化遺産部 .....	10
(4) 保存科学研究センター .....	11
(5) 文化遺産国際協力センター .....	13
(6) 特任研究員 .....	13

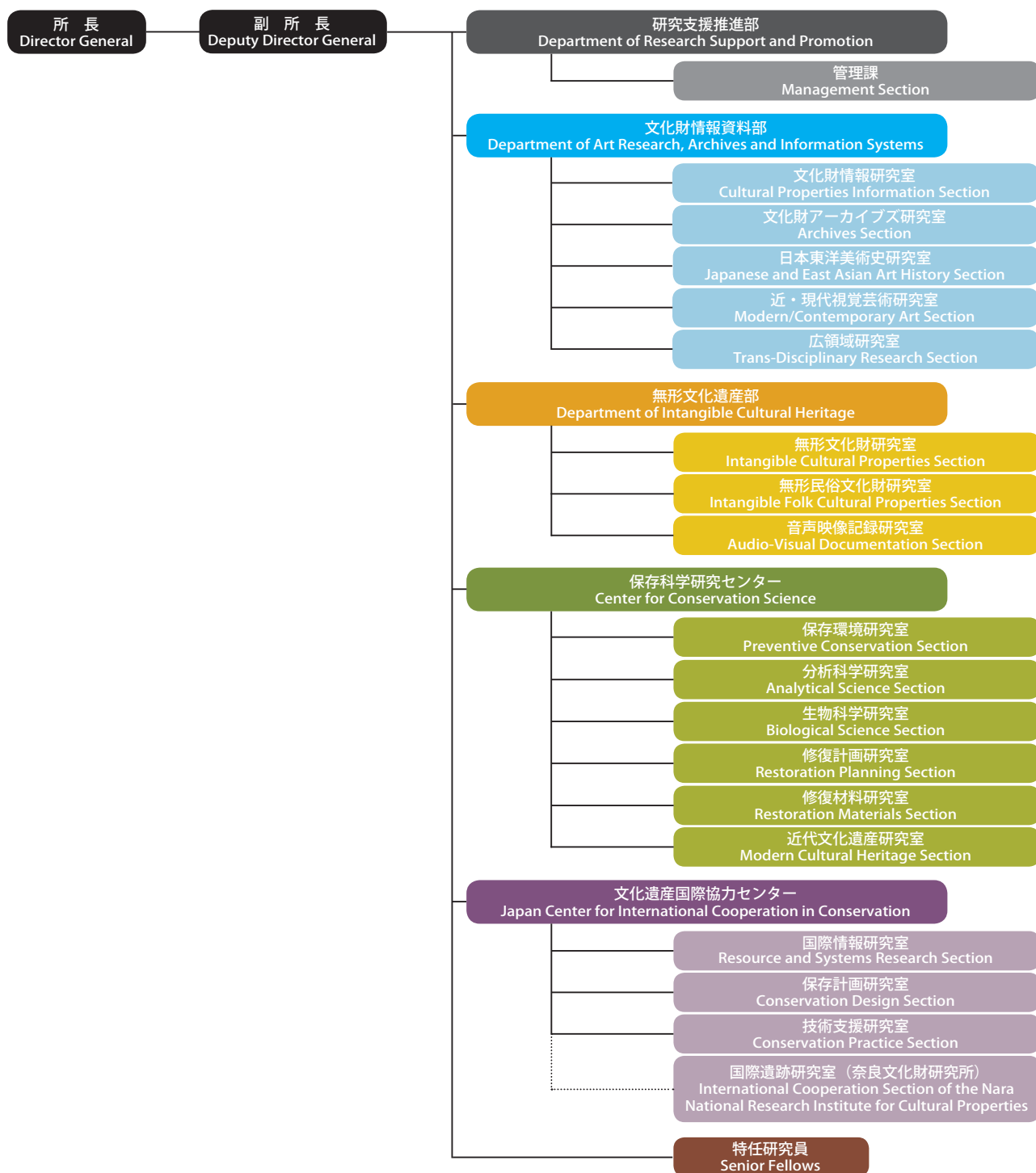


# 1. 組 織 図

独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所

Independent Administrative Institution National Institutes for Cultural Heritage

Tokyo National Research Institute for Cultural Properties



## 2. 組織の概要と職員

所 長 亀井 伸雄（建築史）、副所長 山梨 絵美子（日本近代絵画史）

### （1）研究支援推進部

#### 〈組織概要〉

研究支援推進部は、東京文化財研究所の事務部門として、管理課に総務係、企画渉外係、財務係、契約係を置き、総務、人事、他機関との渉外、国際交流、財務管理、会計、施設管理等の業務を通じ研究支援を行っている。

本年度も継続して、各係内の担当業務の整理を行うなど合理化を検討・実施し、各研究部門との連携を深め、研究所の円滑な運営に努めた。

#### 総務係

東京文化財研究所における業務方法書の変更、中期計画及び年度計画の取りまとめ、事業年度の業務実績についての評価委員会の評価に関する事務を行っている。また、情報公開に関する事務、秘書業務に関する事務、文書の授受・発送に関する事務、文化庁等の他機関、法人本部及び各施設ならびに所内の連絡調整に関する事務、人事管理に関する事務（アソシエイトフェロー、有期雇用職員、客員研究員、調査・研究アシスタントの任免に関する事務を含む）、共済組合に関する事務、栄典及び叙勲に関する事務等を行っている。

#### 企画渉外係

海外渡航に関する事務、研修及び国際研究集会等の実施に関する事務、国際交流等に係る政府機関及び関係団体との連絡調整に関する事務等を行っている。また、外部資金に関する事務、在外日本古美術品修復協力事業に関する事務、寄付金の受入、研究所視察及び見学の受入と対応、所蔵の写真、出版物等の使用許可に関する事務、規定の制定・改廃に関する事務等を行っている。

#### 財務係

財務諸表の作成に関する事務、決算報告書の作成に関する事務、監事及び会計監査人の監査に関する事務、予算・決算に関する事務、資金管理及び出納に関する事務等を行っている。

#### 契約係

物品及び役務の調達、契約の執行に関する事務、給与計算及び給与の支払いに関する事務、諸謝金及び旅費の執行に関する事務、物品、建物及び設備等の管理に関する事務等を行っている。

研究支援推進部長	外間尹隆	事務補佐員	石川絵梨子 *2
管理課長	中村 恵 *1	財務係長	日高信二
室 長	日高信二	事務補佐員	前田桐里
総務係主任	安川政和	事務補佐員	町田沙織
事務補佐員	石川絵梨子 *2	契約係長	大島大輔 *11
事務補佐員	滝口麻理	事務補佐員	吉丸美由紀 *12
事務補佐員	勝田こと	事務補佐員	荒木 晶 *13
事務補佐員	並木沙保里	事務補佐員	小河みづほ
事務補佐員	佐々木彩乃 *3	事務補佐員	柳沼由可子 *14
企画渉外係長	林 昌宏 *4	事務補佐員	豆田有加 *15
	日高信二 *5	事務補佐員	木村諒子
企画渉外係主任	今城裕香 *6	事務補佐員	安藤 遥 *16
アソシエイトフェロー	堀江映予 *7	事務補佐員	坂田茉莉衣 *17
任期付専門職員	山崎泉美 *8	事務補佐員	岡崎未来 *18
	小田切真梨 *9	事務補佐員	福田里美 *18
事務補佐員	小田切真梨 *10		

\* 1 平成 30 年 3 月 31 日付退職

\* 2 平成 29 年 11 月 1 日付企画渉外係へ配置換

\* 3 平成 30 年 2 月 1 日付採用

\* 4 平成 30 年 1 月 1 日付東京国立博物館へ配置換

\* 5 平成 30 年 1 月 1 日付兼務

\* 6 平成 29 年 7 月 1 日付本部事務局へ配置換

\* 7 平成 29 年 6 月 20 日付退職

\* 8 平成 29 年 8 月 21 日付採用、9 月 25 日付退職

＊ 9 平成 29 年 11 月 1 日付採用  
 ＊ 10 平成 29 年 10 月 31 日退職  
 ＊ 11 平成 29 年 4 月 1 日付東京大学より異動  
 ＊ 12 平成 29 年 9 月 30 日付退職  
 ＊ 13 平成 29 年 10 月 1 日付文化遺産国際協力センターへ配置換

＊ 14 平成 29 年 5 月 1 日付保存科学研究センターへ配置換  
 ＊ 15 平成 29 年 4 月 1 日付採用、8 月 16 日付退職  
 ＊ 16 平成 29 年 6 月 1 日付採用  
 ＊ 17 平成 29 年 9 月 19 日付採用  
 ＊ 18 平成 29 年 10 月 1 日付採用

## (2) 文化財情報資料部

### 〈組織概要〉

文化財情報資料部は、文化財に関する調査研究を実施するとともに、調査研究の成果・情報についてのアーカイブ化を進め、適したインフラストラクチャを整備し、研究の成果・情報の適宜公開を行う。また国内外の研究機関との研究交流を実施する。調査研究においては、1) 黒田清輝(1866-1924)の遺言により造られた黒田記念館に設置された美術研究所以来の黒田周辺の作家等との交流を中心とした近現代作品の研究を進めるとともに、2) 日本及び東アジアの美術に関する調査研究を行い、美術史研究に資する高質な資料や情報を作成・提供する。また、3) 時代や地域などにとらわれない横断的な広領域にわたるテーマを設定し、人文学のほか、自然科学的研究手法の応用を進め、多角的な視点から研究を進める。あわせて、黒田記念館における作品と研究成果の展示について当部が担当する。4) 研究情報のアーカイブ化においては、文献資料、過去の調査記録等のデジタル化を推進し、研究のための閲覧促進を目的とする画像データベースを作成・運用する。画像資料にとどまらず文献資料及び研究情報を付加した文化財の専門的アーカイブを構築する。5) 研究成果の公開の一環として、『美術研究』(年3冊)、『日本美術年鑑』(年1冊)ほかの公刊、オープンレクチャーを開催する。所内各部門の研究情報の共有化のために総合研究会を企画・開催し、各年度の研究や事業を総括した年報編集の事務を取り扱う。6) 研究情報発信のため、所内広報委員会の情報システム部会ならびにアーカイブ委員会下にあるアーカイブズ・ワーキンググループ協議会を運用・管理し、ウェブサイト及び外部公開データベースの充実を図る。さらに、資料閲覧室で架蔵図書等の諸資料の公開閲覧を担う。

### 文化財情報研究室

情報システムセキュリティの確保に留意しつつ、調査研究及びウェブを活用した成果公開のための情報基盤の整備を行うとともに、文化財情報データベースを拡充する。また、ウェブサイトの構築・運用を通じて研究成果公開を行う。さらに、文化財情報及び情報技術の文化財保護への活用について研究を行う。

**画像情報室：**光学理論やデジタル技術を応用した最先端の画像形成技術を開発・駆使し、視覚的な研究情報を提示する。

### 文化財アーカイブズ研究室

文化財に関する画像や図書等の情報・資料を収集・整理し、文化財情報統合アーカイブを作成し、全所的にとりまとめて公開する。

**資料閲覧室：**受け入れた文化財関連の図書や定期刊行物、展覧会カタログ、写真資料などを整理し、月・水・金曜日に一般の利用者に公開するほか、各種の書誌や研究情報のデータベースを作成する。また、所蔵資料のデジタル化と目録作成を進め、提供する。

### 日本東洋美術史研究室

江戸時代までの日本と東アジアの美術を研究する。また、美術の価値形成の多様性を解明するため、美術史研究のための資料学的な基盤を整備する。

### 近・現代視覚芸術研究室

明治以降の日本美術を研究する。近現代美術に関わる研究資料を収集・整理し、研究手法を開発するとともに、現代美術の動向を調査・研究する。

### 広領域研究室

美術のジャンルや時代、地域を横断する課題に取り組み、文化財に関わる諸分野と連携して、広い視野から文化財を研究し、その材料・技法・制作過程等を明らかにする。

文化財情報資料部長	津田徹英	(日本彫刻史) *1	研究補佐員	芦立麻衣子	(画像編集) *7
文化財情報研究室長	二神葉子	(考古科学)	研究補佐員	大前美由希	(現代美術)
文化財アーカイブズ研究室長	江村知子	(日本絵画史) *2	研究補佐員	寺崎直子	(日本絵画史)
日本東洋美術史研究室長	小林達朗	(日本中世絵画史)	研究補佐員	増田政史	(日本彫刻史) *8
近・現代視覚芸術研究室長	塩谷 純	(日本近代絵画史)	研究補佐員	逢坂裕紀子	(都市社会学) *9
広領域研究室長	小林公治	(物質文化史)	研究補佐員	安岡みのり	(ウェブ作成) *10
主任研究員	小野真由美	(日本近世絵画史) *3	研究補佐員	丸山 礼	(ウェブ作成) *5
研究員	安永拓世	(日本近世絵画史)	客員研究員	三上 豊	(近現代美術)
研究員	橘川英規	(美術資料)	客員研究員	丸川雄三	(情報学)
研究員	小山田智寛	(美学・情報学) *4	客員研究員	中野照男	(東洋絵画史)
専門職員	城野誠治	(画像情報室・文化財写真)	客員研究員	近松鴻二	(近代史料)
アソシエイトフェロー	田所 泰	(日本近代美術史)	客員研究員	片山まび	(東洋陶磁史)
アソシエイトフェロー	三島大暉	(情報学) *5	客員研究員	田中 淳	(日本近代絵画史)
研究補佐員	竹花真由子	(画像形成) *1	客員研究員	齋藤達也	(フランス近代美術) *11
研究補佐員	小山田智寛	(美学・情報学) *6	客員研究員	永崎研宣	(人文情報学・仏教学) *11
研究補佐員	田中 潤	(近代美術史料)	兼務	久保田裕道	(無形文化遺産部)
研究補佐員	阿部朋絵	(美術資料)	兼務	吉田直人	(保存科学研究センター)
研究補佐員	細川民子	(美術資料)	兼務	加藤雅人	(文化国際協力センター) *12
研究補佐員	谷口每子	(画像形成)	兼任	皿井 舞	(東京国立博物館) *13

\*1 平成 30 年 3 月 31 日付退職

\*2 平成 29 年 4 月 1 日付文化遺産国際協力センターより配置換

\*3 平成 29 年 4 月 1 日付東京国立博物館より配置換

\*4 平成 29 年 7 月 1 日付採用

\*5 平成 30 年 1 月 1 日付採用

\*6 平成 29 年 6 月 30 日付退職

\*7 平成 29 年 7 月 31 日付退職

\*8 平成 29 年 6 月 1 日付採用

\*9 平成 29 年 8 月 1 日付採用

\*10 平成 29 年 10 月 1 日付採用

\*11 平成 29 年 4 月 1 日付採用

\*12 平成 29 年 4 月 1 日付兼務

\*13 平成 29 年 9 月 1 日付兼任

### (3) 無形文化遺産部

#### 〈組織概要〉

無形文化遺産部は、無形文化財（伝統的工芸技術、古典芸能）、無形民俗文化財（風俗慣習、民俗芸能、民俗技術）及び文化財保存技術という、日本における無形文化遺産の全体を対象として、その保存継承に資する基礎的な調査研究を実施している。内容は多岐にわたっており、保護対象の確定や適切な保護手法の確立のためには、無形文化遺産を構成する諸要素の専門的な調査・研究が重要である。また、人によって伝承されるために、年代や社会情勢の変化に伴って変容する要素も大きい。このため、文献的研究の蓄積に加えて、伝承の実態に即した調査研究を実施している。

重要な保護手法である音声・映像による記録については、その作成の実施とともに新たな手法開発についての研究を行っている。無形文化遺産保護にとって、音声・映像記録は、記録保存的役割はもちろんのこと、その伝承ツールとしても重要な意味を持つ。このため、無形文化遺産部では、他機関では行うことのできない希少演目等の記録保存事業を実施すると同時に、既存の記録活用のために、デジタルアーカイブ構築に向けての研究を行っている。

このほかに、無形文化遺産分野についてアジアを中心に海外との研究交流も実施している。

#### 無形文化財研究室

古典芸能、伝統的工芸技術などの無形文化財、及び文化財保存技術について、伝承実態の調査や技法技術の変遷の研究など、その保護に資するための基礎的調査研究を行っている。

#### 無形民俗文化財研究室

風俗慣習、民俗芸能、及び民俗技術などの無形民俗文化財について、その保護に資するための基礎的調査研究を、現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等の実地調査に基づいて行っている。また、映像記録作成、公開事業等、現実的な問題について全国の関係者との協議を実施し、その対策の検討も行って

いる。

#### 音声・映像記録研究室

無形文化遺産に関する記録のアーカイブ化、記録作成手法について研究を行っている。また無形文化財、無形民俗文化財の現状を把握し、後世へ継承するために、それらの音声・映像記録を作成している。

無形文化遺産部長	飯島 満	(古典芸能)	客員研究員	山崎 剛	(工芸技術)
無形文化財研究室長	飯島 満	(古典芸能) *1	客員研究員	原田一敏	(工芸技術)
	前原恵美	(古典芸能) *2	客員研究員	荒川正明	(工芸技術)
無形民俗文化財研究室長	久保田裕道	(民俗芸能)	客員研究員	俵木 悟	(民俗芸能)
音声映像記録研究室長	石村 智	(文化遺産学)	客員研究員	松山直子	(工芸技術)
主任研究員	前原恵美	(古典芸能) *2	客員研究員	今岡謙太郎	(古典芸能)
主任研究員	菊池理予	(工芸技術)	客員研究員	永井美和子	(修復技術)
主任研究員	今石みぎわ	(民俗学)	客員研究員	大西秀紀	(古典芸能)
		(文化財防災ネットワーク推進事業)	客員研究員	鎌田紗弓	(古典芸能)
アソシエイトフェロー	佐野真規	(映像アーカイブ) *3	客員研究員	菊池健策	(民俗学)
		(情報処理) *4	客員研究員	宮澤京子	(文化財映像学)
研究補佐員	橋本かおる	(民俗学) *4	客員研究員	森下愛子	(工芸技術)
研究補佐員	伊藤 純	(近代史)	客員研究員	宮田繁幸	(民俗芸能) *5
研究補佐員	半戸 文	(古典芸能)	客員研究員	神野知恵	(民俗芸能) *5
客員研究員	星野厚子	(古典芸能・民俗芸能)			
客員研究員	齊藤裕嗣				

\* 1 平成 29 年 10 月 1 日付兼務免除

\* 2 平成 29 年 10 月 1 日付配置換

\* 3 平成 29 年 9 月 30 日付退職

\* 4 平成 30 年 3 月 31 日付退職

\* 5 平成 29 年 7 月 1 日付採用

## (4) 保存科学研究センター

### 〈組織概要〉

保存科学研究センターは、文化財の保存科学・修復技術に関する調査・研究を行うナショナルセンターとしての役割を担っている。科学的な方法を用いて、文化財を取り巻く環境の調査や文化財の材料及び構造に関する調査を行い、文化財の保存や理解に役立つ知見の集積・発信を行っている。また、文化財の置かれた環境履歴を調査し、適切な修復材料・技術の改良・開発、評価及びメンテナンス手法に関する研究を行っている。得られた研究成果は紀要『保存科学』を通じて、すみやかに公開している(ウェブにてフリーアクセスコンテンツ)。これらの知見をもとに、「文化財の虫菌害に関する調査・助言」「文化財の材質・構造に関する調査・助言」「美術館・博物館等の環境調査と援助・助言」「文化財の修復及び整備に関する調査・研究」の4項目について、地方公共団体に対して協力を行い、地域の文化財保護の質的向上に寄与している。また、国立文化財機構内の2研究所・4博物館の保存修復担当の研究員を保存科学研究センターの併任とし、文化財の構造・材質調査や文化財の保存管理上の課題解決等について、相互に連携して、随時取り組む体制を構築している。

### 保存環境研究室

博物館・美術館など展示・収蔵施設における文化財の安全な保存環境の確立のため、温度湿度、光、空気汚染物質などが文化財に与える影響を調べ、劣化を予防する研究を行っている。劣化因子の測定方法の基準化を図るとともに、各施設の担当者と連携し、現場での環境モニタリングや、改善のための実証研究も行っている。LED・有機ELなどの新しい光源の展示・収蔵環境に及ぼす影響や照明効果などに関する研究に重点を置いている。

### 分析科学研究室

様々な科学的分析手法によって文化財の構造・材質を調査し、劣化状態を含む文化財の物理的・化学的な特徴を明らかにする研究を行っている。X線や光を使った非破壊的な手法を中心に、各種小型可搬型機器を



用いた調査方法の開発とその応用によって、文化財の構造・制作技法のみならず美術史・工芸史・考古学等との連携により制作年代・生産地研究などへ視野を拡げ、文化財の総合研究を実現、牽引している。

## 生物科学研究室

昆虫や菌など、生物による文化財の劣化機構の解明とその防除方法に関する調査研究を行っている。博物館や美術館などの展示・収蔵環境にある文化財、歴史的建造物や古墳などの屋外にある文化財の生物が原因となる劣化現象の発生原因と解決方法について調査研究を行うとともに、生物が発生・繁殖することによる観覧者や作業員などの人体への影響も視野に入れた対策の開発に力を入れている。

## 修復計画研究室

文化財の持つ本質的な価値をできるだけ改変することなく次の世代へと伝えていくために、その文化財を構成する材料の特性を確認し、それが置かれている環境を調査し、適切な修復と保存の方針を策定していくための研究を行っている。併せて、通常環境においてだけではなく、自然災害等による文化財の被害を最小限に止めるための計画策定に関して、防災・災害後の保全処置の両面において研究を進めている。

## 修復材料研究室

膠や漆などの伝統的材料、近代になり開発され使用されてきたものなど、従来文化財修復に使用されてきた修復材料の評価と改良を行うとともに、新しい修復材料の開発評価、及び修復への適用方法の検討を行っている。併せて、安全な文化財修復を実現するために、文化財の伝統的制作技法や材料製作に関する調査研究を行っている。

## 近代文化遺産研究室

工場・橋梁などの大型構造物、航空機、鉄道車両などの機械器具、フィルムや洋紙などの工業製品など、日本の近代化を担ってきた文化遺産に関して、保存修復のための情報収集、技術・材料の調査及び開発を行い、次世代に適切に伝えていくための保存手法・保存計画のあり方等を研究している。

保存科学研究センター長	佐野千絵	(保存環境学) *1	客員研究員	本多貴之	(高分子分析)
保存科学研究センター副センター長	早川泰弘	(分析化学)	客員研究員	堤 一郎	(産業技術史)
保存環境研究室長	吉田直人	(分光分析学)	客員研究員	北原博幸	(建築環境学)
分析科学研究室長	犬塚将英	(物理計測)	客員研究員	石崎武志	(保存科学)
生物科学研究室長	佐藤嘉則	(微生物生態学)	客員研究員	大場詩野子	(油画修復)
修復計画研究室長	朽津信明	(地質学)	客員研究員	吉澤 望	(建築環境工学)
修復材料研究室長	早川典子	(高分子化学)	客員研究員	山内泰樹	(視覚情報処理)
近代文化遺産研究室長	北河大次郎	(土木史)	客員研究員	山本記子	(装潢修理技術)
主任研究員	森井順之	(土木工学) *2	客員研究員	貴田啓子	(保存科学)
研究員	倉島玲央	(有機化学) *3	客員研究員	岡田 健	(文化財学) *3
アソシエイトフェロー	石田真弥	(建築史)	客員研究員	古田嶋智子	(保存科学) *3
アソシエイトフェロー	小峰幸夫	(応用昆虫学)	連携併任	富坂 賢	(東京国立博物館) *6
アソシエイトフェロー	嶋原由美	(油彩画保存修復)	連携併任	荒木臣紀	(東京国立博物館)
アソシエイトフェロー	藤井佑果	(東洋絵画修復)	連携併任	和田 浩	(東京国立博物館)
アソシエイトフェロー	内田優花	(文化財防災ネットワーク推進事業)	連携併任	土屋裕子	(東京国立博物館)
研究補佐員	石井恭子	(保存科学) *3	連携併任	瀬谷 愛	(東京国立博物館)
研究補佐員	濱田 翠	(保存修復)	連携併任	横山 梓	(東京国立博物館)
研究補佐員	柳沼由可子	(文化財科学) *4	連携併任	大原嘉豊	(京都国立博物館)
研究補佐員	山府木碧	(考古学) *5	連携併任	福士雄也	(京都国立博物館) *6
事務補佐員	矢野幹子	(漆工品保存修復)	連携併任	降幡順子	(京都国立博物館) *6
客員研究員	呂 俊民	*4	連携併任	鳥越俊行	(奈良国立博物館)
客員研究員	酒井清文	(建築環境学) *4	連携併任	木川りか	(九州国立博物館)
客員研究員	三浦定俊	(酵素工学)	連携併任	志賀智史	(九州国立博物館)
客員研究員	藤井義久	(物理計測) *4	連携併任	秋山純子	(九州国立博物館)
客員研究員	間瀬 創	(木材科学)	連携併任	高妻洋成	(奈良文化財研究所)
客員研究員	横山晋太郎	(保存環境学)	連携併任	脇谷草一郎	(奈良文化財研究所)
客員研究員	長島宏行	(航空機保存) *4	連携併任	田村朋美	(奈良文化財研究所)
客員研究員	小堀信幸	(航空機) *4	連携併任	松田和貴	(奈良文化財研究所) *6
客員研究員		(船舶)			



\* 1 平成29年4月1日付文化財情報資料部より配置換  
 \* 2 平成30年3月31日付退職。文化庁へ異動  
 \* 3 平成29年4月1日付採用

\* 4 平成30年3月31日付退職  
 \* 5 平成29年5月1日付研究支援推進部より配置換  
 \* 6 平成29年7月1日付併任

## (5) 文化遺産国際協力センター

### 〈組織概要〉

文化遺産国際協力センターは、文化遺産の保存修復及び調査研究の分野においてわが国が国際協力を推進するためのナショナルセンターとしての役割を担っており、国内外の教育研究機関や民間団体等とも連携しながら、世界各地で積極的な協力活動を実施している。その活動内容は、文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信、文化遺産保護国際協力事業の実施、文化遺産の保存修復に関する技術移転・人材育成協力等、多岐にわたっている。

### 国際情報研究室

国際社会における文化遺産に関する理念や法制度等、文化遺産の保護制度や施策に関して、国際動向や国際協力等の情報を収集・分析している。また、国際研修等を通じて情報発信している。

### 保存計画研究室

アジア諸国等の文化遺産の保存・管理・整備・活用に関し、現地政府機関等と協力しながら、調査研究及び計画立案、さらには事業実施にあたっての技術的助言等を行っている。また、紛争や自然災害時における被災文化遺産の救済や復興活動にも協力している。

### 技術支援研究室

文化遺産の修復手法や材料及び技術に関する調査研究や人材育成への協力など、技術移転を通じて諸外国への支援を行っている。

文化遺産国際協力センター長	中山俊介	(船舶工学)	アソシエイトフェロー	間舎裕生	(考古学) *4
国際情報研究室長	中山俊介	(船舶工学) *1	アソシエイトフェロー	五木田まきは	(文化資源学) *4
	西 和彦	(建築学) *2	研究補佐員	橋本広美	(保存科学)
保存計画研究室長	友田正彦	(建築学)	研究補佐員	金 善旭	(建築構造・生産) *5
技術支援研究室長	加藤雅人	(製紙科学)	研究補佐員	北山奈央子	(文化史) *6
研 究 員	前川佳文	(壁画保存修復)	事務補佐員	五嶋千雪	(現代美術)
研 究 員	安倍雅史	(考古学)	事務補佐員	石田智香子	*7
アソシエイトフェロー	山田大樹	(地域計画)	事務補佐員	荒木 晶	*8
アソシエイトフェロー	増渕麻里耶	(考古冶金学、分析化学)	客員研究員	石井美恵	(染織修復・染織品保存科学)
アソシエイトフェロー	小田桃子	(東洋絵画保存修復)	客員研究員	大河原典子	(日本画)
アソシエイトフェロー	川嶋陶子	(考古学) *3	客員研究員	杉山恵助	(東洋絵画修復)
アソシエイトフェロー	元 喜載	(東洋絵画保存修復)	兼務	二神葉子	(文化財情報資料部)
アソシエイトフェロー	マルティネス アレハンドロ	(建築学)	兼務	石村 智	(無形文化遺産部)
アソシエイトフェロー	松保小夜子	(文化政策)	・国際遺跡研究室(併任)		
アソシエイトフェロー	牧野真理子	(考古学)	室長	森本 晋	(奈良文化財研究所)
アソシエイトフェロー	後藤里架	(保存修復) *4	研 究 員	田村朋美	(奈良文化財研究所)
アソシエイトフェロー	境野飛鳥	(保護制度) *4			

\* 1 平成29年11月1日付兼務免除  
 \* 2 平成29年11月1日付文化庁より異動  
 \* 3 平成30年3月31日付退職  
 \* 4 平成29年4月1日付採用

\* 5 平成29年12月31日付退職  
 \* 6 平成29年7月21日付退職  
 \* 7 平成29年5月15日付採用  
 \* 8 平成29年10月1日付研究支援推進部より配置換

## (6) 特任研究員

川野邊渉 (高分子化学)  
 高桑いづみ (古典芸能)



## 2. 年度計画及びプロジェクト報告

1. 年度計画(平成29年度)とプロジェクトとの対応 .....	17
2. プロジェクト報告 .....	32
①有形・無形の文化財に関する調査研究事業 .....	35
②保存修復に関する調査研究事業 .....	41
③国際協力・交流等に関する事業 .....	48
④情報収集・成果公開に関する事業 .....	53
⑤刊行物に関する事業 .....	64
⑥指導助言・研修等に関する事業 .....	68



# 1. 年度計画(平成29年度)とプロジェクトとの対応

凡 例

- (1) 本項では、「平成29年度独立行政法人国立文化財機構に係る年度計画」から、東京及び奈良文化財研究所に関連する「2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施」以下を掲載し、運営費交付金による各プロジェクトとの対応関係を表した。
- (2) 年度計画の各項目に対応するプロジェクトは、項目の文末に示した。なお、プロジェクトの略号については、第2章2. プロジェクト報告 32～33頁を参照されたい。

## 平成29年度独立行政法人国立文化財機構に係る年度計画

独立行政法人通則法(平成十一年法律第百三十三号)第三十一条の規定により、平成28年3月31日付け27受庁財第3634号で認可を受けた独立行政法人国立文化財機構中期計画に基づき、平成29年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

### I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信(略)
2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

#### (1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

##### ① 有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究

##### 1) 我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究

ア 国内外の文化財に関する様々な情報について分析し、それらの情報を文化財保護に対して活用するための調査研究を実施する。また、イギリス・セインズベリー日本芸術研究所と研究会を開催する。その他機関との連携も図りつつ、文化財情報の公開・活用のための、より望ましい手法等の研究を行う。 [シ01](#)

イ 近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査研究及び光学調査を進め、研究の基盤となる資料情報の充実を図る。併せて、これにかかる国内外の研究交流を推進する。また、『水月観音光学調査報告書(仮)』を刊行する。 [シ02](#)

ウ 近現代美術を対象として日本における展開を軸としつつ、その方向付けに大きく関わった欧米等の動向も視野に入れて分析・考察する。併せて、作家や関係者及び美術館等の諸機関が所蔵する資料の調査を行い、得られた情報を近・現代美術研究の基礎資料として整備する。29年度には黒田清輝宛書簡のうち養母及び山本芳翠書簡の研究成果を公表する。その事業のひとつとして日本美術

家人名データベースの作成を進める。 シ03

エ 美術作品を中心とする有形文化財についてのより深い理解を得ることを目的として、その表現・技術・材料を対象として自然科学や伝統技術、また歴史学や国文学などの隣接諸分野と連携した多角的調査研究を、主に南蛮漆器を中心に作品調査を実施するとともに、新たな研究手法の開発・普及に取り組む。 シ04

## 2) 建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究

法隆寺古材調査を中心とする古代建築の調査研究を推進する。また、近世・近代を中心とした我が国の文化財建造物の保存・修復・活用に関する基礎データの収集、未指定建造物の調査、歴史的建造物の今後の保存と復原に資するための調査・研究を行い、纏まったものより順次公表を行う。伝統的建造物群及びその保存・活用に関する調査研究を推進し、保存を行っている各自治体等への協力を行う。

## 3) 歴史資料・書跡資料に関する調査研究

近畿を中心とする古寺社や旧家等が所蔵してきた歴史資料・書跡資料等に関して、原本調査、記録作成を悉皆的に実施するとともに、仁和寺等の資料について公表に向けて整理研究を行う。

### 【中期目標・計画上の評価指標】

- ・評価軸による具体的な研究成果
- ・(関連指標) 論文等数
- ・(関連指標) 報告書等の刊行数

### 【評価軸】

- ・我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与しているか。
- ・有形文化財の保存修復等に寄与しているか。

## ② 無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究

### 1) 重要無形文化財の保存・活用に関する調査研究等 ム01 ム03

無形文化財等の伝承実態に関する基礎的な調査研究及び資料の収集を行うとともに、現状記録を要する対象を精査し、記録作成を実施する。記録作成に関しては、これまで継続してきた講談等の演芸に加え、邦楽分野についても範囲を広げ実施する。

調査研究等に基づく成果の一部については、一般向けの公開講座などを通して公表する。

また、これまでに研究所で収集・保管してきた記録・資料の整理を行い、必要に応じて媒体転換等の措置を講ずる。

### 2) 重要無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究等 ム02

我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等、無形の民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等を明らかにするとともに、各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図る。特に宮城県女川町における東日本大震災被災地の民俗誌作成及び岐阜県岐阜市における和船調査等を中心に行う。

さらに、無形文化遺産の記録やその所在情報を継続的に収集し、その情報の整理・公開に努める。ユネスコ無形文化遺産保護条約に関する調査研究を進める。

### 3) 無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等 ム05

日本と関連の深いアジア諸国等との間において研究員の交流や無形文化遺産関連調査を行うなど、無形文化遺産分野における研究交流事業を実施する。

### 【中期目標・計画上の評価指標】

- ・評価軸による具体的な研究成果
- ・(関連指標) 論文等数
- ・(関連指標) 報告書等の刊行数

### 【評価軸】

- ・無形文化財、無形民俗文化財等の伝承・公開に係る基盤の形成に寄与しているか。

### ③ 記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究

#### 1) 史跡・名勝の保存・活用に関する調査研究

我が国の史跡・名勝に関し、以下の調査研究を行う。

ア 遺跡等の整備に関連する国際的な動向も踏まえた資料の収集・調査・整理等を行う。また、近世等の遺跡の保存・活用に関する研究集会を開催するとともに、過年度開催した研究集会の成果の取りまとめ及び公表を行う。

イ 近世庭園に関する研究集会「廻遊式庭園と庭園文化（仮称）」を開催する。また、近世庭園調査を行うとともに、庭園に関する基礎資料の収集・整理、所蔵資料の整理を進める。

#### 2) 古代日本の都城遺跡に関する調査研究

国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。

ア 古代都城の解明のため、平城宮跡東院地区及び第一次大極殿院地区、平城京跡、東大寺塔院地区、藤原宮大極殿院地区及び内裏北官衙地区、藤原京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を行う。

イ 出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に行い、調査研究が纏まったものより順次公表する。

ウ 飛鳥時代の壁画古墳について東アジアの事例との比較研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史・考古学研究の一環として、寺院出土の金属製遺物を中心とした資料の調査を行う。また、飛鳥時代木造建築遺物の研究として、藤原宮・京跡や飛鳥・藤原地域に所在する寺院の出土部材の研究を行う。

エ アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、日本の古代都城及び北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との友好議定書締結と学術交流の推進、中国の生産遺跡（鞏義市黄冶窯跡・白河窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究院との共同研究、北票喇嘛洞墓地出土の陶器等の調査・分析を中心とする遼寧省文物考古研究所との共同研究、日韓古代文化の形成と発展過程に関する韓国国立文化財研究所との研究者の発掘現場交流を含む共同研究等を、協定に基づいて行う。また、調査研究が纏まったものより順次公表する。

#### 3) 重要文化的景観等の保存・活用に関する調査研究

文化的景観及びその保護に関する基礎的・応用的な調査研究を推進し、特に北海道沙流郡平取町や長崎県平戸市等の重要文化的景観の整備活用に関する情報の収集や専門家等との意見交換等を行う。また、これまでの成果を踏まえつつ、文化的景観の学術及び保護に資する検討会等を主催し、複数の事例研究を踏まえ、文化的景観の概念及び調査・計画手法等の体系化に取り組む。

#### 4) 全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究

我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査研究を行う。

ア 全国の遺跡のうち関東・東北地方に関する資料収集及び分析に有効な指標や手法についての研究を進め、その成果をデータベース化して順次公開する。

イ 古代官衙・集落遺跡に関する研究集会、古代瓦に関する研究集会を実施し、報告書を刊行する。

#### 5) 水中文化遺産に関する調査研究

国内の水中文化遺産の調査に取り組むとともに、主に海外の水中文化遺産に関する調査研究及び保存活用の事例を調査し、今後の取組に資する。

#### 【中期目標・計画上の評価指標】

- ・評価軸による具体的な研究成果
- ・（関連指標）論文等数
- ・（関連指標）報告書等の刊行数

#### 【評価軸】

- ・記念物の保存・活用に寄与しているか。
- ・古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与しているか。
- ・文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展に寄与しているか。



- ・埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与しているか。

## (2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

### ①文化財の調査手法に関する研究開発の推進

#### 1) デジタル画像の形成方法等の研究開発 シ05

高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する多様な情報を目的に応じて正確・詳細に視覚化するとともに、その公開を目指して、調査・研究を行う。

#### 2) 埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発

埋蔵文化財の調査における新たな手法の開発・導入と応用に関する研究を行う。特に、情報取得手段としての遺跡探査、地質の検証、遺構・遺物の計測についての手法及び成果を活用する方法について研究を進める。

#### 3) 年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発

出土遺物、建造物、美術工芸品等の木造文化財の年輪年代調査を実施し、考古学、建築史学、美術史学、歴史学等の研究に資するとともに、年輪データの蓄積を進める。特に、奈良文化財研究所で開発、実用化したマイクロフォーカスX線CTを用いた非破壊調査手法により、福島県いわき市金光寺所蔵木製宝篋印塔など、調査対象の拡充と活用を図り、これらの研究成果を公表する。

#### 4) 動植物遺存体の分析方法の研究開発

藤原宮跡等から出土する動植物遺体の調査を実施して古環境や動植物資源利用の歴史を明らかにするとともに、多様な調査手法、また、環境考古学研究の基礎となる現生標本を継続的に収集して、公開する。

#### 【中期目標・計画上の評価指標】

- ・評価軸による具体的な研究成果
- ・(関連指標) 論文等数
- ・(関連指標) 報告書等の刊行数

#### 【評価軸】

- ・科学技術を的確に応用し、文化財の保存・修復の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与しているか。

### ②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究

#### 1) 生物被害の予防と対策に関する調査研究 ホ01

歴史的建造物、古墳環境など生物制御が困難な空間にある文化財を対象として、簡易・迅速な生物モニタリング手法に関する基礎研究を行うとともに、虫菌害被害を受けた文化財に対する環境低負荷型の防除方法や生物被害痕跡のクリーニング技術の開発に向けた応用研究を行う。

#### 2) 文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究 ホ02

全国の文化財施設における白色LED、有機EL光源の導入状況を把握するとともに、資料保存上、また展示照明としての問題点を抽出し、その原因の科学的検証を進める。さらに、展示ケース内汚染物質軽減方法の検討と清浄化マニュアルの普及を行う。

#### 3) 可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造、及び保存状態に関する調査研究 ホ03

複数の小型可搬型機器を活用して、絵画・工芸品等に関する高精度な材質・構造・状態調査を行う。可搬型X線回折装置、小型FCR現像機のその場分析への適用を進め、定量的な評価手法を構築する。

#### 4) 屋外文化財の劣化対策に関する調査研究 ホ04

屋外に所在する石造・木質文化財及び自然史資料を対象に、覆屋の機能・遺構の露出展示に関する課題として、周辺環境等の劣化要因の究明及び修復材料・技術に関する研究を行う。また、石塔など石造文化財の災害事例及び災害対策に関する基礎的調査を行う。また、現在一時保管場所での長期的な保管を余儀なくされている被災文化財に関して、その保存・修復方法に関する研究を進める。

#### 5) 文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究 ホ05

美術工芸品及び建造物等の修復においてこれまでに使用されてきた伝統材料及び今後使用が想定さ



れる新しい修復材料について、調査研究と評価を行う。絵絹や染織品に用いられる絹の調査及び染色に用いられた染料や染色技法について現地調査や物性調査を行う。また、酵素を用いた修復に関して、修復材料への影響評価など多角的な検討をし、現場での具体的な適用方法を確立する。

#### 6) 考古遺物の保存処理法に関する調査研究

種々の材料調査分析法を総合的に活用して出土遺物の材質、構造及び劣化状態に関する診断調査を行い、保存処理法の開発に資する基礎的なデータを収集する。特に、鉄製遺物の効果的な新規の脱塩法を確立するための基礎研究を行う。また、木製遺物の物性、化学組成及び組織構造に関する基礎データを集積し、システムティックな含浸処理法に関する基礎研究を行う。

#### 7) 遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究

環境制御による劣化抑制の成否について検証するため、平城宮跡遺構展示館等をフィールドとして、遺構の劣化の進行速度と周辺の環境についてモニタリング調査を行う。石造文化財等の劣化要因である塩析出が材料の劣化に及ぼす影響に関する基礎研究を行う。さらに、埋蔵環境における金属製品の腐食プロセスを解明するため、金属腐食実験を行い、環境因子と劣化の関係を定量的に評価する。

#### 8) 建造物の彩色に関する調査研究

諸戸家住宅彩色等の材料調査を行い、使用されている材料の同定と彩色技法の調査研究を行う。復元された平城宮跡大極殿において、建造物塗装彩色の経年変化に関する研究を行うため、環境調査並びに大極殿塗装彩色及び暴露試験用塗装彩色手板の色彩測定を行う。

#### 9) 近代文化遺産の保存・修復に関する調査研究 **ホ06**

近代文化遺産の特徴であるレンガ・石・コンクリート・各種金属・各種合成樹脂・各種繊維等の多種多様な材料の劣化状況や保存手法に関する基礎的調査研究を行う。特に鉄製建造物のこれまでの修復事例調査を実施し、保存科学的観点からその修復・保存の理念を検証し、評価する。

#### 10) 高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 **ホ** p.47

ア 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。  
イ 壁画の安定した保存と公開活用を行うための適切な石室内の熱水分環境について調査研究を行う。

#### 【中期目標・計画上の評価指標】

- ・評価軸による具体的な研究成果
- ・(関連指標) 論文等数
- ・(関連指標) 報告書等の刊行数

#### 【評価軸】

- ・科学技術を的確に応用し、文化財の保存・修復の質的向上に寄与しているか。

### (3) 文化遺産保護に関する国際協働

#### ① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進

##### 1) 文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信

海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。

ア 世界遺産委員会をはじめとするユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、国内外において文化遺産の保護をめぐる今日的課題等に関する調査研究を行う。また、収集した情報の整理・公開及び比較研究等を通じて、今後の我が国の文化遺産保護施策の検討の用に供する。**コ01**

イ 英国等の研究機関との間で文化遺産に関する研究交流を行う。

##### 2) 文化遺産保護協力事業の推進

国際共同研究等の実施を通じて諸外国の保存修復及び管理活用に関する考え方や手法に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を推進する。

ア 文化遺産の保護協力事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。

(ア) カンボジア・アンコール遺跡群（特に西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡）やミャンマーをはじめとする東南アジア地域等の文化遺産保護に関する調査研究及び保護協力事業を実施する。□02

(イ) 西アジア地域等の文化遺産保護に関する調査研究を実施する。特にイラン・アルメニア等において文化遺産保護協力事業を実施する。□03

(ウ) 上記各事業と連携しつつ、文化遺産の保護に関する研究会の開催等を通じて国内外の専門家との情報の共有化を図る。□03

### 3) 文化遺産の保存・修復に関する人材育成等

文化遺産保護の担当者や学芸員及び保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。

ア 国内外の諸機関等と連携して人材育成や技術移転等の国際支援を実施する。また海外の文化遺産保存担当者を対象に、国内外において和紙及び紙・絹・漆及び漆文化遺産等についての保存修復の講義と実技を行い、基礎的な知識を教授する。在外の日本古美術品を対象に事前調査を行い、その結果をもとに修復を行う。□04 □05

イ ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が実施する研修への協力を行う。□05

#### 【中期目標・計画上の評価指標】

- ・文化遺産保護の国際協働に関する取組状況

（文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数、諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の参加者の満足度、諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数）

## ② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究

アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護のための調査研究の推進拠点として、以下の事業を行う。

- ・同地域における無形文化遺産保護分野の研究についての総合的情報収集、及びその成果に基づく無形文化遺産保護調査研究データベースの充実
- ・無形文化遺産保護に関する研究の活性化に資する国際会議・研究者フォーラムの開催
- ・同地域における無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究の実施
- ・国際会合等への出席やユネスコ及び関連機関との連携を通じた無形文化遺産保護関連の国際的動向の情報収集

#### 【中期目標・計画上の評価指標】

- ・アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際協力事業の実施件数）

## (4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

### ① 文化財情報基盤の整備・充実

文化財関係の情報を収集して発信するため、文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。

- 1) 文化財に関するデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。特に全国遺跡報告総覧を充実させる。シ06
- 2) 被災文化財関連情報に関するデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。シ06
- 3) 文化財に係る図書、雑誌等の収集、整理、公開、提供を充実する。シ06

#### 【中期目標・計画上の評価指標】

- ・図書、雑誌等の公開に関する取組状況  
（資料閲覧室・図書資料室の開室日数、利用者数、文化財に関する資料・図書等の総件数）
- ・文化財に関するデータベースの公開件数（前中期目標の期間の実績以上）
- ・（関連指標）データベースのデータ件数

- ・(関連指標) データベース等へのアクセス件数

## ② 調査研究成果の発信

文化財に関する調査研究成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多角的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイト充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。

### 1) 定期刊行物の刊行 シ07 △04 ホ07

- ・『東京文化財研究所年報』
- ・『東京文化財研究所概要』
- ・『東文研ニュース』
- ・『美術研究』(年3冊)
- ・『日本美術年鑑』
- ・『無形文化遺産研究報告』
- ・『無形民俗文化財研究協議会報告書』
- ・『保存科学』
- ・『奈良文化財研究所紀要』
- ・『奈良文化財研究所概要』
- ・『奈文研ニュース』
- ・『埋蔵文化財ニュース』

### 2) 公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等 シ08

- ・公開講座(オープンレクチャー)
- ・公開講演会
- ・現地説明会

### 3) ウェブサイトの充実 シ05

- ・東文研総合検索システム
- ・東京文化財研究所刊行物一覧
- ・学術情報リポジトリ
- ・なぶんけんブログ(探検! 奈文研、コラム作寶樓等)

### 【中期目標・計画上の評価指標】

- ・定期刊行物等の刊行件数(前中期目標の期間の実績の年度平均以上)
- ・講演会等の開催回数(前中期目標の期間の実績の年度平均以上)
- ・(関連指標) 講演会等の来場者数
- ・(関連指標) 学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数

## ③ 展示公開施設の充実

平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進する。

### 1) 特別展・企画展

#### (平城宮跡資料館)

- ・企画展「永野太造作品展—草創期の奈文研を支えた写真家—」(4月29日～5月31日)
- ・企画展「夏の子ども展示(仮称)」(7月22日～9月3日)
- ・特別展「地下の正倉院展」(10月14日～11月26日)
- ・ミニ展示「新春企画 平城京のいぬ(仮称)」(30年1月4日～1月28日)

#### (飛鳥資料館)

- ・特別展「藤原京を掘る—藤原京一等地の調査—」(4月28日～7月2日)
- ・企画展「第8回写真コンテスト「飛鳥の路」作品展」(7月28日～9月2日)
- ・特別展「壁画古墳の考古学(仮称)」(10月6日～12月3日)

・企画展「飛鳥の考古学2017」(30年1月26日～3月18日)

2) 平城宮跡解説ボランティア研修の内容の充実及び運用の改善検討により活動を向上させる。

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・公開施設における特別展・企画展の開催件数(前中期目標の期間の実績の年度平均以上)
- ・(関連指標) 公開施設の来館者数

## (5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

### ①文化財に関する研修の実施

- 1) 文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。 **ホ08**
- 2) 研修の体系を完成させるとともに、研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を行い、その結果を踏まえ研修計画を策定する。

### ②文化財に関する協力・助言等

国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。

- 1) 地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。 **シ ム ホ**
- 2) 蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。
- 3) 地震・水害等により被災した地域の復旧・復興事業に伴い、地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力を行う。

### ③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。

- 1) 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力
  - ・文化庁が行う平城宮跡、藤原宮跡の整備・公開、管理事業への協力
  - ・文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力
  - ・国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院の復原、朱雀大路・二条大路の整備等への協力
  - ・国土交通省が建設する平城宮跡展示館の開館に向けた展示への協力
- 2) NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力

### ④連携大学院教育の推進

連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。

- 1) 東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進 **ホ** p.73
  - ・東京藝術大学大学院：システム保存学(保存環境学、修復材料学)
  - ・京都大学大学院：共生文明学(文化・地域環境論)
  - ・奈良女子大学大学院：比較文化学(文化史論)

### ⑤文化財等の防災・救援等への寄与

#### 1) 体制づくり

有事における文化財等の防災・救援のための連携・協力体制づくりに向けた検討を行う。

- ・文化遺産防災ネットワーク推進会議や文化遺産防災ネットワーク有識者会議を開催する。
- ・けいはんなオープンイノベーションセンターについて、収蔵庫機能の維持管理等を行いつつ関西地区における文化財防災の拠点として活用する。

- ・機構各施設にて全国知事会のブロック割に準じて地区分担を行い、自治体や博物館等施設、史料ネット等へのヒアリング、情報交換会の開催、調査の実施及び会議への参加等を通じて地域文化財防災ネットワーク構築を促進する。また、地域防災計画 について、大規模地震防災・減災対策大綱に対応した防災計画の検討を行う。
- ・国際研修等を実施して、諸外国の防災の取組や被災文化財の保全処置方法に関する新たな知見の入手に努める。
- ・本事業での取組についてウェブサイトでの情報公開に努める。

## 2) 調査研究等の実施

ア 文化財等の防災・救援に関する調査研究を行い、情報の収集と発信を行う。

- ・全国の文化財防災の先進事例の収集や、地方指定等文化財情報に関する収集・整理・共有化や、文化財防災体制にかかる調査研究に取り組む。
- ・データベースの作成として、被災した自然史標本等の所在情報や、歴史災害痕跡のデータベース等の運用・活用を図り、広く文化財全般の防災ネットワーク構築に寄与する。また、文化財レスキュー活動において必要となる文化財情報や運用のあり方についての調査を行う。
- ・被災資料の応急処置などに関わる動画を作成し、公開する。

イ 保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断、安定化処置及び修理、保存環境等に関する研究を実施し、指針の策定を目指す。

- ・自然災害により被災した様々な状態の被災資料に関する劣化診断・応急処置等の方法に関する研究を行う。
- ・被災文化財等の安定的保管のための保存環境に関する研究を行う。

ウ 無形文化遺産の防災と被災後の継承等に関する研究を実施する。

- ・無形文化遺産の防災のため動態記録作成等を通じて、被災後の継承等に関する研究を実施する。

## 3) 人材育成等の実施

文化財等の防災・救援に関する指導・助言、研修、啓発・普及活動として、シンポジウム、講演会、研究集会、地方公共団体担当者等への研修会、地域の防災体制構築のための人材育成等を実施する。

### 【中期目標・計画上の評価指標】

- ・研修の実施件数（前中期目標の期間の実績の年度平均以上）
- ・研修の受講者数（前中期目標の期間の実績の年度平均以上）
- ・研修成果の活用状況（中期目標期間にアンケートによる研修成果の活用実績が80%以上となることを目指す。）
- ・専門的・技術的な援助・助言の取組状況（行政、公私立博物館等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

## II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1. 業務改善の取組

#### (1) 組織体制の見直し

- ・国際業務の推進体制の整備の一環として、2019年ICOM 京都大会に向けて、機構内における組織体制を整備する。
- ・情報セキュリティの確保・維持の重要性に鑑み、本部情報担当部門の設置を検討する。

#### (2) 人件費管理の適正化

国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。



### (3) 契約・調達方法の適正化

- ・契約監視委員会を実施する。
- ・施設内店舗の貸付・業務委託について引き続き企画競争を実施する。

### (4) 共同調達等の取組の推進

本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所について、上野地区（東京藝術大学、国立科学博物館、国立西洋美術館）における再生 PPC 用紙、トイレトペーパー、廃棄物処理、古紙等売買、複写機賃貸借、トイレ洗浄機器等賃貸借の共同調達を引き続き実施する。の共同調達を引き続き実施する。他施設での実施についても、引き続き周辺機関と協議する。

### (5) 一般管理費等の削減

#### ① 機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化

- 1) 人事、給与、共済業務の在り方を見直し、事務の効率化を引き続き図る。
- 2) 機構のネットワークの統合を検討し、業務の効率的な運用及び情報の共有化を推進する。

#### ② 計画的なアウトソーシング

以下の業務の外部委託を継続して実施する。

（東京国立博物館）

- ・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務
- ・資料館業務の一部
- ・施設内店舗業務

（京都国立博物館）

- ・看視案内業務及び設備保全業務の一部
- ・受付・案内・警備業務、売札業務及び清掃業務

（奈良国立博物館）

- ・建物設備の運転・管理業務
- ・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務

（九州国立博物館）

- ・建物設備の運転・管理業務等
- ・警備業務、看視案内業務及び清掃業務

（東京文化財研究所・奈良文化財研究所）

- ・警備業務、清掃業務及び建物設備の運転・管理業務等

#### ③ 使用資源の減少

- ・省エネルギー  
光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努める。
- ・廃棄物減量化  
使用資源の節減に努め、廃棄物の減量化に引き続き努める。
- ・リサイクルの推進  
廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。

## 2. 業務の電子化

機構ウェブサイトにおいて、機構に関する情報の提供を引き続き行い、政府の方針に沿ってオープンデータを推進し、各事務システムの継続運用とバックアップ・インフラ増強に努める。

### 3. 予算執行の効率化

運営費交付金収益化基準として業務達成基準が原則とされたことを踏まえ、収益化単位の業務を設定するとともに、収益化単位の業務及び管理部門の活動と運営費交付金の対応関係を明確にする。

## III 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1. 自己収入拡大への取組

(1) 機構全体において、展示事業等収入額について前中期目標の期間の実績の年度平均を上回ることを目指す。

(2) 機構全体において、寄附金等の外部資金獲得により財源の多様化を図る。

(3) 保有資産の有効利用の推進

(博物館4施設)

- ・講座・講演会等を開催する。
- ・講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。
- ・国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

(文化財研究所2施設)

セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・展示事業等収入額(前中期目標の期間の実績の年度平均以上)
- ・(関連指標) その他寄附金等収入額

### 2. 固定的経費の節減

固定的経費の節減のため、II 1.(5) 一般管理費等の削減に関する事項に取り組む。

### 3. 決算情報・セグメント情報の充実等

独立行政法人会計基準等を踏まえ、決算情報・セグメント情報の充実を図る。

## IV 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画

### 1. 予算

別紙のとおり

### 2. 収支計画

別紙のとおり

### 3. 資金計画

別紙のとおり

## V その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1. 内部統制

内部統制委員会、リスク管理委員会を開催する。また、内部監査及び監事監査等のモニタリングを実施し、必要に応じて見直しを行うとともに、各種研修を実施し、職員の意識並びに資質の向上を図る。

### 2. その他

#### (1) 自己評価

運営委員会、外部評価委員会の開催等、外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。

#### (2) 情報セキュリティ対策

情報セキュリティ対策については、政府機関の統一基準群・ガイドライン等を踏まえ、情報セキュリティをとりまく環境の変化に応じて機構として必要な対応を検討し、規定等を適時適切に見直すとともに、これに基づき対策を講じ、不正アクセスや標的型攻撃等のリスクに対する対策、攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。

また、自己点検、監査を実施し、その結果に基づいて情報セキュリティ対策を改善する。

### 3. 施設設備に関する計画

別紙のとおり施設設備に関する計画に沿った整備を推進する。

### 4. 人事に関する計画

(1) 中長期的な人事計画の策定を検討する。その際、理事長の裁量によって、一定数の職員を配置できる仕組みを併せて検討する。

(2) 職員の能力向上と組織のパフォーマンス向上を目的とした評価制度を導入する。

(3) 性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力や適性に応じた採用・人事を引き続き行う。

(4) 女性の活躍を推進し、制度改正を含めた就業環境の整備及び教育・研修を引き続き実施する。

(5) 職員のキャリアパスの形成のため、職位に応じた研修の実施を企画・立案する。



平成29年度 予算

(単位：百万円)

区 分	国立博物館等	文化財研究所等	合 計
収 入			
運営費交付金	5,793	2,532	8,325
施設整備費補助金	433	1,347	1,780
展示事業等収入	1,509	67	1,576
受託収入	36	551	587
その他寄附金等	407	33	440
計	8,178	4,530	12,708
支 出			
管理経費	1,346	437	1,783
うち人件費	629	223	852
うち一般管理費	717	214	931
業務経費	5,956	2,162	8,118
うち人件費	1,583	1,013	2,596
うち収集保管事業費	1,779	0	1,779
うち展覧事業費	2,043	0	2,043
うち教育普及事業費	139	0	139
うち博物館研究事業費	341	0	341
うち博物館支援事業費	71	0	71
うち基礎研究事業費	0	483	483
うち応用研究事業費	0	174	174
うち国際遺産保護事業費	0	151	151
うち情報公開事業費	0	322	322
うち研修協力事業費	0	19	19
施設整備費	433	1,347	1,780
受託事業費	36	551	587
その他寄附金等	407	33	440
計	8,178	4,530	12,708

# 平成29年度 収支計画

(単位：百万円)

区 分	国立博物館等	文化財研究所等	合 計
<b>費用の部</b>	6,599	3,189	9,788
経常経費	6,587	3,153	9,740
管理経費	1,271	415	1,686
うち人件費	629	223	852
うち一般管理費	642	192	834
事業経費	4,825	2,626	7,451
うち人件費	1,583	1,013	2,596
うち収集保管事業費	476	0	476
うち展覧事業費	1,830	0	1,830
うち教育普及事業費	124	0	124
うち博物館研究事業費	306	0	306
うち博物館支援事業費	63	0	63
うち基礎研究事業費	0	433	433
うち応用研究事業費	0	156	156
うち国際遺産保護事業費	0	135	135
うち情報公開事業費	0	288	288
うち研修協力事業費	0	17	17
うち受託事業費	36	551	587
うちその他寄附金等	407	33	440
減価償却費	491	112	603
財務費用	0	1	1
臨時損失	12	35	47
			9,786
<b>収益の部</b>	6,602	3,184	6,535
運営費交付金収益	4,144	2,391	1,576
展示事業等の収入	1,509	67	587
受託収入	36	551	440
その他寄附金等	407	33	603
資産見返負債戻入	491	112	0
財務収益	0	0	45
臨時利益	15	30	△2
<b>純利益</b>	3	△5	0
<b>目的積立金取崩</b>	0	0	△2
<b>総利益</b>	3	△5	△2

## 平成29年度 資金計画

(単位：百万円)

区 分	国立博物館等	文化財研究所等	合 計
<b>資金支出</b>	8,178	4,530	12,708
業務活動による支出	5,769	2,850	8,619
投資活動による支出	2,409	1,679	4,088
財務活動による支出	0	1	1
<b>資金収入</b>	8,178	4,530	12,708
業務活動による収入	7,745	3,183	10,928
運営費交付金による収入	5,793	2,532	8,325
展示事業等による収入	1509	67	1,576
受託収入	36	551	587
その他寄附金等	407	33	440
投資活動による収入	433	1,347	1,780
施設整備費補助金による収入	433	1,347	1,780
財務活動による収入	0	0	0
受取利息等による収入	0	0	0

## 施設整備に関する計画

(単位：百万円)

施 設 設 備 の 内 容	予 定 額	財 源
・ 東京国立博物館	343	施設整備費補助金
仮収蔵庫等整備及び本館リニューアル工事 (平成28年度～32年度)	343	
・ 京都国立博物館	90	施設整備費補助金
本館収蔵庫等改修及び本館免震改修等工事 (平成28年度～32年度)	90	
・ 奈良文化財研究所	1,347	施設整備費補助金
本庁舎建替工事 (平成28年度～29年度)	1,347	

## 2. プロジェクト報告

### 凡 例

- (1) プロジェクトは、年度計画との対応（17頁～31頁）に従って、以下の①～⑥の分類項目ごとに各部・センターごとに配列し、プロジェクトの略番と頁を記した。  
略番で用いられている担当部門の略号は、シ：文化財情報資料部、ム：無形文化遺産部、ホ：保存科学研究センター、コ：文化遺産国際協力センター、広：広報委員会 である。
- (2) 各プロジェクト報告の掲載頁では、表題の右側に上記略番を記すとともに、頁左上にプロジェクトの担当部門を示した。  
なお、ウェブ公開版では、担当部門をシンボルカラー（文化財情報資料部：青、無形文化遺産部：黄、保存科学研究センター：緑、文化遺産国際協力センター：紫）で色分けしている。
- (3) 年度計画との対応一覧への逆引きのため、右上に年度計画の記号を記した。
- (4) また、各プロジェクト報告の掲載頁では、プロジェクトの目的、成果とその公表（論文、報告、発表、刊行物）及び研究組織の各項目を立てて内容をまとめた。なお、研究組織で〇がついている職員はプロジェクトリーダーである。

### ① 有形・無形の文化財に関する調査研究事業

略番	プロジェクト名	（年度計画の記号）	頁
シ 01	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	2-(1)-①-1)-ア	35
シ 02	日本東洋美術史の資料学的研究	2-(1)-①-1)-イ	36
シ 03	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	2-(1)-①-1)-ウ	37
シ 04	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	2-(1)-①-1)-エ	38
ム 01	無形文化財の保存・継承に関する調査研究	2-(1)-②-1)	39
ム 02	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	2-(1)-②-2)	40

### ② 保存修復に関する調査研究事業

略番	プロジェクト名	（年度計画の記号）	頁
ホ 01	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	2-(2)-②-1)	41
ホ 02	保存と活用のための展示環境の研究	2-(2)-②-2)	42
ホ 03	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	2-(2)-②-3)	43
ホ 04	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	2-(2)-②-4)	44
ホ 05	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	2-(2)-②-5)	45
ホ 06	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	2-(2)-②-9)	46
ホ ー	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	2-(2)-②-10)	47

### ③ 国際協力・交流等に関する事業

略番	プロジェクト名	（年度計画の記号）	頁
ム 05	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	2-(1)-②-3)	48
コ 02	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	2-(3)-①-2)-アー(ア)(イ)	49
コ 03	保存修復技術の国際的応用に関する研究	2-(3)-①-2)-アー(ウ)	50
コ 04	在外日本古美術品保存修復協力事業	2-(3)-①-3)-ア	51
コ 05	国際研修	2-(3)-①-3)-ア、イ	52

## ④ 情報収集・成果公開に関する事業

略番	プロジェクト名	(年度計画の記号)	頁
シ 05	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	2-(2)-①-1)、2-(4)-②-3)	53
シ 06	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	2-(4)-①-1) 2) 3)	55
シ 08	平成29年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）	2-(4)-②-2)	56
ム 03	無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	2-(1)-②-1)	57
コ 01	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	2-(3)-①-1)-ア	58
――	プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等		59

## ⑤ 刊行物に関する事業

略番	プロジェクト名	(年度計画の記号)	頁
シ 07	平成28年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』	2-(4)-②-1)	64
ム 04	無形文化遺産部出版関係事業	2-(4)-②-1)	64
ホ 07	『保存科学』第57号の出版	2-(4)-②-1)	64
広 一	『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKENNEWS』		65
――	プロジェクトの一環として刊行された刊行物		65

## ⑥ 指導助言・研修等に関する事業

略番	プロジェクト名	(年度計画の記号)	頁
ホ 08	博物館・美術館等保存担当学芸員研修	2-(5)-①-1)	68
シ 09	文化財の評価・活用に関する助言	2-(5)-②-1)	69
ム 一	無形文化遺産に関する助言	2-(5)-②-1)	70
ホ 一	文化財の虫菌害に関する調査・助言	2-(5)-②-1)	70
ホ 一	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	2-(5)-②-1)	71
ホ 一	文化財の材質・構造に関する調査・助言	2-(5)-②-1)	72
ホ 一	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	2-(5)-②-1)	72
ホ 一	東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進	2-(5)-④-1)	73

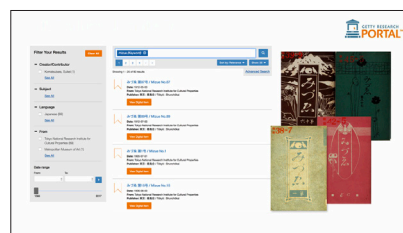


## 文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究(シ01)

**目 的** 国内外の諸機関との連携を見据え、当研究所の文化財に関する調査研究の成果・データをより国際的標準に見合うかたちに整え、効果的に共有してゆくための研究を行う。併せて地方公共団体と文化財に関する情報の提供と共有を行うことを視野に入れる。

**成 果** 1. 調査研究の成果の公開と、研究情報の国際発信

- ・平成28年度に引き続き、当研究所刊行の論文等を Japanese Institutional Repositories Online (JAIRO) を通じて公開する作業を進め、『美術研究』(879件)、『芸能の科学』(163件)、『無形文化遺産研究報告』(78件)、『保存科学』(745件)、『音盤目録』(7件)、『日本美術年鑑』(72件) を今年度新たに追加した結果、合計6タイトル3,454件の論文・刊行物のフルテキストを掲載・公開した。
- ・Getty研究所のGetty・リサーチポータルに当研究所所蔵の貴重書で、デジタルコンテンツ化した『みづゑ』1～90号(春鳥会、1901～1912年)及び『第1回特別展覧会目録、第2回特別展覧会目録〔合本〕』(東京帝室博物館、1901年)が掲載され、今後も提供データを増やしていくための調整と作業を進めた。
- ・1930(昭和5)年から2013(平成25)年までの展覧会カタログ掲載記事・論文のデータ約5万件を「東京文化財研究所美術文献目録」として、世界最大の共同書誌目録データベースであるOCLCのセントラル・インデックスに公開した。



Getty・リサーチポータルでのデジタルコンテンツ公開

2. 国内外の関連機関との協働研究・協議

- ・京都府所蔵資料の情報共有について協議し、昭和初期の資料のデジタル化を行った。
- ・国際図書館連盟(IFLA) ヴロツワフ(ポーランド)世界大会に参加し、研究協議を行った(2017(平成29)年8月19～25日)。
- ・日本資料専門家欧州協会(EAJRS) オスロ大会に参加し、ブース発表及び研究協議を行った。(2017(平成29)年9月12～18日)。
- ・Getty研究所との研究交流及び国際協働事業を推進し、2017(平成29)年12月6日に「キャスリーン・サロモン氏(Getty研究所副所長)講演会—日本美術資料の国際情報発信に向けて」を開催し、今後の協働事業について協議した。
- ・イギリス・セインズベリー日本藝術研究所と日本美術及び同研究に関する英語文献・記事情報の採録に関する運用面での協議を行い、講演を行った(2018(平成30)年2月13～17日)。

**報 告**・江村知子「研究会「キャスリーン・サロモン氏(Getty研究所副所長)講演会—日本美術資料の国際情報発信に向けて」開催報告」『アート・ドキュメンテーション通信』116 pp.9-11 18.1

**発 表**・塩谷純「崇敬と好奇、そして禁忌のまなざし—明治天皇の視覚表現をめぐって」イギリス・セインズベリー日本藝術研究所 18.2.15

セインズベリー日本藝術研究所での講演会



**研究組織** ○江村知子、橘川英規、安永拓世、津田徹英、二神葉子、小林公治、塩谷純、小林達朗、小野真由美、城野誠治(以上、文化財情報資料部)、久保田裕道(無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務)、吉田直人(保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務)、加藤雅人(文化遺産国際協力センター、文化財情報資料部兼務)、永崎研宣(客員研究員)

## 日本東洋美術史の資料学的研究(シ02)

**目 的** 近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査研究を行い、研究の基盤となる資料の整備を行う。併せて、これにかかる国内外の研究交流を推進する。

- 成 果**
1. 美術史研究のためのコンテンツ（日本美術史年記資料集成）を作成するため1999（平成11）年以降の展覧会図録から年記のある作品の資料を順次収集し、データベースソフトウェア FileMaker Pro を使用して入力を行った。
  2. 下記「発表」のとおり本プロジェクトにかかる研究会を行った。
  3. 個人蔵「四条河原遊楽図屏風」のほか、各地に所蔵される「遊行上人絵伝」について複数回の調査を行った。
  4. 仏教美術等の光学的手法による共同研究を東京国立博物館と開始し、博物館所蔵の平安仏画につき、可視光のみならず、近赤外線、蛍光、蛍光X線、透過X線などによる多角的光学調査に着手した。



「日本絵画史年記資料集成」  
データベース画面

**論 文**・姚崇新（濱田瑞美訳）「コートン・ドモコ仏寺跡出土千手千眼観音壁画の初歩的考察—敦煌との比較を兼ねて—」『美術研究』422 pp.1-28 17.8

・津田徹英「詞書の筆跡からみた金蓮寺本『遊行上人縁起絵』の位相」『美術研究』423 pp.1-43 17.1

・山下善也「狩野山雪と「和」の画題—「武家相撲絵巻」をめぐる—」『美術研究』423 pp.67-94 17.1

**発 表**・安永拓世「呉春筆「白梅図屏風」の史的位置」文化財情報資料部研究会 17.5.30

・綿田稔「橋本雄「雪舟入明再考」に寄せて」文化財情報資料部研究会 17.8.7

・津田徹英「資料紹介 滋賀・浄厳院蔵 木造 釈迦如来立像」文化財情報資料部研究会 17.10.24

・佐藤有希子「京都・青蓮院伝来の二体の毘沙門天立像に関する一考察」文化財情報資料部研究会 17.10.24

・増田政史「中宮寺文殊菩薩立像に関する一考察」文化財情報資料部研究会 18.2.27

**刊行物**・東京文化財研究所編『鏡神社所蔵 重要文化財 絹本着色 楊柳観音像 光学調査報告書』18.3

**研究組織** ○小林達朗、津田徹英、二神葉子、小林公治、塩谷純、江村知子、安永拓世、小野真由美（以上、文化財情報資料部）、近松鴻二（客員研究員）



## 近・現代美術に関する調査研究と資料集成(シ03)

**目 的** 近・現代美術を対象として日本における展開を軸としつつ、その方向づけに大きく関わった欧米の動向も視野に入れて分析・考察する。併せて、作家や関係者、及び美術館等の諸機関が所蔵する資料の調査を行い、得られた情報を近・現代美術研究の基礎資料として整備する。

- 成 果**
1. 当研究所が所蔵する黒田清輝宛書簡について、黒田の養母貞子からの書簡の翻刻を『美術研究』422号に、洋画家山本芳翠からの書簡の翻刻を同誌423号に掲載した。
  2. 2010(平成22)年刊行の『黒田清輝フランス語資料集』に収録された諸資料のウェブ公開に向け、校正等の準備を始めた。
  3. 2015(平成27)年に遺族より寄贈された彫刻家畑正吉のフランス留学期写真資料を、ウェブ上で公開した。
  4. カリフォルニア大学ロサンゼルス校東アジア図書館に開設した美術評論家のヨシダ・ヨシエ文庫の調査を行い(2018(平成30)年2月19、20日)、同文庫開設に携わった各部署担当者とアーカイブ連携等についての研究協議会を開催した(2018(平成30)年2月20日)。



ヨシダ・ヨシエ文庫に関する研究協議会の様子

5. 公開研究会「美術雑誌の情報共有に向けて」を開催(2018(平成30)年3月16日)、明治～昭和戦前期の美術雑誌を対象に、美術史研究資料としての意義を検証し、その情報の整理、公開、共有のあり方について協議を行った。
6. 久米美術館との共同研究を遂行、今年度は同館が所蔵する久米桂一郎宛黒田清輝書簡の翻刻作業を行った。
7. 齋藤達也氏(客員研究員、パリ・ソルボンヌ大学在籍)の発表による部内研究会を開催、フランスにおける近代美術関連資料の活用例をめぐって意見交換を行った。
8. 岸田劉生に関する部内研究会を開催(2017(平成29)年12月26日)、そのヨーロッパ古典絵画受容の面から大正初年における写実表現の形成過程の内実を考察した。

**論 文**・田中淳「岸田劉生研究―「駒沢村新町」療養期を中心に」『美術研究』422 17.8

・山梨絵美子「黒田清輝 婦人像(厨房)」『國華』1467 18.1

**発 表**・齋藤達也「フランスにおける近代美術資料 美術館・図書館・アーカイブ・インターネットリソースの紹介と活用例」文化財情報資料部研究会 17.9.5

・田中淳「岸田劉生における1913年から16年の「クラシツク」受容について」文化財情報資料部研究会 17.12.26

・塩谷純「東京文化財研究所の美術雑誌 その収集と公開の歩み」研究会「美術雑誌の情報共有に向けて」 18.3.16

**研究組織** ○塩谷純、橘川英規、城野誠治、田所泰(以上、文化財情報資料部)、山梨絵美子(副所長)、三上豊、丸川雄三、田中淳、齋藤達也(以上、客員研究員)

## 美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開(シ04)

**目 的** 絵画や彫刻、工芸といった美術作品は、その表現のあり方、制作に用いられた技術、そして利用された素材などが複合し一体となって成立したものである。本プロジェクトでは、こうしたそれぞれの構成要素がどのような実態を持ち、またどのように関わりあっているのか、関連する諸分野を広く渉猟しつつ多視点的に分析し、その関係の解明を目指すものである。こうした研究の実施により、美術「作品」に対するより深い理解の醸成が期待される。

- 成 果**
1. 漆器類などに関わる調査研究
    - ・ 覚書を結んでいる南蛮文化館所蔵品中の修理対象品を2017(平成29)年4月19日に奈良国立博物館に搬入の上、関係者と研究協議を行った。
    - ・ 2017(平成29)5月3日、根津美術館にて同館所蔵の螺鈿漆器類3点の調査を実施した。
    - ・ 2017(平成29)年9月19、20日、甲賀市藤栄神社所蔵十字形洋剣について、アメリカ、メトロポリタン美術館武器武具部門長のピエール・テルジャニアン博士による実見調査を行った。
    - ・ 2017(平成29)年9月21日に京都市内の鍔金具工房での聞き取り調査、茨木市内の隠れキリシタン村において伝世漆器の調査を実施した。
    - ・ 2018(平成30)年1月12、13日、大和文華館・大阪城天守閣及び南蛮文化館にて各館が所蔵する南蛮漆器ほかの調査を実施した。
    - ・ 2018(平成30)年3月1日、上記修復中の南蛮漆器及び南蛮文化館所蔵南蛮漆器について、奈良国立博物館にてCTスキャン調査を実施し、非破壊法による樹種同定・また年輪年代法への応用可能性について検討・研究協議を行った。また翌2日に南蛮文化館にて南蛮漆器調査を実施した。
    - ・ 旧所員故柳澤孝氏寄贈写真類の整理作業及びそのデータベース化作業を行い今年度末までに約3,200件を終了した。
  2. 研究成果公開
    - ・ 2017(平成29)年9月2日に韓国国立中央博物館で開催された第9回国際学術講演会「日本が愛した朝鮮美術」において、「アジアとの関係から考える朝鮮半島螺鈿史の検討課題」と題した発表を行った。
    - ・ 2017(平成29)年9月22日開催の第7回文化財情報資料部研究会において、ピエール・テルジャニアン博士により「メトロポリタン美術館が所蔵するヨーロッパの武器武具と甲賀市水口に伝わるレイピアの検討」と題した発表を、2017(平成29)年11月21日開催の第9回文化財情報資料部研究会において、高田知仁氏による「タイにおける螺鈿工芸の変遷とその意味」という発表を行った。

**報 告**・小林公治「アジアとの関係から考える朝鮮半島螺鈿史の検討課題」『第9回国際学術講演会 日本が愛した朝鮮美術資料集』 pp.31-64 17.9

**発 表**・小林公治「アジアとの関係から考える朝鮮半島螺鈿史の検討課題」Lee&Won財団主催 第9回国際学術講演会「日本が愛した朝鮮美術」17.9.2

・ピエール・テルジャニアン「メトロポリタン美術館が所蔵するヨーロッパの武器武具と甲賀市水口に伝わるレイピアの検討」第7回文化財情報資料部研究会 17.9.22

・高田知仁「タイにおける螺鈿工芸の変遷とその意味」第9回文化財情報資料部研究会 17.11.21

**刊行物**・『南蛮漆器の多源性を探る予稿集 増補版』pdfファイルの発刊とインターネット公開 17.6

**研究組織** ○小林公治、津田徹英、小林達朗、二神葉子、塩谷純、江村知子、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、田所泰、(以上、文化財情報資料部)、早川泰弘(保存科学研究センター)、中野照男(客員研究員)

## 無形文化財の保存・継承に関する調査研究(Δ01)

**目 的** 我が国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承形態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成を行う。

**成 果** 1. 無形文化財に関する調査研究

ア) 芸能分野：古典芸能（歌舞伎・文楽・三味線音楽ほか）に関する調査研究・日本伝統楽器製作を中心とした文化財保存技術の調査研究

イ) 工芸分野：古典膠製造に関する試用依頼と結果報告、及び絹糸製作技術調査（関春日神社、宝生能楽堂）



楽器製作・修理技術の調査（浅田三味線店 井坂重男氏）

2. 現状記録を要する無形文化遺産の記録作成

ア) 諸芸：講談及び落語（正本芝居噺）の実演記録を作成（一龍斎貞水師8席・神田松鯉師6席・林家正雀師2席）

イ) 平家：伝承曲及び復元曲の実演記録を作成（菊中央雄司氏ほかによる伝承曲1曲、復元曲3曲）

3. 研究調査に基づく成果の公表

ア) 特別座談会「能+1 絹と織—絹織物」（宝生能楽堂、4月9日）

イ) 総合研究会「無形文化財保存技術に関する報告—三味線を中心に—」（東京文化財研究所、10月3日）



特別座談会「能+1 絹と織—絹織物」での展示

**論 文**・菊池理予「友禅染と青花紙の関わりに関する一試論」『無形文化遺産研究報告』12 pp.23-39 17.3

・前原恵美「江戸祭礼と歌舞伎をめぐる三味線音楽演奏者の動向—常磐津節を中心に」『江戸総鎮守 神田明神論集』1 pp.73-100 17.5

**報 告**・前原恵美、橋本かおる「楽器を中心とした文化財保存技術調査報告1」『無形文化遺産研究報告』12 pp.41-65 17.3

**発 表**・前原恵美「江島弁財天信仰と常磐津節演奏家—浮世絵〈相州江之嶋弁才天開帳参詣群集之図〉を起点に一」東洋音楽学会 17.12.2

**研究組織** ○飯島満、前原恵美、菊池理予、佐野真規（以上、無形文化遺産部）、早川典子（保存科学研究センター）、星野厚子（客員研究員）

## 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究(Δ02)

**目 的** 風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、その実態を把握するために資料収集と現地調査を行う。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、これまで東京文化財研究所で収集・保管している無形民俗文化財についての記録・資料の整理を行う。また選定保存技術については、国により選定された技術及び未選定の技術について情報を収集し、そのなかで重要なものについては現地調査・記録作成を行う。

**成 果** 1. 風俗慣習の調査として樹木祭祀や正月儀礼等について、民俗芸能の調査としてシシ系芸能や風流系芸能等について、民俗技術の調査として鵜飼船の製作技術や箕の製作技術、製糖技術等について、伝承や保護の実態についての現地調査や資料収集を行い、現状把握とともに現地関係者とのネットワークを構築した。



厚沢部町(北海道)の鹿子舞

2. 災害被災地における民俗芸能、風俗慣習の調査として、福島県浪江町の苅宿鹿舞、宮城県女川町の獅子舞、福岡県朝倉市蜷城の獅子舞に関して調査を行い、資料収集・記録保存を行った。苅宿に関しては民俗誌を発行した。また無形文化遺産総合データベース・アーカイブスの構築とデータ収集を行った。
3. 第12回無形民俗文化財研究協議会を「無形文化遺産への道—ユネスコ無形文化遺産条約と地域の遺産」をテーマに東京文化財研究所において開催し、129名の参加を得た。3件の基礎講座、2件の事例報告をもとにコメンテーター1名を含めた総合討議を行った。成果は『第12回無形民俗文化財研究協議会報告書』にまとめた。また国指定の箕製作技術の団体等を招いて「箕サミット」を開催して86名の参加を得、技術伝承に向けた現状と課題の共有・討議を行った。成果は『箕 箕サミット2017の記録』にまとめた。
4. 選定保存技術については、未選定の文化財の保存技術の調査として、友禅の下絵に用いる染料である青花紙の製作について滋賀県草津市と共同研究を実施し、現地調査と記録作成を行った。また青花紙の使用の現状を明らかにするため、友禅作家・職人等を対象に、アンケート調査と聞き取り調査を実施した。

**論 文**・久保田裕道「無形文化遺産の防災という考え方—東日本大震災の教訓と無形文化遺産アーカイブスの試みから」『震災後の地域文化と被災者の民俗誌』新泉社 pp.53-68 18.1

**報 告**・今石みぎわ「タモノキとニソの杜—大島半島のタブノキの民俗」『大島半島のニソの杜の習俗調査報告書—資料編—』福井県大飯郡おおい町教育委員会 pp.55-71 18.3

・神野知恵「小豆島の民俗と伊勢大神楽」『無形文化遺産研究報告』12 pp.67-100 18.3

**発 表**・今石みぎわ「鵜飼のわざを後世へ伝える—民俗技術としての長良川鵜飼」第10回市民講座 長良川鵜飼ミュージアム 18.2.17

**刊行物**・『かりやど民俗誌』東京文化財研究所 18.3

**研究組織** ○飯島満、久保田裕道、石村智、菊池理予、今石みぎわ(以上、無形文化遺産部)、江村知子(文化財情報資料部)、早川典子(保存科学研究センター)、菊池健策、宮田繁幸、神野知恵(以上、客員研究員)



## 文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究(ホ01)

**目 的** 文化財の生物劣化現象は、自然災害あるいは日常の管理において生物の発育を促進する因子が存在すると起こるが、その因子の動態は文化財を取り巻く保存環境と複雑かつ密接に関連している。本研究では、この機序を理解するため保存環境と生物劣化現象について記述を重視した事例調査研究を行うとともに、適切で効果的な対処方法について検討することを目的としている。

**成 果**

1. 歴史的建造物における環境低負荷型の殺虫処置方法である加湿温風殺虫処理について、他研究機関と協働で開発研究を進め、11月に国内で初めてとなる現地処理を日光山内の社寺において実施した。その際に、処理対象となる木材害虫について殺虫効果の評価試験を実施した。
2. 茨城県にある装飾古墳の扉石表面に発生した微生物被害について、非培養法による遺伝子解析によって微生物群集構造を明らかにするとともに、有効な微生物制御方法について検討した結果をまとめて学術雑誌を通して発表した。
3. 古墳壁画の微生物被害痕跡のクリーニングに用いる酵素の選抜・基礎性状分析(夾雑活性など)について研究を進め、文化財用途で使用可能な酵素「Enzyme Mixture CTB1」の実用化に必要な基礎試験を完了した。これらの研究成果をまとめ、学術雑誌を通して発表した。
4. 油彩画表面に発育したカビの分離同定及び顔料上での発育特性について調査研究を実施し、顔料ごとに生育が異なる現象を見出した。これらの研究成果をまとめ学会発表及び学術雑誌を通じて報告した。
5. 浮遊菌を簡易・迅速に測定できる新たな機器を用いて、実際にカビの被害がある博物館収蔵庫を調査地として基礎的なデータの収集を行った。平成30年度もデータ収集を継続し、最終的には博物館等収蔵庫での浮遊菌の管理基準値の提案を目指す。
6. 文化財の生物劣化に関する対策方法について、これまでに得られた研究成果や新しい機器の導入や考え方を整理して、ポスター制作、研修、講義、講演会などを通して教育・普及活動を行った。ポスターは、近年特に被害事例が多い文書館での生物被害対策に焦点をあてて制作し、普及活動を行った。



日光山内の社寺での加湿温風殺虫処理の様子

- 報 告**・佐藤嘉則「装飾古墳における生物劣化と対策―石室石材の表面状態の保存―」『文化財保存修復研究センター紀要』 pp.112-115 東北芸術工科大学 17.5
- ・佐藤嘉則ほか「虎塚古墳石室の扉石表面に形成したバイオフィルムの微生物群集構造解析とその制御」『保存科学』57 pp.67-76 18.3
  - ・相馬静乃、佐藤嘉則、米村祥央「油彩画に発生したカビの同定と各種顔料における抗カビ性」『保存科学』57 pp.133-144 18.3
- 発 表**・佐藤嘉則ほか「石人山古墳装飾石棺表面の微生物群集構造解析」文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1
- ・小峰幸夫、佐藤嘉則ほか「歴史的木造建造物における新たな害虫モニタリング手法の実用性の検討」文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1
  - ・間渕創、佐藤嘉則「博物館 IPM におけるバイオエアロゾル測定の活用に向けた基礎的な研究」文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1 ほか3件

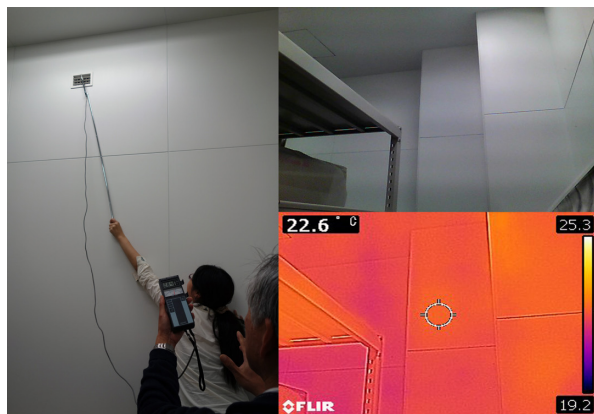
**研究組織** ○佐藤嘉則、小峰幸夫、犬塚将英、森井順之、早川典子、朽津信明、吉田直人、佐野千絵(以上、保存科学研究センター)、藤井義久、間渕創、三浦定俊(以上、客員研究員)

## 保存と活用のための展示環境の研究(ホ02)

**目 的** 開発と導入が進む白色LED、有機EL光源の文化財展示照明としての「保存と活用の両立」の観点から、保存に与える影響、及び展示照明としての評価方法を検討する基礎研究を実施し、照明に関する新たな基準作成に資する。また文化財に影響を与える展示ケース内汚染物質の軽減方法に関して検討を行い、文化財施設向けの空気清浄化マニュアルの完成を目指し普及を図る。

**成 果**

1. 平成28年度にアンケートとして実施した、全国の文化財保存施設における白色LED導入状況や効果等に関する調査結果の解析を進め、最終結果を照明学会の視覚・色・光環境分科会シンポジウムで発表し、また照明学会誌にて公表した。
2. 光源のLEDへの転換に伴う展示効果の相違を科学的に検証するための実験システムによって、照射・視野角の相違による彩色サンプルの反射スペクトルへの影響、またLEDの波長特性に依存した有機染料からの蛍光の影響について検討した。
3. 展示ケース内に有機EL照明を使用している博物館を視察し、展示効果やケース周辺の光環境について調査を行い、周囲の照明によるガラスへの光の映り込みが視認性に大きな影響を及ぼすことを確認した。
4. 収蔵庫の空気環境評価と、その清浄化について換気量や外気取り入れ量、内装材からのガス放散量から解析する手法について検討を行った。
5. これまで行ってきた、博物館や美術館の展示ケース等における空気環境清浄化に関する研究成果をもとに、学芸員向けの展示・収蔵空間における「美術館・博物館のための空気清浄化の手引き(暫定版)」を100部作成し、うち52部を資料保存を担当する学芸員に配布した。



収蔵庫の環境改善に向けた調査

**報 告**・吉田直人「美術館・博物館における照明の現状とこれから—アンケート調査を通して—」『照明学会誌』第101巻第12号 17.12 ほか2件

**発 表**・吉田直人、石井恭子「白色LED光が蛍光性文化財材料の色彩に与える影響について」日本文化財科学会第34回大会 東北芸術工科大学 17.6.10-11

・呂俊民、古田嶋智子、石井恭子、吉田直人、佐野千絵「収蔵庫の空気環境の評価と清浄化について」文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1

・Nozomu Yoshizawa, Yoko Mizokami, Chie Sano, Naoto Yoshida: Towards A new standard for museum lightings in Japan, Museum Lighting Symposium University College London 17.9.12 ほか3件

**研究組織** ○吉田直人、石井恭子、佐藤嘉則、小峰幸夫、佐野千絵（以上、保存科学研究センター）、呂俊民、山内泰樹、吉澤望、北原博幸、石崎武志、古田嶋智子（以上、客員研究員）

## 文化財の材質・構造・状態調査に関する研究(ホ03)

**目 的** 各種の可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造に関する調査方法を確立し、日本絵画における顔料の変遷についての研究を進めるとともに、金工品等における黄銅(真鍮)材料の利用実態を明らかにする。新たに導入した可搬型X線回折装置、小型FCR現像機をその場分析へ適用し、各種文化財の保存状態等に関する調査研究を進める。

**成 果** 1. 可搬型分析装置を用いたその場分析

- ・可搬型蛍光X線分析装置による材料調査として、絵画、工芸品、金銅仏などの調査を実施した。平安～鎌倉期の仏画を集中的に調査し、彩色材料の特徴を顕在化させるとともに、白色顔料の変遷、緑色顔料の多様性等について検討を重ねた。
- ・可搬型X線回折分析装置を用いて、煉瓦造建造物(INAXライブミュージアム)に析出している塩類のその場分析を実施した。また、周辺の温湿度及び照度、煉瓦の含水量の測定結果と比較することにより、煉瓦造建造物の劣化と保存環境に関する検討を行った。
- ・小型FCR現像機から得られる高解像度X線画像データを用いた定量的な計測に関する検討を行った。



可搬型蛍光X線分析装置による絵画の彩色材料調査

2. 検出器開発

- ・可搬型X線回折装置への適用を目標として、2次元イメージング検出器の開発を行った。ガス電子増幅フォイルと新しい信号読出しを行う基板を搭載した検出器の改良を行い、粉末試料からのX線回折像を検出する基礎実験を行った。

**論 文**・早川泰弘ほか「国宝信貴山縁起絵巻の蛍光X線分析」『保存科学』57 pp.91-100 18.3

**発 表**・犬塚将英ほか「INAXライブミュージアム「窯のある資料館」における保存環境と塩類析出に関する調査」日本文化財科学会第34回大会 17.6.9-11

・早川泰弘「国宝慈光寺経における真鍮泥の利用」日本文化財科学会第34回大会 17.6.9-11

**刊行物**・『春日権現験記絵 巻五・巻六 光学調査報告書』東京文化財研究所 18.3

**研究組織** ○犬塚将英、早川泰弘、佐藤嘉則、小峰幸夫、佐野千絵、吉田直人(以上、保存科学研究センター)、城野誠治(文化財情報資料部)



## 屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究(ホ04)

**目 的** 屋外に所在する石造・木質文化財を対象に、覆屋の機能・遺構の露出展示に関する課題として、周辺環境等の劣化要因の究明及び修復材料・技術に関する研究を行う。また、石塔など石造文化財の災害事例及び災害対策に関する基礎的調査を行う。また、現在一時保管場所での長期的な保管を余儀なくされている被災文化財に関して、その保存・修復方法に関する研究を進める。

**成 果** 屋外に位置する美術工芸品や文化財建造物等の劣化要因となる周辺環境の変化について、以下の通り調査研究を進めた。

1. 覆屋の劣化軽減機能に関する調査研究では、遺構保存覆屋根に使われる材料を対象に調査研究を進めた。吉胡貝塚(田原市)や須玖岡本遺跡・ウトグチ瓦窯(春日市)において照度・紫外線強度データロガーを設置し、積算照度と着生生物繁茂の関係について把握をすすめた。
2. 遺構の露出展示に関する調査研究では、地層大切断面(大島町)における侵蝕量調査を実施した。また、牧島アンモナイト館において化石産出地の露頭に着生する藻類について照度連続観測をスタートした他、富山市や神流町などの恐竜足跡化石露頭やいわき市アンモナイトセンターなど、化石産出地露頭の保存展示事例に関して調査を行った。また、断層の現地展示事例に関しても調査を継続した。



アンモナイト館における照度測定風景

3. 石塔の地震対策に関する調査研究では、高知藩主山内家墓所(高知市)の石灯籠の倒壊事例などの調査を行った。
4. 過去に修復された屋外文化財の保存状態評価では、平成27年度に保存修理を実施した鎌倉大仏において、損傷記録データの整理、大仏内での地震計測を開始した。

**論 文**・朽津信明、森井順之、酒井修二、運天弘樹「多視点ステレオ技術に基づく磨崖和霊石地蔵の劣化状況評価」『保存科学』57 pp.1-10 18.3

・朽津信明「保存科学から見た被災古墳の修復史」『保存科学』57 pp.77-90 18.3

**発 表**・朽津信明、森井順之「断層露頭の保存に関する保存科学的考察」文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1

・朽津信明、森井順之「地質露頭の科学的保存と公開に関する研究」日本応用地質学会平成29年度研究発表会 岡山理科大学 17.10.12,13

**研究組織** ○朽津信明、森井順之、柳沼由可子(以上、保存科学研究センター)

## 文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究(ホ05)

**目 的** 美術工芸品や建造物等の修復に貢献するため、伝統的な修復材料・技法についての科学的調査を行い、その安定性についての評価を行う。伝統的に使用されており、科学的な解明が必要とされる材料についての化学的調査を行い、修復現場での明確な適用を検討する。伝統的な技法についての記録やその効果についての科学的解明を行う。また旧来の材料・技法では施工が困難とされてきたものについて、新規の材料・技法の開発に関する調査研究を行う。

**成 果**

1. 文化財の修復材料に関する調査
  - ・古典的製法で作製された膠に関する研究  
昨年度までデンプン糊やフノリに関する調査研究と現場適用を行ってきたが、本年度は膠について研究を集中的に行った。古典的製法で作製された膠の現場適用にあたっての使用条件について包括的に提示が可能となった。
  - ・染織品に関する調査  
前年度までの藍染に関する調査を踏まえて、今年度は基底材の調査を行った。特に、画材にも用いられている事例をもとにセルロース系材料の識別を検討した。木綿、麻のみならず自然布系の葛布などとの判別方法に関して検討を行った。
2. 文化財の修復技法に関する研究
  - ・ジェルクリーニング方法に関する検討  
粘着テープや油污損の除去などに関連し、作品の表面上に長く液体をとどめておくためにジェルを用いた修復方法の検討を行った。本年度は特にジェルからの作品への残留物質の有無の確認に焦点を当てた。
  - ・汚れクリーニングのための酵素の適用条件の検討  
今年度は溶菌酵素の適用に関して、修復材料と色材への影響の確認を行った。また、ポリビニルアルコール分解酵素の現場適用について発表した。

- 論 文**・貴田啓子ほか「ジェランガムゲル処置による紙資料への影響」『保存科学』57 pp.123-132 18.3
- ・濱田翠ほか「法隆寺金堂壁画写真原板のフィルム支持体に関する赤外分光分析」『保存科学』57 pp.101-110 18.3
- ・倉島玲央ほか「現代技法で製作されたマンマー漆器の分析調査」『保存科学』57 pp.111-122 18.3
- 発 表**・Noriko Hayakawa et.al : Application of the enzymes for removing polyvinyl alcohol (PVA) from the artworks. ICOM-CC 18th triennial conference 2017 17.9.4-8
- ・内田優花ほか「紙に付着した粘着テープの劣化—アクリル樹脂系粘着テープ除去方法の検討—」文化財保存修復学会第39回大会 17.7.2
- ・宇高健太郎ほか「膠の性状と装潢における適性の関連」文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.2
- ・Keiko Kida : Effect of copper ions derived from Malachite pigment on deterioration of Japanese paper substrate. The 6<sup>th</sup> International Symposium of the Society for Conservation of Cultural Heritage in East Asia, 2017 17.8.24-26 ほか4件

**研究組織** ○早川典子、佐藤嘉則、森井順之、倉島玲央、内田優花、濱田翠（以上、保存科学研究センター）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター）、菊池理予（無形文化遺産部）、本多貴之、酒井清文、貴田啓子（以上、客員研究員）

## 近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究(ホ06)

**目 的** 近代の文化遺産は、絵画、彫刻、木造建造物等従来の文化財とは、規模、材質、製造方法等に大きな違いがあるため、その保存修復方法や材料にも大きな違いがある。本研究では、近代の文化遺産の保存修復を行う上で必要とされる材料と技術について調査研究を行う。具体的には、大型建造物の劣化機構の解明とその修復方法の究明、航空機、船舶、鉄道車両等の保存修復上の問題点とその解決方法の究明を目指している。

**成 果** 1. 鉄建造物の保存と修復に関する研究：鉄建造物の保存と修復に関する現状の課題を踏まえ、国内外に所在する約40件の歴史的な鉄建造物（名古屋市東山植物園温室、英国フォースブリッジ、台湾蒜頭製糖工場等）の現地調査を行い、実態把握と事例収集等を行った。平成30年度に報告書刊行予定。  
2. 近代文化遺産の活用に関する研究：近現代建造物の保存と活用の在り方に関する協力者会議委員、全国近代化遺産活用連絡協議会協力者会議委員等として、近代文化遺産の活用に関する包括的な検討を行った。特に、供用下にある近代文化遺産の円滑な活用や、地域活性化を念頭にいた活用構想の段階的な実現手段としての保存活用計画の可能性等について検討を行った。  
3. 国際基督教大学所蔵ジェットエンジン部品の調査：国際基督教大学が所蔵する第二次世界大戦期に製造されたジェットエンジンの価値等に関する調査を行った。  
4. 報告書の刊行：平成28年度に実施した煉瓦造建造物の保存と修復に関する研究内容を報告書にとりまとめた。また、同年に刊行した和文報告書「近代文化遺産の保存理念と修復理念」の英語版を刊行した。

**報 告**・石田真弥「東京形煉瓦を製造した工場の生産能力に関する考察」『日本建築学会大会学術講演梗概集』 pp.333-334 17.7

・石田真弥「東京形煉瓦の品質に関する一考察」『2017年度日本建築学会関東支部研究報告集』日本建築学会 pp.643-646 18.3

・北河大次郎「防災遺産の系譜と立山砂防」 富山県世界遺産登録推進事業実行委員会 17.10

**発 表**・北河大次郎「これからの近代化遺産を考える」 足利の近代化遺産を考える会 17.10

・北河大次郎「インフラ・土木遺産の観光資源としての魅力と可能性」 土木学会西部支部 17.11

・北河大次郎「20世紀遺産20選と富山の遺産」 立山黒部を愛する会特別講演会 18.2

**刊行物**・『煉瓦造建造物の保存と修復』東京文化財研究所 17.8

・『Principles for Conservation and Restoration of Modern Cultural Heritage Properties』東京文化財研究所 18.3

**研究組織** ○北河大次郎、石田真弥、山府木碧（以上、保存科学研究センター）、中山俊介（文化遺産国際協力センター）、小堀信幸、横山晋太郎、長島宏行、堤一郎（以上、客員研究員）

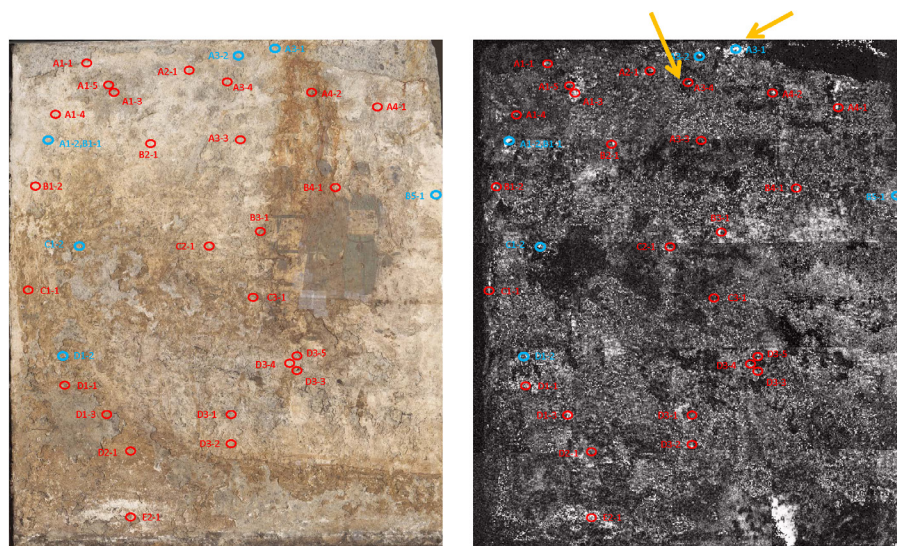
## 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力(ホ)

**目 的** キトラ古墳壁画の彩色及び漆喰の状態調査並びに展示環境の制御とモニタリング方法の調査研究を行う。また、文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。

**成 果** 高松塚古墳壁画に関しては、平成29年度も修理施設内での害虫等生息調査、浮遊菌・付着菌量調査、温湿度推移のモニタリングを継続し、安全な保存空間の維持に努めた。また、空調制御プロセスの解析を、構築した計測システムによって行った。

修復作業に関連する調査研究としては、壁画表面のクリーニングを行うために粗鬆化した漆喰部分への強化方法の検討を行った。また、解体後10年目であることを念頭に、今後の保存方針についての協議を重ねた。

キトラ古墳壁画に関しては、「四神の館」における保管および公開の環境について調査協力し、年間4回の集中メンテナンスに立会い、状況の改善を検討した。さらに、今までの修理記録についてデータベースの作成を行った。また、泥に覆われた箇所該当すると推定される顔料の可視化について検討を行った。



テラヘルツ画像を利用した漆喰の空隙状況調査  
(矢印部分に関して修理技術者による調査結果との比較検討を行った)

**論 文**・佐藤嘉則ほか「高松塚・キトラ古墳壁画上の微生物汚れの除去ー酵素の選抜とその諸性質ー」『保存科学』57 pp.11-22 18.3

・喜友名朝彦、佐藤嘉則、木川りか、佐野千絵ほか「高松塚・キトラ両古墳の*Penicillium*属分離株の分子系統学的帰属および*Penicillium* sp. 2の分類学的記載と生物劣化問題へのかかわり」『保存科学』57 pp.49-66 18.3

・西島美由紀、佐藤嘉則、木川りか、佐野千絵ほか「分子生物学的手法による高松塚・キトラ両古墳の微生物群集構造解析」『保存科学』57 pp.23-48 18.3

・早川典子「キトラ古墳壁画の保存修復報告」『月刊文化財』No.649 pp.7-10 17.10

**発 表**・早川典子ほか「キトラ古墳壁画の修復」文化財保存修復学会第39会大会 金沢歌劇座 17.7.2

**研究組織** ○佐野千絵、早川泰弘、吉田直人、朽津信明、森井順之、佐藤嘉則、犬塚将英、早川典子、倉島玲央、小峰幸夫、嶋原由美、藤井佑果、前川佳文(以上、文化遺産国際協力センター)、川野邊渉(特任研究員)、大場詩野子(客員研究員)、木川りか(九州国立博物館)



## 無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集(Δ05)

**目 的** 無形文化遺産保護に関わる国際的動向の情報収集を図り、アジアを中心とする海外の研究機関等との研究交流を実施し、国内外の無形文化遺産保護に貢献する。

**成 果** 1. 韓国との交流事業では、韓国文化財庁国立無形遺産院との研究交流の一環として、2017(平成29)年10月24日～11月10日の間、国立無形遺産院の林采石研究員を受け入れ、日本所在の韓国無形文化遺産関連資料に関する共同調査を実施した。調査は主に東京文化財研究所・東京藝術大学・国会図書館の所蔵資料を対象とし、特に植民地時代の朝鮮半島出身の美術工芸作家に関連した文献・カタログ等の調査を実施した。その成果は11月10日の成果発表会(於：本研究所)において発表された。



ユネスコ無形文化遺産保護条約第12回政府間委員会の様子

2. 無形文化遺産分野の国際的情報収集では、ユネスコ無形文化遺産条約第12回政府間委員会(開催国韓国：2017(平成29)年12月4日～9日)に3名のスタッフ(石村・前原・二神)を派遣し、ユネスコ無形文化遺産条約に関する情報収集を行った。特に日本国政府代表団の発言に際し、「無形文化遺産と防災」に関連した助言を行い、本研究所の研究成果の発信につながった。なお本調査の成果は『無形文化遺産研究報告』第12号において「無形文化遺産の保護に関する第12回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」として報告した。
3. アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)が実施する事業「アジア太平洋地域における無形文化遺産の防災」に協力し、同センター連携研究員の石村が2017(平成29)年9月23日～10月3日にかけてフィジー、2018(平成30)年1月24日～2月1日にかけてフィリピンにおける現地調査にそれぞれ参加した。

**論 文**・Tomo Ishimura, Would inscription on UNESCO's List of Intangible Cultural Heritage contribute to the sustainability of intangible cultural heritage?: Cases of "Mibu no Hana Tawe" and "Ojiya-chijimi, Echigo-jofu". *Proceedings of the International Symposium on Global Perspectives on Intangible Cultural Heritage: Local Communities, Researchers, States and UNESCO*, pp. 80-86. Center for Global Studies (CGC), Seijo University and International Research Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (IRCI). 17.11

・Tomo Ishimura, Status of UNESCO Conventions related to cultural heritage protection in Oceania. *People and Culture in Oceania* 33: 73-86. 18.3

・二神葉子「無形文化遺産の保護に関する第12回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」『無形文化遺産研究報告』12 pp.1-21 18.3

**発 表**・Tomo Ishimura, Intangible cultural heritage and the protection system related to religion in Japan. *Symposium on Cultural Heritage and Religion in East Asia*. Academia Sinica, Taipei. 18.1.8-9

**研究組織** ○飯島満、久保田裕道、石村智、前原恵美、菊池理予、今石みぎわ(以上、無形文化遺産部)、二神葉子(文化財情報資料部)、松山直子、神野知恵(以上、客員研究員)

## アジア諸国等文化遺産保存修復協力 (コ02)

**目 的** 東南アジア、西アジアやその周辺地域における文化遺産保存修復事業等への協力及びこれに関する調査研究の実施を通じて、文化遺産の保存・修復及び管理・活用に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

- 成 果**
1. 南アジア古代都市・建築研究会「東南アジアの古代都市を考える」「アンコールおよびバガン王宮の建築を探る」の開催（2018（平成30）年1月19・20日）。カンボジア・オーストラリアより考古学専門家各1名を招聘（2018（平成30）年1月17日～23日）
  2. カンボジア・アンコール・タネイ寺院保存整備計画策定支援等  
ア) 考古発掘（東参道及びテラス遺構を発見）、建造物リスクマッピング等の作業を実施（2017（平成29）年7月15日～31日、11月27日～12月11日、2018（平成30）年3月7日～23日派遣）  
イ) アンコール遺跡保存国際調整委員会技術会合及び総会での報告（2017（平成29）年6月19日～24日、12月12日～16日派遣）
  3. イラン文化遺産手工芸観光庁及び文化遺産観光研究所との協力事業  
ア) エスファハーンにおける「歴史的木造建造物及び木製文化財の保存に関する現地ワークショップ」の開催（2017（平成29）年4月15日～21日派遣）  
イ) 「博物館の環境管理に関するイラン人専門家研修」の実施。同研究所及び同国国立博物館より各1名を招聘（2017（平成29）年10月29日～11月5日）
  4. アルメニアにおける「染織文化遺産に関する保存修復研修」の実施（2017（平成29）年9月11日～20日派遣）
  5. ブータンにおける「ブータンの伝統的民家保存に関するワークショップ」の開催及び関連調査の実施（2018（平成30）年3月8日～15日派遣）
  6. インド・デリーで開催された第19回イコモス総会・学術シンポジウムに参加し、わが国のヘリテージマネージャ制度に関して発表（2017（平成29）年12月8日～17日派遣）
  7. ネパールの地震被災文化遺産保護に関する技術支援（外部資金事業との連携）  
カトマンズ・ハヌマンドカ王宮アガンチェン寺ほか修復工事に伴う建築学的調査等（2018（平成30）年3月24日～30日派遣）
  8. NPO法人南アジア文化遺産センターとセミナー「インドにおける文化遺産保護と最新のインダス文明研究」を共催（2017（平成29）年9月26日）

**論 文**・安倍雅史「シリア紛争と文化遺産」『アジア太平洋研究』 pp.1-12 18.3

**発 表**・Masahiko TOMODA et al.: "Conservation and Sustainable Development Plan of Ta Nei Temple and Progress of the Archaeological Investigation" The 29th Technical Session of ICC-Angkor, Siem Reap, Cambodia 17.12.13 ほか5件

**刊行物**・『Iran-Japan On-site Workshop on the Conservation of Wooden Buildings and Wooden Objects』TNRICP, 17.8

・『考古学的知見から読み取る大陸部東南アジアの古代木造建築』東京文化財研究所 18.3

・『アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成29年度成果報告書』東京文化財研究所 18.3

**研究組織** ○友田正彦、安倍雅史、山田大樹、マルティネス・アレハンドロ、間舎裕生、北山奈央子、荒木晶（以上、文化遺産国際協力センター）、亀井伸雄（所長）、佐野千絵、小峰幸夫（保存科学研究センター）、石井美恵、呂俊民、古田嶋智子（以上、客員研究員）

## 保存修復技術の国際的応用に関する研究 (コ03)

**目 的** 文化遺産保護に関して諸外国が有する問題は、それぞれの地域、環境に応じて多種多様であり、それらへの対応には他国で実績のある既存の手法をそのまま適用することが必ずしもできない。そこで、本プロジェクトでは文化遺産の現地における持続可能な保存・修復・活用のための維持管理を目標に、各国における問題を分析し、現地に即した修復技法、材料を研究するとともに、当研究所を中心に諸外国の専門家ネットワークを構築し、意見交換、技術移転をすることで、現地担当者の育成を図る。

**成 果**

1. イタリア中部地震における壁画を有する被災建造物に関する調査 (2017 (平成29) 年4月19日～28日)
2. ミャンマー・バガン遺跡における寺院壁画の保存に向けた外壁調査と保存修復方法の研究
  - ア) 煉瓦造寺院 (Me-taw-ya 寺院) の外壁調査と保存修復方法の研究 (2017 (平成29) 年7月7日～31日) (2018 (平成30) 年1月23日～2月13日)
  - イ) バガンでの「ミャンマー宗教・文化省主催 第10回バガン遺跡の地震被害に関する専門家会議」への出席 (2017 (平成29) 年7月27日)
  - ウ) 考古国立博物館局バガン支局での合同会議への出席 (2017 (平成29) 年7月28日)
  - エ) バガン王朝期における壁画技法と図像学に関する調査 (2017 (平成29) 年7月10日～22日) (2018 (平成30) 年1月23日～2月3日)



Me-taw-ya (No.1205) 寺院



震災による被災箇所 の処置風景

**発 表**・Yoshifumi Maekawa, Denis Zanetti : A Report on the Previous Survey at Me-taw-ya(No.1205) Temple, The 10<sup>th</sup> Expert Meeting on Earthquake Damage to the Bagan Archaeological Site 17.7.27

・Maria Letizia Amadori, Daniele Angellotto, Yoshifumi Maekawa, Denis Zanetti, Paola Fermo, Francesco Maria Mini, Valentina Raspugli : Preliminar Scientific Investigations on Constitutive Materials from temple n.1205, Bagan Valley (Myanmar). TECHNART 2017 -Non-destructive and microanalytical techniques in art and cultural heritage 17.5.2-6

・嶋原由美ほか「ミャンマー・バガン遺跡群における壁画保存修復に向けた調査研究―壁画を構成する材料調査と傷みの原因―」文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1-2

**刊行物**・『A Conservation Project for the Repair, Strengthening and Recovery of Temple 1205. Archaeological Area and Monuments of Bagan, Myanmar』東京文化財研究所 18.3

**研究組織** ○加藤雅人、前川佳文、増渕麻里耶(以上、文化遺産国際協力センター)、嶋原由美(保存科学研究センター)



## 在外日本古美術品保存修復協力事業 (コ04)

**目 的** 日本の文化財は欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、日本文化財の保存修復専門家は海外にほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで、本事業では海外で所蔵されている日本文化財のうち絵画作品及び漆工芸品の保存修復に関する助言等の協力を行う。また本格的な修復が必要な作品に関しては日本で修復して返還する。さらに、特殊な条件にある海外作品に関して、その保存修復方法の研究を行い、結果を公開、共有する。

**成 果** 1. 作品修復を行った。

ア クラクフ国立博物館(ポーランド)所蔵 宮川長春筆「遊女と禿図」1幅

イ クラクフ国立博物館(ポーランド)所蔵 中林竹洞筆「瀑布溪流図」1幅

ウ クラクフ国立博物館(ポーランド)所蔵 狩野中信筆「月下秋景図」1幅

以上3件、修復完了

エ ナショナルギャラリーオブビクトリア(オーストラリア)所蔵 「親鸞聖人絵伝」4幅

オ ナショナルギャラリーオブビクトリア(オーストラリア)所蔵 佐々木泉玄筆「般若図」1幅

カ インディアナポリス美術館(アメリカ)所蔵 鈴木其一筆「八橋図・檜図」6曲1双

キ インディアナポリス美術館(アメリカ)所蔵 曾我蕭白筆「太公望図・林和靖図」2幅

ク インディアナポリス美術館(アメリカ)所蔵 雲谷等顔筆「煙寺晚鐘図・平沙落雁図」2幅

以上5件、修復中

2. 調査を行った。

ア 国家評議会/ハバナ市歴史事務所他(キューバ)、日本文化財の所在及びその保存に係る現況・支援ニーズ等の調査(2017(平成29)年6月5日～10日)

イ グラッシ博物館・民俗学館(ドイツ)、絵画調査(2018(平成30)年3月25日～28日)

3. 研究を行った。

ア ドレスデン国立美術館陶磁器資料館所蔵の日本美術品の共同研究事業

イ 修復技法及び材料に関する基礎研究



絵画作品修復



調査風景(キューバ)

刊行物・『ドレスデン国立美術館陶磁器資料館所蔵の日本美術品共同研究事業報告書 染付時絵鳥籠装飾広口大瓶 -The Birdcage Vase-』東京文化財研究所 17.11

**研究組織** ○加藤雅人、中山俊介、元喜載、小田桃子、橋本広美、五木田まきは、境野飛鳥、石田智香子(以上、文化遺産国際協力センター)、藤井佑果(保存科学研究センター)、江村知子(文化財情報資料部)、林昌宏、小田切真梨(以上、研究支援推進部)、杉山恵助(客員研究員)

## 国際研修(コ05)

**目 的** 近年日本の材料や道具、保存修復の理念が諸外国の文化財修復に応用されるようになってきた。このような状況において、海外の保存修復関係者に直接日本の技術や知識を伝える場が求められている。本事業で、研修を国内外において政府間機関ICCROMや各国機関と共催、あるいは各国の関連機関の協力を得て開催することで、保存修復関係者への技術移転、情報共有を行う。

- 成 果**
1. ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復 (Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk)」を開催した。  
主催：東京文化財研究所、会場：ベルリン国立博物館アジア美術館(ベルリン・ドイツ)  
ア) 基礎編「日本の紙本・絹本文化財」、2017(平成29)年7月5日～7日、参加者：11名(アイルランド、イタリア、ドイツ、バチカン市国、ハンガリー、ベルギー、ポーランド)、その他オブザーバー3名。  
イ) 応用編「屏風の修復」、2017(平成29)年7月10日～14日、参加者：8名(イギリス、イタリア、スペイン、デンマーク、ドイツ、ポーランド)、その他オブザーバー2名。
  2. ワークショップ「染織品の保存と修復 (Workshops on Conservation of Japanese Textile)」を開催した。  
主催：東京文化財研究所・国立台湾師範大学、会場：国立台湾師範大学(台北・台湾)  
ア) 基礎編「日本の染織品文化財」、2017(平成29)年8月9日～11日、参加者：10名(アメリカ、韓国、シンガポール、セルビア、タイ、台湾、フィリピン、ラオス)、その他オブザーバー2名。  
イ) 応用編「日本の染織品の修復」、2017(平成29)年8月14日～18日、参加者：6名(アメリカ、シンガポール、セルビア、タイ、台湾、ラオス)、その他オブザーバー3名。
  3. 国際研修「紙の保存と修復 (International Course on Conservation of Japanese Paper)」を開催した。  
主催：東京文化財研究所・ICCROM、会場：東京文化財研究所他、2017(平成29)年8月28日～9月15日、参加者：10名(アメリカ、アルゼンチン、イスラエル、オーストラリア、ギリシャ、中国、チェコ、フィリピン、ラトビア)。
  4. ワークショップ「漆工品の保存と修復 (Workshops on Conservation and Restoration of Urushi Objects)」の評価を行った。  
アンケート、回答数：29。評価セミナー、東京文化財研究所、2017(平成29)年11月8日～9日、参加者：4名(アメリカ、ギリシャ、ドイツ、ベルギー)。
  5. 国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復 (Curso Internacional de Conservación de Papel en América Latina)」の評価を行った。  
アンケート、回答数：50。評価会議、CNCPC-INAH(メキシコシティ・メキシコ)、2018(平成30)年2月7日。

- 刊行物**・『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2017』東京文化財研究所 18.3  
・『ワークショップ「染織品の保存と修復」2017』東京文化財研究所 18.3  
・『ワークショップ「漆工品の保存と修復」評価 2017』東京文化財研究所 18.3  
・『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」評価 2017』東京文化財研究所 18.3

**研究組織** ○加藤雅人、中山俊介、後藤里架、五木田まきは、小田桃子、元喜載(以上、文化遺産国際協力センター)、早川典子(保存科学研究センター)、菊池理予(無形文化遺産部)、林昌宏、山崎泉美、小田切真梨、荒木晶(以上、研究支援推進部)、石井美恵、大河原典子、杉山恵助(以上、客員研究員)

## 文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究 (シ05)

**目 的** 東京文化財研究所で行われている調査研究に関する情報及び国内外の文化財に関するさまざまな情報について分析し、それらの情報を文化財保護に対して活用するための調査研究を実施する。また、それらの情報の効果的な公開の手法に関する調査研究を行う。

**成 果** 1. デジタル画像の形成方法の研究開発

ア) 運営費交付金や外部資金による他プロジェクトの一環として、東京文化財研究所内外において、東京国立博物館所蔵の平安仏画、鏡神社所蔵《水月観音図》など、多数の文化財の光学的調査やガラス乾板からの画像取得を実施、一部については成果報告書を編纂した。

イ) 文化財アーカイブズ研究室と連携し、『サントリー美術館所蔵 重要文化財 四季花鳥図屏風に関する光学調査成果報告』及びサントリー美術館所蔵《泰西王侯騎馬図屏風》に関する調査研究成果を所内資料閲覧室で公開した。また、『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 春日権現験記絵 巻三・巻四 光学調査報告書』を2017(平成29)年9月30日付で刊行した。

2. 文化財情報基盤の整備・充実

ア) ネットワーク機器及びソフトウェアに対し保守・監視を実施、国立文化財機構内他施設の担当者と情報交換を行いセキュリティ水準の維持・向上に努めた。また、職員の情報セキュリティへの意識向上を目的に、2回の「情報システム部会研修会」を開催した。なお、所内の情報基盤整備及びセキュリティに関する業務については、各部・センターの情報システム部会員との連携により実施している。

イ) 大容量ストレージシステムDataCoreに対し、2018(平成30)年3月にストレージサーバを追加、容量を増強するとともにメモリを増設して、パフォーマンスを向上させた。

3. 文化財情報に関する調査研究

これまで構築してきたウェブデータベース及びその構築過程についてまとめ、構築による情報発信力についての効果に関する調査を行い、成果を論文で発表した。

4. 東京文化財研究所が行う調査研究成果の発信

ア) 研究情報の発信の一環としてウェブサイトの運用を実施した。平成29年度は、4件のウェブデータベースの新規公開、既存データベースへのデータ追加や機能改善、ウェブサイトの適宜更新を実施した。また、メールマガジン、SNS (Facebook及びTwitter) を通じて、国内外の文化財関係者に対し活動報告や催事などウェブサイトの更新情報を中心に提供した。

イ) 2017(平成29)年6月30日付で『東京文化財研究所年報2016』を刊行した。編集にあたっては、各部・センターの年報部会員の協力を得た。

ウェブサイトアクセスランキング

1	東京文化財研究所トップ	6	久野健資料
2	『日本美術年鑑』所載物故者記事	7	黒田清輝日記トップページ
3	ガラス乾板データベース	8	『美術画報』所載図版データベース
4	『保存科学』	9	フィルム原板データベース
5	『日本美術年鑑』所載美術界年史彙報	10	黒田清輝日記(日付別)

(平成29年度 上位10位まで)

## ウェブサイトの主な更新履歴

年月日	更新内容	関係部局
17.4.21	畑正吉フランス留学期写真資料 公開	文化財情報資料部
17.5.9	「文化財収蔵施設・文書館等におけるカビの制御」ポスター 公開	保存科学研究センター
17.6.5	共催ワークショップ「青花紙と友禅染」開催	無形文化遺産部
17.6.5	『平成28年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業 ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業』刊行	文化遺産国際協力センター
17.6.15	独立行政法人東京文化財研究所・国立大学法人佐賀大学共催「染織品を中心とする文化財の保存にかかる共同研究」締結キックオフ集会「日本における染織文化財の保存」開催	無形文化遺産部
17.6.23	『平成28年度 文化庁委託文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流） ミャンマー・バガン遺跡群における地震被害に関する調査 事業報告書』PDF 公開	文化遺産国際協力センター
17.6.27	山下菊二関連資料 公開	文化財情報資料部
17.7.3	The Conference on the Preservation of Historic Settlements in the Kathmandu Valley on 30th November, 2016 PDF 公開	文化遺産国際協力センター
17.7.3	2015 Project for International Contribution to Cultural Heritage Protection / Project for Investigation of Damage Situation of Cultural Heritage in Nepal / Structural Survey of Historic buildings PDF 公開	文化遺産国際協力センター
17.7.3	2015 Project for International Contribution to Cultural Heritage Protection / Project for Investigation of Damage Situation of Cultural Heritage in Nepal / Survey of Historic Settlement PDF 公開	文化遺産国際協力センター
17.7.31	『公開研究会「南蛮漆器の多源性を探る」予稿集増補版』PDF 公開	文化財情報資料部
17.10.6	第51回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」開催	文化財情報資料部
17.11.7	キャスリーン・サロモン氏（ゲッティ研究所副所長）講演会「日本美術資料の国際情報発信に向けて」開催	文化財情報資料部
17.11.24	塩谷純 文化財情報資料部近・現代視覚芸術研究室長が第29回倫雅美術奨励賞を受賞	文化財情報資料部
17.12.15	"Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk 2018" 参加者募集	文化遺産国際協力センター
17.12.20	「東南アジア古代都市・建築研究会」開催	文化遺産国際協力センター
18.1.16	国際研修「紙の保存と修復2018」参加者募集	文化遺産国際協力センター
18.1.23	研究会「美術雑誌の情報共有に向けて」開催	文化財情報資料部
18.1.24	「第一回 無形文化遺産映像記録作成研究会」開催	無形文化遺産部
18.2.15	「東京文化財研究所美術文献目録」のOCLCへの提供	文化財情報資料部

(定期刊行物の公開、活動報告、公募情報を除く)

論文・小山田智寛「WordPressを利用した動的ウェブサイトの構築と効果―「物故者記事」「美術界年史(彙報)」を事例として―」『美術研究』424 pp.21-28 18.3

刊行物・『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 春日権現験記絵 巻三・巻四 光学調査報告書』 17.9

研究組織 ○二神葉子、津田徹英、江村知子、塩谷純、小林公治、小林達朗、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、城野誠治、三島大暉、逢坂裕紀子、竹花真由子、谷口每子、芦立麻衣子、安岡みのり、丸山礼(以上、文化財情報資料部)

広報委員(情報システム部会)：佐野千絵(保存科学研究センター長)

各部署情報システム部会員：中村恵、大島大輔(以上、研究支援推進部)、津田徹英(文化財情報資料部)、石村智(無形文化遺産部)、吉田直人(保存科学研究センター)、安倍雅史(文化遺産国際協力センター)

広報委員(年報部会)：山梨絵美子(副所長)

各部署年報部会員：安川政和、林昌宏(以上、研究支援推進部)、小林公治(文化財情報資料部)、久保田裕道(無形文化遺産部)、北河大次郎(保存科学研究センター)、友田正彦(文化遺産国際協力センター)



## 専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充(シ06)

**目 的** 当研究所が行う文化財の調査・研究の成果を集約するとともに、専門性の高い資料や情報を蓄積・整理する。併せてデータベースの継続的拡充を行い、資料閲覧室を窓口にして文化財に関する総合的レファレンスを充実させる。

**成 果** 1. アーカイブズ・ワーキンググループ協議会の開催

全所的文化財情報を発信するため 概ね4 半期ごとにアーカイブズ・ワーキンググループ協議会を開催した(2017(平成29)年5月31日、6月29日、9月22日、2018(平成30)年3月23日)。「研究情報の保存・開示に関する基準」についての所内ガイドラインを策定・実施して、適切な研究データ管理を推進すると同時に、成果公開のための情報の標準化・規格化を進めた。

2. 刊行物アーカイブズ・システムを運用・評価し、継続的・安定的な研究情報の蓄積・公開を推進した。

3. 資料閲覧室のレファレンス機能の拡充

当研究所無形文化遺産部が所蔵する音声映像資料を、資料閲覧室で視聴に対応するよう環境を整えるとともに、『音盤目録』7 巻分の全文PDFを公開した。

4. 明治・大正期刊行の雑誌類等資料のデジタル化推進

- ・当研究所及び東京美術倶楽部所蔵の『売立目録』について、掲載内容が画像ともども検索できるシステム改良を行い、併行して掲載内容のデータ入力を進めた。
- ・当研究所の所蔵する近現代の美術作品カード(絵葉書資料)のデータ入力を進め、公開のための準備を行った。

5. 研究成果の公開・美術資料のデータ化

サントリー美術館所蔵「四季花鳥図屏風」「泰西王侯騎馬図屏風」、徳川美術館所蔵「源氏物語絵巻」に関するデジタルコンテンツ等を作成し、所内公開を行った。



サントリー美術館所蔵・四季花鳥図屏風のデジタルコンテンツ トップ画面

**閲覧室事業の運営**

1. 年度内資料受け入れ数

和漢書 3,066 件、洋書 121 件、展覧会図録・報告書等 1,374 件、雑誌 3,846 件(合計 8,407 件)

2. 年度内閲覧室利用状況

公開日総数 137 日・年間利用者合計 931 人

**論 文**・佐野千絵、橘川英規「電動集密書架の定期的散開による環境制御効果の検討」『保存科学』57 pp.145-157 18.3

**研究組織** ○江村知子、橘川英規、安永拓世、津田徹英、二神葉子、小山田智寛、小林公治、塩谷純、小林達朗、小野真由美、城野誠治(以上、文化財情報資料部)、久保田裕道(無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務)、吉田直人(保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務、加藤雅人(文化遺産国際協力センター、文化財情報資料部兼務)、永崎研宣(客員研究員)

## 平成29年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）(シ08)

目 的 文化財情報資料部の研究成果の一部を外部講師を交えて広く一般に公開する。

- 成 果
1. 2017(平成29)年11月2日、3日の2日間にわたり、専門家はもとよりひろく一般からも聴講者を募集し、オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」を開催した。研究所内部より2名、外部より2名の講演を行った。それぞれの講演テーマは次の通りである。
    - ・江村知子（文化財アーカイブズ研究室長）「海を渡った日本絵画—ライブツィヒ 民俗学博物館所蔵「四条河原遊楽図屏風」の紹介をかねて」
    - ・山本聡美（共立女子大学教授）「穢土としての身体—日本中世絵画に描かれた病と死体—」
    - ・小野真由美（主任研究員）「写された枇杷図—狩野探幽と江戸の再生（リヴァイバル）」
    - ・馬淵美帆（神戸市外国語大学准教授）「田楽を作る歌仙—伊藤若冲の歌仙図について」
  2. 外部からの聴講者は11月2日116名、3日109名の参加を得た。  
 11月2日の80名の回答者数のうち、「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせ96.3%、  
 11月3日の93名の回答者のうち「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせ89.2%の回答を得ることができた。



オープンレクチャーの様子

研究組織 ○小林達朗、津田徹英、二神葉子、小林公治、塩谷純、江村知子、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、田所泰（以上、文化財情報資料部）

## 無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化 (△03)

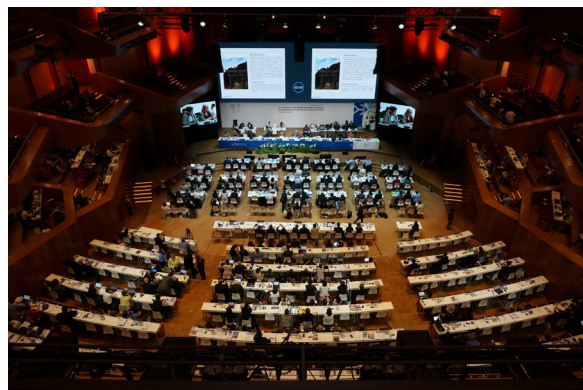
- 目 的** 無形文化遺産部が所蔵する音声・画像・映像資料のデジタル化。無形文化遺産部所蔵のアナログ資料を中心に、これまでに収集蓄積してきた分野を補完する資料の媒体転換を重点的に実施する。併せて、デジタル化を済ませた音声資料は、インデックス付与を含む整理を推進する。この事業は、将来的には資料のデータベース公開と音声・画像等の配信を目指すものである。
- 成 果**
1. 映像資料については、再生不可となることが危惧されるHi 8(ハイエイト)を中心に媒体変換を行い、DVD16枚を作成した。
  2. 音声記録のデジタル化は、前年度に引き続き、1960年代に放送された純邦楽関連のテープ録音を中心に収録内容を確認した。また民謡テープ約80時間分についてもデジタル化を実施し、収録内容の確認を行った。
  3. カセットテープに関しては、旧芸能部所蔵テープの内、寺事の現地録音を中心に内容確認を行った。
  4. 無形文化遺産関連の映像資料69枚(作成DVD36枚・作成BD33枚)を所蔵資料として新たに登録した。
- 研究組織** ○飯島満、久保田裕道、前原恵美、石村智、今石みぎわ、菊池理予、佐野真規、伊藤純、橋本かおる、半戸文(以上、無形文化遺産部)



## 文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 (コ01)

**目 的** 文化遺産の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワーク構築を推進する。

**成 果** 1. 文化遺産保護に関する情報収集のため、以下の国際会議やシンポジウム等に出席した。収集した情報はデータベース等に蓄積するとともに、『世界遺産年報2018』所収「第41回世界遺産委員会ニュース」などを通じて成果の公表を行い、後述の世界遺産研究協議会を開催して関係自治体等関係者に対して情報の周知を図った。



第41回世界遺産委員会（ポーランド・クラクフ）

- ・2017(平成29)年7月2日～12日 第41回世界遺産委員会(クラクフ)
- ・2017(平成29)年11月14日～15日 第21回世界遺産条約締約国総会(パリ)
- ・2017(平成29)年11月29日～12月1日 第30回国際文化財保存修復研究センター総会(ローマ)
- ・2017(平成29)年12月19日～21日 ACCU奈良主催国際会議「アジア太平洋地域における文化遺産保護人材養成の実情と課題」等
- 2. 文化遺産保護に関する情報収集のため、以下の調査を行った。収集した情報はデータベース等に蓄積するとともに、情報共有を行った。
  - ・2018(平成30)年2月6日 新潟県・佐渡市(世界遺産の推薦書作成作業についての調査)
  - ・2018(平成30)年3月26日～28日 長崎県長崎市、小値賀町、新上五島町(世界遺産の推薦書作成作業についての調査)
- 3. 文化遺産保護関連の法令の収集・分析及び翻訳作業を実施し、『各国の文化財保護法令シリーズ[22] 韓国』を刊行した。
- 4. 上記の成果について広く共有を図るため、「世界遺産研究協議会」を開催し、関係自治体等に対して得られた情報・知見の周知を図った。

**報 告**・二神葉子「第41回世界遺産委員会ニュース」(取材協力)『世界遺産年報2018』 日本ユネスコ協会連盟編 18.1

**発 表**・二神葉子「世界遺産委員会に見る諮問機関の評価とその課題」 世界遺産研究協議会 18.1.18  
・境野飛鳥「第41回世界遺産委員会の報告」 世界遺産研究協議会 18.1.18

**刊行物**・『各国の文化財保護法令シリーズ[22] 韓国』東京文化財研究所 18.3  
・『世界遺産研究協議会「世界遺産推薦書の評価のプロセスと諮問機関の役割」』東京文化財研究所 18.3

**研究組織** ○中山俊介、西和彦、境野飛鳥、増渕麻里耶、橋本広美、石田智香子(以上、文化遺産国際協力センター)、二神葉子(文化財情報資料部)

## プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

### 無形文化遺産部

#### 無形民俗文化財研究協議会（①M02の一部として実施）

無形文化遺産部では、無形民俗文化財の保存・継承に寄与することを目的として、毎年無形民俗文化財研究協議会を開催している。第12回にあたる本年度は「無形文化遺産への道—ユネスコ無形文化遺産条約と地域の遺産」をテーマとし、ユネスコ無形文化遺産条約をめぐる現状と課題、各地域の取り組みなどについて報告・討議した。その成果は報告書として刊行した。

日 時：2017（平成29）年12月18日（月） 10:30～17:30

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：129名

テーマ：「無形文化遺産への道—ユネスコ無形文化遺産条約と地域の遺産」

内 容：【基礎講座】今石みぎわ（無形文化遺産部）「ユネスコ無形文化遺産とその制度」

二神葉子（文化財情報資料部）「無形文化遺産を取り巻くユネスコと世界の状況」

朴原模（ユネスコアジア太平洋無形文化遺産国際情報・ネットワーキングセンター）

「韓国における無形文化遺産の保護とユネスコ無形文化遺産条約」

【事例報告】小濱学（三重県教育委員会）「アマサンミクス ～海女漁の技術の来し方行く末～」

米良勝也（みやざき文化振興課）・野添和洋（宮崎県教育庁文化財課）

「神楽のユネスコ無形文化遺産の登録に向けた取り組み」

【総合討議】上記報告者と下記コメンテーター、コーディネーターによる総合討議を行った。

コメンテーター：俵木悟（成城大学）

コーディネーター：久保田裕道・今石みぎわ（無形文化遺産部）

総合司会：飯島満（無形文化遺産部）

### 文化遺産国際協力センター

#### 世界遺産研究協議会「世界遺産推薦書の評価のプロセスと諮問機関の役割」（④C01の一部として実施）

運営費交付金事業「文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信」で行っている諸研究のうち、世界遺産に関する制度と最新の動向についての情報を提供するため、初の試みとして研究協議会を開催した。今年度は、外部研究者を含む5名の発表を行い、世界遺産委員会で行われた議論等についての報告に加え、諮問機関による推薦書の評価のプロセスの実際についてそれぞれの立場からの報告を通じて知る機会となった。

日 時：2018（平成30）年1月18日（木） 13:00～19:00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：74名

発表者：境野飛鳥（文化遺産国際協力センター）「第41回世界遺産委員会の報告」

二神葉子（文化財情報資料部）「世界遺産委員会に見る諮問機関の評価とその課題」

岡寺未幾（福岡県）「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群の登録までの道のり」

黒田乃生（筑波大学）「現地調査の体験」

河野俊之（九州大学）「組織としての諮問機関の役割」

質疑応答

## Iran-Japan on-site workshop on the conservation of wooden buildings and wooden objects (イランー日本 歴史的木造建造物及び木製文化財の保存に関する現地ワークショップ) (③コ02の一部として実施)

エスファハーンを召喚する各地の歴史的建造物には木材が使用され、その世にも木製品の文化財が少なくない。その多くに害虫（特にシロアリ）による被害が生じて保存上の大きな課題となっている。同国当局の要請を受け、イランにおける木造・木製文化財の適切な保存方法の検討に資するため、本ワークショップをイラン文化遺産・手工芸・観光庁 (ICHHTO) と共催した。

Iran-Japan on-site workshop on the conservation of wooden buildings and wooden objects  
(イランー日本 歴史的木造建造物及び木製文化財の保存に関する現地ワークショップ)

日 時：2017 (平成29) 年4月17日 (月)～19日 (水) (うち18日は実地研修)

会 場：ダフシュティー邸、アーリー・カーパー宮殿内ICHHTO支局事務所 (イラン・エスファハーン)

参加者：23名

講 演：・Masahiko TOMODA (友田正彦) (TNRIC/ 東京文化財研究所)

“Japanese Wooden Architecture and its Preservation” (「日本の木造建造物とその保存」)

・Yukio KOMINE (小峰幸夫) (TNRIC/ 東京文化財研究所)

“Species and its Characteristics of Insects that Harm to Cultural Properties in Japan” (「日本における文化財害虫の種類とその特徴」)、

“Management System for Insect Damage in Japan - Outline of Insect Damage at Rinnou-ji Temple in Nikko” (「日本における虫害管理体制：日光輪王寺における虫害対策を例に」)

・Kazushi KAWAGOE (川越和四) (Institute for Environmental Culture/ 環境文化創造研究所)

“Methods for Exterminating Termites in Japan” (「日本におけるシロアリ駆除対策」)

・Mehrdad HEJAZI (メフルダード・ヘジャーズイー) (University of Isfahan/ エスファハーン大学)

“Persian Wooden Buildings and Elements: Their Features and Maintenance Challenges” (「ペルシャ木造建造物と部材：その特徴と維持上の課題」)

・Javid IMANIYAN (ジャヴィド・イマニヤン) (ICHHTO)

“The Introduction of Wooden Buildings and Elements of Northern Iran (Gorgan) : Their Characteristics and Challenges” (「北部イラン (ゴルガン) の木造建築と部材の紹介：その特徴と課題」)

・Mohsen Mohammadi Achachluei (モーセン・モハンマディ・アカークレイ) (Art University, Isfahan/ エスファハーン芸術大学)

“Methods of Conservation and Restoration, and the Challenges of Insect Damage in Iran” (「保存修復手法とイランにおける虫害への挑戦」)

・Sepide POURMOHAMADI (セピデ・ポーモハマディ) (Institute of Insect Damage, Yazd/ ヤズド虫害研究所)  
“Control of Subterranean Termites in Yazd Historical Buildings and Their Foods Preferences Survey on 8 Woods Samples that Applied in Historical Buildings” (「ヤズドの歴史的建造物における地中シロアリの制御と8点の木材試料に対する嗜好の調査」)

## セミナー「インドにおける文化遺産保護と最新のインダス文明研究」(③コ02の一部として実施)

と最新のインダス文明研究」をNPO法人南アジア文化遺産センターと共催した。

シンデ博士はインドを代表する考古学者で、インド国内で数多くの発掘調査を行ってきた。現在は、モヘン

ジョ・ダロ遺跡を凌ぐインダス文明最大の都市遺跡ラキー・ガリー遺跡の発掘調査を継続されている。

今回のセミナーでは、「インドにおける文化遺産保護の現状」と「ラキー・ガリー遺跡の最新の発掘調査成果」に関して、発表いただいた。

日 時：2017（平成29）年9月26日（火） 15：00～17：00

会 場：東京文化財研究所 地下1階会議室

参加者：17名

講演者：ヴァサント・シンデ博士（インド・デカン大学、学長）

#### 文化遺産国際協力センター

### 東南アジア古代都市・建築研究会（③コ02の一部として実施）

アジアを代表する王都遺跡であるアンコールとバガンに焦点を当て、都市としての実像の解明、さらには各王宮の建築に関する調査研究の現状などについて報告・討議を行った。

第1日：東南アジアの古代都市を考える

日 時：2018（平成30）年1月19日（金） 9：00～17：00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：28名

講演：布野修司（日本大学生産工学部特任教授）「古代インドの都市理念」

ボブ・ハドソン（シドニー大学アジア学部特任研究員）「ミャンマー・バガン 11～14世紀の歴史と建築」

ジャック・ゴシエ（フランス極東学院アンコールトム考古調査隊長）

「カンボジア・アンコールトム城壁に関する都市史的考察」

討 議：上記講演者＋友田正彦（文化遺産国際協力センター）

第2日：アンコールおよびバガン王宮の建築を探る

日 時：2018（平成30）年1月20日（土） 9：30～17：00

会 場：東京国立博物館 黒田記念館講堂

参加者：31名

講演：ジャック・ゴシエ（フランス極東学院アンコールトム考古調査隊長）

「アンコールトム王宮の木造部材と構造物」

ボブ・ハドソン（シドニー大学アジア学部特任研究員）

「ミャンマー・バガンの巨大木造王宮 11世紀から今日まで」

上野邦一（奈良女子大学古代学学術研究センター国際親善教授）「宮殿に建つ掘立柱建物」

討 議：上記講演者＋友田正彦（文化遺産国際協力センター）

#### 文化遺産国際協力センター

### ブータンの伝統的民家保存に関するワークショップ（③コ02の一部として実施）

ており、その建築年代の編年や変遷過程が不明であった。このため、その文化遺産としての価値の認識が不十分で、保存のための対策も未だ講じられていないのが現状である。

本ワークショップでは、東京文化財研究所・奈良文化財研究所・岡山理科大学がブータン内務文化省文化局遺産保存課と共同で行ってきた版築造建造物の建築調査の成果や、ブータンにおける文化遺産保護の法的枠組み、日本における状況等に関して情報共有するとともに、保存対象とすべき民家建築の具体的物件や今後の課題等について両国専門家の意見交換を行った。

#### Workshop on Conservation of Traditional Houses in Bhutan

(主催：東京文化財研究所、ブータン内務文化省文化局)

日 時：2018 (平成30) 年3月13日 (火) 9:00~16:30

会 場：内務文化省文化局会議場 (ブータン・ティンプー)

参加者：40名

講 演：・Nagtsho Dorji (ナクツォ・ドルジ) (ブータン内務文化省文化局遺産保存課)

"Background of the Cooperation Projects Collaborated between DOC and TNRICP" (「ブータン文化局と東京文化財研究所による協力事業の経緯」)

・Nobuo KAMEI (亀井伸雄) (東京文化財研究所)

"Conservation of Traditional Houses in Japan" (「日本における民家の保存」)

・Pema Wangchuk (ペマ・ワンチュク) (ブータン内務文化省遺産保存課)

"Current Legal and Administrative Framework for the Protection of Built Heritage in Bhutan" (「ブータンにおける建築遺産保護の法制度的枠組み」)

・Satoshi UNNO (海野聡) (奈良文化財研究所)

"Survey of Traditional Houses in Bhutan: Outline and Methodology" (「ブータン民家調査の内容と手法」)

・Tsuguto EZURA (江面嗣人) (岡山理科大学)

"Transformation Process of Traditional Houses in Bhutan" (「ブータン民家建築の変遷」)

・Masahiko TOMODA (友田正彦) (東京文化財研究所)

"Proposed Structures for Protection as Heritage Buildings" (「保存対象物件の提案」)

・Yeshe Samdrup (イエシ・サムドゥップ) (ブータン内務文化省遺産保存課)

"Recent Developments and Tendencies in the Designation and Conservation of Heritage Buildings in Bhutan" (「ブータンにおける遺産建造物の指定及び保存に関する最近の進展と動向」)

#### 文化財情報資料部

### 総合研究会(シ)

内の研究者間で自由に討論する場である。平成29年度は下記のスケジュールで実施した。

- ・第1回 2017 (平成29) 年7月4日 (火)  
発表者：石田真弥 (保存科学研究センター) 「煉瓦寸法の変遷について」
- ・第2回 2017 (平成29) 年10月3日 (火)  
発表者：前原恵美 (無形文化遺産部) 「無形文化財保存技術に関する報告ー三味線を中心にー」
- ・第3回 2017 (平成29) 年11月7日 (火)  
発表者：橘川英規 (文化財情報資料部) 「文化財アーカイブズ構築の取り組みー学術情報基盤を活用した研究資料の提供を中心に」
- ・第4回 2018 (平成30) 年3月6日 (火)  
発表者：安倍雅史 (文化遺産国際協力センター) 「バハレーンにおける考古学調査と文化遺産保護」



## 文化財情報資料部研究会(シ)

の研究やプロジェクトの成果を発表し、さらに討議によって充実を図っている。平成29年度の開催内容は下記の通り。

- 4月25日(火) 山村みどり(日本学術振興会特別研究員)「『おいしい生活』第三次産業への転換期の日本の文化を考察する」
- 5月30日(火) 安永拓世(文化財情報資料部)「呉春筆『白梅図屏風』の史的位置」
- 6月27日(火) 田中純一郎(井原市立田中美術館)「橋本雅邦の人物表現—東洋大学蔵『四聖像』をめぐって」
- 7月25日(火) 小勝禮子(実践女子大学ほか非常勤講師)「日本の美術史研究・美術展におけるジェンダー視点の導入と現状」  
コメンテーター：山村みどり(日本学術振興会特別研究員)
- 8月 7日(月) 綿田稔(文化庁美術学芸課)「橋本雄『雪舟入明再考』に寄せて」  
司会進行：島尾新(学習院大学)  
コメンテーター：伊藤幸司(九州大学)、米谷均(早稲田大学)、芳澤元(明星大学)、須田牧子(東京大学史料編纂所)、岡本真(東京大学史料編纂所)
- 9月 5日(火) 齋藤達也(文化財情報資料部客員研究員)「フランスにおける近代美術関連資料—美術館・図書館・アーカイヴ・インターネットリソースの紹介と活用例」  
コメンテーター：小泉順也(一橋大学)
- 9月22日(金) ピエール・テルジャニアン(メトロポリタン美術館)「メトロポリタン美術館が所蔵するヨーロッパの武器武具と甲賀市水口に伝わるレイピアの検討」
- 10月24日(火) 津田徹英(文化財情報資料部)「資料紹介 滋賀・浄厳院蔵 木造 釈迦如来立像」、  
佐藤有希子(日本学術振興会特別研究員)「京都・青蓮院伝来の二体の毘沙門天立像に関する一考察」
- 11月21日(火) 高田知仁(サイアム大学)「タイにおける螺鈿工芸の変遷とその意味」  
コメンテーター：原田あゆみ(九州国立博物館)
- 12月26日(火) 近松鴻二(文化財情報資料部客員研究員)「黒田清輝関係文書書翰類の解読」、  
田中淳(文化財情報資料部客員研究員)「岸田劉生における1913年から16年の『クラシツク』受容について」
- 1月30日(火) 小川絢子(国立国際美術館)「美術館における現代美術の保存と修復」、  
平諭一郎(東京藝術大学)「保存・修復の歴史において現代はそんなに特別か」
- 2月27日(火) 増田政史(文化財情報資料部)「中宮寺文殊菩薩立像に関する一考察」
- 3月16日(金)「美術雑誌の情報共有に向けて」  
塩谷純(文化財情報資料部)「東京文化財研究所の美術雑誌—その収集と公開の歩み」  
大谷省吾(東京国立近代美術館)「『日刊美術通信』から見えてくる、もうひとつの昭和10年代アートシーン」  
森仁史(金沢美術工芸大学)「『美術』雑誌とは何か—その難しさと価値をめぐって」  
総合討論(橘川・塩谷・大谷・森)

## 平成28年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』(シ07)

## 日本美術年鑑

2016

東京文化財研究所

## 『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、我が国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。文化財情報資料部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936(昭和11)年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。平成28年版は、B5版、563ページとなった。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

## 『美術研究』

1932(昭和7)年1月、当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、80年以上にわたり、日本・東洋の古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論文、研究ノート、書評、展覧会評、図版解説・研究資料等を掲載している。本年度は422号、423号、424号を刊行した。出版に際して、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

## 美術研究

## 無形文化遺産部

2-(4)-②-1)

## 無形文化遺産部出版関係事業(ム04)

## 『無形文化遺産研究報告』

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。

## 『無形民俗文化財研究協議会報告書』

無形文化遺産部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して無形の民俗文化財の保護と継承について研究協議する会を開催している。第12回にあたる本年度は、「無形文化遺産への道—ユネスコ無形文化遺産条約と地域の遺産」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。

## 無形文化遺産研究報告

第12号 2018

無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	1
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	2
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	3
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	4
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	5
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	6
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	7
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	8
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	9
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	10
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	11
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	12
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	13
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	14
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	15
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	16
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	17
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	18
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	19
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	20
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	21
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	22
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	23
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	24
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	25
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	26
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	27
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	28
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	29
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	30
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	31
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	32
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	33
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	34
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	35
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	36
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	37
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	38
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	39
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	40
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	41
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	42
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	43
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	44
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	45
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	46
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	47
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	48
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	49
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	50
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	51
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	52
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	53
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	54
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	55
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	56
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	57
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	58
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	59
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	60
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	61
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	62
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	63
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	64
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	65
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	66
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	67
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	68
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	69
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	70
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	71
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	72
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	73
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	74
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	75
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	76
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	77
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	78
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	79
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	80
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	81
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	82
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	83
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	84
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	85
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	86
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	87
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	88
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	89
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	90
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	91
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	92
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	93
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	94
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	95
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	96
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	97
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	98
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	99
無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展	100

東京文化財研究所  
無形文化遺産部無形文化遺産への道  
ユネスコ無形文化遺産条約と地域の遺産

2017

無形文化遺産部(東京文化財研究所)の活動と発展  
東京文化財研究所 無形文化遺産部

## 保存科学研究センター

2-(4)-②-1)

## 『保存科学』第57号の出版(ホ07)

佐野千絵、稲葉政満(東京藝術大学大学院美術研究科教授)、和田浩(東京国立博物館学芸研究部保存修復課環境保存室長)、中山俊介、早川泰弘の5名からなる編集委員会を編成、投稿された17件全ての原稿に対して、査読委員による査読を実施、報文1件、報告14件、計15件の掲載を決定した。

## 保存科学

第57号

東京文化財研究所  
保存科学研究センター



## 『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKENNEWS』

『東京文化財研究所概要』は研究所の組織や活動内容を、写真を多用して日英2ヶ国語により簡潔に紹介している。平成29年度の概要はA4判37ページ。

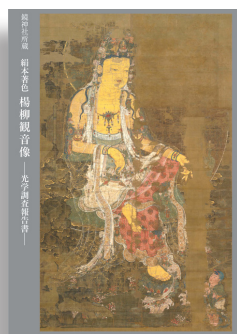


『TOBUNKENNEWS』はウェブサイトで公開した毎月の「活動報告」から、紙媒体に適した記事を精選し、2頁のコラム、刊行物紹介等とともに掲載している。A4判。平成29年度はNo.64(7月刊、40ページ)、65(11月刊、40ページ)、66(2018年3月刊、52ページ)を刊行した。



『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKENNEWS』はそれぞれ、各部・センターからの部会員で構成される東京文化財研究所広報委員会の概要部会、ニュース部会が作成し、編集事務はいずれも研究支援推進部企画渉外係が担当している。

## プロジェクトの一環として刊行された刊行物



### 『鏡神社所蔵 重要文化財

#### 絹本着色 楊柳観音像 —光学調査報告書—

佐賀県唐津市に所在する鏡神社に伝来した「重要文化財 絹本着色 楊柳観音像」は、1310(至大3)年に制作された高麗仏画の大作である。本報告書は当該作品の光学調査に関するもので、可視光、蛍光及び近赤外による高精細画像、蛍光X線分析による彩色材料調査結果及び作品の造形に関する論考を併せて収録した。2018年3月刊行、208ページ。

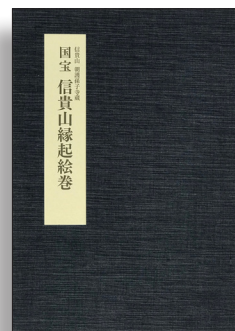
(①シ02の一環として実施)

### 『信貴山 朝護孫子寺蔵

#### 国宝 信貴山縁起絵巻調査研究報告書—光学調査編—

東京文化財研究所と奈良国立博物館による共同研究の一環として行った、平安時代の絵巻物「国宝 信貴山縁起絵巻」の光学調査に関する報告書である。可視光、蛍光及び近赤外による高精細画像と、蛍光X線分析による彩色材料調査結果を併せて収録した。2018年3月刊行、439ページ。

(①シ02の一環として実施)



### 『公開研究会予稿集 南蛮漆器の多源性を探る』増補版

2017(平成29)年3月に開催した公開研究会「南蛮漆器の多源性を探る」予稿集で公開されたすべての発表要旨英訳を加えた増補版をpdf発行し、当研究所ウェブサイトで公開した。2017年6月刊行、41ページ。

(①シ04の一環として実施)



## 『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 春日権現験記絵

巻三・巻四 光学調査報告書』

東京文化財研究所が宮内庁三の丸尚蔵館と共同で2003（平成15）年から実施してきた、鎌倉時代を代表する絵巻物「春日権現験記絵」全20巻のうち、巻三・巻四を対象とした光学調査報告書である。高精細画像と蛍光X線分析による彩色材料調査結果を併せて収録した。2018年3月刊行、230ページ。

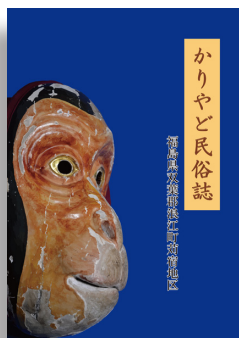
（④シ05の一環として実施）

## 『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 春日権現験記絵

巻五・巻六 光学調査報告書』

東京文化財研究所が宮内庁三の丸尚蔵館と共同で2003（平成15）年から実施してきた、鎌倉時代を代表する絵巻物「春日権現験記絵」全20巻のうち、巻五・巻六を対象とした光学調査報告書である。高精細画像と蛍光X線分析による彩色材料調査結果を併せて収録した。2018年3月刊行、254ページ。

（②ホ03の一環として実施）



## 『かりやど民俗誌』

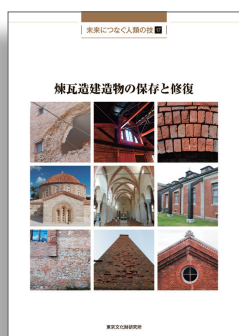
東日本大震災及び原子力発電所事故により離村を余儀なくされた（平成29年度より帰還可能）、福島県浪江町苅宿地区の民俗誌。地区に伝わる鹿舞・神楽を中心に明治以降の記録類や産業、年中行事などを記載。また古写真を収集し、掲載した。苅宿地区全戸に配布。PDF版は無形文化遺産部のウェブサイトでも公開。2018年3月刊行、74ページ。

（①ム02の一環として実施）

## 『箕一箕サミット2017の記録』

2017（平成29）年11月13日に国指定の箕づくり技術の伝承者を招いて開催した「箕サミットー編み組み細工を語る」の記録。技術継承の現状や課題、展望を多様な関係者と共有・議論することを目的としたパネルディスカッションの全内容に加え、各団体による実演の記録も収録した。PDF版は無形文化遺産部のウェブサイトでも公開。2018年3月刊行、55ページ。

（①ム02の一環として実施）



## 『未来につなぐ人類の技17—煉瓦造建造物の保存と修復』

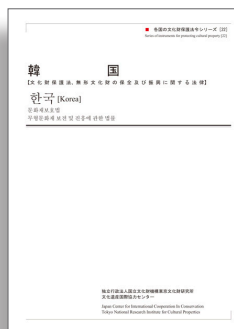
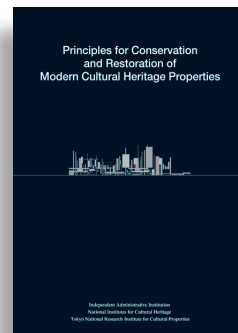
本書は、近代文化遺産研究室が平成28年度に実施した「煉瓦造建造物の保存と修復に関する研究」の成果をとりまとめた報告書である。文化財所有者・修理技術者等が、保存と修復の実務で利用することを念頭において、国内外の学識経験者と行政担当者の論考に加え、同室が実施した事例調査の分析結果をまとめた事例集を収めている。2018年8月刊行、126ページ

（②ホ06の一環として実施）

## Principles for Conservation and Restoration of Modern Cultural Heritage Properties

本書は、ドイツの産業遺産、日本の産業考古学、文化財修理、近代史の専門家による講演内容を取りまとめた、「未来につながる人類の技 16—近代の文化遺産の保存理念と修復理念」(2016 (平成28)年3月刊行)の英訳版である。近代文化遺産の保存修復に係る特性を明らかにし、今後の保存対策について考察を行っている。2018年3月刊行、71ページ。

(②ホ06の一環として実施)



## 『各国の文化財保護法令シリーズ[22] 韓国』

### 【文化財保護法、無形文化財の保全及び振興に関する法律】

本冊子は、近年有形文化財と無形文化財を個別の法令で取り扱うなど大きな改正がなされた、韓国の文化遺産に関する法令を和訳したものである。巻末に原文もあわせて掲載している。日本語・韓国語、2018年3月刊行、219ページ。

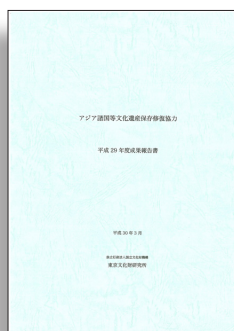
(④コ01の一環として実施)

## 『世界遺産研究協議会』

### 世界遺産推薦書の評価のプロセスと諮問機関の役割

本冊子は、2018 (平成30) 年1月18日に開催された「世界遺産研究協議会 世界遺産推薦書の評価のプロセスと諮問機関の役割」の講演内容を書き起こしたものである。巻末に講演内容に関連した世界遺産関連用語を掲載している。日本語、2018年3月刊行、58ページ。

(④コ01の一環として実施)



## 『アジア諸国等文化遺産保存修復協力』

### 平成29年度成果報告書

平成29年度にアジア諸国等文化遺産保存修復協力として、カンボジア、イラン、アルメニア、ブータンほか各国を対象に実施した諸事業の内容と事業成果、関連資料・報告等を収録。

日本語、2018年3月刊行、116ページ。

(③コ02の一環として実施)

## 『考古学的知見から読み取る』

### 大陸部東南アジアの古代木造建築

2017 (平成29) 年2月に東京文化財研究所において開催した同研究会の議事録。ミャンマー、タイ、カンボジア、ベトナムの4か国より招聘した専門家及び日本の専門家が、考古学的調査によって得られた知見を通して既に失われた木造建築の実像に迫るための各国の試みを紹介した講演の内容、会場からの質疑応答及び総合討論の内容を収録。日本語・英語併記、2018年3月刊行、157ページ。

(③コ02の一環として実施)



## A Conservation Project for the Repair, Strengthening and Recovery of Temple 1205. Archaeological Area and Monuments of Bagan, Myanmar

本書は、平成28年度より継続するMe-taw-ya寺院（バガン、ミャンマー）における複合文化財として捉えた保存修復活動に関する調査研究結果、関連資料、実施内容等を掲載している。英語、2018年3月刊行、106ページ。

(③コ03の一環として実施)



## 博物館・美術館等保存担当学芸員研修(ホ08)

## 1. 博物館・美術館等保存担当学芸員研修

日程：2017(平成29)年7月10日(月)～21日(金)

参加者数：31名

資料の「保存」は博物館や美術館といった文化財施設に課せられた大きな使命であるが、これは単に「保管」することではなく、資料の「文化財」としての価値が環境要因に起因する物理的、化学的变化によって損なわれることを防ぎ、後世に伝えることである。従って、「保存」は極めて自然科学的な行為であるが、それにも関わらず保存を担当する学芸員がそのための専門知識や技術を学ぶ機会は極めて乏しい。そのため、東京文化財研究所では、1984(昭和59)年以来毎年、資料保存を担当する学芸員などを対象とした「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を実施し、現場で自らの手で保存環境を把握し、必要な改善を行うことの出来る人材を育成してきた。これまでの修了生は約800名を数え、各地で資料保存の重責を担っている。平成29年度は、34回目となる本研修を2週間実施した。

7月10日(月)

佐野千絵「文化財保存 概論」

早川泰弘「文化財の材質・構造」

宇田川滋正(文化庁)「文化財公開施設の設計」

7月11日(火)

吉田直人「保存環境 各論一温湿度一」

佐藤嘉則「生物被害 概論」

吉田直人「保存環境 各論一空気環境一」

7月12日(水)

小峰幸夫「生物被害 各論一虫一」

佐藤嘉則「生物被害 各論一カビ一」

小峰幸夫「生物被害 各論一殺虫・殺菌処置一」

犬塚将英「文化財の科学調査」

佐藤嘉則・小峰幸夫「生物対策実習」

7月13日(木)

北河大次郎「劣化と保存 各論一近代文化財一」

呂俊民、古田嶋智子、吉田直人「空気環境の改善」

朽津信明「屋外資料の保存環境」

森井順之「文化財施設の防災」

7月14日(金)

吉田直人「保存環境 各論一光と照明一」

ケーススタディ テーマ打ち合わせ

7月18日(火)

山口孝子(東京都写真美術館)「劣化と保存 各論一写真一」

早川典子「劣化と保存 各論一修復材料一」

坂本雅美(紙本保存修復家)「劣化と保存 各論一紙資料一」

7月19日(水)

「環境調査実習一ケーススタディ」(於：埼玉県立歴史と民俗の博物館)

7月20日(木)

山本記子(国宝修理装演師連盟)「劣化と保存 各論一日本画一」

ケーススタディ発表



7月21日(金)

木島隆康(東京藝術大学)「劣化と保存 各論—油彩画—」

吉田直人「東文研が行う環境調査・助言」

## 2. 保存担当学芸員フォローアップ研修 —展示・収蔵空間における空気環境の改善—

1984(昭和59)年に始められた「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」受講者はそれぞれの施設で、また、地域の中核的存在として資料保存の重責を担っている。しかし、保存に関する知識や技術は日々新しくなる。本研修は、資料保存に必要な最新の知識を持てるように行うものである。

平成29年度の本研修では、収蔵庫や展示室、また展示ケースの高気密化に伴う問題となっている、建材や内装材より発生し、資料への影響が懸念されるガスによる空気汚染の原因と対策をテーマとした。また、津波による水損を受け、安定化処置を受けた資料からの臭気の問題についても取り上げた。

日 程：2017(平成29)年6月19日(月) 13:30～17:15

参加者：103名

プログラム：吉田直人「環境調査結果からみえる空気環境に関する最近の問題」

古田嶋智子(日本学術振興会特別研究員・客員研究員)「汚染化学物質の発生源と空間への放散」

呂俊民(客員研究員)「空気環境の把握と改善のためのマニュアル作成」

内田優花(国立文化財機構文化財防災ネットワーク・アソシエイトフェロー)、佐野千絵

「水損資料から発生する臭気と原因物質」

(講師の所属に記載のない場合は東京文化財研究所)

文化財情報資料部

2-(5)-②-1)

## 文化財の評価・活用に関する助言(シ09)

平成29年度は以下の組織等において指導助言を行った(19件)。

- ・永青文庫美術館夏季展「細川護立と近代の画家たち」開催に関する協力・助言
- ・福井県立美術館開館40周年特別展「狩野芳崖と四天王」開催に関する協力・助言
- ・近江八幡市市史編纂室による文化財調査に関する協力・助言
- ・南蛮文化館の所蔵品修復に関わる協力・助言
- ・韓国・Lee & Won財団への協力・助言
- ・イタリア・ヴァチカン博物館収蔵庫新設等に関わる協力・助言
- ・浦添市美術館における漆工芸品研究に関する協力・助言
- ・明治大学における漆工芸品研究に関する協力・助言
- ・甲賀市教育委員会の文化財指定に関わる協力・助言
- ・逸翁美術館の所蔵品調査に関する協力・助言
- ・土佐・絵金蔵の所蔵品調査に関する協力・助言
- ・岡山県立美術館の所蔵品調査・展示に関する協力・助言
- ・野崎家塩業歴史館の所蔵品調査に関する協力・助言
- ・八尾市教育委員会管轄の文化財調査に関する助言・協力
- ・大和文華館の所蔵品調査に関する協力・助言
- ・和歌山県立博物館の所蔵品調査に関する協力・助言
- ・和歌山市立博物館の所蔵品調査に関する協力・助言
- ・山口・五橋文庫の尾形乾山に関する問い合わせへの助言
- ・群馬・大川美術館の展覧会にかかわる協力・助言



## 無形文化遺産に関する助言(ム)

無形文化遺産の保存・伝承・活用に関する各種委員会等へ出席し、以下の指導・助言を実施した。

- ・文化庁への助言（民俗技術に関する調査 3/6-8 鹿児島県、文化財保存技術に関する調査 4/20・6/12・7/18・24・25・26・8/17-19・9/13-14・19・10/23-25・2/2・3/1 文化庁・東京都・埼玉県・愛知県・滋賀県・京都府・広島県、国際芸術交流支援事業協力者会議審査委員会 1/30 文化庁、伝統音楽普及促進支援事業審査 3/14 文化庁、無形文化遺産に関する会議 5/29・6/26・28・8/21・9/14・19・20・10/12・17・11/17・12/21・2/7 文化庁）
- ・茨城県への助言（11/6 常陽藝文センター）
- ・神奈川県への助言（7/6・9/21・1/30 神奈川県庁）
- ・東京都武蔵野市への助言（武蔵野市文化財保護委員会 4/11・9/5・12/12 武蔵野公会堂・武蔵野ふるさと歴史館）
- ・神奈川県箱根町への助言（5/5・23・14-16・9/26・12/7・3/1・26・27 箱根町）
- ・岐阜県岐阜市への助言（長良・小瀬鵜飼習俗総合調査合同委員会 11/1 岐阜市役所）
- ・福井県おおい町への助言（11/29-12/1）
- ・独立行政法人日本芸術文化振興会への助言（国立劇場文楽専門委員会 6/7・3/14 国立劇場、国立劇場文楽賞選考会議 3/7 国立文楽劇場、民俗芸能公演及び琉球芸能公演専門委員会 6/8・24・7/4・1/27・3/26 国立劇場）
- ・公益財団法人東京都歴史文化財団への助言（第49回東京都民俗芸能大会 3/17・18 東京芸術劇場）
- ・公益社団法人全日本郷土芸能協会への助言（5/13）
- ・一般財団法人日本青年館への助言（第66回全国民俗芸能大会企画委員会 4/17・8/30・11/24・25・1/22 日本青年館）

## 文化財の虫菌害に関する調査・助言(ホ)

**目的** これまでに蓄積された文化財の生物被害対策に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて専門的な見地から生物被害対策の技術的な協力・助言を行うことにより、文化財の保存に関する質的向上に貢献する。

**成果** 主な虫菌害問題の相談元は、国や地方公共団体の博物館、美術館、図書館、公文書館、社寺等、修復工房等であった。平成29年度の対応件数は、合計で42件あり、内16件については派遣依頼等を受けて現地に調査をしたもの、あるいは研究所にて詳細な培養試験等を実施したものなど、より緊急度、危険度が高い事案であった。

虫菌害の相談内容は、保存公開施設内における文化財害虫の発生、カビの発生などが主なものであったが、屋外の装飾古墳の石材面に発生した微生物の対処なども含まれた。被害の規模も文化財展示収蔵施設全体に関する事柄から、個別の作品に対する事柄まで多様であった。生物被害の原因としては、施設の老朽化や空調の不備等に起因するカビ発生が最も多く、それに次いで殺虫殺菌薬剤の使用法や作品の貸し借りの間で害虫が見つかる事例などの相談も複数件受けた。施設の老朽化や空調の不備等については最終的に収蔵施設の建て替えといった抜本的な対策が解決になるのだが、建て替えまでの期間どのようにして収蔵品を保存していくかという対策については課題が残った。

また、文化財 IPM の考え方を取り入れた館のいくつかで従来の燻蒸処理よりも保存担当者の害虫モニタリング等の作業負担が増えてしまう問題も見受けられた。文化財 IPM を実践するには、

多くの人手が必要なため、館の職員全員が文化財IPMに関わるような意識改革が必要であり、それを啓発するような教育が必要であると感じた。また、相談案件の中には、基礎的な知識や対策があれば未然に防ぐことが出来たであろう事例も多く含まれていたことから、文化財の生物被害対策に関する基礎的な知識の習得を目指してポスター制作を行った。今後も文化財の虫菌害に関する調査・助言等と並んで生物被害に対する教育普及・啓発活動を強化する必要がある。

研究組織 ○佐藤嘉則、小峰幸夫（以上、保存科学研究センター）

保存科学研究センター

2-(5)-②-1)

## 文化財の修復及び整備に関する調査・助言(ホ)

**目 的** 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。

**成 果** 1. 平成29年度に実施した各地の国宝、史跡や重要文化財等の保存や修復に関する指導助言は以下のとおりである。

国宝高松塚古墳壁画、特別史跡キトラ古墳壁画、国宝臼杵磨崖仏、国宝銅造阿弥陀如来坐像（鎌倉大仏）、国宝平等院鳳凰堂、国宝東寺五重塔、史跡万田坑跡、史跡端島炭鉱跡、史跡屋形古墳群、史跡日岡古墳、史跡楠明重定古墳、史跡塚花塚古墳、史跡竹原古墳、重要文化財通潤橋、史跡石人山古墳、史跡桜京古墳、史跡薬師堂石仏附阿弥陀堂石仏、史跡観音堂石仏、史跡原城跡、史跡土佐藩主山内家墓所、史跡清戸迫横穴、史跡吉見百穴、重要文化財羅漢寺石仏、史跡下馬場古墳、史跡下総国分寺跡附北下瓦窯跡、史跡佐渡金銀山遺跡、史跡足尾銅山、史跡葦山反射炉、史跡萩反射炉、史跡東京湾要塞跡、史跡原爆ドーム、史跡東京湾要塞跡、重要文化財常願寺川砂防施設、重要文化財菅尾磨崖仏、重要文化財東慶寺文書重要文化財末広橋梁、重要文化財厳島神社大鳥居、重要文化財岩水寺所蔵木造地藏菩薩像内経、重要文化財伏見稻荷大社御茶室障壁画、重要文化財旧鶴岡警察署、重要文化財旧弘前偕行社、重要文化財泉穴師神社、重要文化財近代教科書関係資料、名勝錦帯橋、興福寺油汚損文化財、熊本県内被災古墳、重要文化財氷川丸、重要文化財日本丸、重要文化財琉球芸術調査写真、重要文化財埼玉県行政文書。

2. 地方自治体指定その他の文化財の保存と修復に関する指導助言は以下のとおりである。

臼杵市内キリシタン遺跡、堅田図旧襖絵屏風、日本航空協会所蔵「飛燕」、関市若栗橋、根津美術館蔵石造浮屠、慶応義塾大学蔵計算機、三原市磨崖和霊石地藏、東京国立近代美術館所蔵近代絵画、富山市大山恐竜足跡化石群、大阪新美術館準備室所蔵関根正二作品、東京国立博物館所蔵南蛮屏風図、福岡市名島橋、徳島市坂東俘虜収容所、南九州市知覧特攻平和会館所蔵紙資料。



東日本大震災で一度倒壊した後、再建された史跡・薬師堂石仏の覆屋

研究組織 ○朽津信明、北河大次郎、早川典子、森井順之、佐野千絵、倉島玲央（以上、保存科学研究センター）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター）

## 文化財の材質・構造に関する調査・助言(ホ)

**目 的** 様々な文化財資料について、その材質や構造を明らかにするために、科学的調査を実施する。可搬型の機器を用いて、文化財資料が置かれている場所での現地調査も実施する。

**成 果** 蛍光X線分析、X線回折分析による材質調査、及びX線透過撮影による構造調査などの調査・助言を実施した。調査終了後には報告書を作成し、分析依頼元へ提出した。調査を行った作品、所蔵先、調査月は以下の通りである。

## ○材質調査

- ・漆工品(文化庁、2017(平成29)年4月)
- ・染織品(文化庁、2017(平成29)年4月)
- ・障壁画(二条城、2017(平成29)年5月)
- ・金工品(名古屋城、2017(平成29)年6月)
- ・銅造物(大山寺、2017(平成29)年8月)
- ・壁画模写(東京藝術大学、2017(平成29)年10月)
- ・漆工品(東京国立近代美術館、2017(平成29)年10月)
- ・工芸品(文化庁、2018(平成30)年2月)
- ・歴史資料(文化庁、2018(平成30)年2月)
- ・工芸品(文化庁、2018(平成30)年2月)
- ・絵画(文化庁、2018(平成30)年2月)
- ・木彫像胸飾(文化庁、2018(平成30)年3月)

## ○構造調査

- ・絵画(國學院大学、2017(平成29)年7月)
- ・出土遺物(明治大学、2017(平成29)年8月)

以上、調査・助言件数 14件

**研究組織** ○犬塚将英、早川泰弘(以上、保存科学研究センター)

## 美術館・博物館等の環境調査と援助・助言(ホ)

国指定品の収蔵、展示を予定する30館を対象とした環境調査を行い、計31通の報告書を作成した。

熊本県立美術館、高岡市美術館、松江歴史館、高松市美術館、練馬区立石神井公園ふるさと文化館、岐阜県博物館、川越市立博物館、佐野市郷土博物館、中之島香雪美術館、豊岡市立歴史博物館、新潟市新津美術館、秋田県立近代美術館、安城市歴史博物館、MIHO MUSEUM、泉屋博古館分館、佐賀県立名護屋城博物館、三重県立美術館、八幡市立松花堂庭園美術館、中山道みたけ館、公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団、高知県立歴史民俗資料館、四日市市立博物館、兵庫陶芸美術館、米子市美術館、府中市美術館、佐賀県立佐賀城本丸歴史館、香雪美術館、金沢市立中村記念美術館、安芸高田市歴史民俗博物館

また、全国の博物館、美術館、社寺、その他文化財 収蔵施設の保存環境、及び新築・施設改修・増築な

どの相談に対して助言を行い、必要に応じた現地調査なども適宜行った。  
保存環境に関する相談件数 521件

研究組織 ○吉田直人、石井恭子、佐野千絵（以上、保存科学研究センター）

保存科学研究センター

2-(5)-④-1)

## 東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進(ホ)

目的 連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。

成果 1. 今年度開講した授業及び担当教員、受講者数

保存環境計画論（前期、火曜1限）	2単位	佐野千絵・吉田直人・佐藤嘉則	21名
修復計画論（前期、木曜1限）	2単位	朽津信明・早川泰弘	8名
修復材料学特論（前期、木曜2限）	2単位	早川泰弘・早川典子	7名
保存環境学特論（後期、火曜1限）	2単位	吉田直人・佐藤嘉則	7名
文化財保存学演習			

テーマ「水損文化財の生物被害軽減のための初期対応」、講師：佐藤嘉則、受講者 21名

日時：2017（平成29）年6月6日（火）13:00～17:00

2. 修士学生指導

英語論文輪講（前期、水曜3限） 2単位 佐野千絵・早川典子 システム保存学修士2年生対象  
修士論文指導 随時 システム保存学修士2年生対象

池田芳妃 「ポリウレタンフォームとシリコンゴムを用いた作品の調査と保存の検討

ー1980年代に制作されたマネキンについてー」

3. 入学試験

平成30年度東京藝術大学大学院美術研究科博士課程（前期・後期） 入学試験は実施せず。

4. 成績評価等、文化財保存学専攻運営への協力

教室会議参加（11回）、入試合同判定会議（2回）、博士・修士審査会への協力



講義風景

研究組織 ○佐野千絵、早川泰弘、朽津信明、吉田直人、早川典子、佐藤嘉則（以上、保存科学研究センター）





### 3. 外部資金等による研究活動

1. 科学研究費助成事業 .....	77
2. 受託調査研究・外部機関との共同研究及び外部資金による研究	107
3. その他の調査研究 .....	122
4. 刊行物等 .....	123



# 1. 科学研究費助成事業

研究種目	研究課題	研究代表者	頁
基盤研究(B)	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—	小林公治	79
基盤研究(B)海外	ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	前川佳文	80
//	ブータンの版築造建造物の類型と編年に関する研究	亀井伸雄	81
基盤研究(B)	酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発 —旧修理材料や微生物痕の除去—	早川典子	82
研究成果公開促進費	SAT 大正新脩大藏經 画像データベース	津田徹英	83
基盤研究(C)	ザグロス地域における農耕・牧畜の起源に関する考古学的研究	安倍雅史	84
//	虎塚古墳壁画の材質と保存環境に関する研究	犬塚将英	85
//	黒髪白肌の系譜—上村松園の技法と表現—	大河原典子	86
//	徳川將軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究	小野真由美	87
//	環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究	朽津信明	88
//	津波被災文書資料から発生するにおい物質の同定とその対策	佐野千絵	89
//	日本絵画における鉛白・胡粉の利用とその変遷に関する調査研究	早川泰弘	90
//	空間情報データベースによる文化財の災害被害予測の高度化及び 防災計画策定への応用	二神葉子	91
//	平安仏画の技法に関する画像情報による調査研究	小林達朗	92
挑戦的研究(萌芽)	紙本屏風の規格と表現・技法の研究	江村知子	93
挑戦的萌芽研究	実演用能装束の保存継承に関する研究—能楽の包括的継承の一指針として—	菊池理予	94
若手研究(A)	染織技術の伝承に関する研究—材料・道具に焦点をあてて—	菊池理予	95
//	墨、煤、膠の製法と性状の体系化 —伝統的製法の再現—	宇高健太郎	96
若手研究(B)	リアルタイム浮遊菌測定を用いた自然共生型博物館における ゾーニングについての研究	間渕創	97
//	放射光を用いた中央アナトリア出土鉄器に対する生産地同定法の開発	増渕麻里耶	98
//	紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発	貴田啓子	99
//	アイヌと和人の文化交渉史に関する研究 —明治期の和人によるイナウ奉納習俗を中心に—	今石みぎわ	100
//	イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究	山田大樹	101
特別研究員奨励費	墨、煤、膠の製法と性状の体系化	宇高健太郎	102
//	毘沙門天像の成立と展開—唐・宋・元から平安・鎌倉へ—	佐藤有希子	103
特別研究員奨励費 (外国人特別研究員)	2018 年出版予定の書籍のための、1989 年以降の日本の現代美術の研究	橘川英規	104
研究活動スタート支援	伝統木造建築技術の保存継承に関する日英比較研究	マルティネス アレハンドロ	105



## 対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—

**目 的** 「アジアの特産物」である「螺鈿」は、多源独立的に発生発展したのではなく、中心的・先進的地域の影響や技術・工人の移動を伴いながら消長を繰り返してきたと見られる。本研究ではこの問題を具体的に跡付ける事を目的とし、人類が地球的規模で移動を開始した15～17世紀（大航海時代）を中心として、日本本土や朝鮮半島、また沖縄や中国の螺鈿を取り上げ、人文学及び自然科学的方法により、螺鈿器に内包される交流の実態を明らかにしようとするものである。

**成 果**

- ・2017 (平成29) 年8月に、中国山東省荷澤市にて元代の内陸運河沈没船より出土した螺鈿漆器経箱の調査を行ったほか、済南市・開封市・洛陽市・北京市などで関連資料調査を行った。
- ・2017 (平成29) 年9月に、甲賀市藤栄神社所蔵十字形洋剣調査及び発表のため、ニューヨーク・メトロポリタン美術館のピエール・テルジャンニアン博士を招へいした。
- ・2017 (平成29) 年10月に、デンマーク・コペンハーゲンの国立デンマーク博物館等にて日本製漆器類、や細形長剣などの調査を、スウェーデンにて王室所蔵南蛮漆器調査などを、イタリア・ローマ市内及びバチカンにて、個人蔵南蛮漆器や関連資料の調査、また研究者との意見交換を行った。
- ・2018 (平成30) 年3月に、上記藤栄神社所蔵十字形洋剣について報告用の画像撮影を実施した。



荷澤市博物館での調査



スウェーデン・グリッpsホルム城での調査

**報 告**・小林公治「ヨーロッパに伝わる日本の輸出漆器—南蛮漆器の謎にせまる」『公開シンポジウム「輸出漆器をめぐる文理融合の可能性」発表要旨集』pp.1-2 18.2

**発 表**・小林公治「ヨーロッパに伝わる日本の輸出漆器—南蛮漆器の謎にせまる」浦添市美術館特別講演会『スウェーデン王国の漆器と文化』 18.2.3 及び公開シンポジウム「輸出漆器をめぐる文理融合の可能性」 18.2.10

**刊行物**・金子皓彦、小林公治「輸出漆器としての駿河と会津の漆工芸」『西洋を魅了した「和モダン」の世界 明治・大正・昭和に生まれた輸出工芸品 金子皓彦コレクション』三樹書房 pp.98-125 17.11

**研究組織** ○小林公治、城野誠治 (以上、文化財情報資料部)、吉田邦夫 (東京大学総合研究博物館)、能城修一 (明治大学)、末兼俊彦 (東京国立博物館)、早川典子 (保存科学研究センター)



## ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立

**目 的** 両遺跡では近年、古代ローマ時代の壁画の特徴のひとつである多層塗り漆喰構造に起因して、複数層間での剥離が発生し、剥落損失の危機を迎えている。しかしながら、これまでに繰り返して行われてきた保存修復の結果、様々な修復材料が表層面を中心に堆積していることにより、従来の壁画保存修復技術では対処できない難しい状況にある。本研究では、当該遺跡に関する先行研究をもとに、作品への負担を最小限に抑えた形での堆積物除去方法の開発と、遺跡保存管理体制の確立を目指す。

**成 果** 4年計画の第2年次にあたる本年度は、ポンペイ及びエルコラーノ遺跡内の特定の壁画を対象としてさらに詳細な研究調査を実施するため、前年度の視察調査を通じて得られた情報をもとに、本研究に適した壁画として Casa di Apollo を選択した。

### 1. 古代ローマの壁画技法に関する調査

ポンペイ及びエルコラーノ遺跡の壁画には、漆喰層の剥離や剥落が多くみられる。古代ローマ時代の壁画には一般的に、砂やポズラン、ブリックパウダーなどの骨材と消石灰を練り合わせた漆喰が使用されており、多層塗り工法が採用されている。その結果、漆喰層が厚みをもつことから湿気などの水分が長時間内部に蓄えられる傾向にあり、これが炭酸カルシウムの溶解を促すことによって、各層間における剥離の発生に繋がっているものと推測された。

### 2. Casa di Apollo の壁画の保全状態に関する調査

目視による観察の結果、過去に修復が行われた痕跡が認められ、表面には大量の蜜蝋が塗布されていることを確認できた。Casa di Apollo は石積みによって壁が築かれており、壁画が描かれた漆喰層と壁の間にはテラコッタ製の絶縁層が組み込まれている。これは湿気による影響を抑制するために採り入れられた工法と考えられるが、にもかかわらず塩類の析出が目立ち、彩色層下において結晶化することにより粉状化が著しく進んでいる。蜜蝋が塗布されたことで吸放湿性能が大きく阻害され、このような損傷に繋がっているものと推測された。

### 3. 応急処置方法と保存修復方法の立案

上記のような損傷傾向は、ポンペイ及びエルコラーノ遺跡の壁画に共通してみられるものである。こうした状況を改善するための適切な応急処置方法と保存修復方法について、それぞれ草案を作成した。

**報 告**・Yoshifumi Maekawa, Guido Botticelli, Stefania Franceschini, Monica Martelli Castaldi: Progetto di studio e ricerca scientifica sulle metodologie di intervento per la conservazione, restauro e manutenzione delle pitture murali e finiture di superficie nell'area Pompeiana, Parco Archeologico di Pompei 17.9

**発 表**・前川佳文ほか「ポンペイ遺跡における壁画技法および保存状況調査」日本文化財科学会第34回大会 17.6.10-11

**研究組織** ○前川佳文、増渕麻里耶(以上、文化遺産国際協力センター)、朽津信明(保存科学研究センター)

## ブータンの版築造建造物の類型と編年に関する研究

**目 的** 本研究は、ブータン王国の伝統的版築造民家建造物を対象に、平面・立面・断面形式及び各部様式等を調査し、間取り・意匠・構造について類型化及び編年を試みるとともに、構造技法の年代的特徴を明らかにすることで、その相対的年代観の判定指標を確立することを目的とする。

**成 果** 研究第2年次である本年度は、ブータン西部地域所在の版築造古民家の全体的把握及び保存方策検討のため、カウンターパートである同国内務文化省文化局遺産保存課(DCHS)と共同で以下の現地調査及びワークショップを行った。

### 1. 第3回現地調査(2017(平成29)年5月29日～6月5日)

前年度調査で得られた情報をもとに、ハー県内での調査を行った。インゴ、バランマ、プドゥナの各村で計7棟の古民家を実測調査したほか、他村も含めて詳細調査候補物件として6棟程度を抽出した。同県において特徴的な、最上階の両側面版築壁が袖壁状に正面に達する間に木造開口部を組み込む外観形式を有する建物を中心に、増改築の経緯が辿れる物件を主に調査対象とした。

### 2. 第4回現地調査(2017(平成29)年8月18日～27日)

ティンプー県カルジ村にて村長級の古民家1棟を調査したのち、再びハー県での調査を行った。タルン、ハテイ、シャリ、タルンテ、ドムチュチェカ、アータムの各村で計11棟を対象に実測を含む詳細調査を実施した。今日全国的に最も一般化しているラブセルと呼ばれる出窓を持った形式へと改築された経緯を示す物件が多い中、特に古式を留める貴重な民家を発見することができた。

### 3. 第5回現地調査及びワークショップ(2018(平成30)年3月8日～15日)

ティンプー・パロ両県の7村にて計9棟の古民家を新規または補足調査し、一部では特に保護を要すると考えられる重要物件が荒廃に任されている状況を確認した。

その後、ティンプー市内の文化局庁舎でDCHSほか関係機関スタッフが参加する「ブータンの伝統的民家保存に関するワークショップ」を開催した。保護制度の現状や既往調査成果を共有するとともに、歴史的版築造民家建築の今後の保存方策について意見交換を行った。なお、この派遣は東京文化財研究所運営費交付金事業「アジア諸国等文化遺産保存修復協力」と連携して実施した。

**発 表**・Nobuo KAMEI: "Conservation of Traditional Houses in Japan" Workshop on Conservation of Traditional Houses in Bhutan, Department of Culture, Thimphu, Bhutan 18.3.13

- ・Satoshi UNNO: "Survey of Traditional Houses in Bhutan: Outline and Methodology" 同上
- ・Tsuguto EZURA: "Transformation Process of Traditional Houses in Bhutan" 同上
- ・Masahiko TOMODA: "Proposed Structures for Protection as Heritage Buildings" 同上

**研究組織** ○亀井伸雄(所長)、友田正彦、マルティネス・アレハンドロ(以上、文化遺産国際協力センター)、江面嗣人、福本雅美、玉田匠(以上、岡山理科大学)、海野聡、前川歩、福嶋啓人(以上、奈良文化財研究所)

## 酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発―旧修理材料や微生物痕の除去―

**目 的** 本研究では、酵素を利用した文化財上の汚れ除去に関する基礎的な研究を行い、実際の修復現場における適用を目指す。文化財上の汚れの除去は保存修復において重要な作業の一つである。しかし作品本体を汚損するリスクを避けるため、安全に行える限定的な処置しかなされない側面もあり、十分な効果のあるクリーニングができずに終わる事例も多い。本研究では、酵素というきわめて選択的な化学反応をする生体触媒を用いることにより、喫緊の課題である安全で効果的な除去方法の開発を行う。酵素は反応選択性が高いため、汚れの種類を分析し、それぞれに効果のある酵素を探索した上、それらの文化財材料への影響まで含めて評価する必要がある。本研究ではこれらを包括的に研究し、文化財の保存修復への貢献を目的とする。

**成 果** 本研究は三つの調査研究から成り立つ。一つは材料化学的調査であり、除去対象とする汚れの化学構造の把握を目的とする。二つ目は微生物酵素学的調査であり、材料の分析をもとに酵素の選定やその機能の評価を行う。三点目は現場での適用である。

### 1. 材料化学的調査

本年度はアクリル樹脂の物性について化学分析を行った。文化財修復に多く使用されるアクリル樹脂のうちパラロイド B72 について強制劣化試験を行い、得られた試料を GC-MS 等の分析手法を用いて分析した。

### 2. 微生物酵素学的調査

本年度は、溶菌酵素を用いた絵画修復作業を実際の作品において適用した。近代の絵画において、カビの発生による着色汚損は、文化財修復の観点からは、水による洗浄を行うほか手段がなかった。東京国立近代美術館の協力を得て、このような症例において溶菌酵素を用い、それによりカビ痕の除去が可能となった。使用された酵素については、顔料や文化財修復に用いる接着剤への影響はない酵素群を選抜して用いた。

また、劣化して不溶化したポリビニルアルコールについて分解酵素の探索を行った。

### 3. 現場での適用。

上記に併せて記載。

**発 表**・Noriko Hayakawa, et.al : Application of the enzymes for removing polyvinyl alcohol (PVA) from the artworks, ICOM-CC triennial Conference 2017 17.9.6

・早川典子ほか「ポリビニルアルコール分解酵素の彩色・絵画修復への応用」文化財保存修復学会第38回大会 17.7.2

**研究組織** ○早川典子、佐藤嘉則、酒井清文、本多貴之（以上、保存科学研究センター）、川野邊渉（特任研究員）、山中勇人（大阪市立工業研究所）、木川りか（九州国立博物館）

## SAT大正新脩大藏經 圖像データベース

**目 的** 『大正新脩大藏經』図像編(全12巻)は、平安・鎌倉時代のさまざまな密教関係を中心とした仏尊の情報をはじめとした関係情報を収載する。しかし、公刊以来、紙媒体で大部に及ぶため、デジタル時代に対応した画像検索、情報検索が要請されてきた。そこで収載の諸尊図像の属性情報(頭髮・面数、臂数、持物、印相〈左右真手各指の屈曲の有無で対応〉、装身具・光背・台座)の入力・集積を行い、尊名の特定や類似尊容の類聚の便をはかる検索システムの構築・公開を目指す。併せて、現在、主要な国際的デジタルアーカイブ公開機関の間で採用が広がりつつある、極めて相互運用性の高い高解像度画像の共有規格であるIIIF (International Image Interoperability Framework) に準拠して公開することで国際的な次元での利用性を高める。

**成 果** 『大正新脩大藏經』図像編の絵引き検索を行うための入力ソフトの運用評価を行い、尊別マークシート入力項目改良を行うとともに、平成29年度は、第3・4・5巻収載の尊像分、ならびに、第6巻の一部(146頁まで)に及んで、所載の諸尊図像9248尊について絵引き検索のための尊別抽出(枠囲み切り取り)と名称タグ付け(図1)を行った。また、尊別の特徴項目(頭髮・面数、臂数、持物、印相、装身具、台座、光背)についてのマークシート(図2)入力を行った。

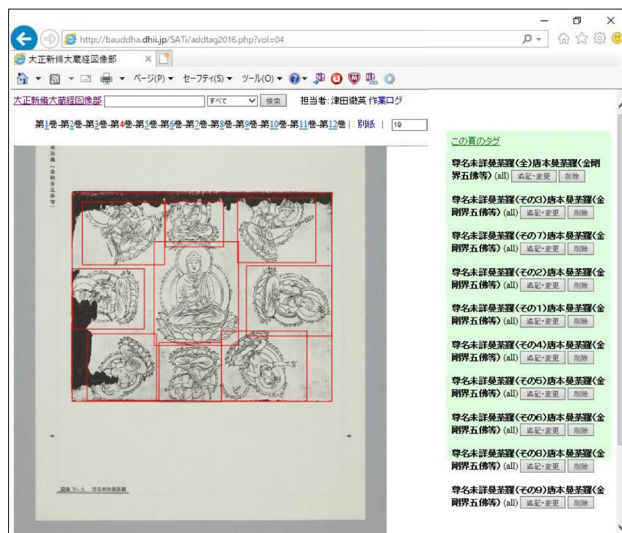


図1 各尊別抽出(枠囲み切り取り)と名称タグ付け

図2 尊別の詳細項目マークシート

**報 告・データベースの公開:** <http://dzkimgs.l.u-tokyo.ac.jp/SAT/images.php>

**発 表:** Nagasaki, Kiyonori; Tsuda, Tetsuei; Kitazaki, Yuhō; Muller, A. Charles; Shimoda, Masahiro: A Collaborative Approach between Art History and Literature via IIIF (Buddhist icons, IIIF, linking images with texts), Digital Humanities 2017, Montreal, Canada 17.8.8-11

**研究組織** ○津田徹英(文化財情報資料部)、永崎研宣(客員研究員)、下田正弘(東京大学)

## ザグロス地域における農耕・牧畜の起源に関する考古学的研究

**目 的** 西アジアの肥沃な三日月地帯は、地中海式農耕の起源地として知られている。1990年代には、肥沃な三日月地帯のなかでも、とくに西側のレヴァント地域（シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、パレスチナ）で最初に農耕・牧畜が開始されたと考古学会では考えられていた。

しかし、今世紀に入り急速に発展を遂げた遺伝子研究は、対照的に東側のザグロス地域（イラン、イラク）でも独自に農耕・牧畜が誕生した可能性を示している。これまで研究の空白地域であったザグロス地域における農耕・牧畜の起源及び同地域からの農耕・牧畜の拡散の具体的なプロセスを解明するため、イラン・ザグロス地域に入り考古学調査を実施している。

**成 果** 平成29年度は、初期農耕村落址ホルマンガン遺跡に関する調査を実施した。ホルマンガン遺跡は、イラン南西部、ザグロス地域南部ファールス地方にある土器新石器時代前半、前7千年紀後半のテル型の遺跡である。2016年に、テヘラン大学のモルテザ・ハニプール氏によって発掘調査が実施された。

今年度は、研究代表者の安倍がホルマンガン遺跡出土の打製石器の分析を、総合研究大学院大学の新井才二が動物骨の分析を実施した。

ファールス地方では、前8千年紀後半には、すでに農耕・牧畜が開始されていたことが知られている。しかし、前7千年紀後半のホルマンガン遺跡の動物骨を分析した結果、野生獣であるオナガーとガゼルが動物骨の大半を占めていることが判明した。

これは、8.2ka イベントと呼ばれる小氷河期の影響であると推測された。前6200年前後に乾燥・寒冷化が急激に進んだ結果、生業のなかで野生獣狩猟の占める重要性が高まったためだと思われる。

この変化は石器にも如実に現れている。ファールス地方では伝統的に細石刃と石刃が生産され、細石刃は狩猟と、石刃は農耕と結びついていた。前8千年紀後半に農耕・牧畜が開始されると、細石刃が徐々に生産されなくなり、石刃の割合が増加していく。しかし、ホルマンガン遺跡では、細石刃の割合が極めて高く「再細石器化」とも呼べる現象が起きている。これは、明らかに、8.2ka イベントの影響を受け、野生獣狩猟の重要性が高まったことと関連していると結論付けられた。

今年度はさらに、ホルマンガン遺跡の石器資料及び動物骨資料の分析と併せ、イラン・クルデイスタンにあるルワル遺跡の放射性炭素年代測定も実施した。

**研究組織** ○安倍雅史（文化遺産国際協力センター）



## 虎塚古墳壁画の材質と保存環境に関する研究

**目 的** 茨城県ひたちなか市の虎塚古墳では、近年、壁画の一部に劣化現象が進行している可能性が示唆されてきた。これまでの先行研究により、壁画の構造と材料に関する知見は得られたが、劣化のメカニズムについては十分に解明されているとは言えない。本研究の目的は、虎塚古墳壁画のより良い保存環境の設定を検討するために、壁画の劣化のメカニズムを明らかにすることである。

**成 果**

1. 壁面水分量の測定手法の開発
  - ・壁面の水分量を非接触な手法を用いて自動計測を行うための小型計測器の開発を進めた。
2. 虎塚古墳石室内で採取された落下物の調査
  - ・虎塚古墳では石室内の側壁近傍の床面にポリカーボネート製のシートを設置して、落下物の採取を継続的に行っている。これらの資料の顕微鏡観察、重量測定を行った。また、石室内における落下物の分布や季節変動についての検討も行った。
3. 虎塚古墳壁画を模した試験片の作成と基礎実験
  - ・劣化のメカニズムを調べるために、虎塚古墳壁画を模した試験片の作成を行った。
  - ・虎塚古墳の石室内の環境を想定し、高湿度条件下に試験片を設置し冷却して、強制的に結露を発生させて、壁面表面に生じる劣化現象の有無の検証実験を開始した。
4. 茨城県の古墳の調査
  - ・虎塚古墳との比較のために、同じような気象条件におかれている茨城県水戸市近辺にある古墳の温湿度環境等の調査を実施した。
  - ・また、上記の試験片をこれらの古墳に1年間にわたり設置を行い、結露や劣化現象の有無のモニタリングを行った。
5. 国指定史跡 中田横穴の調査
  - ・劣虎塚古墳壁画のような白色下地層にベンガラによる彩色が施されている装飾古墳の類例は全国でも極めて少ない中で、福島県いわき市にある国指定史跡・中田横穴は虎塚古墳と類似した彩色を有する数少ない装飾古墳であると言える。虎塚古墳との比較のために、中田横穴の視察を実施し、装飾の状態、温湿度環境、壁面水分量、微生物に関する調査を行った。

**研究組織** ○犬塚将英、佐藤嘉則(以上、保存科学研究センター)、谷口陽子(筑波大学)、矢島國雄(明治大学)

## 黒髪白肌の系譜—上村松園の技法と表現—

**目 的** 上村松園が活躍した近代日本画壇では、西洋絵画の影響と大会場での公募展覧会を発表の場とする新潮流が興り、近世までの絵画と比較して作品が巨大化した。巨大化した画面に対応するように新しい材料、技法、表現が生まれたと考えられる。しかしこれまで、その新しい技法表現に関する学術的な研究はほとんどされてこなかった。

明治から大正期の日本画材について少しずつ新知見が蓄積される中で、同時代の中核となる画家、上村松園の技法材料とその表現を調査分析し、芸術性を技術面から解明する必要性を大きく感じるようになった。また、上村松園作品の多くが制作されてから100年前後を経過し、平成28年度から東京藝術大学大学美術館所蔵「序の舞」(国指定重要文化財)が修復されるなど、作品群が修復時期を迎えつつある。この現状を踏まえ、松園の技法を分析することは作品をよりよいコンディションで修復するために必要不可欠となっている。また、技法や表現を解明するには、画材の科学的な分析に加えて、日本画実技に立脚した技法の実証実験による結果を集積することが重要であると考え。

本研究では、スケッチ、模写、下絵、本画作品を調査し、上村松園の使っていた技法とその表現の種類について分析する。それを日本画実技による再現実験によって検証し、松園の技法と表現の特徴を明らかにしたい。さらに、技法材料の同定、絵画構造、表現効果の研究成果は所蔵先の博物館及び美術館と共有して、作品展示や修復に活用できることを期待している。

**成 果** 今年度は本画作品の科学調査を中心に、描画表現についての考察を行った。調査できた作品は、東京国立博物館所蔵「焰」(1918(大正7)年、松園43歳)、J R西日本所蔵奈良ホテル保管「花嫁」(1935(昭和10)年、松園60歳)の2点で、蛍光X線分析、顕微鏡画像撮影、赤外線撮影を実施した。

1. 「焰」からは伝統的な画材のほかに、クロムやケイ素などが検出された。これらは江戸後期から明治に入って新しく用いられた顔料で、人造絵具の一種と思われる。これらの色は黄緑や薄紫で彩度、明度が中程度の曖昧な色味に多く用いられていた。黄緑や紫は明治後期から使われ出した新しい顔料に依っている可能性が高く、松園が新しい材料を取り入れていたことがわかる。顕微鏡撮影で確認した技法としては艶墨を用いて瞼や黒目、お歯黒を光らせる、白目部分に金泥を用いるという松園独特の質感へのこだわりが感じられた。また絵具層は薄く、絹目が露呈するほどながら、美しいグラデーションが作られている様子も見られた。
2. 「花嫁」は、主に帯部分の黄緑からケイ素やクロムなどが検出された。赤色から検出された元素は1種類だが、目視認識では5種類ほどの違いがあった。金泥は4号赤金と青金が使いつけられていた。彩色技法では、黒無垢の手前部分(絵画空間のなかで鑑賞者に近い場所)には絵具を厚く塗り、影や奥になる部分は薄めに塗る傾向がみられた。こめかみの髪の生え際部分では、顔の白色グラデーションからほぼ絹地に移り変わり、そこから具墨や艶墨で髪の描き起しを行っている様子がうかがえた。細部の質感へのこだわりとしては、唐織帯の織糸のふっくらとした量感や鈍く光る質感、びらびら簷に雲母を使用して立体感と艶感を出していた。高年期の作品で技術的にも円熟していると思われ、必要最低限で最大の効果を生むような絵具の使用感であった。
3. 縮図帖については新たに6冊分の分類を開始した。主に墨線による模写と色彩名の書き込みが多く、モチーフと文字の種類の分析を進めている。模写部分の原本特定は来年度の課題である。

**研究組織** ○大河原典子(客員研究員)、高林弘実(京都市立芸術大学)、宮廻正明(東京藝術大学)

## 徳川将軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究

**目 的** 古来、由緒ある優れた文物を「名物」と称し、その伝来や格付けを記した「名物記」などが編まれてきた。なかでも朝廷、将軍家の有する名物は、「御物」として特別視され、今日、それらの目録「御物集」は、権力と文物の関わりを知るうえで欠くことのできないものとなっている。慶長8年(1603)に徳川家康が征夷大将軍に任ぜられたことは、徳川将軍家が新たな「御物」を形成することをも意味した。徳川将軍家が所持する名物・道具類は、近代以降「柳営御物」と称されるが、その全貌はいまだ不明なところが多い。

本研究は、柳営御物が形づくられるなかで、「御絵師」すなわち御用絵師の役割がいかなるものであったかを、「柳営御物集」諸本や、現存する鑑定控「探幽縮図」「常信縮図」などから明らかにしようとするものである。献上・下賜という幕府の贈与システムのなかで、「鑑定」及び「下賜品の制作」を行った御用絵師の役割は看過できない。とくに柳営御物のほとんどを焼失することとなった明暦の大火後、献上品によって再構築されていた柳営御物の様相を探ることで、幕府の贈与システムと御用絵師の役割という江戸文化の重要な一側面を明らかにする。

**成 果** 本年度は、昨年度の調査をふまえ、諸史料の判読やデジタルデータ化を行った。

1. 「柳営御物集」諸本のひとつ『銅御蔵御掛物御歌書極代付之帳』(東京文化財研究所)の判読を行った。また、柳営御物の基本とみられる『御数寄道具之帳』(東京大学附属図書館)、『明暦大火焼失茶道具目録』(篠山市立青山歴史村)の判読を併せて行い、それらをデジタルテキスト化した。
2. 狩野探幽と大名茶人であり幕府重臣であった永井尚政の交友に着目し、探幽筆「草花生写図巻」(東京国立博物館)、「草花生写図巻」(京都国立博物館)の注記や、永井家関連資料を調査、ふたりの交友と古画・名物の鑑定について考察した。
3. 前年度にひきつづき「探幽縮図」「常信縮図」のデジタルデータ化をすすめた。とくに「探幽縮図」のうち「梅竹菓子図巻」(東京国立博物館)のすべての注記を判読し、同巻所載の一図と「枇杷図」(フリーア美術館)との関連をみいだした。
4. 狩野常信のやまと絵作例及び中国故事人物画における画風展開を調査した。とくに「源氏物語図屏風」(イザベラ・スチュワート・ガードナー美術館)を実見し、やまと絵技術と漢画技術の融合が高度に行われていることを確認した。そのなかで常信作品における水墨表現の意義について考察を深めた。

**論 文**・小野真由美「《研究ノート》狩野探幽と永井信斎尚政——御用絵師と大名茶人の交友——」『MUSEUM』672 pp.57-67 18.2

・恵美千鶴子「世尊寺家の書② 藤原定信筆「戊辰切」」『BIOCITY』73 pp.110-113 18.1

**発 表**・小野真由美「描かれた枇杷図——狩野探幽と江戸の再生」第51回オープンレクチャー 17.11.3

**研究組織** ○小野真由美(文化財情報資料部)、恵美千鶴子、横山梓(以上、東京国立博物館)

## 環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究

**目 的** 古墳内部に生息する緑色生物が、繁茂しにくい環境を明らかにして与えることで軽減し、それにより古墳の公開活用の促進に寄与することを目的とする。

- 成 果**
1. 国指定史跡・石人山古墳において、緑色生物が繁茂している箇所やしていない箇所など、様々な地点の環境データを取得し、それぞれの条件の年積算照度の値を具体的に把握した。
  2. 現地に設置したテストピースについて、一年後の生物繁茂状態を記載した。
  3. 石人山古墳で観察された緑色生物を塗布した状態のテストピースを現地の各地点に設置して、一年後の生物の状態を観察した。その結果として、いずれの地点でも緑色生物は減少し、それに伴うカビなどの発生も認められなかった。
  4. 関連として、国指定史跡・フゴッペ洞窟においても同様の計測によって、緑色生物が繁茂する箇所としない箇所との年積算照度の値を得た。
  5. 関連として、国指定史跡和歌山城跡にある穴蔵状遺構において、藻類が繁茂する箇所としない箇所との分布域を調査し、それぞれの照度と水分条件を調査した。

以上の計測から、石人山古墳で緑色生物が繁茂するに至ったのは、かつては年間積算照度が  $10^4$  lxh だったところが、2004 (平成 16) 年に墳丘上の樹木剪定を行ったことによって年間積算照度が  $10^5$  lxh に上昇したことに伴って引き起こされたと判断され、今後は、湿度条件を変えないように留意しながら覆屋入り口に適切な光対策を行うことによって年間積算照度を  $10^4$  lxh 程度に戻すことができれば、カビなどの弊害を生むことなく緑色生物を軽減できる可能性が示唆された。



一年後に緑色生物が減少したテストピース

**発 表**・佐藤嘉則、西澤智康、小沼奈那美、犬塚将英、森井順之、木川りか、朽津信明「石人山古墳装飾石棺表面の微生物群集構造解析」文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1

**刊行物**・科学研究費補助金 課題番号 15K01140 基盤研究 (C) (一般) 『環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究研究成果報告書』 18.3

**研究組織** ○朽津信明、犬塚将英、森井順之、佐藤嘉則 (以上、保存科学研究センター)、西澤智康 (茨城大学)、脇谷草一郎 (奈良文化財研究所)



## 津波被災文書資料から発生するにおい物質の同定とその対策

**目 的** 津波被災資料の臭気について、悪臭物質の同定、悪臭の元となる原料物質の想定、悪臭の発生メカニズムの推定、及び悪臭物質の除去方法について総合的に研究し、水損被災資料の一時保管場所、安定化処理後の一時保管場所の必要条件の解明に資する。

**成 果** 昨年度までの研究成果から、津波被災紙資料に残存した栄養物が腐敗して悪臭が生じていることがわかったので、想定した嫌気性発酵が水に浸漬中に進んでいるのかどうか、①細菌の繁殖数の把握、細菌種の同定、及び②細菌繁殖に適した水温の保持時間、③水中の溶存酸素量の消費、④栄養物の組成と由来の推定、について検討した。

安定化処置の水浸作業中に、1時間おきに3時間まで、また24時間後の細菌数をカウントしたところ、3時間まではあまり増加しないが、24時間後には3桁程度増殖することが明らかになった。細菌の繁殖に適した30～40℃の水温の保持時間は8時間に及び、現行の処置方法を改善する必要があることがわかった。特に泥のついた被災資料は、前処理が必要であることがわかった。水中の溶存酸素量は、処置の場所に供給される水質によって異なるものの処置中にほとんど変化しないことがわかった。津波被災資料に付着している栄養物については、被災紙資料に付着した砂を集めて脂肪酸、糖、アミノ酸分析を行ったところ、遊離脂肪酸・構成脂肪酸は検出されず、わずかな種類の遊離糖、構成糖は多種類、検出された。遊離アミノ酸は検出されなかったが、多種類の構成アミノ酸が定量でき、その成分組成を各種海産物の生食用皮付きの組成データと比較したところ、漁港の主要海産物と相関があると思われる結果を得た。

本研究の最終成果として、脱塩のための安定化処置法として、これまで約7日かかっていた処置を、およそ2日で同程度の処置が可能となることがこの研究により明らかにでき、津波被災紙資料の安定化処置について必要な改良を加えていく方向性を定めることができた。



脱塩処理中の資料の様子

**論 文**・内田優花、佐野千絵、赤沼英男「津波被災紙資料洗浄水の分析—塩化物イオン濃度と細菌数—」『保存科学』57 pp.169-179 18.3

**発 表**・内田優花、佐野千絵、赤沼英男「津波被災紙資料から発生する臭気について—安定化作業中の処理水の分析」日本文化財科学会第34回大会 17.6.10-11

**刊行物**・『安定化処理-大津波被災文化財保存修復技術連携プロジェクト—2018増補版』津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会 pp.77-80 18.3

**研究組織** ○佐野千絵、内田優花(以上、保存科学研究センター)、赤沼英男(岩手県立博物館)

## 日本絵画における鉛白・胡粉の利用とその変遷に関する調査研究

**目 的** 日本絵画の彩色材料の中で、白色材料としては鉛白・胡粉・白土の3種の顔料が古くから用いられてきた。この中で、鉛白と胡粉はその用途や主たる利用時期が大きく異なっていることが明らかになりつつある。そこで本研究では、各時代を代表する日本絵画を非破壊・非接触の科学的手法によって調査し、用いられている白色顔料の種類と用途を明確にするとともに、時代ごとの鉛白・胡粉の利用目的や適用範囲を整理し、これまで漠然と認識されていた日本絵画における鉛白・胡粉の利用状況の実態を明確にすることが目的である。

**成 果** 本研究課題の最終年度として、日本絵画における白色材料の利用実態を明らかにするために、以下の調査を実施した。また、これまでに蓄積した膨大な調査研究成果（日本絵画 200 作品以上）について解析を進め、高精細画像と科学分析結果を併せて、出光文化福祉財団 出版助成により出版を行った。

### 1. 平安～鎌倉期仏画の調査

国宝に指定されている平安～鎌倉期の仏画、普賢菩薩像（東博）、孔雀明王像（東博）、阿弥陀聖衆来迎図（有志八幡講）、山越阿弥陀図（禅林寺）について、高精細画像撮影及び蛍光X線分析による彩色材料調査を行った。すべて鉛白が使われていることが確認された。また、平安仏画における頭光表現、及び悉皆金色の表現についても、新たな知見を得ることができた。

### 2. 高麗仏画の調査

日本絵画との材料・描写の比較検討を行うために、高麗仏画の大作・楊柳観音像（鏡神社、重要文化財）の高精細画像撮影及び蛍光X線分析による材料調査を行った。使われている白色顔料は鉛白だけであることが確認された。また、観音の顔や肉身に厚く塗られている金色材料に関する詳細な情報を得ることができた。

### 3. 室町期絵画の調査

鉛白から胡粉への白色顔料の転換期に近い室町時代の絵画を精力的に調査した。狩野元信筆の酒伝童子絵巻（サントリー美術館、重要文化財）では白色顔料としては胡粉が使われているが、緑色顔料の下層に鉛白と思われる白色顔料の存在が見出された。また、日月山水図屏風（金剛寺、重要文化財）では平滑な白色部分に胡粉、盛上げの白色部分に鉛白という、これまでの理解とは逆の利用が見出され、白色顔料の転換点に近い時期での鉛白・胡粉の利用状況について、新たな知見を得ることができた。

### 4. 調査研究成果の解析と公開

これまでに蓄積した膨大な調査研究成果（日本絵画 200 作品以上）について解析を進め、出光文化福祉財団 出版助成により『Color&Material—日本絵画の色と材料—』を出版した（2018（平成30）年3月）。

刊行物・早川泰弘、城野誠治『Color&Material—日本絵画の色と材料—』出光文化福祉財団 360p 18.3

研究組織 ○早川泰弘（保存科学研究センター）、城野誠治（文化財情報資料部）



## 空間情報データベースによる文化財の災害被害予測の高度化及び防災計画策定への応用

**目 的** 本研究では、文化財の所在地及び属性に関する空間情報データベースと、自然災害、特に地震や地滑り、洪水、台風による文化財の被災履歴、これらに加えて、各機関から提供されている自然災害の将来の発生予測の情報との連携を通じた、文化財の災害被害の軽減に対する文化財データベースの効率的な活用方法の提案を目的とする。具体的には、これまでに構築してきた文化財GISデータベース及び確率論的地震動予測地図を基礎として、地震以外の自然災害の情報とも連携させ、総合的な文化財防災のためのリスクコミュニケーションに貢献するような地理情報データベースの構築と提供を試みる。

さらに、このような空間情報データベースとの連携により、世界遺産一覧表記載への推薦書や保安全管理状況報告書のような、簡潔でわかりやすい説明が求められる場面においても活用可能な防災計画の策定を目指す。

**成 果** 平成29年度は、イタリアでの聞き取り調査、研究者の招へい及び学会での成果発表を行った。

1. 2017(平成29)年11月13日～19日にイタリアでの聞き取り調査を実施した。

ア. ローマ第3大学建築学部において、同学部の Camillo Nuti 教授との打ち合わせを行った。2016年8月24日にイタリア中部のノルチャ付近で発生した地震(イタリア中部地震: Terremoto Centro Italia)の際の建造物の被害状況調査やピサの斜塔の地震対策について、及びイタリアでの文化財レスキュー事業の公的な枠組みについて、東京文化財研究所及び国立文化財機構の関係の専門家も交えて日本での情報共有を行うこととした。

イ. Centro Universitario Europeo per i Beni Culturali(文化財のためのヨーロッパ大学センター)の Ferruccio Ferroggi 氏とラヴェッロに所在する同センターで面会し、同センターの組織の概要について、及び文化財防災に関連して、伝統的な建造物防災手法の調査などの取り組みについて話を聞いた。

ウ. ICCROM 出向中の西川英祐氏と面会し、建造物防災に関する情報発信について話を聞いた。

2. 2018(平成30)年1月28日～2月2日、Camillo Nuti教授(ローマ第3大学建築学部)を日本に招へいし、1月29日、31日に東京文化財研究所、京都国立博物館でそれぞれ話題提供を行った。このうち、京都国立博物館では「アマトリーチェでの2016年8月の地震の際の建造物の損傷、及びイタリア文化財省のレスキュー組織」と題し、話題提供のほか文化財防災ネットワーク推進事業関係者との意見交換を行った。

3. 東北芸術工科大学で開催された日本文化財科学会第34回大会に参加し、6月10日・11日の両日、ポスターセッションでの研究成果発表「国指定文化財12城の地震ハザードカルテによる危険度評価」を行った。

**発 表**・二神葉子、隈元崇「国指定文化財12城の地震ハザードカルテによる危険度評価」 日本文化財科学会第34回大会 17.6.10-11

**研究組織** ○二神葉子(文化財情報資料部)

## 平安仏画の技法に関する画像情報による調査研究

**目 的** 平安仏画を研究対象に、従来の写真やすでに公開されている一部のデジタル画像では見ることの不可能な、素材と技法の詳細について、肉眼での直接観察をも超える、精度の高い、かつ光源に配慮した独自の画像を取得し、これを美術史的観点から研究する。

特に、絵具と金銀の材質、及びその技法の詳細を究明し、繊細華麗であることによって日本美術史上特に高く評価されている平安仏画の美しさが立脚しているものを認識し、その表現性と技法の具体を連関させて考察することにより、平安仏画が指向していたものを従来よりも踏み込んで明らかにすることを目指す。

### 成 果 1. 東京国立博物館蔵孔雀明王像の検討

すでに高精細カラー画像撮影を行ったものについて、検討を行った。孔雀羽部の金泥に大きなむらがあるものが使用されていること、光背に目視では認識しがたい精細な色彩が使われていることなど、美術史的視点に立って平安仏画の性質を考える材料を得ることができた。また、細かな描写変更が行われていることが、従来指摘されていることについて考察を行った。これはむしろ、仁和寺の大師様図像が重視されていたことのあらわれであり、裏腹の関係といえ、従来比較される宋代の孔雀明王との違いについて考察を行った。

2. 東京国立博物館蔵・国宝普賢菩薩像千手観音像、孔雀明王像について、全図分割高精細カラー撮影のほか、近赤外画像、蛍光画像、及び普賢菩薩像、孔雀明王像について蛍光X線分析を東京国立博物館との共同研究の一環として調査取得した。次年度以降の公開を前提として、分析とその美術史的意義について考察してゆく予定である。



普賢菩薩像(部分) カラー高精細画像

**研究組織** ○小林達朗、城野誠治、江村知子(以上、文化財情報資料部)

## 紙本屏風の規格と表現・技法の研究

**目 的** 本研究では日本の屏風絵について、従来の研究では着目されることが殆どなかった、「紙の規格」という観点からその表現・技法についての考察を行う。国内外の中・近世屏風絵作品約500点についての本紙の情報を含むデータベースを作成し、従来の美術史研究の手法では踏み込めなかった問題や包括的研究における新機軸を打ち出すことを目的とする。絵に何が、どのように描かれているかはもちろん重要なテーマであるが、どのような本紙の上に描かれているのか、という着眼点は従来の研究では看過されることが多かった。しかしながら、本紙はその作品の真正性、制作当初の姿を伝える可能性の高い重要な材料と言える。長い時間を経過した古美術作品の、現在見えている表面には、修理や保存のため、また作品鑑賞上の改変等によって、制作当初からのこの時代に載せられたものが少なからず存在している。制作されてから全く何も手を加えられることがなく現存している古美術作品は存在しない、と言っても過言ではない。

本研究では屏風の用紙の大きさと紙継ぎの方法、また可能な範囲で、紙の材料(雁皮・竹・楮など)、修理の際に得られる情報などを収集する。素材としての情報を蓄積・整理・分析した上で、狩野派・土佐派・琳派などの流派による屏風絵作品を横断的に、紙の規格という観点から概観し、絵画としての表現と技法についての問題を考察する。

本研究の成果は襖や掛軸といった紙本絵画全体の研究にも発展的に応用できると同時に、実技の美術、文化財科学、保存修復、製紙技術史など、より広範な学問領域における研究の発展にも貢献できるように、情報の蓄積と公開を行う。

**成 果** 本年度は国立博物館等、公立の美術館・博物館に所蔵されている近世の屏風絵作品約200点についてリスト化した。またこれまでに代表者が従事してきた在外日本古美術品保存修復協力事業等で実見調査に及んだ屏風絵作品約70点について、リスト化し、データの取りまとめを行った。

また効率よく研究を推進するため、過去の調査研究報告書やインターネットの高精細画像公開のコンテンツ等も参照し、データの拡充に努めた。

さらに研究遂行上、必要な作品について実見調査を行うとともに、作品所蔵館の学芸員に作品情報の管理についての聞き取り調査を行った。本年度は下記の作品の調査を実施した。

「四条河原遊楽図屏風」(二曲一隻・個人蔵)、「四条河原遊楽図屏風」(六曲一双・個人蔵)、「白楽天図屏風」(六曲一隻・個人蔵)、「風俗図屏風」(六曲一双・個人蔵)、「山水図屏風」(六曲一双・個人蔵)、「玄宗楊貴妃図屏風」(六曲一隻・ミネアポリス美術館)、「源氏物語図屏風」(六曲一双・ミネアポリス美術館)、「厳島和歌浦屏風」(六曲一双・和歌山県立博物館蔵) ほか約30点。

**発 表** 江村知子「海を渡った日本絵画—ライブツィヒ民俗学博物館所蔵「四条河原遊楽図屏風」の紹介をかねて」 第51回オープンレクチャー 東京文化財研究所 17.11.2

**研究組織** ○江村知子(文化財情報資料部)

## 実演用能装束の保存継承に関する研究—能楽の包括的継承の一指針として—

**目 的** 本研究は、能楽の芸態を形成する上で不可欠な能装束の伝承における危機的状況に鑑み、その実態調査により、能楽を取り巻く文化財の保護に関する包括的な研究を行い、分野横断的な検証を加えることを目的とする。本研究はこれまで有形と無形に分断された保護体制の中で保護対象と看做されず、対応が遅れている実演用の能装束の保存継承に焦点を当て、染織研究、修復研究、能楽研究そして実演家により、その制作・保存管理・修復に関する情報の整理分析を行い、問題点を検証することにより、新たな修復方法を見出す。

**成 果** 最終年度である本年度は研究報告書の刊行と学会における発表を行った。主な成果は以下である。

1. **宝生家に伝来する能装束の修理状況等の整理**：宝生和英（シテ方宝生流第二十代宗家）、公益社団法人宝生会の協力を得て、ア．従来の修理の確認、イ．破損傾向とその原因の確認、ウ．実演家からの聞き取りによる確認、エ．実演用能装束の修理の提案を行った。能には決まった着装方法（出立）があり、それぞれの出立や所作（能の型）により負荷のかかる位置が固定するため、装束の種別ごとに立出を整理し、各装束の破損箇所について調査した。実演用能装束の修理では、舞台上で修理が目立たない配慮が肝要である。基本的には、補修裂が装束の素材のしなやかさを損なうことのないよう、素材の選択は十分留意すること、さらに、修理後の全体の強度は、完全には制作当初に戻らないことから、演能の際に、特に力のかかる箇所を想定した補強を行う必要がある。ただし、これらの修理方針の多くは、専門技術や素材に関わる知識が必要とされ、一つの装束に対して複数回以上の処置や修理が予測されることから、当初の姿を明確に記録し、新たな保存・修理計画を立てる資料となる「修理記録」が重要となる。これら「応急処置」も含めた修理は、主として専門家によって行われることが想定される。一方、能楽師や宝生会のお手伝いの方で行われる損傷を防ぐ予防的な処置や軽度の損傷に対する「応急処置」は、普及方法の検討が今後の課題である。さらに、予防処置方法の検討や素材研究は、オリジナルをいかに保つかという視点を持ち合わせる必要もあるため、今後修理の専門家にとって染織文化財の修理と連動しながら検討すべき新たな課題であるといえる。
2. **染織文化財の修理材料の調査**：染織文化財の修理材料の調査東京文化財研究所の資料閲覧室に所蔵されている美術工芸品の修理報告書（1965（昭和40）年～2013（平成25）年）から、染織文化財に関する修理の情報を抽出し、修理材料を整理した。修理情報からは、昭和40年代前半／昭和40年代後半から昭和50年代／昭和60年代以降と修理材料が変わってきていることが明らかとなった。
3. **染織文化財の修理材料（補修裂）の物性評価**：現在使用されている補修裂 17 種と JIS 添付白布（絹）を用いて、織組織の観察と物性（通気性、剛軟度、強伸度）評価を行った。結果、織の状態や糸の太さなどによって、物性が大きく異なることが明らかとなった。染織文化財や実演用能装束の選定は、補修に使用する生地求められる条件を明確にした上で行う必要があり、修理技術者との連携を深め、さらに多くの補修裂の情報を収集することが望まれる。

**報 告**・平成26～29年度 科学研究費 挑戦的萌芽研究『実演用能装束の保存継承に関する研究—能楽の包括的継承の一指針として—』本編（73p）・資料編（100p）2冊組 17.5

**発 表**・菊池理予ほか「実演用能装束の保存継承に関する研究—能楽の包括的継承の一指針として—」保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1-2

**研究組織** ○菊池理予、橋本かおる（以上、無形文化遺産部）、岡田宣世（女子美術大学）、田中淑江、後藤純子、長谷川紗織、田代斐音（以上、共立女子大学）、門脇幸恵（日本芸術文化振興会）、宝生和英（宝生会）、北島恭代（染織品保存修復技術者）



## 染織技術の伝承に関する研究—材料・道具に焦点をあてて—

**目 的** 本研究は染織品の様式変遷や模様の流行に関する従来の染織史研究を踏まえ、中世以降、日本各地に見られる染織技術がどのような伝播経路を辿りそれぞれの産地にもたらされたのか、そして産地に根付いた技法にはいかなる材料や道具が用いられてきたのか、工程はどのように分業され継承されていったのかに着目し研究を行うものである。本研究では特に染織技術をとりにくく材料や道具に着目し、産地間の比較検討や交流の情報を整理することで、染織技術の伝承について検証する。さらに研究対象を現在にも受け継がれる技術を主な対象に据えることで、染織技術を後世に受け継ぐ最善の方策を提示することを目指す。

**成 果** 江戸時代の藩政資料及び地方史、鎌倉時代以降の染織技法書と染織技法が描かれた絵画資料の調査研究、それらの技術に対応する染織品や実物調査、現地における染織技術調査を基盤として推進する。前年度は、1.日本における染織技法の分布(平成29年度版)の整理と実地調査、及び2.中世以降の日本における染織技法の分布の整理(染織技法書及び藩政史料等)を行った。本年度は2を中心に、全都道府県史から染織技術関連項目の抽出を行った。来年度は調査で得られた情報の整理を進める。

1. 現在の日本における染織技法の分布(平成29年度版)の整理と実地調査：昨年度整理した染織技法の分布に今年度の指定情報・解除情報等の確認を行い更新した。さらに、本年度は宮古島の苧麻栽培や糸績みの技術、友禅染の作家や職人に対して道具と材料に関する聞き取り調査を実施した。絹糸製作技術についても、岡谷蚕糸博物館の協力を得て9種の異なる道具による繰糸技術の記録作成を行った。来年度以降は、本年度の成果を生かして整理作業を進める。

2. 中世・近世・近代の日本における染織技法の分布の整理(染織技法書及び藩政史料等)：本研究に先立ち、申請者は科学研究費補助金若手研究(B)「染織技法の分業化の展開に関する基礎的研究—技法書・絵画資料・実作品の分析を通して」(平成21年度採択、平成25年度終了)を通じて、室町時代以降の文献(227件)にみられる染織技法や、技術の担い手、道具等に関する情報を整理した。その中で、指導を目的として技術者を招く事例等、技術の伝播を考える上でも重要な背景が確認された。本研究では新たに情報を補完すべく都道府県史を中心に染織技術の関連項目についての情報整理を行った。本年度は全都道府県史から抽出した染織関連項目の記述を内容ごとに分類した。主な項目は、特産品、日用品、工程、技術交流などである。抽出内容のうち、近世では東日本では麻、西日本では木綿を中心とした染織技術、商業の発展、栽培方法などの項目が多くみられた。道具については京都から各地へ高機が伝播している例が多くみられた。

絹に関しては、近世においては繭の育成技術を持った特定の地域のみで生産されていたが、幕末以降は海外輸出の影響により、主に群馬や長野、京都などから技術者が全国に指導へ行き生産技術を伝えたため全国的に生産されるようになっていたことが確認された。

来年度以降はこれらの情報を、当該地域によって担っていた職掌なども考慮しながら染織技術の伝播について引き続き検討していく。

**報 告**・菊池理予「일본 마의 현황 문화재보호법을 통해 본 마의 보호 日本における麻—無形の文化遺産保護という視点から—」『한국과 일본의 인류무형유산 모시짜기 韓国と日本の人類無形遺産 カラムシ織り』 pp.160-167 (ハングル)、pp.168-175 (日本語) 韓国無形遺産院 17.8

・菊池理予「友禅染と青花紙の関わりに関する一試論」『無形文化遺産研究報告』12 pp.23-39 18.3

**発 表**・菊池理予「東京文化財研究所における染織技術の記録」『日本における染織文化財の保存』研究会 佐賀大学 17.7.29

**研究組織** ○菊池理予(無形文化遺産部)

## 墨、煤、膠の製法と性状の体系化—伝統的製法の再現—

- 目 的**
- ・墨、煤、膠の製造技術は、製品の性状と、それが使用された各時代の書画文化財の表現や芸術性に大きく影響している。本研究ではこれらの関連について実践的に体系化する。製膠技術史、製墨技術史を踏まえた新しい知見に基づく書画研究の可能性を拓き、さらに文化財修復への応用展開を目指す。
  - ・膠については、過年度研究を踏まえてさらに広範な製造条件下での試作を行い、製造条件と物理化学特性、用途適性の関係について体系化を進める。また再現製造した松煙煤の性状を明らかにし、既報で扱った各試料との性状の相違を、墨として使用した際の表現効果への影響を含め実践的に明らかにする。

- 成 果**
1. 膠試料の試作と分析を過年度研究から継続して進めた。また各膠試料について複数の日本画制作者や文化財修復技術者らによる用途適正評価を行い、用途適性と物理化学特性の関係解明を進めた。膠の製造条件や物理化学的性質、原料からの抽出所要時間等と、修復材料や絵画材料としての用途適性や安定性との関連を体系的に明らかにした。
  2. 過年度製造の松煙煤試料中に、製造設備由来と思われる繊維質夾雑物が認められたため、前年度に引き続きこれの除去を行った。また墨試料の製造を、当該年度までに得られた膠及び煤を使用し各条件下で行った。さらに恒温連続混練装置による墨試料の製造条件検討等を進めた。
  3. 当該研究等における成果をもとに、膠の基礎知識に関する講演3件を行い、国内外において当該伝統材料に関する啓蒙を図った。
  4. 日本絵画文化財3件について、剥落止め処置に使用される膠試料の選定ならびに製造提供を行った。
  5. 近代日本画文化財2件について、剥落止め処置に使用される膠試料の選定ならびに製造提供を行った。
  6. 木材彫刻文化財若干件について、彩色部の剥落止め処置に使用される膠試料の選定ならびに製造提供を行った。

- 講 演**
- ・宇高健太郎「修復用膠の基礎科学」平成29年度宮内庁正倉院事務所講習会 17.9.21
  - ・宇高健太郎「Basic Knowledge about Animal Glue -Categories and Production Methods-」  
Making Animal Glue for Painting and Conservation: Traditional Production Methods and Modern Applications in Japan (Freer Gallery of Art and Arthur M. Sackler Gallery, Smithsonian Institution) 18.2.14
  - ・宇高健太郎「中国及び欧州における膠の現状」膠文化研究会第10回公開研究会 17.10.29
- 発 表**
- ・宇高健太郎、早川典子、半田昌規、岡泰央、藤井佑果、小笠原具子、亀井亮、半田幾子、宇和川史彦、柏谷明美「膠の性状と装演における適性の関連」(一部)文化財保存修復学会第39回大会 17.7.1-2
  - ・宇高健太郎、早川典子、柏谷明美、半田昌規、岡泰央、小笠原具子、亀井亮子、半田幾子、宇和川史彦、藤井佑果「膠を用いた模擬劣化彩色体の調製方法」(一部)文化財保存修復学会第39回大会 17.7.1-2
- 刊行物**
- ・宇高健太郎、早川典子、北田克己、協力: 森田恒之、荒井経、稲葉満政、半田昌規、齋藤典彦、翻訳: 松原美智子「Basic Knowledge about Animal Glue」膠文化研究会 18.1.27

**研究組織** ○宇高健太郎(日本学術振興会特別研究員)



## リアルタイム浮遊菌測定を用いた自然共生型博物館におけるゾーニングについての研究

**目 的** 自然共生型博物館では、微生物（主にカビ）の発生源である林（里山・鎮守の森等）に囲まれており、またこれをフィールドとした博物館活動のため、野外由来微生物による汚染許容区画と清浄維持区画の明確な区分による微生物管理が必要になる。

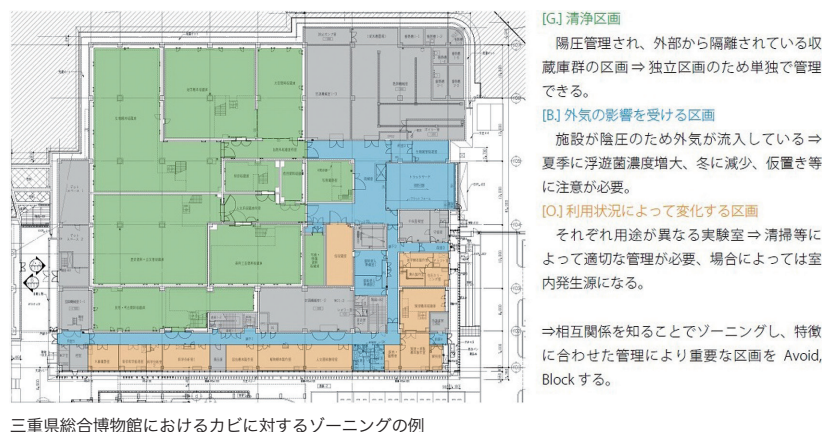
本研究では連続的な浮遊菌濃度の測定が可能であるリアルタイム浮遊菌測定を取り入れることで、より正確性の高いゾーニング手法の検討を行う。

**成 果** 本研究は3年間での遂行を計画し、(1)リアルタイム浮遊菌測定と従来法による浮遊菌濃度の相関、(2)モデル施設における瞬間的・短時的な影響を与える要因の抽出と定量化、(3)ゾーニングのパイロットテストと自然共生型博物館への適用するための汎用性の検証の3項目をサブテーマとした。

第1年次である平成27年度は、同一区画内であれば従来の培地法による浮遊菌測定と非培養法であるリアルタイム浮遊菌測定法（バイオエアロゾル測定）に相関がみられることや、短時間的な微生物環境の変化の検出にはバイオエアロゾル測定が有利なこと、博物館施設では区画によってバイオエアロゾルに含まれる浮遊菌の存在比が大きく異なる場合があり、単純に代替することとはできないことなどが明らかになった。（『保存科学』55, p.103, 2015）

2年次では、モデル施設において瞬間的・短時的に変化する外気由来微生物や来館者の影響の把握について実験を行った。施設内の隣接する3つの区画にバイオエアロゾル測定器をそれぞれ1台ずつ設置し、同時に測定を行うことで、外気の影響を受ける区画や展示室とその周辺の区画について定量的な分類が可能であった。また来館者を要因とした、展示室における一日のうちのバイオエアロゾル変化を検出できることができた。これらによりバイオエアロゾル測定を用いることで、博物館施設における、より正確性の高いゾーニングが可能であることが示唆された。（『保存科学』56, p.89, 2016）

3年次である平成29年度は、モデル施設である三重県総合博物館の施設平面においてバイオエアロゾル測定によるゾーニングを行い、汎用性の検証を行った。複数台のバイオエアロゾル測定器を同時に使い、その相関をみることで博物館施設内の区画の分類が可能であり、数値的根拠をもとにした、従来よりも正確性の高いカビに対するゾーニングをより簡易に行うことができた。この結果はIPMのスキームにおける1. Avoid: 回避、2. Block: 遮断へ有効に適用できるものである。



発 表・間瀬創、佐藤嘉則「博物館IPMにおけるバイオエアロゾル測定の活用に向けた基礎的な研究」文化財保存修復学会第39回大会 17.6.28

研究組織 ○間瀬創（客員研究員）

## 放射光を用いた中央アナトリア出土鉄器に対する生産地同定法の開発

**目 的** 本研究は、放射光の高輝度X線を利用した古代鉄製品に対する非破壊での分析・観察方法の開発を通じ、人類による製鉄の起源として注目を浴びる古代ヒッタイト文明 (ca.1650-1200 BC) の製鉄技術を解明することをその第一の目的としている。ヒッタイト帝国の本拠地のあった中央アナトリア (現トルコ共和国アナトリア高原中央部) の遺跡から出土する鉄器・製鉄関連遺物の自然科学的分析を通じ、従来の考古学的様式分類では不可能だった「在来品と外来品の判別」の指標となる化学種や組成比の特定を目指す。

**成 果** 最終年度も、大型放射光施設 SPring-8 での測定、アナトリアでの調査、学会発表での関連分野の専門家との意見交換を主軸に研究を進めた。

① **SPring-8 での鉄製品の分析・測定**：2017 (平成29) 年5月23日～27日、大型放射光施設 SPring-8 のビームライン BL20XU 及び BL08W にて鉄製品の測定を実施した。BL08W での重元素組成分析では、昨年度に引き続き、多くの資料からバリウム (Ba) やランタン (La) が検出された。次に、資料内部の Ba と La の分布状況を把握するため、11月19日～21日、同ビームラインにてマッピング測定を実施した。図1に示す通り各元素の分布挙動が異なることが判明し、組成的に特徴の異なる非金属介在物が同一製品内部に複数存在することがわかった。

② **資料調査**：2017 (平成29) 年5月8日～16日の日程でトルコ共和国アナトリア考古学研究所にて資料調査を実施した。本年度は特に、当遺跡でこれまでに検出された各時代の製鉄関連遺構に関する調査を行った。これは今後、上述の重元素組成と工房址との関係性を明らかにしていくうえで重要な基礎資料となる。

③ **研究発表**：2017 (平成29) 年10月16日～19日、韓国釜山で開催された国際学会 The 9<sup>th</sup> International Conference on the Beginning of the Use of Metals and Alloys にて研究発表を行った。

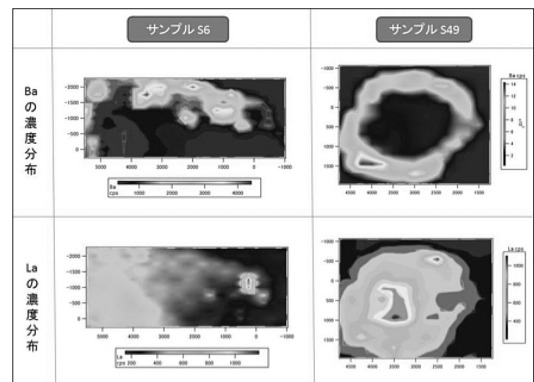


図1 資料断面での Ba 及び La の濃度分布

**論 文**・Mariya MASUBUCHI “An Archaeometallurgical Study of Iron/Steel Objects from Kaman-Kalehöyük in Central Anatolia” Proceedings of the 9<sup>th</sup> International Conference on the Beginning of the Use of Metals and Alloys, The Korean Institute of Metals and Materials (in press)

**報 告**・増渕麻里耶ほか「高エネルギー放射光蛍光X線分析を用いた中央アナトリア出土古代鉄製品の産地推定」『SPring-8利用課題実験報告書』2017A (Web データベース)

・増渕麻里耶ほか：「放射光X線CTを用いた古代鉄鋼製品の製作技術の解明」『SPring-8利用課題実験報告書』2017A (Web データベース) ほか1件

**発 表**・Mariya MASUBUCHI “An Archaeometallurgical Study of Iron/Steel Objects from Kaman-Kalehöyük in Central Anatolia” The 9<sup>th</sup> International Conference on the Beginning of the Use of Metals and Alloys (BUMA-IX), Dong-A University 17.10.16-19

・増渕麻里耶「中央アナトリアにおける製鉄文化解明の試み (9) 一カマン・カレホックでこれまでに発見された炉址・金属工房址について」第8回トルコ調査研究会 学習院大学 18.3.26

**研究組織** ○増渕麻里耶 (文化遺産国際協力センター)

## 紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発

**目 的** 日本画などにみられる「緑青焼け」は、銅を含む顔料により基底材の劣化が著しく促進され、変色、脆弱化を伴う深刻な問題である。本研究では、日本の書画における修復処置として、現行の裏打紙取り替え工程、及び水洗工程に着目し、「緑青焼け」に対する処置としての効果を評価する。一方、「緑青焼け」劣化現象の主要因である銅イオンの拡散を抑制するため、紙資料の修復処置として水洗浄後にゼラチン水溶液による処置を試み、その効果を明らかにする。

**成 果** これまでに、緑青顔料を膠水溶液と混合し、絵具として馴染ませ、水で希釈すると、緑青中の銅成分がイオンとして溶出し、溶出する銅イオン量は、緑青顔料の粒子サイズや焼成処理の有無により異なっていた。緑青顔料の銅成分は水中ではほぼ溶出しませんが膠水溶液中では銅イオンとして溶出することから、膠と緑青由来の銅イオンとの相互作用に着目した。

性質の異なる膠水溶液中において、緑青顔料の銅イオン溶出量が異なっていた。これらの膠を用いた緑青顔料—紙試料を湿熱加速劣化させ、緑青焼けによる劣化を評価した結果、アルカリ処理を経て、膠のコラーゲン側鎖のカルボキシル基量が多いことが予想されるニカワ A を用いた試料で、銅イオン溶出量が最も多く、色差及びセルロース分子量変化より、緑青焼けによる劣化が大きいことを示した。これより、銅イオン溶出量の少ない膠の使用により緑青焼けの進行を低減できる可能性を見出した。

一方、紙のにじみ止めであるドウサ処理を行うと、湿熱加速劣化試験では、楮紙のセルロース分子量の低下が抑制された。また、楮紙の緑青焼けの劣化現象においても、セルロース分子量が 1/3 程度に低下する段階までは、ドウサが分子量低下を抑制した。ドウサは、紙の主成分セルロースと、水または銅イオンを含有した水との反応を抑制する効果があることが示唆された。

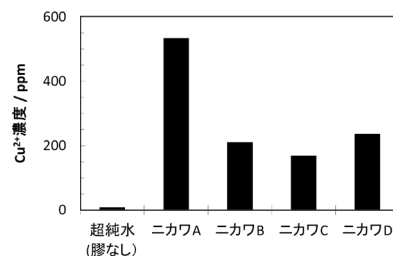


図1 各種膠—緑青顔料分散液中の銅イオン濃度

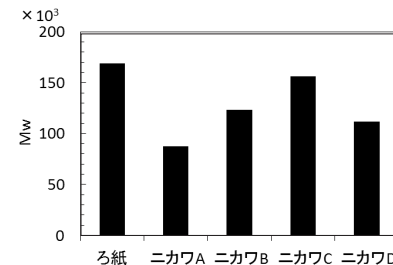


図2 緑青塗布紙の重量平均分子量 (Mw) (80°C、65% rh、8週間後)

膠	原料	抽出前処理
ニカワ A	不明	アルカリ処理
ニカワ B	魚鱗	酸処理
ニカワ C	魚皮	酸処理
ニカワ D	牛	前処理なし

表1 膠とその抽出前処理

**報 告**・K. KIDA, A. KASHIWAYA, M. INABA, N. HAYAKAWA "Effect of copper ions derived from Malachite pigment on deterioration of Japanese paper Substrate" The Sixth Symposium of the Society for Conservation of Cultural Heritage in East Asia

**発 表**・貴田啓子、柏谷明美、稲葉政満、早川典子「紙の緑青焼けに及ぼす銅成分と膠について」文化財保存修復学会第39回大会 17.7.2

・貴田啓子、柏谷明美、稲葉政満、早川典子「和紙の緑青焼けに及ぼすドウサの効果」マテリアルライフ学会 第28回研究発表会 17.7.14

・K. KIDA, A. KASHIWAYA, M. INABA, N. HAYAKAWA "Effect of copper ions derived from Malachite pigment on deterioration of Japanese paper Substrate" The 6th International Symposium of the Society for Conservation of Cultural Heritage in East Asia 17.8.25

・岩田直美、貴田啓子、関正純、稲葉政満「雁皮紙の酸化劣化に及ぼす煮熟剤の影響」マテリアルライフ学会 第22回春季研究発表会 18.2.23

**研究組織** ○貴田啓子 (客員研究員)

## アイヌと和人の文化交渉史に関する研究—明治期の和人によるイナウ奉納習俗を中心に

**目 的** 本研究は、石川県で発見された明治期の奉納イナウ及び国内の類似資料の調査研究を核に、近世後期から近代における、アイヌ民族と和人（本州以南の人々）の文化交渉史を再考することを目的とする。イナウはアイヌが最も重要視する祭具である。それがなぜ和人によって本州の社寺に奉納されたのか、その経緯・背景を現地調査や関連資料の分析によって解明することにより、日本列島におけるイナウ関連習俗の全体像を追究する。さらには、その過程を通して、北前船交易等を介したアイヌと和人の文化交渉や、和人によるアイヌ文化受容の実態を広く検証・考察することで、従来の研究では見落とされてきた「北からの文化の道」を実証的に提示することを目指す。

**成 果** 本州の社寺に奉納されたイナウは、これまでに石川県で9点、青森県で27点、岩手県で1点が確認されている。2年目である本年は、イナウ奉納の背景を探るため、奉納を行った石川県の廻船問屋に関する歴史資料の分析を進めるとともに、類似資料の所在調査を行った。また、成果と課題の共有のため、5月に石川県で研究会を開催したほか、成果の積極的公表にも努めた。歴史資料については堀井美里氏（株式会社AMANE）、戸潤幹夫氏・濱岡伸也氏（石川県立歴史博物館）などの協力を得てイナウを奉納した角海家文書等の分析を進めており、角海家が奉納年代に実際に樺太へ赴いていることなどが史料から裏付けられた。詳しい成果については来年度開催の研究会にて情報共有する予定である。

また類似資料の所在調査に関しては、戸潤幹夫氏、堀井美里氏、北原次郎太氏（北海道大学アイヌ・先住民研究センター）とともに9月に新潟県で調査を行った。イナウは発見されなかったものの、蝦夷錦や船絵馬等、多数の北方関連資料について調査・検証を行い、イナウがもたらされた背景となる北方交流の在り方について知見を深めることができた。さらに輪島市では、かつてイナウを所有していたという方から新たに情報提供をいただき、来年度現地調査を行う予定である。

来年度は上半期に研究会を行って成果を共有した上で補足調査を行い、年度末には報告書を刊行する予定である。

- 報 告**・今石みぎわ「海の道とイナウ」『まほら』94 pp.38-39 旅の文化研究所 18.1
- ・今石みぎわ「本州の社寺に奉納されたアイヌの祭具・イナウをめぐる」『石川の歴史遺産セミナー講演録 第27～28回』石川県立歴史博物館 pp.14-25 18.3
  - ・IMAISHI Migiwa, KITAHARA Jirota "Hana to Inau (flowers and Inau) - Ainu Culture in the World" Hokkaido University Center for Ainu & Indigenous Studies, 18.3
- 発 表**・今石みぎわ「本州の社寺に奉納されたアイヌの祭具・イナウをめぐる」第27回 石川の歴史遺産セミナー「北前船と蝦夷地」石川県立歴史博物館 17.5.20
- ・今石みぎわ「海の道によって運ばれたアイヌ文化—若宮八幡神社の奉納イナウをめぐる—」資料が語る北前船主の歴史 石川県輪島市 17.10.21
  - ・今石みぎわ・北原次郎太「シシリムカ文化大学第五回講座 イナウから探る～人・文化・信仰の交流～」平取町二風谷 沙流歴史館 18.1.21

**研究組織** ○今石みぎわ（無形文化遺産部）



## イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究

**目 的** 近年、大きく変容しつつあるイランの歴史的都市景観を適切に制御するため、文化遺産としての「真正性」及び「住民意向」を尊重した歴史的市街区における都市再興プロジェクトのあり方を検討し、おもに世界遺産バッファゾーン内の歴史的都市景観を継承するための計画指標を考察することを目的とする。

**成 果** 3年計画の第2年次にあたる本年度は、①第1年次に得た情報をもとに、主な調査対象地区であるエスファハーンにて定量的なデータを得るための現地調査を行い、②現地専門家との連携を深化させ、イラン全体の歴史的環境保全の状況把握に努めた。さらに、③研究成果を日本国内外にて発表するとともに、当該研究テーマに関するシンポジウム及び展覧会を開催して広く還元することができた。

①2017(平成29)年4月20日から26日にかけて、エスファハーンにて、アティーク広場周辺の店主へのインタビュー調査を実施した。同広場の再開発前後についての評価の変化を明らかにするとともに、計画実施主体側と使用者である店主らとの間での再開発計画に対する評価の違いを実証することができた。この調査結果は、今後の歴史都市地区における計画指標の構築に寄与しうるものである。なお、この成果の一部は同年10月にサマラ技術大学(ロシア)にて発表した。

②2017(平成29)年8月25日から27日にかけて、エスファハーンの前の首都であるカズヴィン、UNESCO世界遺産暫定リストに記載されているマースレー歴史集落等を訪問し、イラン文化遺産・手工芸・観光庁(以下ICHHTO)カズヴィン支局職員セイナリー氏、ICHHTOラシュト支局ハシミ氏、マースレー現地事務所長のプールアリ氏他の案内により、当該歴史地区の保全に関する情報を得た。この調査で得られた情報はICHHTO本部からの要請に従いレポートとしてまとめ、さらに日本の歴史地区における保全状況と比較しながらの提言も加えて、同年9月にICHHTO本部へ提出した。なお、得られたデータについては、翻訳等を行いながら引き続き研究を進めている。

③日本建築学会及び日本建築文化保存協会主催(東京文化財研究所協力)「日本イラン建築・都市会議」の主に都市分野においてキュレーターを務めた。イランの歴史都市に関わる行政関係者、文化遺産保護実務者、学術専門家を招聘し、歴史都市の変遷及び文化遺産の保全に関するシンポジウム『変容する「都」〈4+2〉～古代ペルシャから現代東京まで～』を2018(平成30)年3月5日に建築会館ホールにて開催した。併せて3月4日から20日にかけて同館ギャラリーにて展覧会を開催し、同テーマに関するパネルや模型を展示した。

**論 文**・山田大樹「世界遺産マスジェデ・ジャーム(エスファハーン)周辺地区の再興計画の背景と課題」『日本建築学会大会学術講演梗概集』2017 都市計画 pp.697-698 日本建築学会 17.8

**報 告**・Hiroki Yamada「Observation Report on Qazvin, Rasht, and Masuleh 20 – 25th, August, 2017」12p 17.9

**発 表**・Hiroki Yamada「Evaluation of the Atiq Square Revitalization Project in Isfahan : According to the interview survey to shopkeepers in the project area」IX International Policy Forum: On urban growth and conservation in euro-asian corridor / the silk road, サマラ州技術大学(ロシア) 17.10.12  
ほか2件

**研究組織** ○山田大樹(文化遺産国際協力センター)



## 墨、煤、膠の製法と性状の体系化

- 目 的**
- ・墨、煤、膠について、製造時の条件が製品性状に及ぼす影響をより広範に体系化する。また各時代・地域におけるそれらの製造方法の違いが、書画文化財の画面効果や芸術性に、どのように影響を及ぼしていたのかを明らかにする。またこれにより製膠技術史、製墨技術史を踏まえた新しい知見に基づく書画研究の可能性を拓く。
  - ・近代以前の書画制作材料及び修復材料の製造技術を多種復元し、さらに体系化・公知化することによって保存する。近現代の墨や膠は、技術が失われたことによる品質低下と、添加薬剤等に起因する変質がしばしば問題となっている。申請者は過年度研究においてもその成果を民間機関に提供し、これまでに古典的膠製品9種類の量産に携わった。またそれらの製品は、実際に教育及び文化財修復の現場で活用されはじめている。当該申請研究においてもその成果を活用し、各製造者へのより発展した技術提供や公知化を行う。

- 成 果**
1. 古典的膠製造技術の復元を過年度研究よりさらに進めた。
  2. 模擬劣化試験体の調整方法の開発を行った。劣化処理による低分子化進行程度に違いのある各種膠を用いて、物理的性質が異なる複数の層からなる彩色体を調整し、各層の張力等の差により各種劣化状況の再現を定量的に行うこと可能にした。当該方法は任意の試料の修復材料としての定量的適性評価のほか、技術や技能等の評価における活用可能性も期待される。
  3. 前年度に引き続き、近代以前の各種文献を参考として、各条件で古典的原料/製法による墨復元の予備試験を進めた。墨液における分散安定性には膠と煤の荷電傾向及び表面官能基等が理論上強く関係するため、こうした諸要素に特に留意して条件を検討した。なお当該実験では高濃度検液を扱うことが重要であるため、レーザ回折式粒度分布測定装置(島津製作所製 SALD-7500)に高濃度測定ユニットを接続した。
  4. 滴下法等一定の定量性を担保した試験によって、各墨試料の唐紙における滲み拡散性評価を前年度に引き続き進めた。また現存する清代及び江戸期等の各種古墨試料を確保のうえ、これらについても同様の評価実験を進めた。
  5. 当該研究等における成果をもとに、膠の基礎知識に関する一般配布用刊行物の英語翻訳版をまとめ、当該伝統材料に関する広範な啓蒙を図った。

- 講 演**・宇高健太郎「修復用膠の基礎科学」平成29年度宮内庁正倉院事務所講習会 17.9.21
- ・宇高健太郎「Basic Knowledge about Animal Glue -Categories and Production Methods-」  
Making Animal Glue for Painting and Conservation: Traditional Production Methods and Modern Applications in Japan (Freer Gallery of Art and Arthur M. Sackler Gallery, Smithsonian Institution) 18.2.14
  - ・宇高健太郎「中国及び欧州における膠の現状」膠文化研究会第10回公開研究会 17.10.29
- 発 表**・宇高健太郎ほか「膠の性状と装演における適性の関連」文化財保存修復学会第39回大会 17.7.1-2
- ・宇高健太郎ほか「膠を用いた模擬劣化彩色体の調製方法」文化財保存修復学会第39回大会 17.7.1-2
- 刊行物**・宇高健太郎ほか「Basic Knowledge about Animal Glue」膠文化研究会 18.1.27

**研究組織** ○宇高健太郎(日本学術振興会特別研究員)

## 毘沙門天像の成立と展開―唐・宋・元から平安・鎌倉へ―

**目 的** 本研究「毘沙門天像の成立と展開―唐・宋・元から平安・鎌倉へ―」は、東アジアの仏教において大変重要視された毘沙門天が、7世紀から14世紀においてどのように信仰され、また関連する美術作品を生み出してきたかという問題について考察するものである。

第三年次は昨年度に引き続き慶派による造像に注目し、鎌倉時代に制作された伝快慶作・毘沙門天像(京都・青蓮院所蔵、以下青蓮院像)を中心に調査研究を行った。

**成 果** 平成29(2017)年10月に東京文化財研究所で研究発表を行い、青蓮院に伝来した二体の毘沙門天立像について論じた。二体の毘沙門天像とは、現在青蓮院に安置されている青蓮院像、そして個人蔵を経て京都・泉屋博古館に収蔵された博古館像のことをここでは指す。青蓮院では、13世紀の初めころ、建永元(1206)年に熾盛光堂、そして承元2(1208)年に大懺法院、という二つのお堂が造営され、そこにそれぞれ毘沙門天像が祀られたと考えられる。青蓮院像、博古館像がそれぞれどちらのお堂に安置されたのか、という問題が近年議論の焦点となっている。

上記の問題は、鎌倉時代の神将彫刻の造形上の展開を考える上で、また同時代の毘沙門天信仰と造像を辿る上で非常に重要である。その理由として、以下の三点が挙げられる。第一に、様式史上の問題である。青蓮院像、博古館像は慶派仏師による作品だと考えられているが、両像の造形的特質を分析・比較し、位置付けることで、13世紀初頭における慶派の神将形像がどのように展開していくかを後付けることが可能になる。

第二に、歴史的背景の問題が挙げられる。青蓮院像は東寺像の模刻である。東寺像の模刻は平安時代前期から中期にかけては多数つくられているが、鎌倉時代の作例は非常に珍しい。青蓮院で行われた13世紀初頭の造営は、国家の鎮護祈願というような、公の目的のために行われたものと考えられる。とくに大懺法院、熾盛光堂は当時の緊迫した社会情勢を反映した目的に沿って造営された。そのようなお堂になぜ毘沙門天、しかも東寺像の模刻を安置したのか。これは制作背景を考えるための手がかりになるはずである。

第三に、毘沙門天信仰史に関する問題である。東寺像が安置されていた東寺は真言系、青蓮院は天台系寺院である。なぜ真言系寺院に祀られていた東寺像の模刻を天台寺院で制作することになったのか。この疑問は、東寺像の受容をめぐる問題の核心にせまるものではないかと考える。東寺像はそもそもどこにあったのか、誰が将来したものなのか、どのように信仰されてきたのか、という問題とも深く関わっている。また、鎌倉時代において東寺像がどのように考えられていたのか、という受容史とも関わる問題である。

発表ではこれらの問題点を念頭に置きながら、造形上の特質に関して同時代の神将形像と比較を行った。加えて、青蓮院吉水蔵聖教中の青蓮院毘沙門天像に関する新史料を紹介した。当時青蓮院での供養を担当した慈円(1155~1225)の毘沙門天信仰と造像についても確認し、二体の毘沙門天像の制作背景について考察した。

結論として、青蓮院像は大懺法院の建立当時に快慶によって制作され、博古館像は熾盛光堂の再建供養時に快慶の弟子によって制作されたものではないか、と指摘した。二体の毘沙門天像は、鎌倉時代前期の動乱期に、天台座主慈円によって、鎮護国家祈願という古くからの朝廷の造仏の伝統を受けついで造像されたものであったことを確かめた。

**発 表**・佐藤有希子「京都・青蓮院伝来の二体の毘沙門天立像に関する一考察」東京文化財研究所文化財情報資料部第8回研究会 17.10.24

**研究組織** ○佐藤有希子(日本学術振興会特別研究員)

## 2018年出版予定の書籍のための、1989年以降の日本の現代美術の研究

**目 的** 近年欧米で戦後日本美術への注目が高まる中、1989年以降の美術に関する洋書は東京を中心とした美術の西洋化に焦点が絞られ、未だグローバル化する欧米文化に対する危機感から創成した地域特有の美術に関する研究は少ない。このような傾向が続くと、日本現代美術の解釈が近視眼的となり、グローバル化する美術史に対する偏った理解に陥りかねない。

本研究では、この偏りを軽減することを目的に、グローバル化による諸問題に対する美術家やアートプロデューサーらの取り組みを、地方でのフィールドワークにより検証する。そして日本現代美術の芸術運動や美術展、芸術家に関する資料の確認と内容把握を体系的に行い、調査内容をアーカイブズとして国内外の研究者に公開する。最終的にはこれら研究成果を海外出版社から刊行することで、広く世界に発信する。

**成 果** 3年計画の第2年次にあたる本年度は、フィールドワーク・調査、執筆、調査資料・内容の整理・公開を行った。執筆のための基礎情報の蓄積と来年度以降の研究方針の明確化に努めた。平成28年度までに全ての章のための基礎調査を行い書籍の執筆を開始した。そこで平成29年度は、これまでの調査に基づき、全体の流れや章構成、そこで扱っている内容を改めて検証し直した。

具体的には所内の研究会、国際学会での発表、海外美術館で学芸員とのワークショップなどを通して知見者の意見を得た。書籍内で重要なテーマとなるアジア地域内での文化交流や環境問題をテーマとしたアートに関し、2018年にケンブリッジ・スカラズ・パブリッシングから出版されるアンソロジー『エコ・アート・イン・アジア』の一章として執筆した。この他1989年以降のアジア美術全般の問題を把握するため、4月に韓国国立近現代美術館とテート・アジア・リサーチセンター(イギリス)が主催したソウルでの国際学会にレスポンドेंटとして出席。テートのウェブサイト論文を寄稿。また、世界の現代美術の流れを把握するため、ベニス・ビエンナーレ、ドクメンタ、ミュンスター彫刻プロジェクトを視察。この他アートプロデューサーの北川フラム、学芸員の林牧人、画廊経営者の池内務、美術家の白井美穂、卯城竜太、宇治野宗輝、岡崎乾二郎、演劇プロデューサーの高山明らをインタビュー。北アルプス国際芸術祭、横浜トリエンナーレ、札幌国際芸術祭などを視察。これらからアジア地域内の交流や日本特有の美術の発展、また、西欧とは異なる社会や環境問題に対するアプローチが示唆された。ここで得られた成果を、現代韓国美術を研究するジーヒー・キムと連携し2018(平成30)年にカリフォルニアで開催される国際学会、カレッジ・アーツ・アソシエーションでパネル発表すべく、プロポーザルを共同執筆し出した。以下の研究発表・論文を行った。(なお山村みどりが、2017(平成29)年9月1日よりニューヨーク市立大学キングスボロー校教員となり離日したため、同年8月末日で本課題は終了した。)

- 論 文**・山村みどり「Spatial Territories Disrupted: Connectivity, Transnationality, and Interpretability of Post-1989 Asian Art」『Tate Research Centre: Asia』(website)、forthcoming, 2018  
 ・山村みどり「Chapter 8」『Eco Art in Asia』(Cambridge Scholars Press), forthcoming, 2019
- 発 表**・山村みどり「Benesse Art Site and Echigo Tsumari Art Triennial: Revitalize Dying Areas with Contemporary Art」The Third Biennial IAJS (Israel Association of Japanese Studies): The Heisei Era in Retrospect. 17.6.11~13 University of Haifa (Haifa, Israel) ほか  
 ・山村みどり「Masato Nakamura's Artists Initiative: Decolonization of Art at the Cold War's End」The 6<sup>th</sup> French Network for Asian Studies International Conference 17.6.26~28 Sciences Po (Paris, France)  
 ・山村みどり「Japanese Art after 1989: Emergence of the Local in the Age of Globalization」17.7.29 The National Gallery, Singapore (Singapore)

**研究組織** ○橘川英規(文化財情報資料部)、山村みどり(日本学術振興会特別研究員)

## 伝統木造建築技術の保存継承に関する日英比較研究

**目 的** 本研究では、日本と英国の伝統木造建築技術の保護対策に注目し、保護されている技術の範囲、保護対策の内容、その導入の背景、変遷と現在の課題を検討する。そのうえで、両国の比較を行うことによって、各国の保護対策の特徴とその理念的背景を浮き彫りにするとともに、各国の伝統木造建築技術そのものの特質及び無形文化遺産としての価値の所在を明らかにすることを最終目的とする。

**成 果**

1. 日本及びイギリスの伝統木造建築技術に関して、資料の収集及び分析を行った。
2. 下記の木造建造物の復元工事・修理工事現場において、伝統木造建築技術の適用状況に関する調査を行った。
  - a) 福島県 専称寺本堂修理工事現場 (2017 (平成 29) 年 8 月 8 日調査)
  - b) 東京都 「鷹の御茶屋」復元工事現場 (2017 (平成 29) 年 11 月 6 日調査)
  - c) 京都府 東寺御影堂 (大師堂) 修理工事現場 (2017 (平成 29) 年 1 月 27 日調査)
3. ICOMOS で設立された「文化遺産のリコンストラクションに関するワーキンググループ」に参加し、日本の文化財建造物の災害復旧事業の事例として専称寺本堂の修理に関して発表を行った。
4. 一方、日本の木工技能者研修に関して調査を行う予定であったが、関連する資料の収集・分析に当初予定した以上の時間が必要であることが判明したため、実施を次年度に延期した。

**発 表**

- ・ MARTINEZ Alejandro : "Post-Trauma Reconstruction Case Study: Main Hall of Sensho-ji Temple" ICOMOS Reconstruction Global Project, ICOMOS Headquarters, Paris 17.10.17
- ・ MARTINEZ Alejandro : "Comparison of Case Studies of Post-Trauma Reconstruction: Sensho-ji and Duomo di Venzona" ICOMOS Reconstruction Global Project, ICOMOS Headquarters, Paris 18.1.30
- ・ マルティネス アレハンドロ「文化遺産建造物の災害復旧に関する比較検討ー福島県専称寺およびイタリア・ヴェンゾーネ教会の事例からみる」 第22回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産のリコンストラクションに関する世界動向」 18.2.16

**研究組織** ○マルティネス アレハンドロ (文化遺産国際協力センター)





## 2. 受託調査研究・外部機関との共同研究及び外部資金による研究

### (1) 受託調査研究

研 究 課 題	研究代表者	依頼元	頁
文化遺産国際協力拠点交流事業「トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業」	前川佳文	文化庁	109
文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	友田正彦	文化庁	110
文化遺産国際協力コンソーシアム事業	中山俊介	文化庁	111
国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	佐野千絵	文化庁	112
特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	佐野千絵	文化庁	113
絵金屏風の保管環境及び保管・展示方法に関する調査研究	佐野千絵	公益財団法人 熊本市美術文化振興財団	114
文化遺産国際協力拠点交流事業「ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業・建築分野」	友田正彦	奈良文化財研究所	115
被災資料有害物質発生状況調査業務	佐野千絵	陸前高田市	116
著名外国人招へいによる日本美術の発信をテーマとした調査研究事業	江村知子	文化庁	117

### (2) 共同研究

研 究 課 題	担当部局	依頼元	頁
航空資料保存の研究	保存科学研究センター	一般財団法人日本航空協会	118
ゲッティ・リサーチポータルへの明治期～昭和期（戦前）の展覧会資料（デジタル）の提供・公開	文化財情報資料部	The J. Paul Getty Trust	119

### (3) 助成金

研 究 課 題	研究代表者	依頼元	頁
バガン遺跡群（ミャンマー）寺院祠堂壁画の保存修復	前川佳文	公益財団法人住友財団	120
日本絵画の色と材料「Color & Material」	早川泰弘	公益財団法人 出光文化福祉財団	121

### 3. その他の調査研究

研 究 課 題	研究代表者	頁
文化財防災ネットワーク推進事業	佐野千絵	122

### 4. 刊行物等

インターネット公開	頁
「無形文化遺産総合データベース」	123
「全国文化財保護条例データベース」	123
「いんたんじぶる」	123

受託調査研究の一環として刊行された刊行物	頁
『平成 29 年度文化遺産国際協力拠点交流事業 トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業報告書』	123

## 文化遺産国際協力拠点交流事業「トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業」

**目 的** 本事業では、カッパドキア地域を中心にトルコ共和国国内の壁画の保存状況を専門的視点から調査するとともに、その管理体制の見直しを行う。また、これに応じて必要と考えられる専門的知識・技術力の強化を目的としたワークショップを現地専門家及び文化財保存・修復学を専攻する学生を対象に実施し、同国における保存修復水準の向上を図る。

**成 果**

- ・ ガーズィ大学との壁画保存管理体制改善に向けた意見交換会 (2017 (平成29) 年6月13日)
- ・ トルコ共和国文化観光省との壁画保存管理体制改善に向けた意見交換会 (2017 (平成29) 年6月14日)
- ・ トラブゾンにおける壁画保存状況に関する調査 (2017 (平成29) 年6月15日～17日)  
Kaymakli Chapel、Hagia Sophia Mosque、Kustul Monastery、Kizlar Monastery ほか
- ・ トラブゾン保存修復センター専門家への聞き取り調査 (2017 (平成29) 年6月16日)
- ・ カッパドキアにおける壁画保存状況に関する調査 (2017 (平成29) 年6月19日～21日)  
Church of the 40 Martyrs、Keslik Monastery、Church of Saint Simon、Neveehir Castle ほか
- ・ トルコ共和国文化観光省における調査報告会 (2017 (平成29) 年6月23日)
- ・ トルコ共和国文化観光省との研修事業に関わる意見交換会 (2017 (平成29) 年10月26日)
- ・ ネヴシェヒル博物館及び保存修復センターとの意見交換会 (2017 (平成29) 年10月27日)
- ・ Tagar Church での応急処置に向けた壁画調査 (2017 (平成29) 年10月28日～29日)
- ・ 研修事業「壁画の保全に向けた課題」の開催 (2017 (平成29) 年10月30日～11月2日)

**発 表**・前川佳文ほか“*I materiali nel restauro dei dipinti murali e adeguate misure di sicurezza per il loro utilizzo*” The field course - Challenges and Issues to Wall Painting Conservation 17.10.29-11.2 ほか9件

**刊行物**・『Conservation of Turkish Wall paintings: a guideline for emergency treatments』Ministry of Culture and Tourism, Republic of Turkey 17.10

・『平成29年度文化遺産国際協力拠点交流事業 トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業報告書』東京文化財研究所 18.3

**研究組織** ○中山俊介、前川佳文、増渕麻里耶(以上、文化遺産国際協力センター)、鴨原由美(保存科学研究センター)、ガイド・ボッティチェッリ、ファブリッツィオ・バンディーニ、アルベルト・フェリーチ(以上、国立フィレンツェ修復研究所)、ダニエラ・マリア・マーフィー(文化協会バステオーニ)、ステファニーニ・フランチェスキーニ(壁画保存修復士)

**備 考** 本研究は、文化庁より委託された。

## 文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」

**目 的** 2015年4月に発生したゴルカ地震で被災したネパールの文化遺産復興を支援するため、カウンターパートである同国文化観光民間航空省考古局をはじめとする関係機関との協働のもと、建築史・建築構造・都市計画・修復技術・無形文化遺産、考古学等の各分野において、共同作業を含む専門的調査を実施するとともに、ワークショップの開催、研修の実施等を通じて技術移転を促進するなど、同国内の文化遺産保護体制整備に貢献する。

**成 果**

- ・カトマンズ・ハヌマンドカ王宮内アガンチェン寺周辺建物群実測調査、同寺及びシヴァ寺周辺における地盤ボーリング調査、トリブバン大学における材料実験、シヴァ寺基壇外周発掘調査、前年度成果報告会及び歴史的集落保全に関するワークショップの開催、(2017(平成29)年5月29日～6月27日)
- ・コカナ集落における無形文化遺産調査(2017(平成29)年7月19日～24日)
- ・トリブバン大学における材料実験(2017(平成29)年7月29日～8月4日)
- ・アガンチェン寺周辺建物群の内壁面仕上げ層調査、カトマンズ盆地内歴史的集落現状調査、歴史的集落保全に関する行政担当者ワークショップ開催(2017(平成29)年9月3日～14日)
- ・アガンチェン寺周辺建物群実測調査、3Dスキャニング、建物変位に関するモニタリング調査、ハヌマン門改造痕跡調査ほか(2017(平成29)年10月29日～11月10日)
- ・アガンチェン寺周辺建物群実測調査、シヴァ寺基壇部発掘調査による出土遺物の整理作業(2017(平成29)年11月20日～25日)
- ・カトマンズ盆地内歴史的集落調査(2017(平成29)年12月2日～11日)
- ・カトマンズ盆地内歴史的集落保全に関する市長フォーラム開催、カトマンズ盆地内歴史的集落調査ほか(2017(平成29)年12月22日～29日)
- ・アガンチェン寺周辺建物群の追加3Dスキャニング、揚家工事施工詳細検討ほか(2018(平成30)年2月2日～8日)
- ・コカナ集落他における無形文化遺産調査(2018(平成30)年2月12日～18日)
- ・アガンチェン寺周辺建物群修復計画に係る協議、部分解体範囲の事前調査ほか(2018(平成30)年2月22日～3月1日)

**論 文**・宮本慎宏ほか「ネパールにおける層塔建築物の地震被害と構造性能評価に関する研究 その1 地震被害の概要」『日本建築学会大会学術講演梗概集 構造Ⅳ』 pp.904-906 17.8 ほか6本

**発 表**・Tomoko Mori "Study on the irrigation system, 'rajculo' in the historic settlement, Khokana, of Kathmandu Valley" The 6th International Symposium of Asian Cultural Landscape Association 17.7.22 ほか8件

**刊行物**・『Technical Assistance for the Protection of Damaged Cultural Heritage in Nepal』TNRICP, 17.5  
 ・『Conference on the Preservation of Historic Settlements in Kathmandu Valley』TNRICP, 17.6  
 ・『On-site Training Program in Japan, on the Preservation and the Management of Historic Settlements / Districts』TNRICP, 18.3

**研究組織** ○友田正彦、山田大樹、間舎裕生、金善旭(以上、文化遺産国際協力センター)、久保田裕道、石村智、伊藤純(以上、無形文化遺産部)、黒津高行、西本真一、田中雅子(以上、日本工業大学)、西村幸夫、森朋子、腰原幹雄(以上、東京大学)、多幾山法子(首都大学東京)、宮本慎宏(香川大学)、多井忠嗣、平井奈美(以上、ネパール考古局/JICA派遣専門家)、ビジャヤ・K・シュレスタ(クオパ工科大学)

**備 考** 本事業は文化庁より委託され、構造学的調査は東京大学生産技術研究所腰原幹雄研究室、歴史的集落の保全と復興に関する調査は東京大学大学院工学系研究科西村幸夫研究室にそれぞれ再委託して実施した。

## 文化遺産国際協力コンソーシアム事業

**目 的** 文化遺産国際協力コンソーシアム（以下、コンソーシアム）が掲げる、「海外の文化遺産保護に関する国内の連携・協力を推進する」という目標のもと、事務局として各種分科会活動や情報データベースの構築、シンポジウム・研究会の開催等を行うことによって日本の文化遺産国際協力を支援・促進する役割を担う。

**成 果** (1) コンソーシアムの会議の開催

- ア) 運営委員会を2回開催し、活動方針を協議したほか、活動報告として総会1回を開催した。
- イ) 企画分科会、東南アジア・南アジア分科会、西アジア分科会、東アジア・中央アジア分科会、欧州分科会、アフリカ分科会、中南米分科会を計16回開催した。

(2) 情報収集と情報発信

- ア) 文化遺産国際協力事業の基礎情報データベースに関し、現状の問題点と課題を整理し、改善へ向けて計画を立てた。
- イ) コンソーシアム公式ウェブサイトで文化遺産国際協力に関わる活動を広く取り上げた。また、英語での情報発信を強化した。
- ウ) コンソーシアム紹介パンフレットの配布、活動紹介冊子の改訂を通して、活動PRに努めた。
- エ) 研究会「危機に瀕する楽園の遺産ーミクロネシア連邦ナンマトル遺跡を中心にー」、「文化遺産のリコンストラクションに関する国際動向」を開催した。
- オ) 国際シンポジウム「東南アジアの歴史的都市でのまちづくりー町の魅力を、町の自慢にー」を開催した。（文化庁、国際交流基金アジアセンターと共催）
- カ) 関係機関との連携強化の一環として、独立行政法人国際協力機構（JICA）と共催でODAスキーム説明会を実施した。
- キ) 会員向けのメールニュース（コンソーシアムイベント告知、国内外文化遺産関連イベントの案内等）を配信した。
- ク) 欧州を対象とした国際協力調査（(3)を参照）で得られた成果を発信するため、ウェブサイトの特設ページを制作・公開した。

(3) 文化遺産国際協力の推進に資する調査

- 平成28年度に引き続き、欧州各国の文化遺産国際協力の政策や体制について、欧州分科会の審議を通して選定した国内専門家に委託して情報収集を行った。（調査対象国：ドイツ、フランス、スペイン計3カ国）

**刊行物**・『文化遺産国際協力コンソーシアム10周年記念誌ーコンソーシアム10年のあゆみと文化遺産からつながる未来ー』 18.3

- ・『東南アジアの歴史的都市でのまちづくりー町の魅力を、町の自慢にー』（日本語版・英語版） 18.3
- ・小冊子『文化遺産の国際協力』 18.3

**研究組織** ○中山俊介、西和彦、川嶋陶子、松保小夜子、牧野真理子、五嶋千雪（以上、文化遺産国際協力センター）、中野照男（客員研究員）

**備 考** 本事業は、文化庁より委託された。



## 国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務

**目 的** 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。

**成 果** 国宝高松塚古墳壁画の恒久的な保存方針に基づき、壁画の修理、修理環境の保全及び壁画の保存・活用に係る調査・研究業務を実施した

### 1. 壁画の修理内容及び修理環境の保全に関連する事項

#### ① 壁画の修理方針や内容に関する科学的・学術的助言

壁画表面のクリーニングを行うために粗鬆化した漆喰部分への強化方法の検討を行った。また、解体後10年目であることを念頭に、今後の保存方法についての協議を重ねた。特に、今後については石材についての要素を含めての検討が必要となっている。

#### ② 修理施設内の温湿度・生物等の調査

高松塚古墳壁画修理施設 修理作業室の温湿度モニタリングを実施した。温度は20～22℃で推移、相対湿度は夏季に若干高めであったが、期間を通じて概ね50%台を維持した。また、施設の空調制御運用法について検討した。高松塚古墳壁画仮設修理施設の歩行性昆虫調査及び除塵清掃を、第1回目の調査(5/10)、第2回目(8/18)、第3回目(11月上旬)、第4回目及び除塵清掃(2月上旬)で実施した(委託先：イカリ消毒株式会社)。高松塚古墳壁画仮設修理施設の浮遊菌等調査を、第1回目(9/14)、第2回目(1月下旬)で実施した(委託先：カビ相談センター)。

### 2. 壁画の保存・活用に関連する事項

#### ① 壁画面の状態調査及び状態図の作成について

修理施設に定期的に修理施設で文化庁・国宝修理装演師連盟と研究協議を行った。また修理材料についての調査研究を実施した。

#### ② 他の古墳壁画にかかる事項の調査研究

史跡屋形古墳群、史跡日岡古墳において保存環境調査を行うと共に、史跡下馬場古墳では久留米市教育委員会が行う保存環境調査に対する助言を行った。また、他の装飾古墳の微生物あるいは植物根等の調査研究を進めた。

### 3. その他

① 奈良文化財研究所と共同で、高松塚古墳壁画の材料に関する分析調査を継続的に実施した。またテラヘルツ分光分析により、下地を形成している漆喰層の状態の調査を行った。

② 本年度4回行われた国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設(国営飛鳥歴史公園内)の一般公開に際して、のべ18名を派遣し、立会い説明等を行った。(2017(平成29)年5月13日～19日、7月15日～21日、9月23日～29日、2018(平成30)年1月20日～26日)

③ 古墳壁画保存関連の事業全般について情報共有を行い、効率的で正確な作業を行うために、2017(平成29)年4月18日、10月6日、2018(平成30)年1月17日の3回にわたり、奈良文化財研究所と古墳壁画保存対策プロジェクトチーム会議を開催した。

④ 2017(平成29)年6月30日、2018(平成30)年2月20日に開催された文化庁の「古墳壁画の保存活用に関する検討会」(第22回、23回)に、奈良文化財研究所とともに事務局として出席した。

**研究組織** ○佐野千絵、早川泰弘、吉田直人、朽津信明、森井順之、佐藤嘉則、犬塚将英、早川典子、倉島玲央、小峰幸夫、鴨原由美、藤井佑果(以上、保存科学研究センター)、前川佳文(文化遺産国際協力センター)、川野邊渉(特任研究員)、大場詩野子(客員研究員)、木川りか(九州国立博物館)

**備 考** 本研究は、文化庁より委託された。

## 特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務

**目 的** キトラ古墳壁画の彩色及び漆喰の状態調査並びに展示環境の制御とモニタリング方法の調査研究を行う。

**成 果** 特別史跡キトラ古墳の取り外した壁画の保存修復措置に係る資料整備、古墳・壁画の保存・活用に係る調査・研究の業務を実施した。

1. 壁画の保存修復措置に関する事項。

①最適な保存処置方法の検討

壁画の集中メンテナンスを四神の館で5回行った(2017(平成29)年6月20日～24日、7月4日～7日、8月22日～25日、11月7日～10日、2018(平成30)年3月27日～30日)。壁画は概ね安定していたが、再構成を行っていた高松塚古墳壁画修理施設との環境設定の差異が若干あるため、装演師連盟と協力し、適宜剥落どめ及びクリーニングを行い、安定化を図った。また2004(平成16)年の取り外し開始以降の全ての画像記録のデータベース化を計り、概ねの作業が終了した。

②保存管理に最適な設備環境の検討

壁画の保管及び展示公開を行っている「四神の館」において、環境調査及び改善に協力した。

③材料調査と保存収縮処置方法の検討

奈良文化財研究所との共同により、キトラ古墳の材料に関する分析調査を継続的に実施している。本年度は泥に覆われた部分の下にあると推定される画像の撮影検討を行った。

④他の古墳壁画にかかる事項の調査研究

高松塚古墳壁画の調査と連携して、効率的に実施した。

**研究組織** ○佐野千絵、早川泰弘、吉田直人、朽津信明、森井順之、佐藤嘉則、犬塚将英、早川典子、倉島玲央、小峰幸夫、鳴原由美、藤井佑果(以上、保存科学研究センター)、前川佳文(文化遺産国際協力センター)、川野邊渉(特任研究員)、大場詩野子(客員研究員)、木川りか(九州国立博物館)

**備 考** 本研究は、文化庁より委託された。

## 絵金屏風の保存環境及び保管・展示方法に関する調査研究

**目 的** 赤岡絵金屏風保存会所蔵の絵金図屏風5点について、調査調査等を行い、文化財の保管・展示に資する情報を得る。

**成 果** 燻蒸事故によって変色した5点の絵金屏風作品は、平成28年度に修理業者による修理と画面の安定化が終了し、2017(平成29)年4月17日に所蔵者である赤岡絵金屏風保存会へ返却され、以降は絵金蔵において保管されることとなった。平成29年度に行った作業の概要は次の通り。

○絵金蔵における保管・展示環境の改善と維持管理に関する調査研究

平成29年度より継続して行っている絵金蔵内収蔵庫や展示室の温湿度、空気環境の調査記録をもとに、今後の改善や良好な状態維持のための方策について検討を行った(2017(平成29)年4月17日、同年12月14、15日)。また、7月中旬の絵金祭りにあわせて、絵金蔵内で修理作品の短期展示を行うこととなったため、使用する展示室、展示ケースの環境監視についての助言を適宜行った。

○絵金蔵における保管・展示に際しての取り扱いに関する助言

保管や展示作業に際しての作品取扱いにおける手順や注意事項について、修理業者同席のもとで学芸員に助言を行った(2017(平成29)年4月17日)。

○保管管理に関する指示書の作成

絵金蔵で作品を安全に収蔵するにあたり、必要な環境条件とその維持管理について記した指示書を作成し、学芸員に提出、説明を行った(2017(平成29)年4月17日)。

○修理完了後一年目の状態点検に関する助言

修理完了後1年目の状態点検を実施し、安定が保たれていることを確認した上で、引き続き安全な環境維持や取扱いに留意する旨の助言を行った(2017(平成29)年12月14、15日)。

○高精細画像による彩色復元のための画像処理に関する研究

高知県指定文化財(美術工芸品・絵画)紙本著色 絵金図屏風 二曲一隻 5点「勢州阿漕浦 平次住家」、「蘆屋道満大内鑑 葛の葉子別れ」、「鎌倉三代記 三浦別れ」、「八百屋お七歌祭文 吉祥寺」、「蝶花形名歌島台 小坂部館」について、修理後の高精細画像を元に、絵金蔵所有の事故前のポジフィルムも参考にしつつ、日本画表現から検討して同色と思われる表現色をピクセル単位で載せ、彩色復元のための画像処理について研究した。研究成果としてデータを赤岡絵金屏風保存会に提出した。



修理終了した絵金屏風5点の搬出準備の様子

**研究組織** ○佐野千絵、吉田直人、石井恭子(以上、保存科学研究センター)、城野誠治(文化財情報資料部)

**備 考** 本研究は、公益財団法人熊本市美術文化振興財団より委託された。

## 文化遺産国際協力拠点交流事業

## 「ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業・建築分野」

**目 的** 2016(平成28)年8月24日に発生した地震により大きな被害を受けた、ミャンマー中部所在のバガン遺跡群について、その適切な保存・修復対策を検討すると同時に、同国宗教文化省考古・国立博物館局(DOA)をはじめとする現地当局が目下実施中の修復事業の質的向上に向けた情報提供や技術的助言等を行う。

**成 果** 計6回の専門家派遣を行い、下記の内容を実施した。  
2017(平成29)年5月17日～25日 3名、2017(平成29)年7月7日～19日、1名、2017(平成29)年9月17日～10月2日、6名、2017(平成29)年11月25日～30日、2名、2017(平成29)年12月7日～12日、1名、2018(平成30)年2月8日～12日、2名。

## 1. 歴史的建造物に使用される煉瓦材に関する材料学的調査：

材料組成や力学的強度等に関する実験を行うため、建物の種別や建築年代、使用部位、材寸等を考慮しつつ6棟の被災建造物から破損した部材片を採取し、現地で試験体の形状に加工した。材料試験はMyanmar Engineering Society(MES)及びYangon Technological University(YTU)の協力を得て、両機関のヤンゴン市内の実験施設で煉瓦プリズム及び煉瓦単体の強度試験を行った。また、成分分析用にモルタルの試料及び現地で伝統的に用いられている各種天然材料も入手した。

## 2. 煉瓦造歴史的建造物における構法調査：

歴史的建造物における煉瓦壁の構法に関する調査を実施した。併せて、現地で修理に携わってきた煉瓦積み職人への聞き取り調査を実施した。

## 3. 構造挙動モニタリング：

前年度調査で明らかにした典型的な亀裂と変形のパターンがみられる3棟の歴史的建造物を対象に、クラックゲージや変形の測点となるターゲットを設置し、初期値を計測したのちほぼ2か月おきにモニタリングを継続した。また、DOA現地スタッフに対してモニタリング測定方法に関する研修を実施した。

## 4. 文化遺産建造物修復事業の体制に関する調査：

現地当局が目下実施中の修復事業に携わるDOAエンジニア等の技術者や煉瓦積み職人等の技能者への聞き取り調査を実施し、修復事業の体制に関する情報収集を行った。

## 5. 現地ワークショップ：

DOAバガン支局スタッフを対象に、煉瓦造歴史的建造物の構造解析や保存修理等に関するレクチャーを行った。また要請に応じて、修理現場での助言等を適宜行った。

**発 表**・友田正彦「ミャンマーの文化遺産保護に関する東京文化財研究所の協力事業について」文化遺産国際協力コンソーシアム・第5回ミャンマーワーキンググループ 17.8.3 ほか1件

**刊行物**・『平成29年度 ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業・建築分野』東京文化財研究所 18.2

**研究組織** ○友田正彦、マルティネス・アレハンドロ、金善旭(以上、文化遺産国際協力センター)、腰原幹雄(東京大学)、多幾山法子(首都大学東京)、宮本慎宏(香川大学)、中内康雄(公益財団法人文化財建造物保存技術協会)

**備 考** 本事業は、奈良文化財研究所が文化庁より受託した事業の一部を再委託された。

## 被災資料有害物質発生状況調査業務

**目 的** 今後の保管及び安定化処理等の進め方について改善方法を提案する目的で、陸前高田市博物館の環境について、温湿度、空気質、微生物、処置水の水質などについて包括的な調査研究を実施する。

**成 果** 被災文化財有害物質発生調査のため、収蔵場所及び作業場所について、文化財安全と労働安全衛生の観点から、環境調査と被災文化財処置工程の調査を行った。

環境調査では、温湿度、空気環境について調査した。水を使った安定化処置特有の問題であるが、温湿度測定から排水処理能力が追い付いていない状況が判明し、校庭が貯水池のようになっており陸前高田市博物館周辺の相対湿度を高める方向で大きく影響していることがわかった。温湿度監視方法の改善については無線式の導入を図ったが、今後さまざまな調整が必要で当該年度で作業は終了できなかった。

空気環境については労働安全衛生上で問題のあった収蔵場所1カ所について、薬剤の除去、封鎖及び吸着シートの設置を行った（各種資材、温湿度データロガー及び防護服類など消耗品を購入）。

処置工程調査では、水質の確認、微生物発生状況の調査、被災文化財に付着した泥の有機物成分同定を実施した（サンプリング資材及びサンプル保管のための保管庫を購入）。処置に使用している水の清浄度が確認できた。また汚れの成分について詳細な情報が得られ、今後の処置法改善の道筋が得られた。



北川式検知管によるアンモニア、有機酸濃度の測定風景

**研究組織** ○佐野千絵、吉田直人、森井順之、内田優花（以上、保存科学研究センター）、呂俊民、古田嶋智子（以上、客員研究員）

**備 考** 本研究は、陸前高田市より依頼された。



## 著名外国人招へいによる日本美術の発信をテーマとした調査研究事業

**目 的** 世界最高レベルの文化財に関するアーカイブであるGetty・リサーチ・ライブラリー（アメリカ合衆国ロサンゼルス）の統括責任者で、Getty研究所副所長のキャスリーン・サロモン氏を招へいすることにより、日本美術の発信をテーマとした調査研究を行った。

**成 果** Getty研究所副所長のキャスリーン・サロモン氏を2017（平成29）年12月4日～10日に日本に招へいし、美術アーカイブについての研究会を開催した。また、日本の美術アーカイブを視察し、研究協議を行った。

1. 視察：12月5日（東京文化財研究所、東京国立博物館、東京国立近代美術館）、12月7日（国立西洋美術館、国立新美術館）、12月8日（日本文化国際研究センター）

2. 「キャスリーン・サロモン氏講演会—日本美術資料の国際情報発信に向けて」の開催：

12月6日に東京国立博物館黒田記念館セミナー室を会場に開催した。定員を上回る41名の参加があり、文化庁、国際交流基金、国立文化財機構、国立美術館機構、人間文化研究機構、公立私立美術館、公立私立大学等の図書・アーカイブ担当者など、実際の現場で業務に携わる多くの関係者が出席した。

サロモン氏の講演では、Getty財団、Getty研究所の成り立ち、図書館の所蔵資料と活動について説明したのち、同氏が近年、積極的に推進している情報の国際的共有についてのさまざまな取り組みの紹介があり、日本の美術図書館にもこうした国際的な枠組みに参加してほしいとの提言を示した。

サロモン氏による講演に続いて、国立西洋美術館の川口雅子氏をコメンテーターに迎えて講演を総括し、討議を行った。日本は国際情報発信が遅れていると、社会全体で問題視されているものの、日本の美術館・博物館・図書館などでは国際的に見ても研究性・有益性の高いデジタルコンテンツを独自に保有している機関も少なくない。今後の国内外の機関が連携を強化していくことによって、自らの組織力と独自性を向上させ、日本文化の国際発信に寄与できる、という問題意識を多くの参加者と共有することができた。また日本では研究・非営利目的であっても美術作品の画像がオープンアクセスとなっていないことにも話が及んだ。画像利用については多くの組織・機関が抱える問題でもあるため、大変有意義な研究討議となった。参加者アンケートでは満足（大変満足・概ね満足）が96%という結果を得た。

なお、サロモン氏の講演原稿（日本語・英語）・スライド、川口雅子氏コメント原稿（日本語）・スライド、討議抄録（日本語）は研究会報告としてまとめ、当研究所ウェブサイトで公開した。

**発 表**・キャスリーン・サロモン「視野の拡大に向けて：Getty研究所と美術研究情報の国際的発信」  
東京国立博物館黒田記念館セミナー室、17.12.6

**報 告**・『平成29年度文化庁委託著名外国人招へいによる日本美術の発信をテーマとした調査研究事業報告書』東京文化財研究所、18.2

・『「キャスリーン・サロモン氏講演会—日本美術資料の国際情報発信に向けて」研究会報告書』  
東京文化財研究所、18.3

・<http://www.tobunken.go.jp/japanese/publication/seminar/index.html>

**研究組織** ○江村知子、津田徹英、橘川英規、安永拓世、田所泰、増田政史（以上、文化財情報資料部）、山梨絵美子（副所長）

**備 考** 本事業は、文化庁より委託された。

## 航空資料保存の研究

**目 的** 紙や写真を主体とする航空に関する資料は、活用に重点がおかれてきたこともあり保存状態が悪いものが多く、このままでは貴重な資料の散逸を免れない状況にある。したがって、原資料を損なわずに今後も有効に活用するために、平成28年度に引き続き資料の種類や劣化の状態を調査し保存方法・修復方法の開発を行った。

### 成 果 1. 個人資料の記録・保存

平成24年度に寄贈頂いた以下の資料に関して、引き続き整理、記録、デジタル化、保存処置を実施した。

ア) 旧文部省在職時にグライダーの開発に携わった山崎好雄氏が遺した、日本で開発・設計された各種グライダーの図面や文献等各種一式。日本におけるグライダーの歴史を知る上で非常に貴重な紙資料群である。平成29年度は継続して資料の整理、選別、保存処置を行い、整理の終わった資料の中から「DFS オリンピア」型グライダーの青焼図面25枚及び初期の航空雑誌17冊のデジタル化を行った。

イ) 日本の民間航空史研究をライフワークとした作家・平木國夫氏が遺した資料一式。残された資料は、主として執筆の際に調査、収集した戦前の民間航空の資料からなり、写真や聞き取りの記録など多岐にわたる。平成29年度は継続して資料の整理、選別を行った。

### 2. 国際基督教大学で発見されたジェットエンジンの部品の調査

国際基督教大学の依頼により、同大学で発見されたジェットエンジンの部品について調査を行った。その結果、当該品は第二次世界大戦中に日本で開発されたジェットエンジンの部品であり、日本の航空史を物語る貴重な資料であることが判明した。

### 3. 資料のデジタル化

日本航空協会に寄贈された1以外の資料のうち、羽田飛行場の戦前のターミナルビルの青焼き図面を保存処置の一環としてデジタル化を行った。



デジタル化した図書資料『帝国飛行』



国際基督教大学で発見されたジェットエンジンの部品

**研究組織** ○北河大次郎、石田真弥、山府木碧(以上、保存科学研究センター)、長島宏行(客員研究員)、荻田重賀(一般財団法人日本航空協会)

**備 考** 本研究は、一般財団法人日本航空協会と共同で実施した。

## Getty・リサーチポータルへの明治期～昭和期(戦前)の展覧会資料(デジタル)の提供・公開

**目 的** 本事業はGetty研究所との共同研究によって、東京文化財研究所が所蔵する749件の展覧会目録のデジタル化とウェブ公開を行うものである。これらの目録は明治大正昭和前期の内国勸業博覧会、万国博覧会、主要美術団体を記録する日本で稀有な目録のコレクションである。これらをGetty・リサーチポータルに掲載し、ウェブ公開することで、日本近代美術に関する情報を国内外に発信することを目的とする。

**成 果** 2016(平成28)年2月に締結したGetty研究所と日本美術の共同研究に関する協定書に基づき、2017(平成29)年2月に当研究所からGetty研究所を訪問し、共同研究の内容について協議して、東京文化財研究所が所蔵する明治・大正・昭和戦前期の美術展覧会目録のデジタル化とメタデータ付与を共同事業として行い、Getty・リサーチポータルに掲載する方針を定めた。今年度は、当所所蔵の展覧会目録から当該事業にふさわしい資料を選び749件の展覧会目録リストを作成して、それらをデジタル化することでGetty研究所と合意した。また、メタデータの形式について協議し、Getty・リサーチポータルに掲載可能なデータ形式の共有を行った。

12月に合意書を取り交わし、2月にサンプル画像を送り、Getty研究所の了解を得て、本格的な画像スキャンに着手した。



東京文化財研究所蔵『日英博覧會新美術出品圖録』(1910年)表紙

**研究組織** ○山梨絵美子(副所長)、津田徹英、江村知子、橘川英規(以上、文化財情報資料部)

**備 考** 本研究は、Getty研究所と共同で実施した。



## バガン遺跡群（ミャンマー）寺院祠堂壁画の保存修復

**目 的** ミャンマーのバガン遺跡は、11世紀から13世紀にかけて栄えたビルマで初めての統一王朝パガン朝の時代に建てられた仏教遺跡群である。遺跡内には煉瓦造の仏塔や寺院が約3000基建ち並んでおり、その中のひとつであるローカテイパン（Loka-Hteik-Pan）寺院の内壁は12世紀前半に描かれた仏教壁画で埋め尽くされている。本研究では、このうち南壁に描かれた壁画を対象にその技法材料や損傷傾向の調査を行い、適切な保存修復方法を確立することを目的とする。

**成 果** 1. 保存修復計画作成のための事前調査

①聞き取り調査

バガンでは過去の文化財保存修復事業に関する資料が少ないことから、過去にローカテイパン寺院壁画の保存修復に携わった専門家より聞き取り調査を行い、保存修復計画立案のための資料とした。

②デジタルカメラによる写真記録

デジタルカメラによる高細密な写真記録撮影を行った（通常光／斜光）。

③損傷図面の作成

目的：損傷傾向の把握／記録資料

④クリーニングテスト

現在の壁画の保存状態と過去に使用された修復材料との関係性に留意しながら、壁画表面の堆積物及び付着物の除去を目的とするクリーニングテストを実施した。

2. 保存修復計画の作成

事前調査の結果をもとに、壁画に適した保存修復計画の作成を行った。

3. 現地専門家の育成

考古国立博物館局バガン支局より若手専門家を受け入れ、一連の壁画保存修復方針の組み立て方について指導を行った。



Loka-Hteik-Pan 寺院南壁



壁画（部分写真）

**研究組織** ○前川佳文（文化遺産国際協力センター）、ダニエラ・マリア・マーフィー（文化協会バスティオーニ）、ステファニア・フランチェスキーニ（壁画保存修復士）、マリア・レティツツィア・アマドーリ（ウルビーノ大学）

**備 考** 本研究は、公益財団法人住友財団の助成を得た。

## 日本絵画の色と材料「Color & Material」

**目 的** これまでに200作品以上の日本絵画の光学調査を実施し、図像表現や彩色材料に関する調査研究を続けてきた。それらの調査結果を解析していくと、白色顔料がある時代を境に大きく切り替わっていること、緑色顔料にこれまで考えられていた以上の多様性があること、など新たな事実がいくつも明らかになってきた。これらの調査で明らかになった日本絵画における彩色材料の変遷や多様性について、膨大な調査結果に基づいた客観的事実を、高精細画像と科学的調査結果を提示しながら公開することが目的である。

**成 果** 古墳時代から江戸時代までの代表的絵画について、高精細画像撮影と科学的な材料分析を併用した光学調査の結果について出版を行った(2018(平成30)年3月)。白色顔料について鉛白から胡粉への転換、赤色顔料について辰砂と鉛丹の併用、緑色顔料について亜鉛やヒ素を含む緑青の利用実態、青色顔料について群青とプルシアンブルーの使い分けなどについて、光学調査によって明らかになった研究成果を提示・解説した。

本出版物で提示した代表的絵画作品は下記の通りである(●：国宝、◎：重要文化財)。

- ・古墳時代：●高松塚古墳壁画
- ・奈良時代：●吉祥天像
- ・平安時代：●平等院壁扉画、●仏涅槃図、●伴大納言絵巻、●源氏物語絵巻、  
●十一面観音像、●阿弥陀聖衆来迎図
- ・鎌倉時代：●山越阿弥陀図、春日権現験記絵
- ・室町時代：◎四季花鳥図屏風、◎酒伝童子絵巻
- ・桃山時代：◎泰西王侯騎馬図屏風、◎洋人奏楽図屏風
- ・江戸時代：●彦根屏風、●燕子花図屏風、動植綵絵、◎菜蟲譜(若冲作品)、琉球絵画

刊行物・早川泰弘、城野誠治『Color & Material—日本絵画の色と材料』大伸社 360p 18.3

研究組織 ○早川泰弘(保存科学研究センター)、城野誠治(文化財情報資料部)

備 考 本研究は、公益財団法人 出光文化福祉財団の助成を得て実施した。



## 文化財防災ネットワーク推進事業

**目 的** 2011(平成23)年3月に発生した東日本大震災における被災文化財等救援委員会の活動を基盤に、災害時の文化財等の防災に関するネットワークの構築を目的とする。(1) 体制づくり、(2) 調査研究、(3) 人材育成と情報発信の観点から、事業を進める。

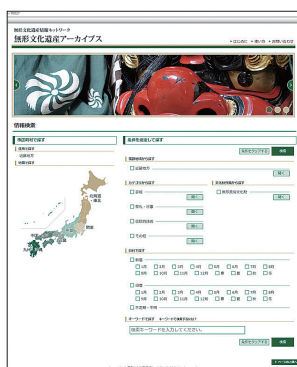
- 成 果**
- 地域防災ネットワークの確立促進(北海道・東北地方)
    - 2017(平成29)年10月10日：国立アイヌ博物館設立準備室
    - 2017(平成29)年10月10日：北海道博物館
    - 2017(平成29)年10月26日：秋田県立博物館
    - 2017(平成29)年10月27日：秋田県立近代美術館 等
  - 無形文化財の防災のための動態記録作成に関する調査研究
    - 動態記録による防災モデルケースとして、文化財保存に関わる楽器製作技術及び鵜飼船の製作技術の映像記録作成を行った。
  - 地方指定等文化財情報に関する収集・整理・共有化事業
    - 都道府県の文化財担当者を招き「無形文化遺産の防災」連絡会議を開催。2回の開催で45都府県からの参加があった。また全都道府県とメーリングリスト等によるネットワークを構築した。
    - 平成27年度から継続する都道府県・市町村指定等文化財全ジャンルのデータベース化を進めた。併せて都道府県・市町村の文化財保護条例データベースを作成。東日本分を公開。
    - 無形文化遺産分野に関しては全国のデータを収集。データベース及びアーカイブスを作成し、部分的な公開を行った。さらに情報収集を目的としたウェブサイトを構築し公開を開始。
    - データ収集・整理のモデルケースとして京都府所蔵の文化財資料のデジタル化を行った。
  - 被災状況に即した被災文化財の処置・保管に関する研究(全国)
    - 津波被災紙資料の処置法の改善、特に安定化処置に必要な日数を最適化することを目的に、岩手県立博物館仮設陸前高田市立博物館被災文化財等保存修復施設において、安定化処置の全工程の処置水のサンプリング、水温計測を実施した。
    - 福島県文化財センター「まほろん」において、仮保管庫C・D棟の化学物質汚染が改善しないことについて、これまでの空気環境計測データを元に解析した結果を説明し、今後の対策や必要な調査について助言した。
  - 文化財防災に関する研修(博物館・美術館学芸員等)
    - 博物館・美術館における日常の保存のための諸活動と、災害時の文化財の保存環境構築との関係に焦点をあて、下記のとおり研修会を開催した。
    - 日時：2018(平成30)年2月19日(月) 13：30～17：30
    - テーマ：災害時への備えとしての環境モニタリング 参加者：19名

**報 告**・森井順之、内藤百合子、萬納恵介、岡田健「平成28年熊本地震被災文化財救援活動報告からみる直下型地震後の文化財救援」『保存科学』57 pp.181-187 18.3

**発 表**・文化財防災ネットワーク推進事業報告会 東京文化財研究所 18.1.9

**研究組織** ○佐野千絵、吉田直人、内田優花、森井順之(以上、保存科学研究センター)、二神葉子、安永拓世(以上、文化財情報資料部)、久保田裕道、今石みぎわ、菊池理予、飯島満(以上、無形文化遺産部)、呂俊民、古田嶋智子(以上、客員研究員)

## インターネット公開

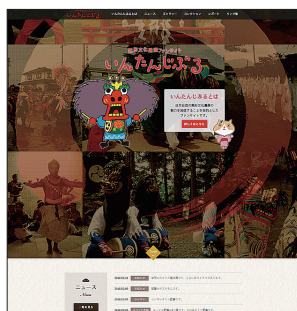


### 「無形文化遺産総合データベース」

文化庁及び都道府県からの提供を受け、文化財防災を目的とした「全国文化財等データベース」(非公開)の作成を継続中。「無形文化遺産総合データベース」は、その中から無形文化遺産に関わるデータを抽出し、公開を前提に構築したもの。無形文化遺産に関する基礎情報に加え、画像・映像・音声・文書など関連メディアのアーカイブを併設している。平成29年度は和歌山県データの試験的な公開を開始した。今後、全国に拡大する予定。(文化財防災ネットワーク推進事業の一環として実施)

### 「全国文化財保護条例データベース」

全国の都道府県・市区町村の文化財保護条例を収集し、地域・対象・保持者・保持団体等による検索を可能とした。条例本文をはじめ交付年・施行年・改定履歴、文化財種別等を閲覧することができる。平成29年度は、東日本エリアの公開を開始した。今後、全国に拡大する予定。(文化財防災ネットワーク推進事業の一環として実施)



### 「いんたんじぶる」

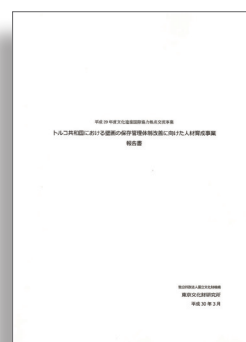
防災をはじめとする無形文化遺産の情報収集・情報発信を目的として作成した、一般向けサイト。無形文化遺産総合データベースへの導的な役割を果たすとともに、無形文化遺産関連ニュース等、様々な情報を発信する。無形文化遺産の伝承者や研究者、行政と愛好者を結ぶツールとしての機能を目指す。(文化財防災ネットワーク推進事業の一環として実施)

## 受託調査研究の一環として刊行された刊行物

### 『平成29年度文化遺産国際協力拠点交流事業

#### トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業報告書』

平成29年度文化遺産国際協力拠点交流事業として実施した「トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業」の成果報告書。研修事業の内容や関連調査の結果報告を掲載している。日本語、2018年3月刊行、168ページ  
(上記受託事業の一環として実施)





## 4. 個人の研究業績

## 凡 例

### 氏 名

- (1 公刊図書等)
- (2 報告)
- (3 論文)
- (4 解説、翻訳等)
- (5 学会発表)
- (6 講演会、研究会発表等)
- (7 所属学会、委員等)
- (8 教育等)



**安倍 雅史** ABE Masashi (文化遺産国際協力センター)

(1 公刊図書) 西藤清秀、安倍雅史、間舎裕生(編)『世界遺産パルミラ破壊の現場から シリア紛争と文化遺産』雄山閣 17.11

(1 公刊図書) シリア紛争下における文化遺産の被災状況 『世界遺産パルミラ破壊の現場から シリア紛争と文化遺産』雄山閣 pp.127-136 17.11

(1 公刊図書) 安倍雅史(監修)『消滅遺産 もう見られない世界の偉大な建造物』日経ナショナルジオグラフィック社 18.2

(1 公刊図書) 遺産を守り伝えるために『消滅遺産 もう見られない世界の偉大な建造物』日経ナショナルジオグラフィック社 pp.156-157 18.2

(2 報告)「西アジア考古学トップランナーズセミナー」の開催に関して『西アジア考古学』19 pp.75-77 18.3

(2 報告) 日本西アジア考古学会設立20周年特別企画に関する報告(桑原久男、河合望、安倍雅史)『西アジア考古学』19 pp.79-82 18.3

(3 論文) デイルムンの起源と専門化の発展 *Waseda RILAS Journal*, 5 pp.482-484 17.10

(3 論文) シリア紛争と文化遺産 *Review of Asian and Pacific Studies*, 42 pp.1-12 18.3

(3 論文) 古代デイルムン王国の起源を求めて(後藤健、西藤清秀、安倍雅史、上杉彰紀、原田怜、岡崎健治、渡部展也、堀岡晴美)『第25回西アジア発掘調査報告会報告集』 pp.72-76 18.3

(4 エッセイ) バハレーンに栄えた古代文明デイルムンの考古学『文化遺産の世界』 <https://www.isan-no-sekai.jp/> 17.4

(5 学会発表) 墓制から見たデイルムンにおける階層化 日本西アジア考古学会第22回大会 天理大学 17.7.2

(5 学会発表) バハレーン、ワーディー・アッ=サイル考古学プロジェクト2017(安倍雅史、後藤健、西藤清秀、上杉彰紀、渡部展也、岡崎健治、堀岡晴美、原田怜、山口莉歩、清水麻里奈) 日本西アジア考古学会第22回大会 天理大学 17.7.2

(5 学会発表) バハレーン、ワーディー・アッ=サイル考古学プロジェクト第3次調査の報告(安倍雅史、後藤健、西藤清秀、上杉彰紀、堀岡晴美、原田怜) 日本オリエント学会第59回大会 東京大学 17.10.29

(5 学会発表) The Origins of Dilmun: Comparative Study of the Burial Traditions in Dilmun and Neighbouring Regions 6<sup>th</sup> International Congress of the Society of South Asian Archaeology Indian Museum, Kolkata 18.3.16-18

(6 講演) 葬制から見た古代デイルムンの系譜と階層化 第240回アナトリア学勉強会 武蔵野プレイス 17.4.30

(6 講演) 古代デイルムン王国の起源を求めてーバハレーン、ワーディー・アッ=サイル考古学プロジェクト

2017(後藤健、西藤清秀、安倍雅史、上杉彰紀、原田怜、岡崎健治、渡部展也、堀岡晴美) 第25回西アジア発掘調査報告会 池袋サンシャインシティ文化会館 18.3.24

(6 発表) イラン文化遺産保護のための新規事業 文化遺産国際協力コンソーシアム第29回西アジア分科会 東京文化財研究所 17.6.5

(6 発表) バハレーンにおける考古学調査と文化遺産保護 東京文化財研究所総合研究会 東京文化財研究所 18.3.6

(7 所属学会) 日本オリエント学会、日本西アジア考古学会

**飯島 満** IJIMA Mitsuru (無形文化遺産部)

(1 公刊図書) 飯島満(翻刻・解題)『義太夫節浄瑠璃末翻刻作品集51 栗島譜嫁入雛形』玉川大学出版部 18.2

(4 解説) 豊竹呂太夫という名跡 『国立劇場第199回文楽公演解説書』 pp.20-21 独立行政法人日本芸術文化振興会国立劇場 17.5

(7 所属学会) 楽劇学会、歌舞伎学会、日本演劇学会、日本近世文学会

(7 委員会等) 国際芸術交流支援事業協力者会議審査委員、国立劇場本館文楽公演専門委員

**石井 美恵** ISHII Mie (客員研究員)

(2 報告)「Degradation of Textiles and its Cause」、「Conservation Treatment: Cleaning」、「Conservation-Restoration Case Studies 1」、「Conservation Treatment: Wet Cleaning」『ワークショップ「染織品の保存と修復」2017』 pp.22-24、25-26、28、29-32 18.3

(6 司会) 日本における染織文化財の保存「染織品を中心とする文化財の保存にかかる共同研究」締結記念集会 佐賀大学本庄キャンパス 17.7.29

(6 講義)「Degradation of Textiles and its Cause」、「Conservation Treatment: Cleaning」、「Conservation-Restoration Case Studies 1」、「Conservation Treatment: Wet Cleaning」Workshops on Conservation of Japanese Textile 国立台湾師範大学文物保存維護研究発展センター 17.8.15-16

(6 講義)「Outline of the Conservation of Textile」、「Basics of Textile」、「Organization Chart of Textile and Technique Models」、「Dyeing Color Triangle」、「Dyeing Sample for Matching」、「Reproducing Dye」Workshop for the Conservation of Historic Textiles in the Republic of Armenia Scientific Research Center for the Historical and Cultural Heritage, Museum of Mother See of Holy Echmiadzin, Republic of Armenia 18.9.11-20

(7 所属学会) IIC、ICOM、ICOM-CC、照明学会、文化財保存修復学会

(8 教育) 佐賀大学芸術地域デザイン学部准教授

**石田 真弥** ISHIDA Shinya (アソシエイトフェロー)

(2 報告) 煉瓦造建造物の保存と修復に関する事例集 (石田真弥、北河大次郎) 『未来につなぐ人類の技⑩ 煉瓦造建造物の保存と修復』 pp.77-124 東京文化財研究所 17.8

(3 論文) 東京形煉瓦を製造した工場の生産能力に関する考察 煉瓦建造物の保存・活用に関する研究-14 『2017年度日本建築学会大会 (中国) 学術講演梗概集』 pp.333-334 日本建築学会 17.7

(3 論文) 東京形煉瓦の品質に関する一考察 煉瓦建造物の保存・活用に関する研究-15 (石田真弥) 2017年度 (第88回) 日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ pp.643-646 日本建築学会関東支部 18.3

(4 資料紹介) 日本における「西洋」の保存 フィールドとしての「西洋」を問うー建築史・都市史研究が拓く未来ー p.37 日本建築学会 17.9

(5 学会発表) 東京形煉瓦を製造した工場の生産能力に関する考察 煉瓦建造物の保存・活用に関する研究-14 2017年度日本建築学会大会 (中国) 学術講演会 広島工業大学 17.8.31-9.3

(5 学会発表) 東京形煉瓦の品質に関する一考察 煉瓦建造物の保存・活用に関する研究-15 2017年度日本建築学会関東支部研究発表会 日本大学理工学部 18.3.1-2

(6 司会) 建築歴史・意匠「日本近代：近代和風 (1)」 2017年度日本建築学会大会 (中国) 学術講演会 広島工業大学 17.8.31-9.3

(7 所属学会) 産業考古学会、日本建築学会

(7 委員会等) 日本建築学会関東支部歴史意匠専門研究委員会委員

**石村 智** ISHIMURA Tomo (無形文化遺産部)

(1 刊行図書) 『よみがえる古代の港：古地形を復元する』吉川弘文館 247p 17.11

(1 刊行図書) 「南洋群島の水中戦争遺跡：パラオの事例」 『水中文化遺産：海から蘇る歴史』 pp.15-35 勉誠出版 17.6

(2 報告) Would inscription on UNESCO's List of Intangible Cultural Heritage contribute to the sustainability of intangible cultural heritage?: Cases of "Mibu no Hana Taue" and "Ojiya-chijimi, Echigo-jofu" *Proceedings of the International Symposium on Global Perspectives on Intangible Cultural Heritage: Local Communities, Researchers, States and UNESCO* pp.80-86

Center for Global Studies (CGC), Seijo University and International Research Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (IRCI) 17.11

(3 論文) Status of UNESCO Conventions related to cultural heritage protection in Ocean People and Culture in Oceania 33 pp.73-86 18.3

(4 編集) 『無形文化遺産映像記録作成研究会記録集』1

東京文化財研究所 1-70p 18.3

(5 学会発表) オセアニアにおける文化遺産の保護：近年の動向 日本オセアニア学会第35回研究大会・総会 沖縄海洋博記念公園海洋文化館 18.3.22-23

(6 講演) 水中文化遺産とはじめ NPO 法人南の風 創生本部・文化講演会 南伊豆町役場 17.9.18

(6 発表) Would inscription on UNESCO's List of Intangible Cultural Heritage contribute to the sustainability of intangible cultural heritage?: Cases of "Mibu no Hana Taue" and "Ojiya-chijimi, Echigo-jofu" *International Symposium on Global Perspectives on Intangible Cultural Heritage: Local Communities, Researchers, States and UNESCO* 成城大学 17.7.7-9

(6 講演) 地域文化のシンボルとしての文化財 シンポジウム「地域資源としての歴史・文化」 標津町生涯学習センターあすばるホール 17.9.10

(6 発表) Intangible cultural heritage and the protection system related to religion in Japan *Cultural Heritage and Religion in East Asia Academia Sinica, Taipei* 18.1.8-9

(6 司会) 趣旨説明・総合討論 (石村智・菊地芳朗) 考古学研究会第63回総会・研究集会「災害と考古学：持続と断絶」 岡山大学 17.4.15-16

(6 司会) 趣旨説明・ディスカッション 第1回無形文化遺産映像記録作成研究会 東京文化財研究所 18.2.19

(6 講義) 臨地研修：無形文化遺産の記録法 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所「文化遺産の保護に資する研修2017：博物館等における文化財の記録と保存活用」 東京文化財研究所 17.10.30

(6 発表) 大洋州島しょ国の文化遺産の現状：その脆弱性と可能性 第21回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「危機に瀕する楽園の遺産」 上智大学 17.7.24

(6 講演) ブリコラージュとしての技術：長良川鵜飼舟製作の記録を通じて 多聞会アートと考古学シリーズⅡ「無のかたち：Shape of the Shapeless」 建仁寺両足院 18.2.17

(7 所属学会) 考古学研究会、史学研究会、東南アジア考古学会、日本イコモス国内委員会、日本オセアニア学会、日本考古学協会、日本動物考古学会

(7 委員会等) 日本オセアニア学会評議員

**犬塚 将英** INUZUKA Masahide (保存科学研究センター)

(2 報告) 飛鳥寺本尊 銅造釈迦如来坐像 (重要文化財) 調査報告 (藤岡穰、犬塚将英、早川泰弘、皿井舞、三田寛之、八坂寿史、関丙賛、朴鶴洙) 奈良国立博物館研究紀要『鹿園雑集』19 pp.1-39 奈良国立博物館 17.7

(2 報告) 國學院大學図書館所蔵那智参詣曼荼羅卷子本

のX線透過撮影による調査 『國學院大學図書館所蔵 那智参詣曼荼羅卷子本光学的調査報告書』 國學院大學文学部歴史地理学教室 p.(13)(横書き) 18.2

(2 報告) 虎塚古墳石室の扉石表面に形成したバイオフィルム of 微生物群集構造解析とその制御 (佐藤嘉則、木川りか、犬塚将英、森井順之、矢島國雄) 『保存科学』57 pp.67-76 18.3

(2 報告) ジェランガムゲル処置による紙資料への影響 (貴田啓子、堀まなみ、大場詩野子、古田嶋智子、池田和彦、犬塚将英、早川典子) 『保存科学』57 pp.123-132 18.3

(5 学会発表) 可搬型X線回折分析装置による煉瓦造文化遺産の塩類析出に関する調査 (犬塚将英、佐々木淑美) 日本文化財科学会第34回大会 東北芸術工科大学 17.6.10-11

(5 学会発表) INAX ライブミュージアム「窯のある資料館」における保存環境と塩類析出に関する調査 (佐々木淑美、犬塚将英) 日本文化財科学会第34回大会 東北芸術工科大学 17.6.11

(5 学会発表) 関東周辺地域における縄文時代晩期の黒曜石製石器の原産地と技術形態学的検討との比較 (菅頭明日香、建石徹、大工原豊、新免歳靖、濱田翠、三浦麻衣子、犬塚将英、二宮修治) 日本文化財科学会第34回大会 東北芸術工科大学 17.6.10-11

(5 学会発表) テラヘルツ波イメージング技術による高松塚古墳壁画のしっくい調査 (犬塚将英、高妻洋成、杉岡奈穂子、福永香、建石徹) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.2

(5 学会発表) ジェランガムゲル処置した紙の残留物に関する調査 (貴田啓子、堀まなみ、大場詩野子、古田嶋智子、池田和彦、犬塚将英、早川典子) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.2

(5 学会発表) Identification of epiphytic cyanobacteria on surfaces of the stone coffins at Sekijinsan Tumulus (Nanami Konuma, Yoshinori Sato, Masahide Inuzuka, Masayuki Morii, Nobuaki Kuchitsu, Tomoyasu Nishizawa) 環境微生物系学会合同大会2017 東北大学 17.8.29-31

(5 学会発表) 湿度制御した温風処理による漆仕上げ材の表面ひずみの測定—塗装後約40年経過した漆仕上げ材のひずみの実測値と推定値の比較— (竹口彩、藤原裕子、藤井義久、木川りか、佐藤嘉則、犬塚将英、古田嶋智子) 第68回日本木材学会大会 (京都大会) 京都府立大学 18.3.14

(7 所属学会) IIC、日本建築学会、日本物理学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」壁画ワーキンググループ (材料調査班) 専門委員、ひたちなか市史跡保存対策委員、文化財の保存と公開における熱湿気環境WG委員

今石 みぎわ IMAISHI Migiwa (無形文化遺産部)

(1 共著) 生きた文化財を継承する—無形文化遺産と被災・復興 (高倉浩樹・山口睦 編) 『震災後の地域文化と被災者の民俗誌—フィールド災害人文学の構築』 pp.38-52 新泉社 18.1

(1 共著) (IMAISHI Migiwa, KITAHARA Jirota) *Hana to Inau (flowers and Inau) -Ainu Culture in the World* Hokkaido University Center for Ainu & Indigenous Studies 18.3

(2 報告) ニソの杜の樹林文化 『「大島半島のニソの杜の習俗」調査報告書』 pp.130-133 おおい町教育委員会 18.3

(2 報告) 海の道とイナウ 『まほら』 94 pp.38-39 旅の文化研究所 18.1

(2 報告) 本州の社寺に奉納されたアイヌの祭具・イナウをめぐって 『石川の歴史遺産セミナー講演録第27～28回』 pp.14-25 石川県立歴史博物館 18.3

(2 報告) 無形文化遺産とその制度 『第12回無形民俗文化財研究協議会報告書』 pp.1-13 東京文化財研究所 18.3

(3 論文) タモノキとニソの杜—大島半島のタブノキの民俗 『「大島半島のニソの杜の習俗」調査報告書 資料編』 pp.55-71 おおい町教育委員会 18.3

(4 解説) 願いを込めた削りかけ 『ふれあい』 2018年2月号 pp.10-11 全国農協観光協会 18.2

(4 編集) 『箕一箕サミット2017の記録』 55p 東京文化財研究所 18.3

(4 編集) 『無形文化遺産への道—ユネスコ無形文化遺産と地域の遺産 第12回無形民俗文化財研究協議会報告書』 125p 東京文化財研究所 18.3

(6 講演) 本州の社寺に奉納されたアイヌの祭具・イナウをめぐって 第27回石川の歴史遺産セミナー 北前船と蝦夷地 石川県立歴史博物館 17.5.20

(6 講演) 削りかけ文化・日本と世界 グリーンウッドワーク特別講座 岐阜県森林文化アカデミー 17.7.7

(6 講演) 海の道によって運ばれたアイヌ文化—若宮八幡神社の奉納イナウをめぐって— 資料が語る北前船主の歴史 石川県輪島市黒島公民館 17.10.21

(6 発表) ユネスコ無形文化遺産とその制度 第12回無形民俗文化財研究協議会 東京文化財研究所 17.12.18

(6 講演) 日本伝統のグリーンウッドワーク 削りかけを知る ろうきんの森の学校・岐阜地区 森工塾 美濃市番屋2号館 17.12.23

(6 講演) イナウ・削りかけ祭具の分布状況調査からシシリムカ文化大学第五回講座 イナウから探る～人・文化・信仰の交流～ 平取町二風谷 沙流歴史館 18.1.21

(6 講演) 鵜飼のわざを後世へ伝える—民俗技術としての長良川鵜飼 第10回市民講座 長良川鵜飼ミュージアム 18.2.17

(6 講演) 日本列島の削りかけ習俗とその広がり トカラ塾 武蔵野市御殿山コミュニティセンター 18.3.31  
 (6 司会) 箕のこれから 箕サミットー編み組み細工を語る 東京文化財研究所 17.11.13  
 (6 パネリスト) 宮本常一の現在地(赤坂憲雄、須藤護、今石みぎわ) 宮本常一生誕110周年シンポジウム 東和総合センター大ホール 17.8.1  
 (7 所属学会) 東北民俗の会、日本植生史学会、日本民具学会、日本民俗学会  
 (7 委員会等)「大島半島のニソの杜の習俗」調査員、岐阜市・関市長良川鵜飼総合調査専門委員会、文化庁文化財部調査員

#### 内田 優花 UCHIDA Yuka (アソシエイトフェロー)

(2 報告) 津波被災紙資料洗浄水の分析ー塩化物イオン濃度と細菌数ー(内田優花、佐野千絵、赤沼英男)『保存科学』57 pp.169-179 18.3  
 (4 解説) 津波被災紙資料の状態把握を目的とした簡易試験法(内田優花、佐野千絵)『安定化処理ー大津波被災文化財保存修復技術連携プロジェクト 2018 増補版』pp.77-80 津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会 18.3  
 (5 学会発表) 津波被災紙資料から発生する臭気についてー安定化作業中の処理水の分析ー(内田優花、佐野千絵、赤沼英男) 日本文化財科学会第34回大会 東北芸術工科大学 17.6.10-11  
 (5 学会発表) 紙に付着した粘着テープの劣化ーアクリル樹脂系粘着テープ除去方法の検討ー(内田優花、早川典子) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.2  
 (7 所属学会) 日本文化財科学会、文化財保存修復学会

#### 元 喜載 WON Heejae (アソシエイトフェロー)

(4 編集)『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2017』91p 東京文化財研究所 18.3  
 (4 編集)『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」評価 2017』70p 東京文化財研究所 18.3  
 (4 校閲) Advanced – Restoration of a Japanese Folding Screenー『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」 2017』pp.48-90 東京文化財研究所 18.3  
 (4 校閲) アンケート結果の概要 『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」評価 2017』pp.27-34 東京文化財研究所 18.3  
 (7 所属学会) 文化財保存修復学会

#### 宇高 健太郎 UDAKA Kentaro (日本学術振興会特別研究員)

(1 共著) *Basic Knowledge about Animal Glue* (宇高健太郎、早川典子、北田克己、協力: 森田恒之、荒井経、稲葉満政、半田昌規、齋藤典彦、翻訳: 松原美智子) pp.1-4 膠文化研究会 18.1

(5 学会発表) 膠の性状と装潢における適性の関連 (宇高健太郎、早川典子、半田昌規、岡泰央、藤井佑果、小笠原具子、亀井亮、半田幾子、宇和川史彦、柏谷明美) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.2

(5 学会発表) 膠を用いた模擬劣化彩色体の調製方法 (宇高健太郎、早川典子、柏谷明美、半田昌規、岡泰央、小笠原具子、亀井亮子、半田幾子、宇和川史彦、藤井佑果) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.2

(6 講演) Basic Knowledge about Animal Glue -Categories and Production Methods- Making Animal Glue for Painting and Conservation: Traditional Production Methods and Modern Applications in Japan Freer Gallery of Art and Arthur M. Sackler Gallery, Smithsonian Institution 18.2.14

(6 講演) 修復用膠の基礎科学 平成29年度宮内庁正倉院事務所講習会 宮内庁正倉院事務所 17.9.21

(6 講演) 中国及び欧州における膠の現状 膠文化研究会第10回公開研究会 東京藝術大学 17.10.29

(7 所属学会) 文化財保存修復学会

(7 委員会等) 膠文化研究会運営委員会

(8 教育) 東京藝術大学大学院文化財保存学専攻保存修復彫刻非常勤講師、東京藝術大学大学院文化財保存学専攻保存修復日本画非常勤講師

#### 江村 知子 EMURA Tomoko (文化財情報資料部)

(2 報告) 研究会「キャスリーン・サロモン氏(ゲッティ研究所副所長)講演会ー日本美術資料の国際情報発信に向けて」開催報告 『アート・ドキュメンテーション通信』116 pp.9-11 18.1

(4 記事)「物故者」ウィラード・G・クラーク 『日本美術年鑑』平成28年版 pp.559-560 東京文化財研究所 18.3

(4 編集) (江村知子、橘川英規、山梨絵美子)『平成29年度 文化庁委託 著名外国人招へいによる日本美術の発信をテーマとした調査研究事業』報告書 62p 東京文化財研究所 18.2

(4 翻訳) キャスリーン・サロモン「視野の拡大に向けて: ゲッティ研究所と美術研究情報の国際的発信」『平成29年度 文化庁委託 著名外国人招へいによる日本美術の発信をテーマとした調査研究事業』報告書 pp.21-40 東京文化財研究所 18.2

(6 講演) 海を渡った日本絵画ーライブソビエト民族学博物館所蔵「四条河原遊楽図屏風」の紹介をかねて 第51回オープンレクチャー 東京文化財研究所 17.11.2

(6 講演) 描かれた女性と着物ー近世風俗画の視点から 大川美術館 18.1.20

(7 所属学会) アート・ドキュメンテーション学会、美術史学会



**大河原 典子** OKAWARA Noriko (客員研究員)

(2 報告) Materials and technique -Painting on silk-、Painting on silk 『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2017』 pp.10-12、13 18.3

(6 講義)「Materials and Techniques -Painting on silk-」、「Painting on Silk」、Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk ベルリン国立博物館アジア美術館 17.7.5

(7 所属学会) 文化財保存修復学会

(8 教育) 鎌倉女子大学児童学部准教授

**大場 詩野子** OBA Shinoko (客員研究員)

(5 学会発表) ジェランガムゲル処置した紙の残留物に関する調査(貴田啓子、堀まなみ、大場詩野子、古田嶋智子、池田和彦、犬塚将英、早川典子) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.2

(7 所属学会) 筑波大学美術史学会、美術史学会、文化財保存修復学会、明治美術学会

**岡田 健** OKADA Ken (客員研究員)

(2 報告) 平成28年熊本地震被災文化財支援活動報告からみる直下型地震後の文化財救援(森井順之、内藤百合子、萬納恵介、岡田健) 『保存科学』57 pp.181-189 18.3

(3 論文) 石窟壁画研究備忘録—失われた壁画の記憶『再獲秋実 第二回曲江壁画論壇論文集』(西安曲江芸術博物館、周天游主編) pp.182-189 17.5

(6 発表)「壁画模写」という作業の意味—経年変化をした古代壁画から「模写」という作業は何を学ぶ取るか? (岡田健、程博) 第3回曲江壁画論壇 曲江芸術博物館(中国・陝西省) 17.10.27

(6 講演) 体験を活かして～自然災害から文化財を守る3つのポイント 平成29年度愛媛県文化財行政担当者会議 愛媛県庁 17.4.29

(6 講演) 防災の視点から考える文化遺産保護研究—その課題と可能性—「九州における文化遺産保護研究の拠点形成のための基盤整備事業」研究会 別府大学 17.6.4

(6 講演) 自然災害発生による文化財被害に対応するための地域内連携体制の確立について—博物館ネットワークが機能する迅速な情報収集と共有化の観点から— 東海地区博物館連絡協議会 静岡県立美術館 17.7.26

(6 講義) “文化遺産”の記憶と真実(文化遺産研究の意義と課題) 一日本京都東寺国宝毘沙門天像を例として— 中央美術学院人文学院(中国・北京) 17.10.26

(6 講習会) 文化財防災の考え方と救出保全活動のための備え 特定非営利活動法人文化財保存支援機構事務局「文化財保存修復を目指す人のための実践コース」 東京藝術大学 17.10.1

(6 司会) パネルディスカッション パレアアクシア企

画展関連シンポジウム「大規模災害時における博物館の役割」 くまもと県民交流館パレア 17.7.5

(6 パネリスト) パネルディスカッション 国際シンポジウム「日本と世界が共にめざす文化遺産防災」 立命館大学 17.9.16

(7 所属学会) 東アジア文化遺産保存学会、美術史学会、文化財保存修復学会

**小田 桃子** ODA Momoko (アソシエイトフェロー)

(2 報告)「Summary of the results of the questionnaire (Basic workshop)」、「Summary of the results of the questionnaire (Advanced workshop)」『ワークショップ「染織品の保存と修復」2017』 pp.14-15、42-43 東京文化財研究所 18.3

(4 編集)『ワークショップ「染織品の保存と修復」2017』 45p 東京文化財研究所 18.3

(4 翻訳)『ワークショップ「染織品の保存と修復」2017』 pp.2-12、18-40 東京文化財研究所 18.3

(4 校閲)『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2017』 91p 東京文化財研究所 18.3

(7 所属学会) 文化財保存修復学会

**小野 真由美** ONO Mayumi (文化財情報資料部)

(3 論文) 狩野探幽と永井信斎尚政—御用絵師と大名茶人の交友—『MUSEUM』672 pp.57-67 18.2

(4 記事)「物故者」小川知二 『日本美術年鑑』平成28年版 pp.530-531 東京文化財研究所 18.3

(6 講演) 描かれた枇杷図—狩野探幽と江戸の再生 第51回オープンレクチャー 東京文化財研究所 17.11.3

(6 講義) 草花写生図から読み解く江戸の美意識 アストライアの会(日本セカンドライフ協会) 豊島区生活産業プラザ 18.2.16

(7 所属学会) 美術史学会

**小山田 智寛** OYAMADA Tomohiro (文化財情報資料部)

(2 報告) WordPressを利用した動的ウェブサイトの構築と効果—「物故者記事」「美術界年史(彙報)」を事例として— 『美術研究』424 pp.21-28 18.3

(6 講習会) サーバーが直面している脅威 東文研はどのように攻撃されているか 情報システム部会平成29年度第1回研修会 東京文化財研究所 17.9.21

(6 講習会) メールゲートウェイの統合について、Windows7のサポート終了について 情報システム部会平成29年度第2回研修会 東京文化財研究所 18.2.21

(7 所属学会) デジタルアーカイブ学会、美学会

**片山 まび** KATAYAMA Mabi (客員研究員)

(7 所属学会) 美術史学会、東洋陶磁学会、韓国美術史学会、韓国中世考古学会

(8 教育) 東京外国語大学非常勤講師、信州大学非常勤



**加藤 雅人** KATO Masato (文化遺産国際協力センター)

(2 報告)「Materials and technique-Paper-」,「Conservation of cultural properties on paper and silk in Japan」『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2017』pp.14-17、38-41 東京文化財研究所 18.3

(2 報告) General Information for Experiment 『ワークショップ「染織品の保存と修復」2017』 p.27 東京文化財研究所 18.3

(2 報告) Results of the Questionnaire Survey アンケート結果概要(後藤里架、五木田まきは、加藤雅人、中山俊介)『ワークショップ「漆工品の保存と修復」評価2017』 pp.90-96、197-202 東京文化財研究所 18.3

(2 報告) 研修の経緯 『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」評価2017』 pp.2-7 東京文化財研究所 18.3

(4 編集)『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2017』 91p 東京文化財研究所 18.3

(4 編集)『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」評価2017』 70p 東京文化財研究所 18.3

(4 編集)『ワークショップ「染織品の保存と修復」2017』 45p 東京文化財研究所 18.3

(6 発表) Results of the Questionnaire (後藤里架、五木田まきは、加藤雅人、中山俊介) 評価セミナー2017:ワークショップ「漆工芸品の保存と修復」 東京文化財研究所 17.11.9

(6 発表) 紙文化財の保存と修復 第63回 Paper Science Forum 紙の博物館 18.2.28

(6 講演) 近現代の紙の多様性 平成29年度一般社団法人国宝修理装演師連盟第23回定期研修会 京都府民総合交流プラザ京都テルサ 17.11.20

(6 講義) Materials and technique-Paper- Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk ベルリン国立博物館アジア美術館 17.7.6

(6 講義) Conservation of cultural properties on paper and silk in Japan Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk ベルリン国立博物館アジア美術館 17.7.7

(6 講義) General Information for Experiment Workshops on Conservation of Japanese Textile 国立台湾師範大学文物保存維護研究発展センター 17.8.15

(6 講義) Paper conservation in Japan International Course on Conservation of Japanese Paper 東京文化財研究所 17.8.28

(6 講義) Paper basics International Course on Conservation of Japanese Paper 東京文化財研究所 17.8.30

(6 講義) 再考、紙の保存と修復 ～多様な近現代紙を中心に～ 日本の近現代紙資料勉強会 ミュージアム知覧 フォーラム 18.3.7

(7 所属学会) 日本文化財科学会、日本木材学会、文化

財保存修復学会

(7 委員会等) 保存修復学会学会誌編集委員

(8 教育) 東洋美術学校保存修復科非常勤講師

**亀井 伸雄** KAMEI Nobuo (所長)

(3 論文) 昭和12年の松江城実測図について 『松江城天守実測図一城戸久氏調査図面』松江城関係資料集 11 pp.1-8 松江市 18.3

(4 記事) 村上さん逝く 『文建協通信』 128 pp.4-6 文化財建造物保存技術協会 17.4

(4 記事) 物故者(大河直躬) 『日本美術年鑑』平成28年版 pp.550-551 東京文化財研究所 18.3

(4 記事) 物故者(伊藤延男) 『日本美術年鑑』平成28年版 pp.557-558 東京文化財研究所 18.3

(6 講演) 重要文化財に指定された旧和歌山県会議事堂―その歴史的価値と魅力― 重要文化財指定記念講演会 旧和歌山県会議事堂 17.9.11

(6 講演) Survey and Conservation of Residential Houses in Japan Workshop on Conservation of Traditional House in Bhutan Department of Culture, Thimphu, Bhutan 18.3.13

(7 所属学会) 建築史学会、土木学会、日本建築学会、文化財建造物保存修理研究会

(7 委員会等) 文化審議会委員

**川嶋 陶子** KAWASHIMA Toko (アソシエイトフェロー)

(4 編集) (石澤良昭、青木繁夫、關雄二、上野邦一、岡田保良、前田耕作ほか)『文化遺産国際協力コンソーシアム10周年記念誌ーコンソーシアム10年のあゆみと文化遺産からつながる未来ー』 114p 文化遺産国際協力コンソーシアム 18.3

**川野邊 渉** KAWANOBE Wataru (特任研究員)

(3 論文) 高松塚・キトラ古墳壁画上の微生物汚れの除去ー酵素の選抜とその諸性質ー(佐藤嘉則、木川りか、貴田啓子、川野邊渉、早川典子) 『保存科学』57 pp.11-22 18.3

(5 学会発表) キトラ古墳壁画の修復(早川典子、川野邊渉、辻本与志一、山本記子、亀井亮子、宇田川滋正、建石徹) 文化財保存修復学会第38回大会 金沢歌劇座 17.7.1

(5 学会発表) ポリビニルアルコール分解酵素の彩色・絵画修復への応用(早川典子、酒井清文、川野邊渉、山中勇人) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.2

(7 所属学会) 日本文化財科学会、文化財保存修復学会  
(7 委員会等) 国宝白杵磨崖仏修理委員会委員長、史跡備前陶器窯跡整備委員会委員、日本航空協会評議員、「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」壁画ワーキンググループ(材料調査班)専門委員、文化審議会無形文化遺産部会作業部会構成員

**間舎 裕生** KANSHA Hiroo (アソシエイトフェロー)

(1 共著) 西藤清秀、安倍雅史、間舎裕生(編)『世界遺産パルミラ破壊の現場から シリア紛争と文化遺産』雄山閣 202p 17.11

(1 公刊図書) 世界史の中のシリア 『世界遺産パルミラ破壊の現場から シリア紛争と文化遺産』 pp.79-90 雄山閣 17.11

(3 論文) ニ〇一六年度ベイトン遺跡 (パレスチナ自治区) における考古学的発掘調査 (杉本智俊、菊池実、稲野裕介、間舎裕生) 『史学』87 pp.165-196 17.7

(6 講義) For the Safe Workshop Workshop for the Conservation of Historic Textiles in the Republic of Armenia Scientific Research Center for the Historical and Cultural Heritage, Republic of Armenia 17.9.11

(7 所属学会) 日本オリエント学会、日本建築学会、日本西アジア考古学会、三田史学会

**菊池 理予** KIKUCHI Riyo (無形文化遺産部)

(2 報告) (菊池理予、橋本かおる、岡田宣世、田中淑江、後藤純子、門脇幸恵) 平成26~29年度科学研究費挑戦的萌芽研究『実演用能装束の保存継承に関する研究ー能楽の包括的継承の一指針としてー』 本編73p・資料編100p 17.5

(3 論文) 「일본 마라의 현황 문화재보호법을 통해 본 마라의 보호」日本における麻ー無形の文化遺産保護という視点からー 『한국과 일본의 인류무형유산 모시짜기 한국と日本の人類無形遺産 カラムシ織り』 pp.160-167 (ハングル)、pp.168-175 (日本語) 韓国無形遺産院 17.8

(3 論文) 友禅染と青花紙の関わりに関する一試論 『無形文化遺産研究報告』12 pp.23-39 東京文化財研究所無形文化遺産部 18.3

(5 学会発表) 実演用能装束の保存継承に関する研究ー能楽の包括的継承の一指針としてー (菊池理予、橋本かおる、岡田宣世、田中淑江、後藤純子、長谷川紗織、田代斐音、門脇幸恵、宝生和英、北島恭代) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.2

(6 発表) 東京文化財研究所における染織技術の記録 日本における染織文化財の保存 佐賀大学本庄キャンパス 17.7.29

(6 講義) 「Systems for Protection of Cultural Properties in Japan」, 「Thread Production in Japan」, 「Structure of Kimono」, 「Styles of Kimono」 Workshops on Conservation of Japanese Textile 国立台湾師範大学文物保存維護研究発展センター 17.8.9-11

(6 講義) Protection of Craft Techniques: Present Condition and Transitions International Course on Conservation of Japanese Paper 東京文化財研究所 16.9.11

(6 司会) 絹と織 (宝生和英、志村明、菊池理予) 宝生会「能+1」 宝生能楽堂 17.4.9

(7 所属学会) 国際服飾学会、美術史学会、服飾文化学会、文化財保存修復学会

**貴田 啓子** KIDA Keiko (客員研究員)

(2 報告) ジェランガムゲル処置による紙資料への影響 (貴田啓子、堀まなみ、大場詩野子、古田嶋智子、池田和彦、犬塚将英、早川典子) 『保存科学』57 pp.123-132 18.3

(5 学会発表) 紙の緑青焼けに及ぼす銅成分と膠について (貴田啓子、柏谷明美、稲葉政満、早川典子) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.2

(5 学会発表) ジェランガムゲル処置した紙の残留物に関する調査 (貴田啓子、堀まなみ、大場詩野子、古田嶋智子、池田和彦、犬塚将英、早川典子) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.2

(5 学会発表) 和紙の緑青焼けに及ぼすドウサの効果 (貴田啓子、柏谷明美、稲葉政満、早川典子) マテリアルライフ学会 第28回研究発表会 東京都立産業技術研究センター 17.7.13-14

(5 学会発表) Effect of copper ions derived from Malachite pigment on deterioration of Japanese paper Substrate (Keiko KIDA, Akemi KASHIWAYA, Masamitsu INABA, Noriko HAYAKAWA) The 6<sup>th</sup> International Symposium of the Society for Conservation of Cultural Heritage in East Asia, 2017 復旦大学 17.8.23-27

(5 学会発表) 雁皮紙の酸化劣化に及ぼす煮熱剤の影響 (岩田直美、貴田啓子、関正純、稲葉政満) マテリアルライフ学会第22回春季研究発表会 関東学院大学 18.2.23

(7 所属学会) セルロース学会、文化財保存修復学会、マテリアルライフ学会

(8 教育) 帝京大学宇都宮キャンパス非常勤講師、東京藝術大学美術研究科教育研究助手

**北河 大次郎** KITAGAWA Daijirō (保存科学研究センター)

(2 報告) 研究の経緯とねらい 『煉瓦造建造物の保存と修復』 pp.6-9 東京文化財研究所 17.8

(2 報告) 煉瓦造建造物の保存と修復に関する事例集 (石田真弥、北河大次郎) 『煉瓦造建造物の保存と修復』 pp.77-113 東京文化財研究所 17.8

(2 報告) About this publication *Principles for Conservation and Restoration of Modern Cultural Heritage Properties* pp.3-4 東京文化財研究所 18.3

(3 論文) 土木史研究の歴史的展開に関する研究 『土木史研究』37 pp.171-174 17.5

(3 論文) 平成28年熊本地震による歴史的土木構造物の被災状況に関する調査報告 (本田泰寛、阿部貴弘、北河大次郎) 『土木史研究』37 pp.151-158 17.5

(4 監修) 『国際基督教大学所蔵ジェットエンジンに関する調査報告書』 48p 国際基督教大学アジア文化研究所 18.3

(4 記事) 東京の骨格は江戸のインフラストラクチャー (陣内秀信、皆川典久、北河大次郎) 『東京人』385 pp.12-35 都市出版株式会社 17.7

- (5 学会発表) 土木史研究の歴史的展開に関する研究  
第37回土木史研究発表会 東京工業大学 17.6.25
- (6 講演) わが国防災遺産の系譜と立山砂防 世界遺産登録推進シンポジウム2017立山砂防国際シンポジウム 砂防会館 17.10.1
- (6 講演) シビルの原点とその系譜 シビルNPO連携プラットフォーム講演会 土木学会 17.10.3
- (6 講演) これからの近代化遺産を考える 近代化遺産の保存と活用：地方都市のまちづくりを考える 足利工業大学 17.10.28
- (6 講演) インフラ・土木遺産の観光資源としての魅力と可能性 島嶼地域の観光とインフラ 那覇市ぶんかテンプス館 17.11.22
- (6 講演) 20世紀遺産20選と富山の遺産 立山黒部を愛する会特別講演会 ホテルアクア黒部 18.2.10
- (6 講演) 駒沢給水塔の文化財的な価値について 第3回有形登録文化財連続セミナー 駒沢給水塔の将来を考える 弦巻区民センター 18.2.17
- (7 所属学会) ICOMOS、土木学会
- (7 委員会等) 岩国市錦帯橋報告書編纂作業部会委員、JR西日本鉄道記念物評価選定委員、土木学会図書館委員会委員、佐渡市建造物保存活用に関する専門家会議委員、全国近代化遺産活用連絡協議会協力者会議委員、日本航空協会航空遺産継承基金専門委員、日仏工業技術会常務理事、萩市萩反射炉整備委員会委員、文化庁近現代建造物の保存と活用の在り方に関する協力者会議委員、文化庁近代遺跡の調査等に関する検討会委員、文化庁調査員、横須賀市国指定史跡東京湾要塞跡整備委員会委員、横手市歴史的風致維持向上協議会委員
- (8 教育) 東京大学工学部社会基盤学専攻非常勤講師

#### 橘川 英規 KIKKAWA Hideki (文化財情報資料部)

- (2 報告) (江村知子、橘川英規、山梨絵美子) 『平成29年度 文化庁委託 著名外国人招へいによる日本美術の発信をテーマとした調査研究事業報告書』 62p 東京文化財研究所 18.2
- (2 報告) [報告] 電動集密書架の定期的散開による環境制御効果の検討 (佐野千絵、橘川英規) 『保存科学』 57 pp.145-158 18.3
- (3 論文) 山下菊二アーカイブズの収受と、そこからみる美術作家アーカイブズの共有化における課題 『美術フォーラム21』35 pp.114-118 17.5
- (4 編集) 藤島武二文献目録 『藤島武二展 生誕150年記念』 pp.162-171 東京新聞 17.7
- (4 編集) 狩野芳崖と四天王文献目録 『狩野芳崖と四天王：近代日本画、もうひとつの水脈』 pp.224-233 求龍堂 17.9
- (4 編集) Bibliography of Design and Society in Modern in Japan (TSUJI Yasutake, KIKKAWA Hideki) *Review of Japanese Culture and Society*, 28 pp.40-50 Center for

Inter-Cultural Studies and Education, Josai University 17.10

(4 記事) 「物故者」三上晴子、金子国義、オチオサム、梶山俊夫 『日本美術年鑑』平成28年版 pp.524-525、533-534、538、542-543 18.3

(6 発表) 東京文化財研究所の出版物、データベースの紹介 (ブース出展) EAJRS (日本資料専門家欧州協会) 第28回年次大会「日本学支援のデジタル対策」 オスロ大学 17.9.13-16

(6 発表) 文化財アーカイブズ構築の取り組み—学術情報基盤を活用した研究資料の提供を中心に 東京文化財研究所平成29年度第3回総合研究会 東京文化財研究所 17.11.7

(7 所属学会) アート・ドキュメンテーション学会

#### 朽津 信明 KUCHITSU Nobuaki (保存科学研究センター)

(2 報告) 科学研究費調査報告書『環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究成果報告書』 67p 18.3

(3 論文) 多視点ステレオ技術に基づく磨崖和霊石地蔵の劣化状況評価 (朽津信明、森井順之、酒井修二、運天弘樹) 『保存科学』57 pp.1-10 18.3

(3 論文) 保存科学から見た被災古墳の修復史 『保存科学』57 pp.77-90 18.3

(4 解説) 「和歌山城と名古屋城」 『紀州古城館情報』 2017年9月号 pp.4-6 17.9

(4 解説) 「名古屋城天守の木造再建について」 『紀州古城館情報』 2017年9月号 pp.6-8 17.9

(5 学会発表) The degradation state of the Wareishi Rock Cliff Sculpture based on the multi-view stereo (Nobuaki Kuchitsu, Masayuki Morii, Shuji Sakai, Hiroki Unten) JpGU-AGU JOINT MEETING 2017 Makuhari Messe International Conference Hall 17.5.21

(5 学会発表) 多視点ステレオ技術に基づく磨崖和霊石地蔵の劣化状況評価 (朽津信明、森井順之、酒井修二、運天弘樹) 日本文化財科学会第34回大会 東北芸術工科大学 17.6.10

(5 学会発表) 断層露頭の保存に関する保存科学的考察 (朽津信明、森井順之) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1

(5 学会発表) 覆屋の形態による環境条件の違い—北関東の覆屋を事例に— (宋苑瑞、朽津信明、森井順之、佐多麻美) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1

(5 学会発表) 石人山古墳装飾石棺表面の微生物群集構造解析 (佐藤嘉則、西澤智康、小沼奈那美、犬塚将英、森井順之、木川りか、朽津信明) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1

(5 学会発表) 地質露頭の科学的保存と公開に関する研究 (朽津信明、森井順之) 平成29年度日本応用地質学会研究発表会 岡山理科大学 17.10.12-13



(5 学会発表) キリシタン石造物をどう遺すか シンポジウム『キリシタンは石で何を造ったか』(おおいた石造文化研究会) 臼杵市中央公民館 17.11.18

(6 講義) 材料と技術 ―絵具― 文化財修理技術者講習会 文化庁 17.10.20

(7 所属学会) 日本応用地質学会、日本地形学連合、日本地質学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 市川市国指定史跡下総国分寺跡附北下瓦窯跡保存活用計画策定検討会委員、臼杵磨崖仏保存修理査査委員、臼杵市内キリシタン遺跡調査指導委員会委員、嘉島町史跡保存整備検討委員会委員、清戸迫横穴保存委員会委員、小豆島町「世界遺産化」運営委員会委員、大悲山石仏保存修理指導委員会委員、竹原古墳整備計画策定委員会委員、「通潤橋」保存活用検討委員会委員、古墳壁画の保存活用に関する検討会装飾古墳ワーキンググループ委員、南島原市文化財専門委員会委員、歴史遺産の地盤工学研究に関する研究委員

(8 教育) 東京藝術大学大学院連携教授、東京大学非常勤講師

#### 久保田 裕道 KUBOTA Hiromichi (無形文化遺産部)

(1 共著) 無形文化遺産の防災という考え方―東日本大震災の教訓と無形文化遺産アーカイブスの試みから(高倉浩樹、山口睦、小谷竜介、今石みぎわ、久保田裕道、俵木悟、稲澤努、呉屋淳子、一柳智子、川島秀一、セバスチャン・ペンマレン・ボレー、福田雄、黒崎浩行、及川高、スーザン・ブーテレイ)『震災後の地域文化と被災者の民俗誌―フィールド災害人文学の構築』pp.53-68 新泉社 18.1

(1 共著) 無形文化遺産の災害復興と防災(滝澤克彦、東海英夫、荒木奏子、久保田裕道)『共存学ブックレット2 復興・伝統文化・ネットワーク―東日本大震災から七年目の今―』pp.65-83 國學院大學研究開発推進センター 18.2

(2 報告) 九州の神楽とユネスコ無形文化遺産『九州の神楽シンポジウム2017講演録』pp.2-5 18.2

(2 報告) 山北のお峯入りについて『第38回日本山岳修験学会山北・丹沢学術大会資料集』pp.22-24 17.10

(2 報告) 問題提起『第12回無形民俗文化財研究協議会報告書』pp.91-94 18.3

(4 編集)『かりやど民俗誌』東京文化財研究所 18.3

(4 連載) 早乙女の櫛『四季の味』88 pp.72-75 ニューサイエンス社 17.4

(4 連載) 花を飾る意味『四季の味』89 pp.72-75 ニューサイエンス社 17.7

(4 連載) 箕のある話『四季の味』90 pp.72-75 ニューサイエンス社 17.10

(4 連載) ナマハゲの出刃包丁『四季の味』91 pp.72-75 ニューサイエンス社 18.1

(6 講演) 山北のお峯入りについて 日本山岳修験学会

山北町立生涯学習センター 17.10.7

(6 講演) 無形文化遺産の災害復興と防災 第4回全国史料ネット研究交流集会 ノートルダム清心女子大学 18.1.20

(6 講演) 無形文化遺産としての祭ばやし 文化財保護委員特別講義 武蔵野ふるさと歴史館 18.3.24

(6 講義) The Roll of Intangible Cultural Heritage on DRM 立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修 立命館大学 17.9.13

(6 コーディネーター・パネリスト) 花祭再考―五来重の神霊観念を越えて―(久保田裕道、矢嶋正幸、井上隆弘、星優也、山崎一司、本林靖久) 日本宗教民俗学会2017年度大会大谷大学 17.6.10

(7 所属学会) 儀礼文化学会、静岡県民俗学会、日本宗教民俗学会、日本民俗学会、民俗芸能学会

(7 委員会等) 神奈川県民俗芸能記録保存調査企画調整委員会委員、公益社団法人全日本郷土芸能協会理事、独立行政法人日本芸術文化振興会民俗芸能公演及び琉球芸能公演専門委員、一般財団法人日本青年館第66回全国民俗芸能大会企画委員、箱根町箱根湯立獅子舞調査委員、文化審議会無形文化遺産部会臨時委員、文化庁文化財部調査員、民俗芸能学会理事、武蔵野市文化財保護委員

#### 倉島 玲央 KURASHIMA Reo (保存科学研究センター)

(2 報告) 現代技法で製作されたマンマー漆器の材料調査(倉島玲央、山府木碧、早川典子)『保存科学』57 pp.111-122 18.3

(5 学会発表) 1,3-デヒドロアダマンタン類のカチオン開環重合における開始反応機構(道添広大、倉島玲央、打田聖、後関頼太、石曾根隆) 第66回高分子討論会 愛媛大学 17.9.20-22

(7 所属学会) 高分子学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会

#### 五木田 まきは GOKITA Makiha (アソシエイトフェロー)

(2 報告) Results of the Questionnaire Survey アンケート結果概要(後藤里架、五木田まきは、加藤雅人、中山俊介)『ワークショップ「漆工品の保存と修復」評価2017』pp.90-96、197-202 東京文化財研究所 18.3

(2 報告) アンケート結果の概要『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」評価 2017』pp.27-34 東京文化財研究所 18.3

(4 編集)『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2017』91p 東京文化財研究所 18.3

(4 編集)『ワークショップ「漆工品の保存と修復」評価2017』280p 東京文化財研究所 18.3

(4 編集)『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」評価2017』70p 東京文化財研究所 18.3

(4 翻訳) Advanced - Restoration of a Japanese Folding Screen-『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と

修復」2017』 pp.48-90 東京文化財研究所 18.3  
 (6 発表) Results of the Questionnaire (後藤里架、五木田まきは、加藤雅人、中山俊介) 評価セミナー2017: ワークショップ「漆工芸品の保存と修復」東京文化財研究所 17.11.9  
 (7 所属学会) 古代アメリカ学会、日本ラテンアメリカ学会、文化財保存修復学会、WAC (World Archaeological Congress)

#### 古田嶋 智子 KOTAJIMA Tomoko (客員研究員)

(2 報告) 木質材料に用いる接着剤からの有機酸とアンモニアの放散 (古田嶋智子、呂俊民、佐野千絵、稲葉政満) 『保存科学』57 pp.159-168 18.3  
 (2 報告) ジェランガムゲル処置による紙資料への影響 (貴田啓子、堀まなみ、大場詩野子、古田嶋智子、池田和彦、犬塚将英、早川典子) 『保存科学』57 pp.123-132 18.3  
 (5 学会発表) 合板に用いる接着剤からの化学物質の放散 (古田嶋智子、呂俊民、佐野千絵、稲葉政満) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇場 17.7.1  
 (5 学会発表) 収蔵庫の空気環境の評価と清浄化について (呂俊民、古田嶋智子、石井恭子、吉田直人、佐野千絵) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇場 17.7.1  
 (5 学会発表) ジェランガムゲル処置した紙の残留物に関する調査 (貴田啓子、堀まなみ、大場詩野子、古田嶋智子、池田和彦、犬塚将英、早川典子) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇場 17.7.2  
 (5 学会発表) 合板からの酢酸放散挙動と博物館展示ケースで用いるための選定指標 (古田嶋智子、呂俊民、佐野千絵、稲葉政満) 2017年度日本建築学会大会(中国) 学術講演会 広島工業大学 17.9.1  
 (5 学会発表) 湿度制御した温風処理による漆仕上げ材の表面ひずみの測定 (第3報) 一塗装後約40年経過した漆仕上げ材のひずみの実測値と推定値の比較一 (竹口彩、藤原裕子、藤井義久、木川りか、佐藤嘉則、犬塚将英、古田嶋智子) 第68回日本木材学会大会(京都大会) 京都府立大学 18.3.14  
 (6 講演) 特別展時の展示ケース内に使用する材質について 全国美術館会議 保存研究部会 第49回会合 国立西洋美術館 17.11.16  
 (7 所属学会) ICOM-CC、室内環境学会、日本建築学会、文化財保存修復学会  
 (8 教育) 和光大学芸術学科非常勤講師

#### 後藤 里架 GOTO Rika (アソシエイトフェロー)

(2 報告) Results of the Questionnaire Survey アンケート結果概要 (後藤里架、五木田まきは、加藤雅人、中山俊介) 『ワークショップ「漆工品の保存と修復」評価2017』 pp.90-96、197-202 東京文化財研究所 18.3  
 (4 編集) 『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2017』 91p 東京文化財研究所 18.3

(4 編集) 『ワークショップ「漆工品の保存と修復」評価2017』 280p 東京文化財研究所 18.3  
 (4 編集) 『ワークショップ「染織品の保存と修復」2017』 45p 東京文化財研究所 18.3  
 (4 翻訳) Basic – Japanese Paper and Silk Cultural Properties – 『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2017』 pp.2-45 東京文化財研究所 18.3  
 (4 翻訳) Workshops on Conservation and Restoration of Urushi Objects (Japanese Lacquerware) - Overview - 『ワークショップ「漆工品の保存と修復」評価2017』 pp.4-6 東京文化財研究所 18.3  
 (6 発表) Results of the Questionnaire (後藤里架、五木田まきは、加藤雅人、中山俊介) 評価セミナー2017: ワークショップ「漆工芸品の保存と修復」東京文化財研究所 17.11.9  
 (7 所属学会) 文化財保存修復学会

#### 小林 公治 KOBAYASHI Koji (文化財情報資料部)

(1 共著) 輸出漆器としての駿河と会津の漆工芸 (小林公治、金子皓彦) 『西洋を魅了した「和モダン」の世界 明治・大正・昭和に生まれた輸出工芸品 金子皓彦コレクション』 三樹書房 pp.98-125 17.11  
 (2 報告) ヨーロッパに伝わる日本の輸出漆器—南蛮漆器の謎にせまる 『公開シンポジウム「輸出漆器をめぐる文理融合の可能性」発表要旨集』 pp.1-2 金沢大学・明治大学 18.2  
 (3 論文) アジアとの関係から考える朝鮮半島螺鈿史の検討課題 国際学術講演会『일본이 사랑한 조선미술 (日本が愛した朝鮮美術) 資料集』 pp.31-64 Lee&Won財団 17.9  
 (4 編集) 『公開研究会予稿集 増補版 南蛮漆器の多源性を探る』 41p 東京文化財研究所 17.6  
 (4 記事) 「物故者」八賀晋 『日本美術年鑑』平成28年版 pp.555-556 東京文化財研究所 18.3  
 (6 講演) アジアとの関係から考える朝鮮半島螺鈿史の検討課題 国際学術講演会『일본이 사랑한 조선미술 (日本が愛した朝鮮美術)』 ソウル、国立中央博物館 17.9.2  
 (6 講演) ヨーロッパに伝わる日本の輸出漆器—南蛮漆器の謎にせまる 浦添市美術館特別講演会『スウェーデン王国の漆器と文化』 浦添市美術館 18.2.3  
 (6 講演) ヨーロッパに伝わる日本の輸出漆器—南蛮漆器の謎にせまる 公開シンポジウム「輸出漆器をめぐる文理融合の可能性」 明治大学 18.2.10  
 (7 所属学会) 東南アジア考古学会、日本考古学協会

#### 小林 達朗 KOBAYASHI Tatsuro (文化財情報資料部)

(4 記事) 「物故者」渡邊明義 『日本美術年鑑』平成28年版 p.536 18.3  
 (6 講演) 一乗寺の天台高僧像—十幅の魅力とメッセージ— 播磨学研究所2017年播磨学特別講座 イーグ



レひめじあいめっせホール 17.9.2  
(7 所属学会) 九州藝術学会、美術史学会

**小堀 信幸** KOBORI Nobuyuki (客員研究員)  
(7 所属学会) 日本海史学会  
(7 委員会等) 雲鷹丸保存委員会、慶長使節船ミュージアムの今後のあり方検討委員会、東京都江戸東京博物館収蔵委員会

**小峰 幸夫** KOMINE Yukio (アソシエイトフェロー)  
(5 学会発表) 歴史的木造建造物における新たな害虫モニタリング手法の実用性の検討(小峰幸夫、原田正彦、斎藤明子、佐藤嘉則、木川りか、藤井義久) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1  
(5 学会発表) 歴史的木造建造物におけるチビケカツオブシムシの発生について 都市有害生物管理学会第39回大会 慶応義塾大学三田キャンパス 18.3.17  
(6 発表) Species and its Characteristics of Insects that Harm to Cultural Properties in Japan Iran-Japan On-site Workshop on the Conservation of Wooden Buildings and Wooden Objects Ali Qapu Palace (ICHHTO site-office) 17.4.17  
(6 発表) Managment System for Insect Damage in Japan (Outline of Insect Damage at Rinnou-ji Temple in Nikko) Iran-Japan On-site Workshop on the Conservation of Wooden Buildings and Wooden Objects Ali Qapu Palace (ICHHTO site-office) 17.4.19  
(6 講義) 文化財害虫同定 IPM 研修 九州国立博物館 17.5.24  
(6 講演) 歴史的木造建造物の害虫と調査方法について 平成29年度九州国立博物館IPMセミナー 九州国立博物館 17.10.25  
(6 講義) 害虫モニタリングの方法と解析 平成29年度 文化財防災ネットワーク事業研修会 東京文化財研究所 18.2.19  
(7 所属学会) 都市有害生物管理学会、文化財保存修復学会

**齋藤 達也** SAITO Tatsuya (客員研究員)  
(6 発表) Ernest Chesneau, un défenseur de l'impressionnisme ? Une nouvelle histoire de la critique d'art à la lumière des humanités numériques ? フランス国立古文書学校 17.5.17-19  
(6 発表) フランスにおける近代美術資料 美術館・図書館・アーカイブ・インターネットリソースの紹介と活用例東京文化財研究所 2017年度第6回文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 17.9.5  
(7 所属学会) ジャポニスム学会、Association of Historians of Nineteenth-Century Art、日仏美術学会、美術史学会

**酒井 清文** SAKAI Kiyofumi (客員研究員)

(5 学会発表) ポリビニルアルコール分解酵素の彩色・絵画修復への適用(早川典子、酒井清文、山中勇人、川野邊渉) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.2

(5 学会発表) Application of the enzymes for removing polyvinyl alcohol (PVA) from the artworks (Noriko Hayakawa, Kiyofumi Sakai, Wataru Kawanobe) ICOM-CC 18<sup>th</sup> Triennial Conference Tivoli Hotel and Congress Center, Copenhagen 17.9.4-8  
(7 所属学会) 高分子学会、日本生物工学会、日本農芸化学会、文化財保存修復学会  
(7 委員会等) 近畿化学協会、バイオインダストリー協会

**境野 飛鳥** SAKAINO Asuka (アソシエイトフェロー)  
(2 報告) 第41回世界遺産委員会の報告 『世界遺産研究協議会「世界遺産推薦書の評価のプロセスと諮問機関の役割」』 pp.9-15 東京文化財研究所 18.3  
(4 編集) 『各国の文化財保護法令シリーズ[22] 韓国【文化財保護法、無形文化財の保全及び振興に関する法律】』 219p 東京文化財研究所 18.3  
(6 発表) 文化財保護法の成立過程 ワークショップ「文化財保護法・保護制度研究への様々なアプローチ」東京藝術大学 17.10.16  
(6 発表) 第41回世界遺産委員会の報告 世界遺産研究協議会「世界遺産推薦書の評価のプロセスと諮問機関の役割」 東京文化財研究所 18.1.18  
(6 講義) 世界遺産の現状と課題 文化遺産保護をめぐる国際的動向について 東京学芸大学 17.5.24, 31  
(6 講義) Origin and Characteristics of the Japanese Law for the Protection of Cultural Properties Towards Protection of Cultural Properties 金沢大学 17.11.24  
(7 所属学会) ICOMOS、日本建築学会、日本歴史学会  
(8 教育) 金沢大学人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター客員研究員

**佐藤 有希子** SATO Yukiko (日本学術振興会特別研究員)  
(6 発表) 京都・青蓮院伝来の二体の毘沙門天立像に関する一考察 東京文化財研究所文化財情報資料部第8回研究会 東京文化財研究所 17.10.24  
(7 所属学会) 美術史学会、仏教芸術学会  
(8 教育) 明治学院大学文学部非常勤講師、共立女子大学文芸学部非常勤講師

**佐藤 嘉則** SATO Yoshinori (保存科学研究センター)  
(2 報告) 装飾古墳における生物劣化と対策ー石室石材の表面状態の保存ー 『文化財保存修復研究センター紀要』平成28年 pp.112-115 東北芸術工科大学 17.5  
(2 報告) 高松塚・キトラ古墳壁画上の微生物汚れの除去ー酵素の選抜とその諸性質ー(佐藤嘉則、木川りか、貴田啓子、川野邊渉、早川典子) 『保存科学』57

pp.11-22 18.3

(2 報告) 分子生物学的手法による高松塚・キトラ両古墳の微生物群集構造解析 (西島美由紀、安光得、富田順子、喜友名朝彦、佐藤嘉則、木川りか、佐野千絵、宇田川滋正、建石徹、杉山純多) 『保存科学』57 pp.23-48 18.3

(2 報告) 高松塚・キトラ両古墳の *Penicillium* 属分離株の分子系統学的帰属および *Penicillium* sp. 2 の分類学的記載と生物劣化問題へのかかわり (喜友名朝彦、安光得、佐藤嘉則、木川りか、佐野千絵、杉山純多) 『保存科学』57 pp.49-66 18.3

(2 報告) 虎塚古墳石室の扉石表面に形成したバイオフィルムの微生物群集構造解析とその制御 (佐藤嘉則、木川りか、犬塚将英、森井順之、矢島國雄) 『保存科学』57 pp.67-76 18.3

(2 報告) 油彩画に発生したカビの同定と各種顔料における抗カビ性 (相馬静乃、佐藤嘉則、米村祥央) 『保存科学』57 pp.133-144 18.3

(4 エッセイ) 私とカビのかかわりー文化財の微生物劣化研究に至るまでー 『カビと生活』10(1) pp.6-9 17.5

(5 学会発表) 石人山古墳装飾石棺表面の微生物群集構造解析 (佐藤嘉則、西澤智康、小沼奈那美、犬塚将英、森井順之、木川りか、朽津信明) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1

(5 学会発表) 歴史的木造建造物における新たな害虫モニタリング手法の実用性の検討 (小峰幸夫、原田正彦、斉藤明子、佐藤嘉則、木川りか、藤井義久) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1

(5 学会発表) 成田禎介《船着き場》、奈良岡正夫《朝陽》に発生したカビ被害の調査について (相馬静乃、中右恵理子、佐藤嘉則) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1

(5 学会発表) 博物館 IPM におけるバイオエアロゾル測定への活用に向けた基礎的な研究 (間瀬創、佐藤嘉則) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1

(5 学会発表) Identification of novel cyanobacteria occurred on surfaces of the stone sarcophagus at Sekijinsan Tumulus (Nanami Konuma, Yoshinori Sato, Masahide Inuzuka, Masayuki Morii, Nobuaki Kuchitsu, Tomoyasu Nishizawa) 2017 Joint Conference of the Societies for Environmental Microbiology Tohoku University 17.8.29-30

(5 学会発表) An EHB *Mycoavidus cysteinexigens* enhances in vitro carbon source use by host *Mortierella elongata* (Yong Guo, Yusuke Takashima, Dilruba Sharmin, Nanami Konuma, Yoshinori Sato, Kazuhiko Narisawa, Hiroyuki Ohta, Tomoyasu Nishizawa) 2017 Joint Conference of the Societies for Environmental Microbiology Tohoku University 17.8.29-30

(5 学会発表) 多湿環境における生麩糊のカビ発育比較

(松本美奈子、高鳥美奈子、久米田裕子、佐藤嘉則、高鳥浩介) 日本防菌防黴学会第44回年次大会 千里ライフサイエンスセンター 17.9.26

(6 講義) 生物被害各論ーカビー 九博・機構希望者向けIPM研修 九州国立博物館 17.5.24

(6 講義) 環境制御 (虫菌害対策) 平成29年度アーカイブズ・カレッジ 史料管理学研究会 国文学研究資料館 17.9.5

(6 講義) 有害生物対策 平成29年度 アーカイブズ研修III/公文書管理研修III 国立公文書館 17.9.28

(6 講義) 害虫およびカビの予防・防除 文化財 (美術工芸品) 修理技術者講習会 文化庁 17.10.16

(6 講義) 水損紙資料の微生物被害と応急処置 平成29年度 文化財等防災ネットワーク研修 奈良文化財研究所 17.10.31

(6 講義) 博物館等における文化財IPMとは 平成29年度千葉県美術館・博物館等職員研修会 千葉県立現代産業科学館 18.1.25

(6 講習会) 修理工房における文化財IPM 科学的な材料とその使用方法の講習会 東京文化財研究所 17.8.7

(7 所属学会) International Biodeterioration & Biodegradation Society、日本土壌微生物学会、日本微生物生態学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 日本文化財科学会編集委員、国立民族学博物館共同研究員、日本土壌微生物学会事務局企画幹事、ひたちなか市史跡保存対策委員会、Microbes and Environments production editor

(8 教育) 東京芸術大学大学院文化財保存学専攻連携准教授

**佐野 千絵** SANO Chie (保存科学研究センター)

(2 報告) 津波被災紙資料洗浄水の分析ー塩化物イオン濃度と細菌数ー (内田優花、佐野千絵、赤沼英男) 『保存科学』57 pp.169-179 東京文化財研究所 18.3

(2 報告) 木質材料に用いる接着剤からの化学物質の放散 (古田嶋智子、呂俊民、佐野千絵、稲葉政満) 『保存科学』57 pp.159-168 東京文化財研究所 18.3

(3 論文) 電動集密書架の定期的散開による環境制御効果の検討 (佐野千絵、橘川英規) 『保存科学』57 pp.145-158 東京文化財研究所 18.3

(4 解説) 美術館・博物館への次世代照明導入の現状と期待 『照明学会誌』101(12) p.542 照明学会 17.12

(4 解説) 文化財のための美術館・博物館の空気環境の現状と対策 『空気清浄』55(4) pp.3-11 日本空気清浄協会 17.11

(4 記事) 法隆寺保存環境ワーキンググループの調査 『月刊文化財』649 p.42 文化庁文化財部/第一法規 17.10

(5 学会発表) 津波被災紙資料から発生する臭気についてー安定化作業中の処理水の分析 (内田優花、佐野千絵、赤沼英男) 日本文化財科学会第34回大会 東北

芸術工科大学 17.6.10-11

(5 学会発表) 合板に用いる接着剤からの化学物質の放散 (古田嶋智子、佐野千絵、稲葉政満) 文化財保存修復学会大会 金沢歌劇座 17.7.1

(5 学会発表) 収蔵庫の空気環境の評価と浄化について (呂俊民、古田嶋智子、石井恭子、吉田直人、佐野千絵) 文化財保存修復学会大会 金沢歌劇座 17.7.1

(5 学会発表) 合板からの酢酸放散挙動と合板選定指標 (古田嶋智子、呂俊民、佐野千絵) 2017年度日本建築学会大会 (中国) 学術講演会 広島工業大学 17.8.31-9.3

(6 講演) 図書館における虫菌害対策—最近の動向— 国立国会図書館保存フォーラム 国立国会図書館 17.12.21

(6 講義) ビジネスアーカイブズでの資料の保存と管理 第22回ビジネスアーキビスト研修講座 東京大学小島記念館 17.12.1

(6 講習会) 文化財の保存と環境 修理技術者講習会 文化庁 17.10.19

(6 講習会) IPMから見た博物館等の施設管理 IPMコーディネータ資格取得講習と試験 東京文化財研究所 17.12.6

(6 講習会) 文化財修理における有機溶剤の取扱について—有機溶剤の安全講習ノリスクアセスメント— 建造物装飾修理用資材研修会Ⅱ 京都市文化財建造物保存技術研修センター 18.1.19

(7 所属学会) ICOM、ICOM-CC、IIC、IIC-Japan、高分子学会、室内環境学会、照明学会、繊維学会、大気環境学会、日本化学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会、マテリアルライフ学会

(7 委員会等) 石川県文化財保存修復工房運営委員会委員、九州国立博物館文化財保存修復施設運営委員会委員、奈良国立博物館文化財保存修理所運営委員会委員、京都国立博物館文化財保存修理所運営委員会委員、国立民族学博物館運営会議委員、国立歴史民俗博物館運営会議委員、群馬県文化財保護審議会委員、信濃美術館整備委員会委員、照明学会美術館博物館照明技術指針作成委員会委員長、千葉県文化財保護審議会委員、対馬市博物館建設推進会議有識者会議委員、鳴門市ドイツ館保存管理調査検討委員会委員、宗像市文化財保護審議会委員、(独) 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員、美術品補償制度専門調査会、(公財) 文化財虫菌害研究所総合調整委員会委員、文化財保存修復学会理事、文化審議会文化財分科会企画調査会これからの国宝重要文化財 (美術工芸品) 等の保存と活用の在り方に関するワーキンググループ委員、法隆寺金堂壁画保存活用委員会保存環境ワーキンググループ専門委員

(8 教育) 東京藝術大学大学院美術系研究科文化財保存学専攻システム保存学連携教授、国際基督教大学非常勤講師

塩谷 純 SHIOYA Jun (文化財情報資料部)

(1 共著) 総説 近代皇室イメージの創出 『天皇の美術史6 近代皇室イメージの創出 明治・大正時代』 pp.1-6 吉川弘文館 17.7

(1 共著) 日本近代美術に見る御用と栄誉 帝室技芸員制度とその周辺 『天皇の美術史6 近代皇室イメージの創出 明治・大正時代』 pp.9-76 吉川弘文館 17.7

(4 エッセイ) 《湖畔》最良の記 『藝術文化雑誌 紫明』 41 pp.8-13 紫明の会 17.9

(6 発表) 東京文化財研究所の美術雑誌—その収集と公開の歩み— 研究会「美術雑誌の情報共有に向けて」 東京文化財研究所 18.3.16

(6 講演) 細川護立と近代の画家たち 永青文庫平成29年度夏季展「細川護立と近代の画家たち」記念講演会 肥後細川庭園松聲閣 17.8.5

(6 講演) 芳崖四天王コトハジメ (塩谷純、椎野晃史)「狩野芳崖と四天王—近代日本画もうひとつの水脈—」展 特別対談 福井県立美術館 17.10.14

(6 講演) 帝室技芸員—“技芸”と“美術”のはざま— 連続講座「日本における美術史学の誕生」 東京国立博物館 17.11.18

(6 講演) 崇敬と好奇、そして禁忌のまなざし—明治天皇の視覚表現をめぐる— Third Thursday Lecture Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures 18.2.15

(6 パネリスト) 東京美術学校教授陣による歴史画制作 東京大学駒場博物館所蔵第一高等学校絵画資料修復記念 知られざる明治期日本画と「一高」の倫理・歴史教育 記念シンポジウム 東京大学駒場キャンパス 17.12.2

(6 パネリスト) 国際シンポジウム 日本画の所在—東アジア絵画としての— 東京藝術大学 18.1.27

(7 所属学会) 美術史学会、明治美術学会

(8 教育) 金沢美術工芸大学芸術学専攻非常勤講師、明治学院大学大学院非常勤講師

鳴原 由美 SHIGIHARA Yumi (アソシエイトフェロー)

(4 編集) 『A Conservation Project for the Repair, Strengthening and Recovery of Temple 1205. Archaeological Area and Monuments of Bagan, Myanmar 平成29年度成果報告書』 106p 東京文化財研究所 18.3

(5 学会発表) ミャンマー・バガン遺跡群における壁画保存修復に向けた調査研究—壁画を構成する材料調査と傷みの原因— (鳴原由美、前川佳文、増淵麻里耶、中山俊介、川野邊渉、楠京子、アンジェロット・ダニエレ) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.2

(7 所属学会) 文化財保存修復学会

**城野 誠治** SHIRONO Seiji (文化財情報研究室)

- (1 共著) (早川泰弘、城野誠治)『Color & Material－日本絵画の色と材料－』大伸社 360p 18.3
- (2 報告) 春日権現験記絵の彩色材料調査(巻三・巻四)(早川泰弘、城野誠治、皿井舞)『春日権現験記絵巻三・巻四 光学調査報告書』東京文化財研究所 17.10
- (2 報告) 國學院大學図書館所蔵那智参詣曼荼羅卷子本の彩色材料調査結果(早川泰弘、城野誠治)『國學院大學図書館所蔵那智参詣曼荼羅卷子本光学的調査報告書』國學院大學文学部歴史地理学教室 p.(2) - (12)(横書き) 18.2
- (2 報告) 国宝信貴山縁起絵巻の彩色材料調査結果(早川泰弘、城野誠治)『国宝信貴山縁起絵巻 光学調査報告書』東京文化財研究所 18.3
- (2 報告) 春日権現験記絵の彩色材料調査(巻五・巻六)(早川泰弘、城野誠治、皿井舞)『春日権現験記絵巻五・巻六 光学調査報告書』東京文化財研究所 18.3
- (2 報告) 鏡神社所蔵 楊柳観音像の彩色材料調査結果(早川泰弘、城野誠治)『鏡神社所蔵 楊柳観音像 光学調査報告書』東京文化財研究所 18.3
- (3 論文) 国宝信貴山縁起絵巻の蛍光X線分析(早川泰弘、城野誠治)『保存科学』57 東京文化財研究所 18.3

**杉山 恵助** SUGIYAMA Keisuke (客員研究員)

- (2 報告) Advanced – Restoration of Japanese Folding Screens – (Yoshiyuki SAMI, Keisuke SUGIYAMA)『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2017』pp.48-90 18.3
- (6 講義) Advanced – Restoration of Japanese Folding Screens – (Yoshiyuki SAMI, Keisuke SUGIYAMA) Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk ベルリン国立博物館アジア美術館 17.7.10-14
- (7 所属学会) 文化財保存修復学会、英国保存修復学会 (ICON)
- (8 教育) 東北芸術工科大学 文化財保存修復学科准教授(文化財保存修復研究センター研究員兼務)

**高桑 いづみ** TAKAKUWA Izumi (特任研究員)

- (3 論文) 近世芸能の囃子 『花もよ』31 pp.10-11 17.5
- (3 論文) 長唄に聞く能の古態 『鉄仙』673 pp.4-5 17.9
- (4 記事) 能楽対談588「時代によって変わる」(三島元太郎、高桑いづみ)『能楽タイムス』784 pp.2-3 17.7
- (4 エッセイ) 能評「謡の醍醐味、舞の醍醐味」『能楽タイムス』790 pp.4-7 18.1

- (4 エッセイ) 狂言謡の魅力 『野村狂言座パンフレット』78 万作の会 17.4
- (4 エッセイ) 関寺小町の録音 『祥の会 関根祥雪追悼号』祥の会 p.57 18.3
- (4 エッセイ) 合奏の話 『花もよ』32 pp.10-11 17.7
- (4 エッセイ) 日本人のリズム感 『花もよ』33 pp.10-11 17.9
- (4 エッセイ) 回るとのこと 『花もよ』35 pp.10-11 18.1
- (4 エッセイ) 序ノ舞・破ノ舞の演出 『花もよ』36 pp.10-11 18.3
- (4 資料紹介) 柿本豊次師「勤来日記」から『花もよ』34 pp.10-11 17.11
- (4 ラジオ出演) ラジオ深夜便「日本の音 季刊深夜便」(一噌幸弘、大蔵基誠、高桑いづみ) NHK 17.6.26
- (4 ラジオ出演) FM能楽堂・曲目解説 NHK 17.6.4、6.11、6.18、6.25、18.2.4、2.11
- (6 講演) 能楽のクルイと長唄のクルイ 日本女子大学文学部・文学研究科学術交流企画シンポジウム「長唄における獅子物」日本女子大学目白キャンパス 17.3.13
- (7 所属学会) 楽劇学会、日本演劇学会、能楽学会

**田所 泰** TADOKORO Tai (アソシエイトフェロー)

- (4 記事)「物故者」石本正、近藤弘明、田中田鶴子、中西勝 『日本美術年鑑』平成28年版 pp.553-554、551-552、561-562、539-540 東京文化財研究所 18.3
- (4 記事) 上村松園の「松園」印 『TOBUNKEN NEWS』65 pp.36-38 東京文化財研究所 17.11
- (7 所属学会) 美術史学会、早稲田大学美術史学会

**田中 淳** TANAKA Atsushi (客員研究員)

- (3 論文) 岸田劉生研究―「駒沢村新町」療養期を中心に 『美術研究』122 pp.29-76 17.8
- (6 発表) 岸田劉生における1913年から16年の「クラシック」受容について 2017年度第10回文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 17.12.26
- (7 所属学会) 美術史学会、明治美術学会

**近松 鴻二** CHIKAMATSU Koji (客員研究員)

- (6 発表) 黒田清輝関係文書書翰類の解説 2017年度第10回文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 17.12.26
- (7 所属学会) 鹿大史学会
- (7 委員会等) 江戸東京博物館客員研究員
- (8 教育) 松蔭大学非常勤講師

**津田 徹英** TSUDA Tetsuei (文化財情報資料部)

- (3 論文) 詞書の筆跡からみた金蓮寺本『遊行上人縁起絵』の位相 『美術研究』423 pp.1-66 18.1
- (3 論文) 延暦寺根本中堂安置の薬師如来の尊容をめぐ



る覚書―無動寺蔵・叡山文庫保管「山門根本中堂本尊事」の翻刻に寄せて―『パラゴ―ネ』5 pp.55-70 18.3

(4 資料紹介) 東寺観智院金剛蔵本 (建武二年写)『諸説不同記』巻第八(下) 解題・翻刻・校註・影印(津田徹英、石井千紘、薮政人)『パラゴ―ネ』5 pp.1-34 18.3

(4 記事) 頼富本宏(物故者記事)『日本美術年鑑』平成28年版 p.535 東京文化財研究所 18.3

(6 講演) 童子形と神仏 第737回(浅草寺) 仏教文化講座 新宿明治安田生命ホール 17.4.28

(6 発表) 研究資料 滋賀・浄厳院釈迦如来立像―佐々木氏頼発願の慈恩寺旧本尊― 文化財情報資料部10月研究会 東京文化財研究所 17.10.24

(7 所属学会) 日本宗教文化史学会、美術史学会、密教図像学会

(8 教育) 青山学院大学文学部比較芸術学科非常勤講師

#### 堤 一郎 TSUTSUMI Ichiro (客員研究員)

(1 公刊図書) 機械遺産でたどる機械技術史(日本機械学会創立120周年記念事業委員会 機械遺産小委員会: 堤一郎(委員長)、松岡茂樹、岩見健太郎、大久保英敏、福澤清和)『機械遺産 2007-2017 ―機械遺産でたどる機械技術史―』pp.6-11 日本機械学会 17.11

(1 共著) 阪神間鉄道開業時の蒸気機関車 旧加悦鉄道2号機関車(120形123号)(石田正治、山田俊明、池森寛、大島一朗、緒方正則、菅和彦、堤一郎)『鉄道の博物誌』pp.24-30 秀和システム 17.4

(2 報告) 文化財としての鉄道車両がもつ近現代史的意義『月刊文化財』644 pp.8-12 文化庁文化財部/第一法規 17.5

(2 報告) 3. 機械遺産『創立120周年記念 日本機械学会 最近10年のあゆみ』(電子版) 第2部 最近10年のトピックス pp.1-6 日本機械学会 17.11

(3 論文) 空気圧式自走車モデルの設計・製作とエネルギー変換技術教育での応用(堤一郎、安田健一、櫻井光弥)『茨城大学教育学部紀要(教育科学)』67 pp.841-851 茨城大学教育学部 18.3

(5 学会発表) Railway Heritages remain in the Shimane Prefecture and their Significance of the History of Industrial Technology (Ichiro Tsutsumi, Takashi Jyouichi, Shouji Wada, Chiharu Ogawa) International Conference on Mechanical Design and History of Technology 2017 Beihang University 17.8.28-29

(6 講演) 「ナデ6141号電車」の重要文化財指定と産業技術史的意義 「ナデ6141号電車の重要文化財指定」記念講演会 鉄道博物館 17.10.14

(6 講演) 機械遺産経過報告 (一社) 日本機械学会創立120周年記念式典・祝賀会 明治記念館 17.11.17

(7 所属学会) 産業考古学会、日本機械学会、日本技術史教育学会

(8 教育) 茨城大学教育学部特任教授、中央大学理工学

部兼任講師、神奈川工科大学工学部非常勤講師、武蔵野美術大学造形学部非常勤講師、サレジオ工業高等専門学校非常勤講師

#### 友田 正彦 TOMODA Masahiko (文化遺産国際協力センター)

(2 報告) 考古学的知見から見た北部ベトナムの古代木造建築『考古学的知見から読み取る大陸部東南アジアの古代木造建築/Ancient Wooden Architecture in Mainland Southeast Asia: Reading the Features of Lost Buildings from Archaeological Evidence』pp.89-120 東京文化財研究所 18.3

(4 編集) (Masahiko TOMODA, Hiroki YAMADA) Technical Assistance for the Protection of Damaged Cultural Heritage in Nepal *Project Report* 138p TNRICP 17.5

(4 編集) (Masahiko TOMODA, Hiroki YAMADA, Bijaya Krishna Shrestha) Conference on the Preservation of Historic Settlements in Kathmandu Valley on 30<sup>th</sup> November 2016 *Proceedings* 140p TNRICP 17.6

(4 編集) (Masahiko TOMODA, Hiroki YAMADA) Iran-Japan On-site Workshop on the Conservation of Wooden Buildings and Wooden Objects: Especially on the Preservation of Damage by Insects, 17-19 April 2017 *Report* 91p TNRICP & Iranian Cultural Heritage, Handicraft and Tourism Organization 17.8

(4 編集) (Masahiko TOMODA, Hiroki YAMADA) On-site Training Program in Japan, on the Preservation and the Management of Historic Settlements / Districts *Report* 100p TNRICP 18.3

(4 編集) 『アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成29年度成果報告書』116p 東京文化財研究所 18.3

(5 学会発表) タイ国、世界遺産・アユタヤ遺跡の総合的保存・活用施策(西浦忠輝、友田正彦) 日本文化財科学会第34回大会 東北芸術工科大学 17.6.11

(6 発表) Japanese wooden architecture and its preservation Iran-Japan on-site workshop on the conservation of wooden buildings and wooden objects Dardashti, Isfahan, Iran 17.4.17

(6 発表) ネパールにおける東文研協力事業の現況 文化遺産国際協力コンソーシアム第31回東南アジア・南アジア分科会 東京文化財研究所 17.6.15

(6 発表) Conservation and Sustainable Development Plan of Ta Nei (AN Sopheap, TOMODA Masahiko) 28<sup>th</sup> Technical Session, ICC Angkor APSARA Conference Hall, Siem Reap, Cambodia 17.6.21

(6 発表) ミャンマーの文化遺産保護に関する東京文化財研究所の協力事業について―最近の実施内容― 文化遺産国際協力コンソーシアム第5回ミャンマーワーキンググループ 東京文化財研究所 17.8.3

(6 発表) Seismic damage of masonry cultural heritage in Asian countries On-site workshop on the



conservation of historical masonry buildings Bagan branch office, Dept. of Archaeology, Myanmar 17.9.20  
 (6 発表) Conservation and Sustainable Development Plan of Ta Nei and Progress of the Archaeological Investigation (AN Sopheap, TOMODA Masahiko) 29<sup>th</sup> Technical Session, ICC Angkor APSARA Conference Hall, Siem Reap, Cambodia 17.12.13  
 (6 発表) Proposal of candidate buildings to be protected Workshop on Conservation of Traditional House in Bhutan Department of Culture, Thimphu, Bhutan 18.3.13  
 (6 講義) 世界文化遺産をめぐる今日的課題 立教大学観光学部における講義 立教大学新座キャンパス 17.10.9  
 (6 司会) 東南アジア古代都市・建築研究会 東京文化財研究所、東京国立博物館黒田記念館 18.1.19-20  
 (6 パネリスト) ACCU奈良国際会議「アジア太平洋地域における文化遺産保護人材養成の実情と課題」ホテルフジタ奈良 17.12.19-20  
 (7 所属学会) ICOMOS、日本建築学会  
 (7 委員会等) 日本イコモス国内委員会理事

#### 長島 宏行 NAGASHIMA Hiroyuki (客員研究員)

(2 報告) 東京文化財研究所における調査『国際基督教大学所蔵ジェットエンジンに関する調査報告書』 pp.12-19、23-30 国際基督教大学アジア文化研究所 18.3  
 (2 報告) 荻田重賀、長島宏行 『平成29年度一般財団法人日本航空協会との共同研究 航空資料保存の研究(継続) 報告書』 東京文化財研究所 18p 18.3  
 (7 所属学会) 日本航空協会

#### 中山 俊介 NAKAYAMA Shunsuke (文化遺産国際協力センター)

(2 報告) Principles for Conservation and Restoration of Modern Cultural Properties Principles for Conservation and Restoration of Modern Cultural Heritage Properties, pp.6-11 東京文化財研究所 18.3  
 (2 報告) 近代染織品と国際協力 『染織品を中心とする文化財の保存にかかる共同研究締結記念集会報告書「日本における染色文化財の保存」』 pp.45-51 東京文化財研究所 18.3  
 (2 報告) Systems for Protection of Cultural Properties in Japan 『ワークショップ「染織品の保存と修復」2017』 p.2 東京文化財研究所 18.3  
 (2 報告) Results of the Questionnaire Survey アンケート結果概要 (後藤里架、五木田まきは、加藤雅人、中山俊介) 『ワークショップ「漆工品の保存と修復」評価2017』 pp.90-96、197-202 東京文化財研究所 18.3  
 (2 報告) ワークショップ「漆工品の保存と修復」一概要— 『ワークショップ「漆工品の保存と修復」評価2017』 pp.118-119 東京文化財研究所 18.3  
 (2 報告) 重要文化財氷川丸の保存と活用 『月刊文化

財』644 pp.50-51 文化庁文化財部/第一法規 17.5  
 (6 発表) Results of the Questionnaire (後藤里架、五木田まきは、加藤雅人、中山俊介) 評価セミナー2017: ワークショップ「漆工芸品の保存と修復」東京文化財研究所 17.11.9  
 (6 講演) 「日本丸」の重要文化財指定記念シンポジウム企画展 国重要文化財指定記念 帆船日本丸の航跡記念シンポジウム 「近代の文化・産業遺産 帆船日本丸の重要文化財指定」 日本丸訓練センター第1教室 17.7.22  
 (6 講演) 近代染織品と国際協力 「染織品を中心とする文化財の保存にかかる共同研究」締結記念集会 佐賀大学本庄キャンパス 17.7.29  
 (6 講義) Systems for Protection of Cultural Properties in Japan Workshops on Conservation of Japanese Textile 国立台湾師範大学文物保存維護研究発展センター 18.8.9  
 (7 所属学会) 日本船舶海洋工学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会、文化財建造物保存修理研究会  
 (7 委員会等) 伊豆の国市史蹟等整備調査委員会葦山反射炉部会専門委員、史蹟原爆ドーム保存技術指導委員会委員、第5福竜丸船体等保存検討委員会委員、長崎市高島炭鉱整備活用委員会委員、帆船日本丸保存活用計画懇談会委員  
 (8 教育) 長岡造形大学非常勤講師

#### 西和彦 NISHI Kazuhiko (文化遺産国際協力センター)

(1 共著) 登録までの経緯と今後の課題 『文化財の保護』 pp.5-10 東京都教育委員会 17.7  
 (1 共著) モニタリング、管理計画 (マネジメント・プラン)、世界遺産一覧表と危機遺産一覧表、日本の文化財行政と世界文化遺産 (西村幸夫、本中眞、稲葉信子、鈴木地平、岡田保良、長岡正哲、青山由仁子、西和彦) 『世界文化遺産の思想』 pp.73-100、276-285 東京大学出版会 17.8  
 (4 編集) 『各国の文化財保護法令シリーズ[22] 韓国【文化財保護法、無形文化財の保全及び振興に関する法律】』 219p 東京文化財研究所 18.3  
 (4 編集) 『世界遺産研究協議会「世界遺産推薦書の評価のプロセスと諮問機関の役割」』 58p 東京文化財研究所 18.3  
 (6 講演) 世界遺産登録と登録後の取り組み (福永伸哉、土屋隆史、西和彦) 第6回百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進シンポジウム りそな銀行大阪本店 17.5.14  
 (7 所属学会) ICOMOS、日本建築学会、建築史学会  
 (8 教育) 東京理科大学理工学部非常勤講師

#### 早川 典子 HAYAKAWA Noriko (保存科学研究センター)

(2 報告) キトラ古墳壁画の保存修復報告 『月間文化財』649 pp.7-11 文化庁文化財部/第一法規 17.10

- (2 報告) 文化財の保存修復と化学 『化学と教育』 65 (10) pp.492-493 17.10
- (3 論文) Scientific approaches for adhesives in the conservation of Japanese paintings *Proceedings from the International Conference of the Icon Book & Paper Group, London 8-10 April 2015* pp.60-68 The institute of Conservation 17.8
- (3 論文) 高松塚・キトラ古墳壁画上の微生物汚れの除去—酵素の選抜とその諸性質—(佐藤嘉則、木川りか、貴田啓子、川野邊渉、早川典子) 『保存科学』57 pp.11-22 18.3
- (3 論文) 法隆寺金堂壁画写真原板のフィルム支持体に関する赤外分光分析(濱田翠、早川典子) 『保存科学』57 pp.101-110 18.3
- (3 論文) ジェランガムゲル処置による紙資料への影響(貴田啓子、堀まなみ、大場詩野子、古田嶋智子、池田和彦、犬塚将英、早川典子) 『保存科学』57 pp.123-132 18.3
- (3 論文) 現代技法で製作されたミャンマー漆器の分析調査(倉島玲央、山府木碧、早川典子) 『保存科学』57 pp.111-122 18.3
- (5 学会発表) キトラ古墳壁画の修復(早川典子、川野邊渉、辻本与志一、山本記子、亀井亮子、宇田川滋正、建石徹) 文化財保存修復学会第38回大会 金沢歌劇座 17.7.1
- (5 学会発表) ポリビニルアルコール分解酵素の彩色・絵画修復への応用(早川典子、酒井清文、川野邊渉、山中勇人) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.2
- (5 学会発表) 膠の性状と装潢における適性の関連(宇高健太郎、早川典子、半田昌規、岡泰央、藤井佑果、小笠原具子、亀井亮、半田幾子、宇和川史彦、柏谷明美) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.2
- (5 学会発表) 紙の緑青焼けに及ぼす銅成分と膠について(貴田啓子、柏谷明美、稲葉政満、早川典子) 文化財保存修復学会39回大会 金沢歌劇座 17.7.2
- (5 学会発表) 膠を用いた模擬劣化彩色体の調製方法(宇高健太郎、早川典子、柏谷明美、半田昌規、岡泰央、小笠原具子、亀井亮子、半田幾子、宇和川史彦、藤井佑果) 文化財保存修復学会39回大会 金沢歌劇座 17.7.2
- (5 学会発表) ジェランガムゲル処置した紙の残留物に関する調査(貴田啓子、堀まなみ、大場詩野子、古田嶋智子、池田和彦、犬塚将英、早川典子) 文化財保存修復学会39回大会 金沢歌劇座 17.7.2
- (5 学会発表) 紙に付着した粘着テープの劣化—アクリル樹脂系粘着テープ除去方法の検討—(内田優花、早川典子) 文化財保存修復学会39回大会 金沢歌劇座 17.7.2
- (5 学会発表) Application of the enzymes for removing polyvinyl alcohol (PVA) from the artworks(Noriko Hayakawa,

- Kiyofumi Sakai and Wataru Kawanobe) ICOM-CC triennial Conference 2017 Tiboli Hotel, Copenhagen 17.9.6
- (5 学会発表) Effect of copper ions derived from Malachite pigment on deterioration of Japanese paper Substrate (Keiko Kida, Akemi Kashiwaya, Masamitsu Inaba, Noriko Hayakawa) The 6<sup>th</sup> International Symposium of the Society for Conservation of Cultural Heritage in East Asia, 2017 復旦大学 17.8.24-26
- (5 学会発表) 粒度の異なる緑青顔料が和紙の劣化に及ぼす影響(貴田啓子、柏谷明美、稲葉政満、早川典子) マテリアルライフ学会第27回 滋賀県立大学 17.7.14
- (6 講義) 修理技術者に必要な科学 国宝修理演師連盟 新任者研修 京都国立博物館 17.4.20
- (6 講義) 修理技術者に必要な科学(中・上級) 国宝修理 装潢師連盟中級上級者研修 京都国立博物館 17.7.28
- (6 講義) 「材料及び技術：漆、膠等」 美術工芸品修理 技術者講習会 文部科学省 17.10.19
- (6 講義) On Adhesives Used in the Restoration of Japanese Paintings International Course on Conservation of Japanese Paper 東京文化財研究所 17.8.29
- (6 講習会) 「総論」、「クリーニング実習」 科学的な材料とその使用方法の講習会 東京文化財研究所 17.8.7-8
- (7 所属学会) IIC、高分子学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会、マテリアルライフ学会
- (7 委員会等) 大阪市博物館群施設美術資料等収集・評価会議委員、国宝修理装潢師連盟修理技術者資格制度委員会委員、「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」壁画ワーキンググループ(材料調査班) 専門委員
- (8 教育) 東京藝術大学大学院連携准教授

#### 早川 泰弘 HAYAKAWA Yasuhiro (保存科学研究センター)

- (1 共著) (早川泰弘、城野誠治) 『Color & Material ー日本絵画の色と材料ー』大伸社 360p 18.3
- (2 報告) 飛鳥寺本尊 銅造釈迦如来坐像(重要文化財) 調査報告(藤岡穰、犬塚将英、早川泰弘、他5名) 『鹿園雑集』19 pp.98-60 奈良国立博物館 17.7
- (2 報告) 春日権現験記絵の彩色材料調査(巻三・巻四)(早川泰弘、城野誠治、皿井舞) 『春日権現験記絵巻三・巻四 光学調査報告書』 東京文化財研究所 17.10
- (2 報告) 國學院大學図書館所蔵那智参詣曼荼羅卷子本の彩色材料調査結果(早川泰弘、城野誠治) 『國學院大學図書館所蔵那智参詣曼荼羅卷子本光学的調査報告書』 國學院大學文学部歴史地理学教室 p.(2)-(12) (横書き) 18.2
- (2 報告) 国宝信貴山縁起絵巻の彩色材料調査結果(早川泰弘、城野誠治) 『国宝信貴山縁起絵巻 光学調査報告書』 東京文化財研究所 18.3
- (2 報告) 春日権現験記絵の彩色材料調査(巻五・巻六)

(早川泰弘、城野誠治、皿井舞)『春日権現験記絵巻五・巻六 光学調査報告書』東京文化財研究所 18.3

(2 報告) 鏡神社所蔵 楊柳観音像の彩色材料調査結果 (早川泰弘、城野誠治)『鏡神社所蔵 楊柳観音像 光学調査報告書』東京文化財研究所 18.3

(3 論文) 国宝信貴山縁起絵巻の蛍光X線分析 (早川泰弘、城野誠治)『保存科学』57 東京文化財研究所 18.3

(5 学会発表) 国宝慈光寺経における真鍮泥の利用 日本文化財科学会第34回大会 東北芸術工科大学 17.6.10

(6 講演) 科学分析から見えてくる琉球の美術工芸 沖縄県立博物館・美術館第487回文化講座 沖縄県立博物館・美術館 18.2.17

(6 講習会) 科学的方法による材料及び技術の分析 美術工芸品修理技術者講習会 文部科学省 17.10.20

(6 講習会) 18～19世紀の地図・絵図に見られる彩色材料の多様性 国宝修理装演師連盟第23回定期研修会 京都 17.11.20

(7 所属学会) 日本文化財科学会、日本分析化学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 琉球王国文化遺産集積・再興事業実施計画に係る監修委員

(8 教育) 東京藝術大学大学院美術研究科連携教授、金沢美術工芸大学非常勤講師

#### 藤井 佑果 FUJII Yuka (アソシエイトフェロー)

(5 学会発表) 膠の性状と装潢における適性の関連 (宇高健太郎、早川典子、半田昌規、岡泰弘、藤井佑果、小笠原具子、亀井亮子、半田幾子、宇和川史彦、柏谷明美) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.2

(5 学会発表) 膠を用いた模擬劣化彩色体の調整方法 (宇高健太郎、早川典子、柏谷明美、半田昌規、岡泰弘、小笠原具子、亀井亮子、半田幾子、宇和川史彦、藤井佑果) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.2

(7 所属学会) 文化財保存修復学会

#### 藤井 義久 FUJII Yoshihisa (客員研究員)

(3 論文) 礎石と接触している木材の白化部分に存在する物質の推定 (佐藤あさひ、藤原裕子、仲村匡司、高妻洋成、藤井義久)『木材保存』43 (3) pp.139-147 日本木材保存協会 17.5

(5 学会発表) 腐朽後乾燥した木材の細胞の形態的特徴量と物性パラメータとの関係 (篠崎美帆、藤原裕子、築瀬佳之、澤田豊、藤井義久) 日本木材保存協会第33回年次大会 メルパルク東京 17.5.23-24

(5 学会発表) チビタケナガシクイの生活史および食害行動の非破壊評価 (渡辺祐基、築瀬佳之、藤井義久)

日本木材保存協会第33回年次大会 メルパルク東京 17.5.23-24

(5 学会発表) How can build Japanese style wooden house in Thailand The 3<sup>rd</sup> KU-KUGSA Bilateral Symposium on Food, Environment and Life for the Next Generation Kasetsart University, Thailand 17.12.4-6

(5 学会発表) Nondestructive analysis of oviposition of the bamboo powderpost beetle *Dinoderus minutus* using acoustic emission and X-ray CT (Watanabe H, Yanase Y, Fujii Y) Proceedings IRG Annual Meeting IRG/WP 17-10889 Ghent, Belgium 17.5

(5 学会発表) 木に学び、木を護る 第27期京滋インテリア協会記念講演 京都市 17.5.29

(5 学会発表) 加子母明治座の耐久性調査 (藤井義久、藤原裕子、鈴木祥之) 第11回歴史都市防災シンポジウム 立命館大学衣笠キャンパス 17.7.1

(5 学会発表) スギ心持ち正角材の乾燥過程における振動特性を用いた内部含水率の推定 (福井杜史之、築瀬佳之、澤田豊、藤井義久) 日本木材加工技術協会第35回年次大会 兵庫県民会館 17.9.28-29

(5 学会発表) ヒノキ平削り面の毛羽立ちの生成機構の考察と定量評価 (古川隼人、藤原裕子、築瀬佳之、澤田豊、藤井義久) 日本木材加工技術協会第35回年次大会 兵庫県民会館 17.9.28-29

(5 学会発表) 木材切削時の先割れ先端近傍での応力拡大係数の変化 (皆川真澄、藤原裕子、藤井義久、松田陽介) 日本木材加工技術協会第35回年次大会 兵庫県民会館 17.9.28-29

(5 学会発表) スギ心持ち正角材の乾燥過程における振動特性を用いた内部含水率の推定 (福井杜史之、築瀬佳之、澤田豊、藤井義久) 日本木材加工技術協会第35回年次大会 兵庫県民会館 17.9.28-29

(5 学会発表) ヒノキ平削り面の毛羽立ちの生成機構の考察と定量評価 (古川隼人、藤原裕子、築瀬佳之、澤田豊、藤井義久) 日本木材加工技術協会第35回年次大会 兵庫県民会館 17.9.28-29

(5 学会発表) 木材切削時の先割れ先端近傍での応力拡大係数の変化 (皆川真澄、藤原裕子、藤井義久、松田陽介) 日本木材加工技術協会第35回年次大会 兵庫県民会館 17.9.28-29

(5 学会発表) 木材・木造の劣化と耐久性 日本伝統建築棟梁研修 米原 17.11.26

(6 講習会) 木材の劣化診断技術・一次診断・二次診断 木材劣化診断士講習会 東京 17.8.30

(6 講習会) 木造の劣化診断技術 住宅メンテナンス診断士講習会 大阪・東京 17.8.4、17.11.4

(6 講習会) 木材の基本的性質 近畿中国森林管理局平成29年度研修会 大阪 17.12.7

(7 所属学会) International Research Group on Wood Protection、精密工学会、日本環境動物昆虫学会、日本建築学会、日本材料学会、日本文化財科学会、日



本木材加工技術協会、日本木材学会、日本木材保存協会、文化財保存修復学会

(8 教育) 京都大学農学部森林科学科、京都大学大学院農学研究科、京都府立大学農学部非常勤講師、東京大学大学院農学生命科学研究科非常勤講師

## 二神 葉子 FUTAGAMI Yoko (文化財情報資料部)

(2 報告) 無形文化遺産を取り巻くユネスコと世界の状況—政府間委員会での審議から— 『無形民俗文化財研究協議会報告書』 東京文化財研究所 18.3

(2 報告) 無形文化遺産の保護に関する第12回政府間委員会の概要と課題 『世界遺産研究協議会「世界遺産推薦書の評価プロセスと諮問機関の役割」』 東京文化財研究所 18.3

(3 論文) 「無形文化遺産」になるということ—人類の無形文化遺産の代表一覧表への記載の意味— 『にじ』659 pp.65-72 JC総研 17.6

(3 論文) 無形文化遺産の保護に関する第12回政府間委員会の概要と課題 『無形文化遺産研究報告』12 東京文化財研究所 18.3

(4 解説) ワット・ラーチャプラディットと漆扉 『日タイ修好130周年記念特別展 タイ—仏の国の輝き—』 pp.190-191 日本経済新聞社 17.4

(4 解説) 第41回世界遺産委員会ニュース 『世界遺産年報2018』 講談社 18.1

(5 学会発表) 国指定文化財12城の地震ハザードカルテによる危険度評価(二神葉子、隈元崇) 日本文化財科学会第34回大会 東北芸術工科大学 17.6.10-11

(6 講習会) 最近の情報セキュリティ上の課題について 情報システム部会平成29年度第1回研修会 東京文化財研究所 17.9.21

(6 講習会) 今後の情報システム整備 情報システム部会平成29年度第2回研修会 東京文化財研究所 18.2.21

(6 講演) 文化財情報のデータベース化と防災、減災への活用 文化財の記録と継承—文化財を守り、伝えるために— けいはんなオープンイノベーションセンター 17.10.28

(6 発表) 無形文化遺産を取り巻くユネスコと世界の状況—政府間委員会での審議から— 無形民俗文化財研究協議会 東京文化財研究所 17.12.18

(6 発表) 世界遺産委員会に見る諮問機関の評価とその課題 世界遺産研究協議会 東京文化財研究所 18.1.18

(7 所属学会) ICOMOS、地理情報システム学会、日本第四紀学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 文化審議会世界文化遺産部会臨時委員

## 本多 貴之 HONDA Takayuki (客員研究員)

(2 報告) The Birdcageの変塗装部漆塗膜分析 『ドレスデン国立美術館陶磁器資料館所蔵の日本美術品

共同研究事業報告書 染付蒔絵鳥籠装飾広口大瓶—The Birdcage Vase』 pp.91-96 ドレスデン国立美術館陶磁器資料館・東京文化財研究所 17.11

(3 論文) Analysis of Japanese Jōmon period red lacquerwares by pyrolysis gas chromatography/mass spectrometry (Shinichi Takahashi, Meesook Sung, Takayuki Honda, Rong Lu, Jaekook Jung, Tetsuo Miyakoshi) *Journal of Archaeological Science: Reports* 18 pp.85-89 18.1

(4 記事) 「乾漆」の薬効成分の構造決定 『ぶんせき』510 p.243 17.6

(4 解説) 石鏝膠着物の科学分析 URUSHI p.94 国立歴史民俗博物館 17.7

(5 学会発表) 近世の文化財建造物に用いられた材料等の科学分析(五十嵐佑磨、北野信彦、成瀬晃司、本多貴之) 日本文化財科学会第34回大会 東北芸術工科大学 17.6.10-11

(5 学会発表) 漆塗膜分析における人の表皮由来の油が与える影響の検討(高橋慎一、本多貴之) 日本文化財科学会第34回大会 東北芸術工科大学 17.6.10-11

(5 学会発表) 欧州で製作された模造漆器に使用された材料の科学分析(出居宗一郎、本多貴之) 日本文化財科学会第34回大会 東北芸術工科大学 17.6.10-11

(6 講演) 漆に関わる様々な分析 日本分析化学会第66年会 東京理科大学葛飾キャンパス 17.9.11

(6 講演) 化学分析による琉球漆器の技術解明 琉球の漆文化と科学2017 浦添市美術館 17.9.16

(7 所属学会) 高分子学会、高分子分析研究懇談会、日本化学会、日本文化財科学会

## 前川 佳文 MAEKAWA Yoshifumi (文化遺産国際協力センター)

(1 共著) フレスコ画《長崎への道》の保存修復(水野宏美、長谷川路可、井関正昭、原田恭子、伊東公子、野地耕一郎、荒井経、香山里絵、前川佳文、長谷川路夫) 『没後50年記念 長谷川路可 フレスコ、モザイクのパイオニア』 pp.52-54 サンパウロ 17.7

(2 報告) Interventi di emergenza, conservativi e di restauro (Yoshifumi Maekawa, Guido Botticelli, Stefania Franceschini, Monica Martelli Castaldi) *Progetto di studio e ricerca scientifica sulle metodologie di intervento per la conservazione, restauro e manutenzione delle pitture murali e finiture di superficie nell'area Pompeiana, Parco Archeologico di Pompei* 17.9

(2 報告) *The Report on the Feasibility Works for the Conservation of the Wall Paintings of the Tomb of Khonsuemheb* Ministry of State of Antiquities Egypt 18.1

(2 報告) 『A Conservation Project for the Repair, Strengthening and Recovery of Temple 1205. Archaeological Area and Monuments of Bagan,

Myanmar 平成29年度成果報告書』106p 東京文化財研究所 18.3

(2 報告)『平成29年度文化遺産国際協力拠点交流事業トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業報告書』168p 東京文化財研究所 18.3

(4 資料紹介) (Yoshifumi Maekawa, Guido Botticelli, Fabrizio Bandini, Alberto Felici, Daniela Maria Murphy, Stefania Franceschini) Conservation of Turkish Wall paintings: a guideline for emergency treatments Ministry of Culture and Tourism, Republic of Turkey 17.10

(5 学会発表) Preliminary Scientific Investigations on Constitutive Materials from Temple n.1205, Bagan Valley (Myanmar) (Maria Letizia Amadori, Daniele Angellotto, Yoshifumi Maekawa, Denis Zanetti, Paola Fermo, Francesco Maria Mini, Valentina Raspugli) TECHNART 2017 -Non-destructive and microanalytical techniques in art and cultural heritage Bizkaia Aretoa 17.5.2-6

(5 学会発表) ポンペイ遺跡における壁画技法および保存状況調査 (前川佳文、ガイド・ボッティチェッリ、モニカ・マルテッリ・カスタルディ、ステファニア・フランチェスキーニ) 日本文化財科学会第34回大会東北芸術工科大学 17.6.10-11

(5 学会発表) 壁画作品『荘厳のキリストを支える二人の天使』の調査研究と保存修復 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.2

(5 学会発表) ミャンマー・バガン遺跡群における壁画保存修復に向けた調査研究—壁画を構成する材料調査と傷みの原因— (鳴原由美、前川佳文、増淵麻里耶、中山俊介、川野邊渉、楠京子、アンジェロット・ダニエレ) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.2

(5 学会発表) Integrated Scientific Investigations on Constitutive Materials from Temple N.1205a (Maria Letizia Amadori, Paola Fermo, Valentina Raspugli, Valeria Comite, Francesco Maria Mini, Yoshifumi Maekawa, Ko Kyi Lin) The 2017 IMEKO TC4 Symposium Castello Carlo V 17.10.23-25

(6 講演) Me-taw-ya (No.1205) 寺院におけるこれまでの調査報告 (Yoshifumi Maekawa, Denis Zanetti) The 10<sup>th</sup> Expert Meeting on Earthquake Damage to the Bagan Archaeological Site Bagan Archaeological Museum 17.7.27

(6 講演) I materiali nel restauro dei dipinti murali e adeguate misure di sicurezza per il loro utilizzo (Stefania Franceschini, Yoshifumi Maekawa) The field course - Challenges and Issues to Wall Painting Conservation Nevşehir Hacı Bektaş Veli University 17.11.2

(7 所属学会) Associazione Bastioni, Associazione Amici dell'Opificio

前原 恵美 MAEHARA Megumi (無形文化遺産部)

(1 共著) 江戸祭礼と歌舞伎をめぐる三味線音楽演奏者の動向—常磐津節を中心に『江戸総鎮守 神田明神論集1』 pp.73-100 神田神社 17.5

(2 報告)「楽器を中心とした文化財保存技術調査報告1」(前原恵美、橋本かおる)『無形文化遺産研究報告』12 pp.41-65 18.3

(4 連載) 浮世絵を聴く 第8回 盆踊りに夏の風物詩を聴く「源氏十二ヶ月の内 孟秋」『宮城會々報』228 巻頭カラー 2p 箏曲宮城会 17.7

(4 連載) 浮世絵を聴く 第9回 異国の舞楽に雅を聴く「大坂新町ねりもの 還城楽 中扇屋初花太夫」『宮城會々報』229 巻頭カラー 2p 箏曲宮城会 18.1

(6 発表) 無形文化財保存技術に関する報告—三味線を中心に— 総合研究会 東京文化財研究所 17.10.3

(6 講演) 江戸祭礼と歌舞伎の音曲について 神田神社明神塾 神田明神祭務所地下ホール 17.10.11

(5 学会発表) 江島弁財天信仰と常磐津節演奏家—浮世絵〈相州江之嶋弁才天開帳参詣群集之図〉を起点に— 東洋音楽学会東日本支部 第100回定例研究会 東京大学(駒場キャンパス) 17.12.2

(7 所属学会) 楽劇学会、東洋音楽学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 文化庁文化財部伝統文化課芸能部門非常勤調査員、平成30年度伝統音楽普及促進支援事業審査委員

(8 教育) 桐朋学園大学非常勤講師

牧野 真理子 MAKINO Mariko (アソシエイトフェロー)

(2 報告) 国際会議「シリア世界遺産の次世代への継承を目指して—パルミラ 奈良からのメッセージ」に参加して『西アジア考古学』19 pp.63-70 18.3

(6 発表) シリアの文化遺産と日本：若い世代への意識啓発 国際会議「シリア世界遺産の次世代への継承を目指して—パルミラ奈良からのメッセージ」 奈良春日野国際フォーラム 17.7.11-13

増淵 麻里耶 MASUBUCHI Mariya (アソシエイトフェロー)

(2 報告)『国際基督教大学所蔵ジェットエンジンに関する調査報告書(中間報告)』 国際基督教大学アジア文化研究所 17.10

(2 報告) 第2章第3節第3項 材料調査『国際基督教大学所蔵ジェットエンジンに関する調査報告書』 pp.20-22 国際基督教大学アジア文化研究所 18.3

(2 報告) 中央アナトリアにおける製鉄文化解明の試み (9) 一カマン・カレホックでこれまでに発見された炉址・金属工房址について—『2017年度トルコ調査報告会/第28回トルコ調査研究会』 pp.36-37 公益財団法人中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所 18.3

(3 論文) An Archaeometallurgical Study of Iron/Steel



Objects from Kaman-Kalehöyük in Central Anatolia  
*Proceedings of the 9<sup>th</sup> International Conference on the  
 Beginning of the Use of Metals and Alloys (BUMA-IX)*,  
 The Korean Institute of Metals and Materials (in press)  
 (4 編集)『平成29年度文化遺産国際協力拠点交流事業  
 「トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向  
 けた人材育成事業」報告書』168p 東京文化財研究  
 所 18.3

(5 学会発表) ミャンマー・バガン遺跡における壁画保  
 存修復に向けた調査研究—壁画を構成する材料調査  
 と傷みの原因—(嶋原由美、前川佳文、増渕里耶、  
 中山俊介、川野邊渉、楠京子、アンジェロット・ダ  
 ニエレ) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇  
 座 17.7.2

(5 学会発表) An Archaeometallurgical Study of Iron/  
 Steel Objects from Kaman-Kalehöyük in Central  
 Anatolia The Ninth International Conference on the  
 Beginning of the Use of Metals and Alloys (BUMA-IX)  
 Dong-A University 17.10.16-19

(6 発表) 中央アナトリアにおける製鉄文化解明の試み  
 (9) —カマン・カレホユックでこれまでに発見され  
 た炉址・金属工房址について— 第28回トルコ調査  
 研究会 学習院大学 18.3.26

(6 講義) An Introduction to Heritage Science —Towards  
 Protection of Cultural Properties— 金沢大学 17.11.24  
 (7 所属学会) IIC、日本西アジア考古学会、日本分析  
 化学会

(8 教育) 金沢大学人間社会研究域附属国際文化資源学  
 研究センター客員研究員

**松保 小夜子** MATSUHO Sayoko (アソシエイトフェロー)

(4 編集)(ヨハネス・ウィドド、クレメント・リャン、  
 モーモー・ルウィン、エリック・ゼルド、グエン・  
 スー、友田博通ほか)『国際シンポジウム「東南アジ  
 アの歴史的都市でのまちづくり—町の自慢を、町の  
 魅力に—」報告書』93p 文化遺産国際協力コンソー  
 シウム 18.3

(4 編集)(Johannes Widodo, Clement Liang, Moe  
 Moe Lwin, Eric B. Zerrudo, Nguyen Su, Hiromichi  
 Tomoda, etc) *International Symposium Sustainable  
 Development of Historical Cities in South-East Asia*  
 97p Japan Consortium for International Cooperation  
 in Cultural Heritage 18.3

**間瀬 創** MABUCHI Hajime (客員研究員)

(5 学会発表) 博物館IPMにおけるバイオエアロゾル  
 測定の利用に向けた基礎的な研究(間瀬創、佐藤嘉  
 則) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座  
 17.7.1

(6 講演) 三重県総合博物館におけるIPM 文化財保存  
 修復学会公開シンポジウム「博物館におけるIPMのこ

れから」九州国立博物館 17.4.8

(6 講演) 三重県総合博物館における展示環境管理につ  
 いて 公開承認施設担当者会議 文化庁 17.7.25

(7 所属学会) 室内環境学会、文化財保存修復学会

**丸川 雄三** MARUKAWA Yuzo (客員研究員)

(3 論文) 美術関係資料アーカイブズにおける情報管理  
 発信システムの研究 『アート・ドキュメンテーショ  
 ン研究』25 pp.1-15 18.3

(3 論文) ミュージアムの情報発信力を高める文化遺産  
 オンラインの活用法 『情報の科学と技術』67 (12)  
 pp.628-632 17.12

(4 解説) 研究資料アーカイブズにおける資料情報の記  
 述と公開: 講演会「アーカイブズ・オブ・アメリカン  
 アート (AAA) のすべて」より 『民博通信』158 p.29  
 17.9.29

(6 講演) 建築における意匠とアーカイブズ アート・  
 ドキュメンテーション学会第94回研究会 文化庁国  
 立近現代建築資料館 18.1.28

(6 講演) 国立民族学博物館における地域研究画像デジ  
 タルライブラリの構築と研究者支援(飯田卓、丸川雄  
 三) デジタルアーカイブ学会関西支部第1回例会  
 エルおおさか本館 17.12.7

(6 講演) 展示場情報システムにおけるデジタルビュー  
 アの活用 Museum 2017: New Technology in Museums  
 國立臺北教育大學 17.10.26-27

(6 発表) 日本アニメーション映画クラシックスの構築  
 と発信 国際シンポジウム『変容する世界のなかでの  
 文化遺産の保存』国立民族学博物館 17.10.7-8

(5 学会発表) アート・コミュニケーションを支援する  
 情報システムの研究 アート・ドキュメンテーショ  
 ン学会2017年次大会 東京工業大学博物館・百年記  
 念館 17.6.10-11

(7 所属学会) アート・ドキュメンテーション学会

(8 教育) 総合研究大学院大学比較文化学専攻担当教員

**マルティネス・アレハンドロ** MARTINEZ Alejandro

(アソシエイトフェロー)

(1 共著)「国際的議論から見た木造建築遺産の文化的  
 意義及びその真正性に関する考察」『建築の歴史・  
 様式・社会』pp.357-365 中央公論美術出版 18.1

(2 報告) 第4章 カンボジアに対する協力、第7章  
 研究会・セミナーの開催、第8章 その他(友田正彦、  
 安倍雅史、山田大樹、間瀬裕生、マルティネス・ア  
 レハンドロ)『アジア諸国等文化遺産保存修復協力平  
 成29年度成果報告書』pp.29-37、63-110、111-115  
 東京文化財研究所 18.3

(3 論文) 从国际观点看日本木结构建筑遗产的保护与传  
 承/Introduction to the Conservation and Transmission  
 of the Wooden Architectural Heritage in Japan from an  
 International Perspective (Kanefusa Masuda, Alejandro

Martinez) 『建筑遗产/Heritage Architecture』2 pp.1-7 17.5

(4 編集) (友田正彦、マルティネス・アレハンドロ) 『考古学的知見から読み取る大陸部東南アジアの古代木造建築/Ancient Wooden Architecture in Mainland Southeast Asia: Reading the Features of Lost Buildings from Archaeological Evidence』157p 東京文化財研究所 18.3

(4 記事) 「物故者」吉田桂二 『日本美術年鑑』平成28年版 pp.562-563 東京文化財研究所 18.3

(4 エッセイ) 国際的な観点から見た木造建築遺産の保存 『TOBUNKEN NEWS』64 pp.37-38 17.7

(5 学会発表) ヨーロッパの木造建築遺産修理マニュアルに見られる修理技法の分析 2017年度日本建築学会大会(中国) 学術講演会 広島工業大学 17.9.3

(5 学会発表) Engaging Local Professionals for the Conservation of the Built Environment: the Japanese Heritage Manager System 19<sup>th</sup> ICOMOS General Assembly & Scientific Symposium India Habitat Centre, Delhi, India 17.12.13

(6 発表) Post-trauma Recovery of Buildings Designated as Important Cultural Properties after the Great East Japan Earthquake ICOMOS Reconstruction Global Project ICOMOS Headquarters, Paris, France 17.6.6-8

(6 発表) Post-Trauma Reconstruction Case Study: Main Hall of Sensho-ji Temple ICOMOS Reconstruction Global Project ICOMOS Headquarters, Paris, France 17.10.17

(6 発表) Comparison of Case Studies of Post-Trauma Reconstruction: Sensho-ji and Duomo di Venzone ICOMOS Reconstruction Global Project ICOMOS Headquarters, Paris, France 18.1.30

(6 発表) 文化遺産建造物の災害復旧に関する比較検討—福島県専称寺およびイタリア・ヴェンゾーネ教会の事例からみる 第22回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産のリコンストラクションに関する世界動向」 TKP市ヶ谷カンファレンスセンター 18.2.16

(6 発表) 東京文化財研究所による平成29年度ミャンマー事業の報告 文化遺産国際協力コンソーシアムミャンマーワーキンググループ(第6回) 東京文化財研究所 18.3.7

(6 講演) The Conservation of Wooden Built Heritage in Japan Kolbuszowa Open Air Museum, Kolbuszowa, Poland 17.8.3

(6 講義) 日本と西洋の比較による保護制度と修理方針や理念 日本女子大学 17.10.25

(7 所属学会) ICOMOS、日本建築学会、日本イコモス国内委員会、建築史学会、文化財建造物保存修理研究会

三浦 定俊 MIURA Sadatoshi (客員研究員)

(6 講演) 博物館におけるIPMについて 公開シンポジウム 博物館におけるIPMのこれから 九州国立博物館 17.4.8

(6 講演) 科学が国宝の謎を解く 木曜会第465回定例懇話会 パールホテル両国 18.1.18

(6 講習会) 「目視による施設調査」、「一歩進んだ温湿度調査」 文化財IPM実践のための研修会 新宿歴史博物館 17.11.9-10

(6 講習会) 文化財のIPM概論 文化財IPMコーディネータ資格講習会 東京文化財研究所・東京国立博物館 17.12.6-8

(7 所属学会) ICOM、ICOM-CC、ICOMOS、IIC、IIC-Japan、計測自動制御学会、特定非営利活動法人文化財保存支援機構、日本アイソトープ協会、日本イコモス国内委員会、日本文化財科学会、日本リモートセンシング学会、美術史学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 文化財保存修復学会理事長、IIC-Japan 副会長、ICOM日本委員会監事、東京都文化財保護審議会委員、日本銀行金融研究所貨幣博物館諮問委員、特定非営利法人文化財保存支援機構理事

(8 教育) 上智大学文学部非常勤講師、武蔵野美術大学造形学部非常勤講師

三上 豊 MIKAMI Yutaka (客員研究員)

(1 公刊図書) 『辰野登恵子アトリエ』せりか書房 112p 18.2

(4 演出) 「麻生三郎アトリエ」 豊島区 8分(映像) 18.2

(4 演出) 「建畠寛造アトリエ」 豊島区 8分(映像) 18.2

(4 記事) 評論家の蔵書をめぐる記録について 『美術フォーラム21』35 pp.65-69 17.5

(6 講演) ギャラリートーク アートはだれのもの 日本大学芸術学部版画専攻卒展のために ギャラリー川船 18.1.30

(7 委員会等) 独立行政法人国立美術館の評価等に関する有識者会議委員、町田市立国際版画美術館運営協議会委員、町田市文化プログラム推進計画策定検討委員会委員

(8 教育) 和光大学表現学部芸術学科教授

三島 大暉 MISHIMA Taiki (アソシエイトフェロー)

(6 講習会) 平成29年度標的型メール攻撃対応訓練講習 情報システム部会平成29年度第2回研修会 東京文化財研究所地下セミナー室 18.2.21

(7 所属学会) デジタルアーカイブ学会

森井 順之 MORII Masayuki (保存科学研究センター)

(3 論文) 耐震的に脆弱な文化財組積造建造物の被災後の保存修復法 その7 煉瓦表面の劣化状態調査(森

井順之、花里利一)『2017年度大会(中国)学術講演梗概集 構造Ⅳ』pp.899-900 17.8

(3 論文)多視点ステレオ技術に基づく磨崖和霊石地蔵の劣化状況評価(朽津信明、森井順之、酒井修二、運天弘樹)『保存科学』57 pp.1-10 18.3

(2 報告)虎塚古墳石室の扉石表面に形成したバイオフィルムの微生物群集構造解析とその制御(佐藤嘉則、木川りか、犬塚将英、森井順之、矢島國雄)『保存科学』57 pp.67-76 18.3

(2 報告)平成28年熊本地震被災文化財救援活動報告からみる直下型地震後の文化財救援(森井順之、内藤百合子、萬納恵介、岡田健)『保存科学』57 pp.181-189 18.3

(5 学会発表)多視点ステレオ技術に基づく磨崖和霊石地蔵の劣化状況評価(朽津信明、森井順之、酒井修二、運天弘樹)日本文化財科学会第34回大会 東北芸術工科大学 17.6.10

(5 学会発表)大分県臼杵市、重文・宝篋印塔の保存修復処置と30年後の状態(西浦忠輝、森井順之)文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1

(5 学会発表)覆屋の形態による環境条件の違い—北関東の覆屋を事例に—(宋苑瑞、朽津信明、森井順之、佐多麻美)文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1

(5 学会発表)石人山古墳装飾石棺表面の微生物群集構造解析(佐藤嘉則、西沢智康、小沼奈那美、犬塚将英、森井順之、木川りか、朽津信明)文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1

(5 学会発表)断層露頭の保存に関する保存科学的考察(朽津信明、森井順之)文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1

(5 学会発表)羅漢寺無漏窟の保存環境(森井順之、三谷紘平) The 6<sup>th</sup> International Symposium of the Society for Conservation of Cultural Heritage in East Asia, 2017 復旦大学 17.8.24

(5 学会発表)耐震的に脆弱な文化財組積造建造物の被災後の保存修復法 その7 煉瓦表面の劣化状態調査(森井順之、花里利一)2017年度日本建築学会大会(中国)学術講演会 広島工業大学 17.9.1

(5 学会発表)地質露頭の科学的保存と公開に関する研究(朽津信明、森井順之)平成29年度日本応用地質学会研究発表会 岡山理科大学 17.10.12

(7 所属学会)ICOMOS、日本建築学会、東アジア文化遺産保存学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等)史跡熊野磨崖仏保存活用計画策定委員、大悲山石仏保存整備指導委員会委員、日本建築学会熱環境運営委員会湿気小委員会文化財の保存と活用のための環境制御ワーキンググループ委員、羅漢寺五百羅漢調査委員

(8 教育)慶應義塾大学文学部非常勤講師

安永 拓世 YASUNAGA Takuyo (文化財情報資料部)

(3 論文)長沢芦雪筆「旧福寿院障壁画」(薬師寺蔵)について『修理完成記念特別陳列 薬師寺の名画—板絵神像と長沢芦雪筆旧福寿院障壁画—』pp.56-59 奈良国立博物館 18.2.6

(3 論文)呉春筆「白梅図屏風」(逸翁美術館蔵)をめぐって『畫下遊樂(二) 奥平俊六先生退職記念論文集』pp.439-475 奥平俊六先生退職記念論文集編集委員会 18.3.10

(4 解説)図版番号11、31~36、38~39、41~45、72~73、75~77、参考図3『特別展 柳沢淇園—文雅の士・新奇の画家—』pp.131、140-149、159-163、165-166 大和文華館 17.10.7

(2 報告)美術資料調査 絵画資料「墨梅図屏風 岡田米山人筆」「墨竹図襖 岡田半江筆」「鶴図 円山応挙筆」「竹虎図 仁海益州筆」『常光寺調査研究報告書』pp.98-102 八尾市教育委員会 18.3

(6 発表)呉春筆「白梅図屏風」(逸翁美術館蔵)の史的位置 2017年度第2回文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 17.5.30

(6 講演)煎茶と日本の文人画 「高階秀爾先生講演会・座談会 文人性と文人画 近代日本への継承と海外での受容〜アンドレ・マルローが注いだ眼差しを発端に」日仏会館ホール 17.6.3

(6 発表)呉春筆「白梅図屏風」(逸翁美術館蔵)の基底材について 植物由来資料の同定研究に関する報告会 東京文化財研究所 17.9.21

(6 講演)南海・百川・そして淇園—江戸時代初期文人画家の中国絵画学習を中心に— 大和文華館 特別展「柳沢淇園—文雅の士・新奇の画家—」講演会 大和文華館 17.10.22

(6 講演)呉春筆「白梅図屏風」へのいざない—蕪村・応挙・池田の文化— 逸翁美術館 開館60周年記念展 第5幕「応挙は雪松、呉春は白梅。」講演会 逸翁美術館 18.2.10

(6 講演)長沢芦雪と薬師寺旧福寿院障壁画 奈良国立博物館 特別陳列「修理完成記念 薬師寺の名画—板絵神像と長沢芦雪旧福寿院障壁画—」公開講座 奈良国立博物館 18.3.3

(7 所属学会)美術史学会、和歌山地方史研究会

(7 委員会等)八尾市史専門部会員

山田 大樹 YAMADA Hiroki (アソシエイトフェロー)

(1 共著)第3章 将来像の実現に向けたシナリオ・メイキング(佐藤滋、内田奈芳美、野田明宏、益尾孝祐、饗庭伸、阿部俊彦、有賀隆、井上拓哉、大木一、大橋清和、加納亮介、川原晋、久保勝裕、志村秀明、菅野圭祐、杉本千紘、瀬戸口剛、瀬部浩司、早田幸、辰巳寛太、新津瞬、野嶋慎二、野中勝利、古川尚彬、益子智之、松浦健治郎、真野洋介、山田大樹)『まちづくり図解』pp.85-106 鹿島出版会 17.6

- (2 報告) Issue and Prospects Conference on the Preservation of Historic Settlements in Kathmandu Valley on 30<sup>th</sup> November 2016 *Proceedings* pp.105-114 TNRICP 17.6
- (2 報告) *Observation Report on Qazvin, Rasht, and Masuleh, 20–25 August, 2017* 12p Hiroki YAMADA 17.9
- (2 報告) (友田正彦, 山田大樹) 『平成29年度文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」報告書』 20p 東京文化財研究所 18.3
- (3 論文) 世界遺産マスジェデ・ジャーメ (エスファハーン) 周辺地区の再興計画の背景と課題 『2017年度日本建築学会大会 (中国) 学術講演梗概集』 pp.697-698 日本建築学会 17.8
- (4 編集) (Masahiko TOMODA, Hiroki YAMADA) Technical Assistance for the Protection of Damaged Cultural Heritage in Nepal *Project Report* 138p TNRICP 17.5
- (4 編集) (Masahiko TOMODA, Hiroki YAMADA) Iran-Japan On-site Workshop on the Conservation of Wooden Buildings and Wooden Objects: Especially on the Preservation of Damage by Insects, 17-19 April 2017 *Report*, 91p TNRICP & Iranian Cultural Heritage, Handicraft and Tourism Organization 17.8
- (4 編集) (Masahiko TOMODA, Hiroki YAMADA) On-site Training Program in Japan, on the Preservation and the Management of Historic Settlements / Districts *Report* 100p 東京文化財研究所 18.3
- (4 記事) 「物故者」 川添登 『日本美術年鑑』 平成28年版 pp.544-545 東京文化財研究所 18.3
- (4 記事) 若手専門家作業部会 (EPWG) について 『イコモスインフォメーション誌』 10-9号 pp.34-35 日本イコモス国内委員会 18.3
- (5 学会発表) 世界遺産マスジェデ・ジャーメ (エスファハーン) 周辺地区の再興計画の背景と課題 2017年度日本建築学会大会 (中国) 学術講演会 広島工業大学 17.8.30
- (6 発表) Technical Assistance for the Protection of Damaged Cultural Heritage in Nepal Report of the project 2016 Department of Archaeology, Nepal 17.6.19
- (6 講演) Management plan and research contents to specify the value of historic settlements Historic settlements network meeting Department of Archaeology, Nepal 17.6.14
- (6 講演) Urgent Issues on the Conservation of Historic Settlements in the Kathmandu Valley Historic settlements network meeting Kirtipur municipality office 17.9.10
- (6 講演) Evaluation of the Atiq Square Revitalization

- Project in Isfahan : According to the interview survey to shopkeepers in the project area IX International Policy Forum: On urban growth and conservation in euro-asian corridor / the silk road Samara State Technical University 17.10.12
- (6 講義) 西アジア：ペルシアの建築 武蔵野大学 17.10.23
- (6 講義) Struggle to Conserve Nepalese Cultural Heritage Damaged by the Gorkha Earthquake Towards Protection of Cultural Properties 金沢大学 17.11.24
- (6 パネリスト) 日本建築学会+日本建築保存協会主催 変容する「都」〈4+2〉～古代ペルシャから現代東京まで～ 建築会館ホール 18.3.5
- (7 所属学会) ICOMOS、日本イコモス国内委員会、日本建築学会、日本都市計画学会
- (7 委員会等) イコモス若手専門家作業部会日本代表幹事、建築学会博物館小委員会
- (8 教育) 金沢大学人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター客員研究員

#### 山梨 絵美子 YAMANASHI Emiko (副所長)

- (2 報告) 徳川慶喜公の油彩画とその周辺 『シンポジウム「徳川慶喜の油絵を読む一幕府開成所と近代洋画」報告書』 pp.22-29 静岡市美術館 18.3
- (4 解説) 美術に関する知の収集・整理・公開というテーマの意図 『美術フォーラム21』 35 pp.20-23 一般社団法人「美術フォーラム21」 17.5
- (4 解説) 黒田清輝「厨房」『國華』1467 pp.60-63 国華社 18.1
- (4 記事) 「物故者」一木平蔵、江見絹子、加藤昭男、庄司栄吉、森本草介 『日本美術年鑑』 平成28年版 pp.558-559、526、538-539、528、554-555 18.3
- (6 発表) 日本の固有性から東洋的特質へー日本美術をめぐる言説の変遷とその表現 国際シンポジウム「日本近代洋画の情勢と発展」 国立台北教育大学 17.10.7
- (6 講義) 視覚の制度を脱する試みについて、日本近代美術を例に考える 多摩美術大学 17.6.10
- (6 講演) 明治期日本洋画に求められたもの 弘前市立博物館 17.6.23
- (6 講演) 描かれた女性像に見る日本近代洋画の変遷とちぎ蔵の街美術館 18.3.11
- (6 パネリスト) 「アートに係る経済振興」予備会合 国立新美術館 18.3.23
- (6 講演) 黒田清輝と明治の洋画ー東アジア美術の視点から 東京国立博物館月例講演会 東京国立博物館 18.3.31
- (7 委員会等) 秋田市千秋美術館協議会美術作品等評価審査委員会委員、秋田県立美術館アドバイザー会議委員、江戸東京博物館資料収蔵委員会委員、大分市



美術館美術品収集委員会委員、迎賓館の改修に関する懇談会委員、静岡県立美術館専門委員、東京都美術館運営委員会委員、日光市美術作品等収集審査会委員、文化審議会美術品補償制度部会委員、横須賀市美術館美術品選定評議委員

**山村 みどり** YAMAMURA Midori (日本学術振興会特別研究員)  
 (4 記事)「物故者」久保田成子 『日本美術年鑑』平成28年版 pp.545-546 東京文化財研究所 18.3  
 (5 学会発表) Benesse Art Site and Echigo Tsumari Art Triennial: Revitalize Dying Areas with Contemporary Art The 3<sup>rd</sup> Biennial IAJIS (Israel Association of Japanese Studies): The Heisei Era in Retrospect University of Haifa (Haifa, Israel) ほか 17.6.11-13  
 (5 学会発表) Masato Nakamura's Artists Initiative: Decolonization of Art at the Cold War's End The 6<sup>th</sup> French Network for Asian Studies International Conference Sciences Po (Paris, France) 17.6.26-28  
 (6 発表) Japanese Art Since 1989: Emergence of the Local in the Age of Globalization The National Gallery, Singapore 17.7.29  
 (7 所属学会) College Art Association

**山本 記子** YAMAMOTO Noriko (客員研究員)  
 (2 報告) The Birdcage Vaseの修復 (絵画部) 『ドレスデン国立美術館陶磁器資料館所蔵の日本美術品共同研究事業報告書 染付時絵鳥籠装飾広口大瓶ーThe Birdcage Vase』 pp.53-54 ドレスデン国立美術館陶磁器資料館・東京文化財研究所 17.11  
 (5 学会発表) キトラ古墳壁画の修復 (早川典子、川野邊渉、辻本与志一、山本記子、亀井亮子、宇田川滋正、建石徹) 文化財保存修復学会39回大会 金沢歌劇座 17.7.1  
 (7 所属学会) ICOM、IIC-Japan、文化財保存修復学会  
 (8 教育) 嵯峨美術大学造形学科日本画非常勤講師

**横山 晋太郎** YOKOYAMA Shintaro (客員研究員)  
 (7 委員会等) 日本航空協会航空遺産継承基金専門委員

**吉田 直人** YOSHIDA Naoto (保存科学研究センター)  
 (2 報告) 美術館・博物館における照明の現状とこれからーアンケート調査を通してー 『照明学会誌』101 (12) pp.558-562 17.12  
 (2 報告)「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」の意味と効果 『博物館研究』平成29年10月号 pp.7-11 17.10  
 (4 解説) 博物館における展示照明ー資料保存の観点からー 『シンポジウム「ミュージアムに自然光は必要か?」資料集』 pp.28-31 日本建築学会建築計画委員会文化施設小委員会WG 17.11  
 (5 学会発表) 白色LED光が蛍光性文化財材料の色彩に

与える影響について(吉田直人、石井恭子) 日本文化財科学会第34回大会 東北芸術工科大学 17.6.10-11  
 (5 学会発表) 法隆寺金堂焼損部収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究ー実測調査と数値解析による収蔵庫内の温湿度の現状の分析ー (小椋大輔、藤原良輔、佐野千絵、木川りか、和田浩、吉田直人、鉾井修一) 日本文化財科学会第34回大会 東北芸術工科大学 17.6.10-11

(5 学会発表) 白色LED光の被照射面での挙動と色彩への影響に関する考察 (吉田直人、石井恭子) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1

(5 学会発表) 収蔵庫の空気環境の評価と清浄化について (呂俊民、古田嶋智子、石井恭子、吉田直人、佐野千絵) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1

(5 学会発表) Towards A new standard for museum lightings in Japan (Nozomu Yoshizawa, Yoko Mizokami, Chie Sano, Naoto Yoshida) Museum Lighting Symposium University College London, UK 17.9.12

(6 講義) 保存・展示環境の科学 文化庁 第10回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー(2年目) 東京国立博物館、京都国立博物館 17.6.26、17.10.23

(6 講義) 文化財施設における保存環境の把握について 文化庁 公開承認施設担当者会議 都道府県会館 17.7.25

(6 講義) 環境制御(保存環境管理) 平成29年度アーカイブズ・カレッジ 国文学研究資料館 17.9.5

(6 講演) 資料保存環境の基本と現在の諸問題 平成29年度鹿児島県博物館協会総会 鹿児島県歴史資料センター黎明館 17.5.17

(6 講演) 博物館における展示照明ー資料保存の観点からー 日本建築学会文化施設小委員会ミュージアムワーキンググループ第4回ミュージアムトーク 建築会館 17.9.20

(6 講義) 博物館等における資料保存の観点からの照明管理 平成29年度第3回県内博物館学芸員等スキルアップ研修会 熊本県博物館ネットワークセンター 18.2.2

(7 所属学会) 日本文化財科学会、文化財保存修復学会  
 (7 委員会等) 2017年度文化財保存修復学会公開シンポジウム実行委員会委員、2017年度日本文化財科学会会誌編集委員、文化財保存修復学会理事、文化財保存修復学会第40回大会プログラム作成委員会委員長、「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」保存環境ワーキンググループ専門委員

(8 教育) 東京藝術大学大学院文化財保存学専攻システム保存学連携教授、大妻女子大学非常勤講師

**呂 俊民** RO Toshitami (客員研究員)

(2 報告) 木質材料に用いる接着剤からの有機酸とアンモニアの放散 (古田嶋智子、呂俊民、佐野千絵、稲葉



政満)『保存科学』57 pp.159-168 18.3

(4 解説) 燻蒸・殺虫に用いる化学物質のガス濃度測定について(呂俊民)『文化財の虫菌害』73 pp.7-13  
17.6

(5 学会発表) 収蔵庫の空気環境の評価と清浄化について(呂俊民、古田嶋智子、石井恭子、吉田直人、佐野千絵) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座  
17.7.1

(5 学会発表) 合板に用いる接着剤からの化学物質の放散(古田嶋智子、呂俊民、佐野千絵、稲葉政満) 文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1

(5 学会発表) 合板からの酢酸放散挙動と博物館展示ケースで用いるための選定指標(古田嶋智子、呂俊民、佐野千絵) 2017年度日本建築学会大会(中国)学術講演会 広島工業大学 17.9.1

(6 講義) 温湿度環境の測定と解析 第7回文化財IPMコーディネータ資格所得講習会 東京国立博物館・東京文化財研究所 17.12.6

(7 所属学会) 室内環境学会、日本建築学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 室内環境学会化学物質分科会

(8 教育) 武蔵野美術大学学芸員課程非常勤講師

## 5. 研究交流

1. 職員の海外渡航 .....	155
2. 招へい研究員等 .....	161
3. 海外研究者等の来訪 .....	162
4. 主要来訪者、施設見学 .....	163



## 1. 職員の海外渡航

氏 名	渡 航 先	期 間	目 的	経 費
友田正彦 小峰幸夫 山田大樹	イラン	29.4.15～4.21	木製文化財の虫害に関するワークショップの実施	コ02
前川佳文	イタリア	29.4.19～4.28	ミャンマー及びトルコ事業に関する打ち合わせ	コ03
山田大樹	イラン	29.4.21～4.28	イランの歴史的都市及び集落の開発と保存に関する調査	科研費
増渕麻里耶	トルコ	29.5.8～5.16	出土鉄製品・製鉄関連遺物の調査	科研費
友田正彦 金善旭	ミャンマー	29.5.17～5.25	バガンの被災文化遺産建造物の保存・修復に向けた現地調査（構造モニタリング、材料実験及び構法調査）	受託 （文化庁 ミャンマー）
マルティネス アレハンドロ	ブータン	29.5.29～6.5	版築造古民家建造物の調査	科研費
友田正彦 金善旭 間舎裕生	ネパール	29.5.29～6.7 29.5.29～6.24	ハヌマンドカ王宮内被災文化遺産建造物の修復に向けた調査（建造物調査、発掘調査ほか）	受託 （文化庁 ネパール）
マルティネス アレハンドロ	フランス	29.6.5～6.10	災害後の文化遺産リコンストラクションの事例集作成準備打合せへの参加	先方負担 （九州大学）
加藤雅人 江村知子 五木田まきは	キューバ	29.6.5～6.10	日本文化財の所在及びその保存に係る現況・支援ニーズ等の調査	コ04
山村みどり	エルサレム	29.6.10～6.15	書籍『1989年以降日本の現代美術』の研究発表	科研費
山田大樹	ネパール	29.6.10～6.27	ハヌマンドカ王宮内被災文化遺産建造物の修復に向けた調査（建造物調査）及びカトマンズ盆地内の歴史的集落保全制度確立に向けた調査（空間把握調査ほか）	受託 （文化庁 ネパール）
朽津信明 森井順之	台湾	29.6.12～6.14	被災遺構の保存に関する調査	ホ04
前川佳文 増渕麻里耶 中山俊介	トルコ	29.6.12～6.24 29.6.13～6.19	壁画の保存状態・保安全管理に関する現地調査	受託 （文化庁 トルコ） コ03
友田正彦 安倍雅史	カンボジア	29.6.19～6.24	アンコール遺跡保存国際調整委員会技術会合への出席	コ02
山村みどり	フランス	29.6.24～7.6	書籍『1989年以降日本の現代美術』の研究発表	科研費
二神葉子 境野飛鳥	ポーランド	29.7.1～7.14	第41回世界遺産委員会への出席	コ01
五木田まきは 元喜載 後藤里架 加藤雅人	ドイツ	29.7.2～7.17 29.7.3～7.15	ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」開催	コ05

氏 名	渡 航 先	期 間	目 的	経 費
中山俊介 亀井伸雄	ドイツ ポーランド	29.7.5～7.12	国際研修視察及び世界遺産委員会への出席	所長裁量 (世界遺産)
金善旭	ミャンマー	29.7.7～7.19	バガンの被災文化遺産建造物の保存・修復に向けた現地調査(構造モニタリング、生産技術調査)	受託 (文化庁 ミャンマー)
前川佳文	ミャンマー	29.7.7～7.31	ミャンマー・バガン寺院壁画の保護に係る現地調査	コ03
増渕麻里耶		29.7.10～7.19		
嶋原由美		29.7.10～7.22		
中山俊介		29.7.15～7.19		
マルティネス アレハンドロ	カンボジア	29.7.15～7.22	アンコール・タネイ寺院保存整備のための発掘及び危険箇所調査等	コ02
安倍雅史		29.7.15～7.31		
友田正彦		29.7.20～7.27		
山梨絵美子		29.7.20～7.24		一般管理費
久保田裕道 伊藤純	ネパール	29.7.19～7.24	ネパールの被災文化遺産保護に関する調査	受託 (文化庁 ネパール)
小野真由美	アメリカ	29.7.21～7.25	科研に関する作品調査	科研費
マルティネス アレハンドロ	ウクライナ ポーランド	29.7.25～8.5	ウクライナとポーランドの木造教会堂の保存、維持管理方法についての調査	先方負担 (筑波大学)
山村みどり	シンガポール	29.7.28～8.1	書籍『1989年以降日本の現代美術』の研究発表	科研費
中山俊介	台湾	29.8.7～8.12	ワークショップ「染織品の保存と修復」開催	コ05
小田桃子		29.8.7～8.18		
菊池理予		29.8.8～8.11		
五木田まきは 後藤里架		29.8.8～8.18		
加藤雅人		29.8.13～8.18		
菊池理予		29.8.14～8.18		
小林公治	中国	29.8.11～8.19	中国国内所在螺鈿漆器類の調査	科研費
森井順之	ネパール	29.8.13～8.19	組積造建造物の常時微動調査	科研費
亀井伸雄 友田正彦 マルティネス アレハンドロ	ブータン	29.8.18～8.27	版築造古民家建造物の調査	科研費
山田大樹	イラン	29.8.19～8.25	イランの歴史的都市及び集落の開発と保全に関する調査	科研費
江村知子	ポーランド	29.8.19～8.26	IFLA国際図書館連盟世界大会参加	シ06
中山俊介 北河大次郎 石田真弥 山府木碧	台湾	29.8.19～8.27	鉄構造物の保存と修理に関する調査	ホ06
石村智	ミクロネシア 連邦	29.8.20～8.28	スカイスケープ科研の調査	先方負担 (南山大学・科研費)
森井順之	中国	29.8.23～8.26	2017上海国際文化遺産シンポジウム	ホ04



氏 名	渡 航 先	期 間	目 的	経 費
小林公治	韓国	29.8.31～9.3	Lee & Won 財団主催第10回国際学術講演会講演及び関連行事参加	先方負担 (財団法人 Lee & Won)
早川典子	デンマーク	29.9.3～9.9	ICOM-CC における発表	科研費
間舎裕生	アルメニア	29.9.4～9.23	保存修復研修「染織芸術と保存—過去と現在を結ぶ」の開催	コ02
山梨絵美子		29.9.17～9.23		一般管理費
前原恵美	ドイツ	29.9.5～9.8	日独会議に出席するため	先方負担 (ベルリン日独センター)
山田大樹	ネパール	29.9.6～9.14	カトマンズ盆地内歴史的集落調査及び現地行政官との会議等	受託 (文化庁 ネパール)
橘川英規	ノルウェー	29.9.12～9.18	2017 EAJRS CONFERENCE への参加	所長裁量 (オスロ)
前川佳文	イタリア	29.9.13～9.29	壁画保存修復新技法開発に向けた現地調査	科研費
友田正彦	ミャンマー	29.9.17～9.25	バガンの被災文化遺産建造物の保存・修復に向けた現地調査 (構造モニタリング、技法調査、試料採取、材料実験打合せ等)	受託 (文化庁 ミャンマー)
アレハンドロマルティネス				
金善旭				
川野邊渉	イタリア	29.9.19～9.24	ICCROM 理事会出席のため	先方負担 (文化庁)
石村智	フィジー	29.9.23～10.3	IRCI が実施する現地調査への協力	先方負担 (IRCI)
山梨絵美子	台湾	29.10.5～10.9	国際シンポジウム「日本近代洋画の醸成と発展」に講師として参加するため	先方負担 (国立台北教育大学)
山田大樹	ロシア	29.10.10～10.17	歴史的都市の保全と開発に関する国際会議への参加・発表	科研費
北河大次郎	イギリス	29.10.11～10.21	英国における鉄構造物事例調査	ホ06
アレハンドロマルティネス	フランス	29.10.15～10.19	イコモス・リコンストラクション WG 打合せ	先方負担 (九州大学)
増渕麻里耶	韓国	29.10.16～10.19	冶金考古学国際会議 (BUMA-IX) への参加	科研費
小林公治	デンマーク スウェーデン イタリア UAE	29.10.16～10.27	各国内に所在する螺鈿ほかの調査	科研費
中山俊介	トルコ	29.10.25～11.1	カッパドキアにおける壁画保存管理に関する研修 現地視察他	コ03
安川政和		29.10.25～11.4	壁画保全管理状況調査と壁画保存のための研修の実施	受託 (文化庁 トルコ)
増渕麻里耶		29.10.26～11.4		
前川佳文	ネパール	29.10.29～11.10	ハヌマンドカ王宮内アガンチェン寺修復に向けた建造物調査ほか	受託 (文化庁 ネパール)
山田大樹		29.10.31～11.7		
友田正彦				
金善旭				
境野飛鳥	フランス	29.11.13～11.17	第21回世界遺産締約国会議への出席	コ01
二神葉子	イタリア フランス	29.11.13～11.19	文化財防災に関する聞き取り調査、第21回世界遺産締約国会議への出席	科研費/コ01
亀井伸雄	ドイツ	29.11.18～11.23	漆のワークショップに関する現地視察	所長裁量 (ケルン)
中山俊介				
間舎裕生	ネパール	29.11.20～11.26	ハヌマンドカ王宮内シヴァ寺出土遺物の整理作業	受託 (文化庁 ネパール)

氏 名	渡 航 先	期 間	目 的	経 費
金善旭	ミャンマー	29.11.25～11.29	バガンの被災文化遺産建造物の保存・修復に向けた現地調査（構造モニタリング、技法調査）	受託 （文化庁 ミャンマー）
友田正彦		29.11.25～11.30		
川野邊渉	イタリア	29.11.27～12.4	ICCROM 総会への出席	先方負担（文化庁）
境野飛鳥				コ01
西和彦		29.11.28～12.3		一般管理費
外間尹隆				
安倍雅史	カンボジア	29.11.27～12.11	タネイ寺院ほかアンコール遺跡群における調査	コ02
マルティネス アレハンドロ		29.11.28～12.7		
中山俊介		29.11.29～12.4		一般管理費
亀井伸雄				
中村恵		29.12.2～12.7		コ02
友田正彦				
石村智	韓国	29.12.3～12.10	ユネスコ無形文化遺産保護条約第12回政府間委員会に出席するため	ム05
前原恵美				
二神葉子				
山田大樹	イラン	29.12.5～12.12	日本イラン建築・都市会議に関する打合せ	科研費
中山俊介	ミャンマー	29.12.6～12.10	バガン漆芸術大学との協議、現地調査	コ03
早川典子				
倉島玲央				
マルティネス アレハンドロ	インド	29.12.8～12.17	イコモス総会への参加・発表	所長裁量 （イコモス）
友田正彦	カンボジア	29.12.12～12.16	アンコール遺跡保存国際調整委員会会合への出席	コ 02
安倍雅史	イラン	29.12.13～12.22	ホルマンガン遺跡出土石器資料と動物骨資料の分析	科研費
石村智	タイ	29.12.18～12.22	クメール遺跡の調査	科研費
前川佳文	エジプト	29.12.21～30.1.1	新王国時代岩窟墓内に描かれた壁画の保存修復事前調査及び壁画損傷個所の応急処置	科研費
山田大樹	ネパール	29.12.23～12.28	歴史的集落保全に関する自治体フォーラムへの出席及びアガンチェン寺周辺修復工事に関する打合せ等	受託 （文化庁 ネパール）
友田正彦		29.12.25～12.28		
森井順之	ネパール	29.12.24～12.28	歴史的建造物の地震計測	科研費
安倍雅史	バーレーン	30.1.6～1.31	ワーディー・アッ＝サイル古墳群の調査発掘	科研費
間舎裕生		30.1.24～2.12		
二神葉子	モンゴル	30.1.7～1.10	世界遺産範囲拡張に関する情報交換	科研費
石村智	台湾	30.1.7～1.10	シンポジウム参加	先方負担 （台湾中央研究院）
嶋原由美	ミャンマー	30.1.23～2.3	ミャンマー・バガン寺院壁画の保護に係る現地調査	コ03
前川佳文		30.1.23～2.13		
石村智	フィリピン	30.1.24～2.1	IRCI による現地調査	先方負担（IRCI）
マルティネス アレハンドロ	フランス	30.1.28～2.1	イコモス リンクストラクションワークショップへの参加	先方負担 （九州大学）
山田大樹	ネパール	30.1.31～2.8	ハヌマンドカ王宮内被災文化遺産建造物の修復に向けた調査（建造物調査）	受託 （文化庁 ネパール）

氏 名	渡 航 先	期 間	目 的	経 費
加藤雅人	メキシコ	30.2.6～2.9	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」に係る会議	コ05
五木田まきは				
元喜載				
マルティネス アレハンドロ	ミャンマー	30.2.8～2.12	バガンの被災文化遺産建造物の保存・修復に向けた現地調査（構造モニタリング、技法調査）	受託 （文化庁 ミャンマー）
塩谷純	イギリス	30.2.13～2.17	日本の文化財研究に関する外国語文献入力進捗状況とこれを反映した東京文化財研究所の総合検索における運用評価に関する協議会ならびに講演	シ01
安永拓世				
小山田智寛				
久保田裕道	ネパール	30.2.13～2.20	カトマンズ盆地内歴史的集落調査及び現地行政官との会議	受託 （文化庁 ネパール）
伊藤純				
橘川英規	アメリカ	30.2.19～2.25	UCLA ヨシダヨシエアーカイブ調査、担当者等との研究協議ほか	シ03
前川佳文	イタリア エジプト	30.2.24～3.13	壁画保存修復新技法開発に向けた現地調査	科研費／先方負担 （デカン大学）
友田正彦	ネパール	30.2.24～2.28	ハヌマンドカ王宮内アガンチェン寺修復方針協議会への出席及び建造物調査	受託 （文化庁 ネパール）
江村知子	アメリカ	30.2.25～3.5	ARLIS/NA 参加、作品調査	科研費
北河大次郎	台湾	30.3.1～3.4	台湾に所在する近代の産業遺産の保存と活用に関する調査	先方負担 （京都女子大）
牧野真理子	レバノン	30.3.2～3.10	シリア人文化財関係者研修事業「シルクロードが結ぶ友情プロジェクト」への協力	先方負担 （奈良県立橿原考古学研究所）
安倍雅史	カンボジア インド	30.3.7～3.19	タネイ遺跡における発掘調査及び南アジア考古学会国際会議への参加	コ02／先方負担
友田正彦	ブータン	30.3.8～3.15	伝統民家保存に関するワークショップの開催ほか	コ02
マルティネス アレハンドロ				
亀井伸雄		30.3.11～3.15		
小田切真梨	イギリス	30.3.12～3.15	国際研修開催協力に係る会議	一般管理費
加藤雅人				コ05
江村知子	アメリカ	30.3.12～3.16	作品調査及び研究情報収集	科研費
間舎裕生	カンボジア	30.3.12～3.23	タネイ遺跡における発掘調査及び測量作業	コ02
元喜載	ドイツ	30.3.24～3.28	作品調査及び会議	コ04
小田桃子				
加藤雅人		30.3.25～3.28		
山田大樹	ネパール	30.3.24～3.30	ハヌマンドカ王宮内アガンチェン寺周辺建築群の歴史的変遷に関する調査	コ02

平成29年度における国外から国外への派遣申請については下記のとおりである。

派遣期間	氏名	所属	用務地	経費
------	----	----	-----	----

派遣理由：壁画の保存状態・保管理に関する現地調査

29.6.17～6.23	Alberto Felici	フィレンツェ国立修復研究所	カッパドキア	受託（文化 庁 トルコ）
	Stefania Franceshini	Restauro S.F	トラブゾン・カッ パドキア	
	Daniela Maria Murphy	Associazione Bastioni		
	Fabrizio Bandini	フィレンツェ国立修復研究所		
	Guido Botticelli			

派遣理由：“Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk”の講師

29.7.4～7.8	楠京子	The British Museum Department of Conservation Eastern Art on Paper and Silk	ベルリン国立博物館アジア美術館	コ05
------------	-----	---	-----------------	-----

派遣理由：ミャンマー・バガン寺院壁画の保護に係る現地調査

29.7.9～7.31	Daniele Angellotto	フィレンツェ国立修復研究所	バガン考古遺跡群	コ03 助成金 （前川：バガン遺跡群）
29.7.16～7.31	Denis Zanetti	有限会社メッサドリンジェニエリア		
29.7.21～7.31	Daniela Maria Murphy	Associazione Bastioni		
29.7.23～7.31	Maria Letiz Amadori	ウルビーノ大学		

派遣理由：壁画保全状況調査と壁画保存のための研修での講義

29.10.26～11.3	Fabrizio Bandini	フィレンツェ国立修復研究所	ネヴシェヒル	受託（文化庁 トルコ）
	Guido Botticelli			
	Daniela Maria Murphy	Associazione Bastioni		
	Stefania Franceschini	Restauro S.F		
	Alberto Felici	フィレンツェ国立修復研究所		
29.10.27～10.31	Cagdas Celik	日本語—トルコ語通訳		

派遣理由：各国内に所在する螺鈿ほかの調査

29.10.18～10.26	小山真由美	ボローニャ大学極東美術研究所	グリッブスホルム城他	科研費
----------------	-------	----------------	------------	-----

派遣理由：ミャンマー・バガン寺院壁画の保護に係る現地調査

30.1.22～2.13	Daniela Maria Murphy	Associazione Bastioni	バガン考古支局、バガン考古遺跡	助成金 （前川：バガン遺跡群）
	Stefania Franceschini	Restauro S.F		
	Daniele Angellotto	フィレンツェ国立修復研究所		
30.2.3～2.13	Denis Zanetti	有限会社メッサドリンジェニエリア	バガン考古遺跡	コ03
	Chiara Piani	パラッツォ・スピネッリ芸術修復学院		

## 2. 招へい研究員等

平成29年度における海外からの招へいについては、下記のとおりである。

派遣期間	氏名	国籍	所属	経費
------	----	----	----	----

招へい理由：「イラン文化遺産セミナー」での講演

29.4.1～4.2	Mohammad Hassan Talebian	イラン	イラン文化遺産手工芸観光庁 次官	コ02
	Seyed Mohammad Beheshti		イラン文化遺産観光研究所 所長	

招へい理由：国際研修「紙の保存と修復」への参加

29.8.26～9.16	Rocio María Boffo	アルゼンチン	国立東洋美術館 館長	コ05
29.8.27～9.16	Barbora Bartyzalová	チェコ	プラハ国立美術館 保存修復技術者	
	R. William Bennett III	アメリカ	スミソニアン協会文書館 保存修復専門技術者	
	Anne Rosette Crelencia	フィリピン	フィリピン国立図書館 司書	
	Iveta Daugule-Balode	ラトビア	ラトビア国立図書館 コレクション保存修復 センター長	
	Jacki Elgar	アメリカ	ボストン美術館 パメラ アンド ピーター ヴォス アジア美術修復室長	
	Zoitsa Gkinni	ギリシャ	ギリシャ国立図書館 本および紙保存修復技術者	
	Prue Alison Mckay	オーストラリア	オーストラリア国立公文書館 上級保存修復技術者	
	Tsui Wai-shan	中国	香港特別行政区レジャー文化サービス事務署 文物修復事務所 絵画(保存修復)学芸員補佐	
29.8.27～9.17	Timna Elper	イスラエル	イスラエル国立図書館 保存修復部長	

招へい理由：西洋武器の専門家による実見調査及び研究会参加のため

29.9.16～9.23	Pierre Tarjanian	アメリカ	メトロポリタン美術館武器武具部門長	シ04
--------------	------------------	------	-------------------	-----

招へい理由：国際シンポジウム「東南アジアの歴史的都市のまちづくり」への参加

29.10.5～10.9	Liang Chow Ming (Clement)	マレーシア	ペナン・ヘリテージ・トラスト 評議員	受託(文化庁 コンソーシアム)
	Moe Moe Lwin	ミャンマー	ヤンゴン・ヘリテージ・トラスト 所長・副会長	
	Maw Lin	ミャンマー	リビングデザインアーキテクツアンドプラン ナーズ 主席建築士	
	Nguyen Su	ベトナム	元ホイアン市人民委員長〈市長〉	
29.10.6～10.9	Johannes Widodo	シンガポール	シンガポール国立大学 准教授	
	Eric Babar Zerrudo	フィリピン	聖トマス大学 熱帯の文化財及び自然環境保 護センター 所長	



派遣期間	氏名	国籍	所属	経費
招へい理由：セミナー「博物館収蔵品に影響を与える空気汚染と博物館の環境管理」での講演				
29.10.29～11.5	Parastou Naeimi Taraei	イラン	イラン文化遺産観光研究所 研究員	コ02
	Maryam Ahmadi		イラン国立博物館 研究員	
招へい理由：評価セミナー 2017：ワークショップ「漆工芸品の保存と修復」への参加				
29.11.6～11.10	Christina Hagelskamp	アメリカ	メトロポリタン美術館 准修復技術者	コ05
	Magdalena Kozar	ドイツ	ドレスデン陶磁器コレクション 美術品修復技術者	
	Delphine Mesmaeker	ベルギー	王立美術歴史博物館 保存修復科学助手	
	Andreas Sampatakis	ギリシア	アテネ応用科学大学 教職員・講師	
招へい理由：著名外国人招へいによる日本美術の発信をテーマとした調査研究事業				
29.12.4～12.10	Kathleen Salomon	アメリカ	ゲッティ研究所 副所長	受託(文化庁・著名外国人招へい)
招へい理由：第12回無形民俗文化財研究協議会での発表・パネルディスカッション参加				
29.12.16～12.19	朴原模	韓国	ユネスコアジア太平洋無形文化遺産国際情報・ネットワークセンター 知識出版チームおよび電子情報管理チーム長	△02
招へい理由：東南アジア古代都市・建築研究会」での講演				
30.1.17～1.23	Bob Hudson	オーストラリア	シドニー大学アジア学部 特任研究員	コ02
30.1.18～1.26	Jacques Gaucher	フランス (在カンボジア)	フランス極東学院アンコールトム考古調査隊 隊長	
招へい理由：二神科研「空間情報データベースによる文化財の災害被害予測の高度化及び防災計画策定への応用」の研究遂行のための情報交換				
30.1.28～2.2	Camillo Nuti	イタリア	ローマ第三大学建築学部 構造工学教授	科研費

### 3. 海外研究者等の来訪

#### (1) 来訪研究員

来訪期間	氏名	国籍	所属	備考
28.7.9～29.8.25	山村みどり	アメリカ	フォーダム大学	平成28年度日本学術振興会外国人研究者招へい事業外国人特別研究員(推薦)

#### (2) 表敬訪問ほか

日程	来訪者	国籍	所属等	目的
29.4.12	H.H Prince Sultan Bin Fahad al-Saud	サウジアラビア	サウジアラビア王国王子	表敬訪問、施設見学
	Ali Ibrahim al Ghabban		サウジアラビア国家遺産観光庁副長官	
29.9.26	Vasant Shinde	インド	デカン大学学長	施設見学、講演

日 程	来 訪 者	国籍	所 属 等	目 的
29.9.27	Hamrokhon Zarifi	タジキスタン	駐日タジキスタン共和国特命全権大使	表敬訪問、施設見学
	Aziz Nazarov		駐日タジキスタン共和国大使館 2 等書記官	
29.10.30	Parastou Naeimi Taraei	イラン	イラン文化遺産観光研究所 研究員	表敬訪問、施設見学
	Maryam Ahmadi		イラン国立博物館 研究員	
30.2.6	Naeimi Taraei Parastou	イラン	イラン文化遺産観光研究所 研究員	施設見学
	Dadashzadeh Mehrabani Maral		イラン国立博物館学芸員	
	Zandivaneshani Esmat		イラン国立博物館学芸員	
	Mardfekri Rastekenari Mahnaz		イラン国立博物館学芸員	
30.3.7	Fereiydoun Allahyari	イラン	文化遺産手工芸観光庁エスファハーン州支部長	表敬訪問、施設見学
	Fariba Khatabakhsh		エスファハーン州エマーム広場サイトマネージャー	

## 4. 主要来訪者、施設見学

日 程	来訪者及び視察者等	備 考
29.4.12	サウジアラビア人専門家 6 名	施設見学
29.7.11	京都府議会 12 名	施設見学
29.9.1	ICCROM 国際研修「紙の保存と修復」研修生 10 名 通訳 1 名	研修・施設見学
29.9.13	鮎川村文化財保護審議会 4 名	施設見学
29.9.26	インド デカン大学 6 名	施設見学
29.9.27	タジキスタン大使館 3 名	施設見学
29.10.30	イラン文化遺産観光研究所 イラン国立博物館 2 名	施設見学
29.11.1	九州大学大学院人文科学研究院 13 名	施設見学
29.11.7	韓国伝統文化大学校 文化財修復技術学科 9 名	施設見学
29.11.20	日中経済文化振興機構 4 名	施設見学
29.11.22	サウジアラビア観光国家遺産委員会 3 名	施設見学
30.2.5	一般社団法人デジタル情報記録管理協会 24 名	施設見学
30.2.5	香蘭女学校中等科高等科 3 名 引率教員 1 名	施設見学
30.2.6	イラン人専門家 4 名 帝京大学文化財研究所 3 名	施設見学
30.2.9	公益財団法人文化財建造物保存技術協会 11 名	施設見学
30.2.21	独立行政法人国立高等専門学校機構 都城工業高等専門学校、(株) MUSI サイエンス 2 名	施設見学
30.3.2	エジプト博物館 2 名	施設見学
30.3.7	イラン文化遺産・手工芸・観光庁 2 名	施設見学
30.3.14	国立アイヌ民族博物館設立準備室 3 名	施設見学



## 6. 資料

1. 主な所蔵資料 .....	167
1. 図書資料 .....	167
2. その他 .....	168
2. 研究所関係資料 .....	169
1. 設立の経緯 .....	169
2. 年代別重要事項 .....	169
3. 歴代所長（昭和5年～平成28年度） .....	172
4. 名誉研究員 .....	173
5. 平成29年度予算等 .....	174
3. 東京文化財研究所関係事業索引 .....	179





# 1. 主な所蔵資料

## 1. 図書資料

### (1) 美術関係図書

日本・東洋・欧米の美術に関するものを中心に、各地方公共団体刊行の文化財関係調査報告書、展覧会の図録・目録類、売立目録など欧文あわせて約 155,418 冊の図書に加え、和文 5,471 種、韓文 51 種、中文 152 種、欧文 507 種におよぶ美術関係雑誌約 162,609 冊を所蔵している。

その他江戸期の写本版本をはじめ、明治大正期刊行の大型美術図録や美術雑誌、また明治から昭和初期に開催された各種博覧会展覧会資料など、多くの貴重書を所蔵している。

### (2) 無形文化遺産関係図書

古典芸能・民俗芸能・寺事・伝統的な技術、その他我が国の無形文化遺産の研究に必要な図書 17,621 冊を所蔵している。そのなかには、雅楽画報・演芸画報・歌舞伎新報・歌舞伎（第 1 次）・テアトロ（第 1 次）・新劇・上方・民俗芸能・日本民俗・芸能復興・郷土研究・旅と伝説など現在では入手しにくい雑誌、国立劇場ほかで行われる芸能公演の上演資料や声明本・謡本・囃子手付本・丸本などの台本・譜本など、多くの貴重書を含んでいる。本年度は 207 冊を登録し、現在進行中である。

### (3) 保存科学・修復技術関係図書

伝統的生産・工芸技術・技術史に係る研究書、化学・物理学・生物学部門の保存科学関連図書、文化財修理工事報告書等を計約 9,500 冊、歴史的な航空関連雑誌を約 20,000 冊所蔵している。

### (4) 日本国外の文化遺産関係図書

国際資料室では、外国の文化財や文化財保存、文化財保存国際協力や文化財保護制度に関する国内外の図書資料を約 12,000 点所蔵する。また、文化財保護関連機関のパンフレットなど図書以外の文献資料の収集、さらに国内外の文化財保護関連法令資料の収集を実施している。2016（平成 28）年 1 月の施設改修に伴い、国際資料室蔵書は資料閲覧室書庫に移動した。

平成29年度における収集数（韓文・中文図書は、和漢書として計上）

区 分	美術関係	無形文化遺産 関係	保存修復関係	日本国外の 文化遺産関係	計
和漢書	3,066 冊	206 冊	25 冊	85 冊	3,382 冊
洋 書	121 冊	1 冊	6 冊	15 冊	143 冊
合 計	3,187 冊	207 冊	31 冊	100 冊	3,525 冊

## 2. その他

### (1) 美術関係資料

文化財情報資料部が管理している写真資料は、絵画・彫刻・工芸・建築等の台紙貼写真、売立目録カードなど総数約 26 万点である。写真原板は、モノクロ 4×5 フィルム約 49,740 点、カラー 4×5 フィルム約 8,980 点、半切ほかガラス乾板約 21,000 点をはじめとして、各種サイズのモノクロフィルム約 3,450 点、X線フィルム・赤外線フィルム約 3,300 点などを所蔵している。また、当研究所旧職員梅津次郎、秋山光和、田中一松、久野健各氏寄贈研究資料の公開に向けた整理のほか、鈴木敬氏旧蔵写真資料の整理を行っている。このほか、拓本類、作家伝記資料、落款印章資料、近現代作家・団体・画廊・作品資料、資料スクラップ等と図版カード、各種索引類などを管理している。

### (2) 無形文化遺産関係資料

無形文化遺産部では、雅楽・能・歌舞伎・邦楽・寺院行事・民俗芸能その他の伝統芸能の技法を、録音・録画、写真撮影等の形で記録することを重要な業務としてきた。これまでに、現地での実況や所内舞台での演奏を記録したオープンリールテープ約 2,300 点、ビデオ 1,191 点、スチール写真は関連する文書の記録写真等も含め約 19 万点、CD はオープンリールテープをデジタル化した物を中心に 1,976 点、DVD 3,829 点、BD 740 点を作成してきた。本年度は、DVD 36 点、BD 33 点を登録した。加えて Hi8 のデジタル化にも着手し、DVD 16 点を作成した。また、市販された伝統芸能関係の資料の収集も進めている。ことに、1960（昭和 35）年度文部省機関研究費によって購入した安原コレクションは、明治・大正・昭和 3 代にわたって発売された各種邦楽の SP レコードを網羅した約 6,000 枚の一大コレクションで、近代における邦楽の実態と変遷を知る上で貴重な資料である。レコードの収集枚数は現在約 7,300 枚に及んでいる。その他これまでに、市販のビデオ 530 点、CD 1,874 点、DVD 1,354 点を収集してきた。うち本年度は、市販の CD 25 点、DVD 76 点、BD 4 件を登録した。なお SP レコードコレクションの詳細は『音盤目録Ⅰ～Ⅴ』（東京国立文化財研究所刊 1966～1996）で公表している。

### (3) 保存科学・修復技術関係資料

保存科学・修復技術関係資料：保存科学研究センターでは、考古遺物や美術工芸品など、諸部門の文化財を撮影した X 線フィルムを多数所蔵する。X 線透過撮影は昭和 20 年代から力を注いで行っており、近年それらのデータをデジタル化し、整理する作業を進めている。

### (4) 国際関係資料

文化遺産国際協力センターでは、日本の文化財保護に関する国際協力の分野で活躍した専門家の資料を受け入れている。関野克氏旧所蔵資料には、国際機関での会議や個別の文化遺産保存に関わる記録が含まれている。特に UNESCO の条約や勧告に関わる資料には、草案や日本政府の意見書なども含まれ、その成立の経緯や日本政府の関与なども知ることができる。また、千原大五郎氏旧蔵資料には、ボロブドゥール修復事業関連の会議録、書簡類、修復案、図面、オランダ統治時代の研究書や、その他の東南アジア諸国の遺跡に関する文献や図面、写真も数多く含まれる。さらに、野口英雄氏が収集した、文化財の危機管理やユネスコ日本信託基金による保存修復事業などに関する資料を受け入れている。

## 2. 研究所関係資料

### 1. 設立の経緯

東京文化財研究所は、2001（平成13）年4月1日に東京国立文化財研究所が独立行政法人化され独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となった。その前身である東京国立文化財研究所は、1952（昭和27）年4月1日に発足し、その母体となったものは、1930（昭和5）年に創設された政府機関の帝国美術院附属美術研究所である。

この美術研究所は、1924（大正13）年7月、帝国美術院長子爵故黒田清輝の遺言により美術奨励事業のために寄附出捐した資金で遺言執行人が選択決定した事業である。すなわち遺言執行人代表伯爵樺山愛輔は、故子爵の遺志にしたがってこの資金で行うべき事業の選択を伯爵牧野伸顕に一任した。牧野伯爵は帝国美術院長福原鐸二郎及び東京美術学校長正木直彦とはかつて諸方面の意見を徴し、またわが国美術研究の必要に照らして次の事業を行うこととした。

- (1) 美術に関する基礎的調査研究機関として美術研究所を設けること。
- (2) 黒田子爵の作品を陳列して同子爵の功績を記念すること。
- (3) 前二項の目的を達するために適当な建物を造営すること。
- (4) 事業成立の上は一切これを政府に寄附すること。

### 2. 年代別重要事項

期 日	事 項
昭和元年12月25日	前記の事業を遂行するため委員会が組織され、東京美術学校長正木直彦が委員長に就任し、美術研究所事業については東京美術学校教授矢代幸雄、黒田子爵作品陳列については東京美術学校教授久米桂一郎・同岡田三郎助・同和田英作・同藤島武二及び大給近清、建物造営については東京美術学校教授岡田信一郎、会計事務については遺言執行人打田伝吉を各委員として事務を分掌進行させた。
昭和2年 2月 1日 同年10月28日	美術研究所準備事業を開始した。 東京市上野公園内に鉄筋コンクリート造、半地階2階建、延面積1,192㎡の建物1棟を起工した（本館）。
昭和3年 9月	前記の建物が竣工したので、黒田記念館と名付け、美術研究所開設のため必要な備品・図書・写真等の研究資料を設備し、また館内に黒田子爵記念室を設け、黒田清輝の作品を陳列した。
昭和4年 5月29日	遺言執行人代表者樺山愛輔は、建物・設備・研究資料等一切の外に金15万円をそえて帝国美術院長に寄附を願い出た。
昭和5年 6月28日 同年10月17日	勅令第125号により帝国美術院に附属美術研究所が置かれ、東京美術学校長正木直彦が同研究所の主事に補せられた。 美術研究所開所式を挙行了た。
昭和7年 1月 1日 同年 4月18日 同年 5月26日	美術研究所の研究成果発表機関誌として、定期刊行物『美術研究』を創刊した。 株式会社朝日新聞社より明治大正美術史編纂費として本年から向う5か年間毎年5千円、合計2万5千円を帝国美術院に寄附したいとの申出があった。 帝国美術院はこの申出を受理した。 明治大正美術史編纂委員会規程を設け、美術研究所は明治大正美術史の編纂に関する事務を行うことになった。
昭和9年10月18日	毎年10月18日を開所記念日と定めた。
昭和10年 1月28日 同年 4月 同年 6月 1日	鉄筋コンクリート造、2階建、延面積129㎡の書庫が竣工した。 『日本美術年鑑』の編纂事務を開始した。 勅令第148号により美術研究所官制が公布された。

期 日	事 項
昭和10年 6月 1日	研究資料閲覧規程を制定し、閲覧事務を開始した。
昭和12年 6月24日	勅令第 281 号により美術研究所官制中改正の件が公布され、従来、帝国美術院に附置されていたのを文部大臣の直轄に改められた。
同年11月29日	美術研究所長職務規程、美術研究所事務分掌規程が制定された。
昭和13年 2月12日	木造、平屋建、延面積 97㎡の写真室 1 棟が竣工した。
昭和19年 8月10日	黒田清輝の作品、並びに写真原版を東京都西多摩郡小宮村谷間家倉庫に疎開した。
昭和20年 5月28日	美術研究所の図書・諸資料全部を山形県酒田市本町 1 丁目本間家倉庫 3 棟に疎開した。
同年 7～8月	酒田市本間家倉庫に疎開した図書資料を爆撃の危険を避けるため、さらに酒田市外牧曾根村松沢世喜雄家倉庫・観音寺村村上家倉庫・大沢村後藤作之丞家倉庫にそれぞれ分散疎開した。
昭和21年 3月29日	酒田市疎開中の図書・諸資料等の東京向け発送を終了した。
同年 4月 4日	酒田市疎開中の図書・諸資料等が東京に到着し、引揚げを完了した。
同年 4月16日	東京都西多摩郡に疎開中の黒田清輝作品並びに写真原版の引揚げを完了した。
昭和22年 5月 3日	美術研究所官制が廃止され、国立博物館官制が制定された。美術研究所は同館の附属美術研究所となった。 国立博物館に保存修理課発足。同課内に保存技術研究室を置いた（保存科学部の前身）。昭和 23 年度より専任の職員を配置し、研究を開始した。研究室は国立博物館本館地下の修理室の一室（66㎡）に設けた。
昭和25年 8月29日	文化財保護法の制定にともない、美術研究所は文化財保護委員会の附属機関となった。 文化財保護委員会事務局設置にともない、保存科学研究室は国立博物館保存修理課から文化財保護委員会事務局保存部建造物課に所属換えとなった。
昭和26年 1月31日	美術研究所組織規程が定められ、第一研究部・第二研究部・資料部・庶務室が置かれた。
昭和27年 4月 1日	文化財保護法の一部が改正、東京文化財研究所組織規程が定められ、美術部・芸能部・保存科学部・庶務室の 3 部 1 室が置かれ、美術研究所組織規程が廃止された。 また文化財保護委員会事務局保存部建造物課保存科学研究室も廃止された。
同年 7月 1日	芸能部研究室として東京藝術大学音楽学部邦楽科教室 2 室を同大学から借用し、研究を開始した。
昭和28年 4月26日	保存科学部研究室として、東京国立博物館構内の倉庫 132㎡を改造のうえ移転した。
昭和29年 7月 1日	東京文化財研究所組織規程の一部が改正され、東京国立文化財研究所となった。
昭和32年 3月22日	東京国立博物館構内に木造、外部鉄網モルタル塗、平屋建、8 ㎡の保存科学部の薬品庫が竣工した。
同年11月30日	従来の 2 階建書庫の上にさらに 1 階を増築 3 階建とし、増築分延面積 71㎡が竣工した。
昭和34年 4月30日	東京国立文化財研究所研究受託規程が定められ、この年度から受託研究が開始された。
昭和36年 9月16日	東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、従来の庶務室は庶務課となった。
昭和37年 3月31日	東京国立博物館内に保存科学部庁舎（保存科学部実験室）として、鉄筋コンクリート造、2 階建、延面積 663㎡の建物 1 棟が竣工した。
同年 7月 1日	東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、新たに保存科学部に修理技術研究室が置かれた。
同年 7月20日	芸能部研究室は、保存科学部庁舎の竣工にともない、旧保存科学部庁舎に移転した。
昭和43年 6月15日	文部省設置法の一部が改正され、本研究所は文化庁附属機関となった。
昭和44年 8月23日	保存科学部庁舎に隣接して新営される別館庁舎（延 1,950.41㎡）の起工式が行われた。
昭和45年 3月25日	前記の別館が竣工したので、同年 5 月 26 日竣工式が行われた。芸能部は、別館 3 階に移転した。
同年 5月 8日	保存科学部は別館の地階～ 2 階に実験用機械類の移転据付を完了した。
同年 6月29日	保存科学部庁舎の 1 階の模様替工事に着手し、同年 10 月 15 日工事が完了した。
同年11月 2日	所長及び庶務課は、本館から保存科学部庁舎の 1 階に移転した（本館は、美術部庁舎となる）。これにより研究所の所在地表示は「12 番 53 号」から「13 番 27 号」に変更された。
昭和46年 4月 1日	保存科学部庁舎及び別館の敷地 2,658㎡を東京国立博物館から所管換えされた。

期 日	事 項
昭和48年 4月12日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部が設けられ4部1課となり、修復技術部に第一修復技術研究室及び第二修復技術研究室が置かれ、保存科学部修理技術研究室は廃止された。
昭和52年 4月18日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、情報資料部の新設により5部1課となり、情報資料部に文献資料研究室及び写真資料研究室が置かれ、美術部資料室は廃止された。
昭和53年 3月20日	本館構内の写場等（木造、平屋建、延面積 144㎡）を取りこわし、情報資料部研究棟として、鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階、延面積 569.95㎡の建物が竣工した。
同年 4月 5日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部に第三修復技術研究室が置かれた。
昭和59年 6月28日	文部省組織令が改正され、本研究所は文化庁施設等機関となった。
平成 2年10月 1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、新たにアジア文化財保存研究室が置かれ、5部1室1課となった。
平成 5年 4月 1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、アジア文化財保存研究室は、国際文化財保存修復協力室となった。
平成 7年 4月 1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力室が廃止され、新たに国際文化財保存修復協力センターが設置された。同センターには、企画室及び環境解析研究指導室が置かれ、1センター5部1課となった。 東京藝術大学と「東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻の教育研究に対する連携・協力に関する協定書」が交わされ、連携併任分野として独立専攻大学院文化財保存学専攻（システム保存学）が設置された。
平成 9年10月 1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力センターに保存計画研究指導室が置かれた。
平成12年 2月 4日	新宮庁舎として、鉄筋コンクリート造、地上4階地下1階、延面積 10,557.99㎡（建築面積 2,258.48㎡）が竣工した。
同年 2月21日	新宮庁舎の竣工にともない、別館（庶務課・芸能部・保存科学部・修復技術部・国際文化財保存修復協力センター）部分の移転が開始された。
同年 3月 6日	新宮庁舎の竣工にともない、本館（美術部・情報資料部）の移転が開始された。
同年 3月22日	建設省関東地方建設局宮繕部より、新宮庁舎の外構工事、植栽等の引き渡しを受け、新宮庁舎関係の工事が完了した。
同年 5月11日	新宮庁舎の竣工を記念し、開所記念式典を挙行了した。 この式典の挙行に際し、毎年5月11日を開所記念日と定めた。
平成13年 3月29日	黒田記念館改修工事が竣工し、展示スペースが黒田記念室及び展示室の2室になった。
同年 4月 1日	東京国立文化財研究所は、奈良国立文化財研究所と統合され、独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となった。 この独立行政法人化にともない、東京文化財研究所は、管理部、協力調整官一情報調整室、美術部、芸能部、保存科学部、修復技術部、国際文化財保存修復協力センターの1センター5部1協力調整官一情報調整室となった。
平成15年 9月19日	黒田記念館にエレベーターを設置し、門扉、外構の改修工事を行った。
平成18年 4月 1日	文化財研究所組織規程の一部が改正されて、協力調整官一情報調整室は企画情報部に、芸能部は無形文化遺産部に、国際文化財保存修復協力センターは文化遺産国際協力センターとなった。
平成19年 4月 1日	独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所は、独立行政法人文化財研究所と独立行政法人国立博物館との統合により、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所となり、黒田記念館は、東京国立博物館に移管された。 この統合にともない、東京文化財研究所は、美術部を企画情報部に、保存科学部と修復技術部は保存修復科学センターに統合し、3部2センターとなった。
平成22年 4月 1日	国立文化財機構組織規程等の一部が改正されて、管理部は研究支援推進部となった。
平成28年 4月 1日	国立文化財機構組織規程等の一部が改正されて、企画情報部は文化財情報資料部に、保存修復科学センターは保存科学研究センターとなった。



### 3. 歴代所長（昭和5年～平成29年度）

役 職	氏 名	期 間
主 事	正木直彦	昭和 5. 6.28～昭和 6.11.24
主 事	矢代幸雄	昭和 6.11.25～昭和 10. 5.31
所長事務取扱	和田英作	昭和 10. 6. 1～昭和 11. 6.21
所 長	矢代幸雄	昭和 11. 6.22～昭和 17. 6.28
所長事務取扱	田中豊蔵	昭和 17. 6.29～昭和 22. 8.15
所 長	田中豊蔵	昭和 22. 8.16～昭和 23. 5.10
所 長 代 理	福山敏男	昭和 23. 5.11～昭和 24. 8.30
所 長	松本栄一	昭和 24. 8.31～昭和 27. 3.31
所長事務代理	矢代幸雄	昭和 27. 4. 1～昭和 28.10.31
所 長	田中一松	昭和 28.11. 1～昭和 40. 3.31
所 長	関野 克	昭和 40. 4. 1～昭和 53. 4. 1
所 長	伊藤延男	昭和 53. 4. 1～昭和 62. 3.31
所 長	濱田 隆	昭和 62. 4. 1～平成 3. 3.31
所 長	西川杏太郎	平成 3. 4. 1～平成 8. 3.31
所 長	渡邊明義	平成 8. 4. 1～平成 13. 3.31
(独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所に移行)		
所 長	渡邊明義	平成 13. 4. 1～平成 16. 3.31
所 長	鈴木規夫	平成 16. 4. 1～平成 19. 3.31
(独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所に移行)		
所 長	鈴木規夫	平成 19. 4. 1～平成 22. 3.31
所 長	亀井伸雄	平成 22. 4. 1～現在

## 4. 名誉研究員

氏 名	退 職 時 官 職 名	在 所 期 間	名誉研究員 発令年月日
江上 綏	情報資料部主任研究官	昭和 38. 5. 18～昭和 59. 3. 31	昭和 59. 10. 18
猪川和子	情報資料部文献資料研究室長	昭和 22. 6. 27～昭和 60. 3. 31	昭和 60. 10. 18
三隅治雄	芸能部長	昭和 27. 10. 1～昭和 63. 3. 31	昭和 63. 10. 18
濱田 隆	所長	昭和 62. 4. 1～平成 3. 3. 31	平成 3. 10. 18
関口正之	美術部長	昭和 42. 2. 1～平成 3. 3. 31	平成 3. 10. 18
佐藤道子	芸能部長	昭和 34. 4. 1～平成 4. 3. 31	平成 4. 10. 18
馬淵久夫	保存科学部長	昭和 50. 10. 1～平成 4. 3. 31	平成 4. 10. 18
新井英夫	保存科学部長	昭和 45. 9. 1～平成 5. 3. 31	平成 5. 4. 1
西川杏太郎	所長	平成 3. 4. 1～平成 8. 3. 31	平成 8. 4. 1
三輪英夫	美術部第二研究室長	昭和 53. 8. 1～平成 8. 3. 31	平成 8. 4. 1
蒲生郷昭	芸能部長	昭和 56. 4. 1～平成 10. 3. 31	平成 10. 4. 1
中里壽克	修復技術部第一修復技術研究室長	昭和 39. 4. 1～平成 10. 3. 31	平成 10. 4. 1
宮本長二郎	国際文化財保存修復協力センター長	平成 6. 4. 1～平成 11. 3. 31	平成 11. 4. 1
羽田 昶	芸能部音楽舞踊研究室長	昭和 51. 4. 1～平成 12. 3. 31	平成 12. 4. 1
中村茂子	芸能部民俗芸能研究室長	昭和 39. 7. 1～平成 13. 3. 31	平成 13. 4. 1
増田勝彦	修復技術部長	昭和 48. 8. 1～平成 13. 3. 31	平成 13. 4. 1
米倉迪夫	情報資料部長	昭和 50. 9. 1～平成 13. 3. 31	平成 13. 4. 1
星野 紘	芸能部長	平成 10. 4. 1～平成 14. 3. 31	平成 14. 4. 1
平尾良光	保存科学部化学研究室長	昭和 62. 4. 1～平成 15. 3. 31	平成 15. 4. 1
井手誠之輔	協力調整官一情報調整室長	昭和 62. 7. 1～平成 16. 3. 29	平成 16. 3. 30
斎藤英俊	国際文化財保存修復協力センター長	平成 11. 4. 1～平成 16. 3. 30	平成 16. 3. 31
西浦忠輝	保存科学部長	昭和 50. 7. 1～平成 16. 3. 31	平成 16. 4. 1
鈴木廣之	美術部日本東洋美術研究室長	昭和 54. 9. 1～平成 17. 11. 30	平成 17. 12. 1
青木繁夫	文化遺産国際協力センター長	昭和 49. 7. 1～平成 19. 3. 31	平成 19. 3. 31
三浦定俊	副所長	昭和 48. 8. 1～平成 20. 3. 31	平成 20. 4. 1
鎌倉恵子	無形文化遺産部無形文化財研究室長	昭和 63. 4. 1～平成 20. 3. 31	平成 20. 4. 1
鈴木規夫	所長	平成 16. 4. 1～平成 22. 3. 31	平成 22. 4. 1
中野照男	副所長	平成 4. 4. 1～平成 23. 3. 31	平成 23. 4. 1
清水真一	文化遺産国際協力センター長	平成 19. 4. 1～平成 23. 3. 31	平成 23. 4. 1
石崎武志	副所長	平成 8. 12. 1～平成 26. 9. 30	平成 26. 10. 1
田中 淳	副所長	平成 6. 11. 1～平成 28. 3. 31	平成 28. 4. 1
川野邊涉	文化遺産国際協力センター長	昭和 63. 10. 1～平成 28. 3. 31	平成 28. 4. 1
岡田 健	保存科学研究センター長	平成 4. 4. 1～平成 29. 3. 31	平成 29. 4. 1
津田徹英	文化財情報資料部長	平成 11. 1. 1～平成 30. 3. 31	平成 30. 4. 1

## 5. 平成29年度予算等

(単位：千円)

### (1) 予算

事 項	予 算 額
一般管理費	100,045
基礎研究事業費	66,412
応用研究事業費	125,788
国際遺産保護事業費	107,534
情報公開事業費	91,709
研修協力事業費	3,459
合 計	494,947

### 予算とプロジェクトとの対応

#### 文化財情報資料部

略番	分 類 項 目	プロジェクト名	事 業 区 分
シ 01	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	情報公開事業費
シ 02	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	日本東洋美術史の資料学的研究	基礎研究事業費
シ 03	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	基礎研究事業費
シ 04	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	基礎研究事業費
シ 05	④情報収集・成果公開に関する事業	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	情報公開事業費
シ 06	④情報収集・成果公開に関する事業	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	情報公開事業費
シ 07	⑤刊行物に関する事業	平成28年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』	情報公開事業費
シ 08	④情報収集・成果公開に関する事業	平成29年度オープンレクチャー(調査・研究成果の公開)	情報公開事業費

#### 無形文化遺産部

略番	分 類 項 目	プロジェクト名	事 業 区 分
ム 01	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	無形文化財の保存・継承に関する調査研究	基礎研究事業費
ム 02	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	基礎研究事業費
ム 03	③国際協力・交流等に関する事業	無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	情報公開事業費
ム 04	⑤刊行物に関する事業	無形文化遺産部出版関係事業	情報公開事業費
ム 05	③国際協力・交流等に関する事業	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	国際遺産保護事業費

#### 保存科学研究センター

略番	分 類 項 目	プロジェクト名	事 業 区 分
ホ 01	②保存修復に関する調査研究事業	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	応用研究事業費
ホ 02	②保存修復に関する調査研究事業	保存と活用のための展示環境の研究	応用研究事業費
ホ 03	②保存修復に関する調査研究事業	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	応用研究事業費
ホ 04	②保存修復に関する調査研究事業	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	応用研究事業費
ホ 05	②保存修復に関する調査研究事業	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	応用研究事業費
ホ 06	②保存修復に関する調査研究事業	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	応用研究事業費
ホ 07	⑤刊行物に関する事業	『保存科学』第57号の出版	情報公開事業費
ホ 08	⑥指導助言・研修等に関する事業	博物館・美術館等保存担当学芸員研修	研修協力事業費

## 文化遺産国際協力センター

略番	分類項目	プロジェクト名	事業区分
コ01	④情報収集・成果公開に関する事業	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	情報公開事業費
コ02	③国際協力・交流等に関する事業	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	国際遺産保護事業費
コ03	③国際協力・交流等に関する事業	保存修復技術の国際的応用に関する研究	国際遺産保護事業費
コ04	③国際協力・交流等に関する事業	在外日本古美術品保存修復協力事業	国際遺産保護事業費
コ05	③国際協力・交流等に関する事業	国際研修	国際遺産保護事業費

## (2) 科学研究費助成事業交付一覧

(単位：千円)

研究課題	研究代表者	交付額
<b>基盤研究（B）</b>		
対外交渉史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—	小林公治	2,730
酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発—旧修理材料や微生物痕の除去—	早川典子	1,690
<b>基盤研究（B）海外</b>		
ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	前川佳文	5,070
ブータンの版築建造物の類型と編年に関する研究	亀井伸雄	5,460
<b>基盤研究（C）</b>		
虎塚古墳壁画の材質と保存環境に関する研究	犬塚将英	1,430
黒髪白肌の系譜—上村松園の技法と表現—	大河原典子	2,470
環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究	朽津信明	1,300
津波被災文書資料から発生するにおい物質の同定とその対策	佐野千絵	1,820
日本絵画における鉛白・胡粉の利用とその変遷に関する調査研究	早川泰弘	1,560
空間情報データベースによる文化財の災害被害予測の高度化及び防災計画策定への応用	二神葉子	(1,353)
平安仏画の技法に関する画像情報による調査研究	小林達朗	(977)
徳川将軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究	小野真由美	1,170
ザグロス地域における農耕・牧畜の起源に関する考古学的研究	安倍雅史	1,560
<b>挑戦的萌芽研究</b>		
実演用能装束の保存継承に関する研究—能楽の包括的継承の一指針として—	菊池理予	(548)
紙本屏風の規格と表現・技法の研究	江村知子	2,730
<b>若手研究（A）</b>		
染織技術の伝承に関する研究—材料・道具に焦点をあてて—	菊池理予	4,030
墨、煤、膠の製法と性状の体系化—伝統的製法の再現—	宇高健太郎	1,560
<b>若手研究（B）</b>		
紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発	貴田啓子	1,300
アイヌと和人の文化交渉史に関する研究—明治期の和人によるイナウ奉納習俗を中心に—	今石みぎわ	1,430
イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究	山田大樹	1,560
リアルタイム浮遊菌測定を用いた自然共生型博物館におけるゾーニングについての研究	間瀬創	910
放射光を用いた中央アナトリア出土鉄器に対する生産地同定法の開発	増淵麻里耶	780
<b>特別研究員奨励費</b>		
墨、煤、膠の製法と性状の体系化	宇高健太郎	1,430
毘沙門天像の成立と展開—唐・宋・元から平安・鎌倉へ—	佐藤有希子	1,300

研 究 課 題	研究代表者	交付額
特別研究員奨励費（外国人特別研究員）		
2018年出版予定の書籍のための、1989年以降の日本の現代美術の研究	橘川英規	1,100
研究活動スタート支援		
伝統木造建築技術の保存継承に関する日英比較研究	マルティネス アレハンドロ	780
研究成果公開促進費		
SAT 大正新脩大藏經 画像データベース	津田徹英	4,500

※複数年度にまたがる事業については括弧内に予算総額を記載

### （３） 受託調査研究一覧

（単位：千円）

研 究 課 題	依 頼 元	研究代表者	契約総額
文化遺産国際協力拠点交流事業「トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業」	文化庁	中山俊介	7,241
文化遺産国際協力拠点交流事業 「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	文化庁	友田正彦	20,535
文化遺産国際協力コンソーシアム事業	文化庁	中山俊介	44,348
国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	文化庁	佐野千絵	37,349
特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	文化庁	佐野千絵	19,005
文化遺産国際協力拠点交流事業 「ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業・建築分野」	奈良文化財研究所	友田正彦	4,750
絵金屏風の保管環境及び保管・展示方法に関する調査研究	公益財団法人 熊本市美術文化振興財団	佐野千絵	300
被災資料有害物質発生状況調査業務	陸前高田市	佐野千絵	2,399
著名外国人招へいによる日本美術の発信をテーマとした調査研究事業	文化庁	江村知子	997

### （４） 共同研究等一覧

（単位：千円）

研 究 課 題	共同研究者	研究代表者	金 額
航空資料保存の研究	一般財団法人日本航空協会	北河大次郎	400
ゲッティ・リサーチポータルへの明治期～昭和期（戦前）の展覧会資料（デジタル）の提供・公開	The J. Paul Getty Trust	山梨絵美子	1,758 (3,516)

※複数年度にまたがる事業については括弧内に予算総額を記載

### （５） 助成金一覧

（単位：千円）

研 究 課 題	助 成 元	研究代表者	助成額
日本絵画の色と材料「Color & Material」	公益財団法人出光文化福祉財団	早川泰弘	4,000
バガン遺跡群（ミャンマー）寺院祠堂壁画の保存修復	公益財団法人住友財団	前川佳文	3,000



## (6) 寄付金一覧

(単位：千円)

研 究 課 題	寄 付 者	担当部局	受入額
東京文化財研究所における研究事業の助成	株式会社東京美術倶楽部	文化財情報資料部	1,000
東京文化財研究所における研究成果の公表(出版事業)	東京美術商協同組合	文化財情報資料部	1,000

## 年度内主要事業一覧

期 日	事 業 名
29年4月13日	木製文化財の虫害に関するワークショップ (イラン・エスファハーン：ダフシュティー邸、アーリー・カーパー宮殿内ICHHTO 支局事務所)
29年4月28日	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会研究所・センター調査研究等部会 (奈良文化財研究所)
29年5月30日	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会総会(東京国立博物館)
29年6月19日	フォローアップ研修「展示・収蔵空間における空気環境の改善」
29年7月 5日～14日	ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」(ベルリン国立博物館アジア美術館)
29年7月10日～21日	博物館・美術館等保存担当学芸員研修
29年7月29日	「染織品を中心とする文化財の保存にかかる共同研究」締結キックオフ集会 (佐賀大学本庄キャンパス)
29年8月 8日～ 9日	科学的な材料とその使用方法の講習会
29年8月 9日～18日	ワークショップ「染織品の保存と修復」(国立台湾師範大学文物保存維護研究發展センター)
29年8月28日 ～9月15日	国際研修「紙の保存と修復」
29年9月11日～20日	染織文化遺産保存修復研修「染織芸術と保存—過去と現在を結ぶ」 (アルメニア共和国歴史文化遺産科学研究センター、エチミアジン大聖堂付属博物館)
29年9月26日	セミナー「インドにおける文化遺産保護と最新のインダス文明研究」
29年10月29日 ～11月 5日	博物館の環境管理に関するイラン人専門家研修
29年10月30日 ～11月 2日	研修「壁画保存に向けた課題と問題」(トルコ共和国ネグシェヒール・ハジュ・ベクタシュ・ヴェリ大学)
29年11月 2日～3日	第51回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」
29年11月 8日～ 9日	評価セミナー 2017：ワークショップ「漆工芸品の保存と修復」
29年11月13日	箕サミット—編み組み細工を語る
29年12月 6日	研究会「キャスリーン・サロモン氏(ゲッティ研究所副所長)講演会—日本美術資料の国際情報発信に向けて」
29年12月 9日	第1回祭ネットワーク
29年12月18日	第12回無形民俗文化財研究協議会「無形文化遺産への道—ユネスコ無形文化遺産条約と地域の遺産」
30年1月18日	世界遺産研究協議会「世界遺産推薦書の評価のプロセスと諮問機関の役割」
30年1月19日	東南アジア古代都市・建築研究会 東南アジアの古代都市を考える
30年1月20日	東南アジア古代都市・建築研究会 アンコールおよびバガン王宮の建築を探る (東京国立博物館 黒田記念館)
30年2月 6日、21日	「無形文化遺産の防災」連絡会議
30年2月19日	第1回無形文化遺産映像記録作成研究会
30年3月13日	ブータンの伝統的民家保存に関するワークショップ(ブータン内務文化省文化局)
30年3月16日	研究会「美術雑誌の情報共有に向けて」



## 4. 東京文化財研究所関係事業索引

### 凡 例

- (1) この索引は、平成29年度に東京文化財研究所が実施したすべての事業を、財源の種類を問わず網羅している。  
(2) 事業は五十音順に配列し、各事業名称の末尾に次の略号を付すとともに、掲載頁を示した。

運営費交付金によるプロジェクト	【交付】
科学研究費助成事業	【科研】
受託調査研究	【受託】
共同研究	【共同】
助成金	【助成】
その他の調査研究	【その他】

あ	アイヌと和人の文化交渉史に関する研究—明治期の和人によるイナウ奉納習俗を中心に—	【科研】	100
	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	【交付】	49
	イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究	【科研】	101
	絵金屏風の保管環境及び保管・展示方法に関する調査研究	【受託】	114
	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	【交付】	44
か	環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究	【科研】	88
	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	【交付】	37
	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	【交付】	46
	空間情報データベースによる文化財の災害被害予測の高度化及び防災計画策定への応用	【科研】	91
	黒髪白肌の系譜—上村松園の技法と表現—	【科研】	86
	ゲッティ・リサーチポータルへの明治期～昭和期（戦前）の展覧会資料（デジタル）の提供・公開	【共同】	119
	航空資料保存の研究	【共同】	118
	酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発—旧修理材料や微生物痕の除去—	【科研】	82
	国際研修	【交付】	52
	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	【受託】	112
さ	SAT大正新脩大藏經 画像データベース	【科研】	83
	在外日本古美術品保存修復協力事業	【交付】	51
	ザグロス地域における農耕・牧畜の起源に関する考古学的研究	【科研】	84
	紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発	【科研】	99
	実演用能装束の保存継承に関する研究—能楽の包括的継承の一指針として—	【科研】	94
	紙本屏風の規格と表現・技法の研究	【科研】	93
	墨、煤、膠の製法と性状の体系化	【科研】	102
	墨、煤、膠の製法と性状の体系化—伝統的製法の再現—	【科研】	96
	染織技術の伝承に関する研究—材料・道具に焦点をあてて—	【科研】	95
	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	【交付】	55
た	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—	【科研】	79
	著名外国人招へいによる日本美術の発信をテーマとした調査研究事業	【受託】	117
	津波被災文書資料から発生するにおい物質の同定とその対策	【科研】	89

伝統木造建築技術の保存継承に関する日英比較研究	【科研】	105
東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進	【交付】	73
『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKENNEWS』	【交付】	64
徳川将軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究	【科研】	87
特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	【受託】	113
虎塚古墳壁画の材質と保存環境に関する研究	【科研】	85

な 2018年出版予定の書籍のための、1989年以降の日本の現代美術の研究	【科研】	104
日本絵画における鉛白・胡粉の利用とその変遷に関する調査研究	【科研】	90
日本絵画の色と材料「Color & Material」	【助成】	121
日本東洋美術史の資料学的研究	【交付】	36

は バガン遺跡群（ミャンマー）寺院祠堂壁画の保存修復	【助成】	120
博物館・美術館等保存担当学芸員研修	【交付】	68
被災資料有害物質発生状況調査業務	【受託】	116
毘沙門天像の成立と展開 一唐・宋・元から平安・鎌倉へ一	【科研】	103
美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	【交付】	72
美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	【交付】	38
プータンの版築造建造物の類型と編年に関する研究	【科研】	81
プロジェクトの一環として刊行された刊行物	【交付】	65
プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等	【交付】	59
文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	【受託】	110
文化遺産国際協力拠点交流事業「トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業」	【受託】	109
文化遺産国際協力拠点交流事業 「ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業・建築分野」	【受託】	115
文化遺産国際協力コンソーシアム事業	【受託】	111
文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	【交付】	58
文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	【交付】	45
文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	【交付】	53
文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	【交付】	35
文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	【交付】	43
文化財の材質・構造に関する調査・助言	【交付】	72
文化財の修復及び整備に関する調査・助言	【交付】	71
文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	【交付】	41
文化財の虫菌害に関する調査・助言	【交付】	70
文化財の評価・活用に関する助言	【交付】	69
文化財防災ネットワーク推進事業	【その他】	122
文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	【交付】	47
平安仏画の技法に関する画像情報による調査研究	【科研】	92
平成29年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）	【交付】	56
平成28年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』	【交付】	64
放射光を用いた中央アナトリア出土鉄器に対する生産地同定法の開発	【科研】	98
『保存科学』第57号の出版	【交付】	64
保存修復技術の国際的応用に関する研究	【交付】	50
保存と活用のための展示環境の研究	【交付】	42
ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	【科研】	80

ま 無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	【交付】	57
無形文化遺産に関する助言	【交付】	70
無形文化遺産部出版関係事業	【交付】	64
無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	【交付】	48
無形文化財の保存・継承に関する調査研究	【交付】	39
無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	【交付】	40

ら リアルタイム浮遊菌測定を用いた自然共生型博物館におけるゾーニングについての研究	【科研】	97
---	------	----





独立行政法人国立文化財機構  
東京文化財研究所年報 2017

発行日：2018年6月30日

発行所：独立行政法人国立文化財機構  
東京文化財研究所

〒110-8713  
東京都台東区上野公園13-43

TEL 03-3823-2241 (番号案内)  
FAX 03-3828-2434  
<http://www.tobunken.go.jp/>  
[info@tobunken.go.jp](mailto:info@tobunken.go.jp)

編集：文化財情報資料部

制作：CURIO EDITORS STUDIO (柴田 卓)

印刷：よしみ工産株式会社

Independent Administrative Institution National Institutes for Cultural Heritage  
Tokyo National Research Institute for Cultural Properties

ANNUAL REPORT 2017

Issued on 30 June, 2018

Published by Tokyo National Research Institute for Cultural Properties  
13-43, Uenokoen, Taito-ku, Tokyo 110-8713, JAPAN

Edited by Department of Art Research, Archives and Information Systems

Designed and DTP by Curio Editors Studio (SHIBATA Takashi)

Printed by Yoshimi Kohsan Corporation

© Tokyo National Research Institute for Cultural Properties, 2018